

シーボルトの生涯とその業績関係年表Ⅱ (1833-1855年)

石 山 禎 一
宮 崎 克 則

凡 例

- 【1】 *印は主としてシーボルトに関わる人々が出した書簡類などを示す。
○印はシーボルトに関わる事項、または彼が記述した内容および直接相手方に宛てた手紙などを示す。
△印はシーボルトの門人関係などを示す。
◇印は当時の内外の政治・外交・文化などの事項を示す。
なお、人名などの不明箇所には〔?〕を付している。
- 【2】 年表中に見られる書簡類は、主としてフォン・ブランデンシュタイン家（シーボルトの末裔、ドイツのヘッセン州シュルヒテルン市郊外在住）所蔵文書をもとに石山の責任で系統的に整理し、年代順に並べ替えて記載した。これら書簡類には、シーボルトの幅広い人的交流・活動範囲などが十分窺い知ることができるので、すべて掲載することにした。なお、所蔵文書中で年月日が不明なもの、あるいは未記入のもの、また宛先不明の書簡類などは、本年表には記載できないため除いた。

【参考文献】

関係年表は、主に以下の文献を参照して作成した。

- (1) 呉秀三『シーボルト先生其生涯及功業』吐鳳堂書店 1925年。
- (2) 日独文化協会編『シーボルト関係書翰集』郁文堂書店 1941年。
- (3) 『上野図書館紀要』第2冊 国立国会図書館支部 上野図書館 1955年。
- (4) 『図説 国民の歴史』1・2 日本近代史研究会 1965年。
- (5) L. B. Holthuis・酒井恒『シーボルトと日本動物誌』学術書出版会 1970年。
- (6) 『参考書誌研究』11号 国立国会図書館参考書誌部 1975年。

- (7) 『シーボルト「フロラヤポニカ」』（解説）講談社 1976年。
- (8) 『江崎梯三著作集』第1巻 思索社 1984年。
- (9) 『F.ベアト幕末日本写真集』横浜開港資料館 1987年。
- (10) 横田洋一編『横浜浮世絵』有隣堂 1989年。
- (11) 『鳴滝紀要』1～20号 シーボルト記念館 1991～2010年。
- (12) 金井圓『近世日本とオランダ』財団法人放送大学教育振興会 1993年。
- (13) 『シーボルト「日本」』本文・図録 全9巻 雄松堂書店 1997年。
- (14) 箭内健次・宮崎道生編『シーボルトと日本の開国・近代化』続群書類従完成会 1997年。
- (15) フォン・ブランデンシュタイン家所蔵『シーボルト関係文書マイクロフィルム目録』1・2巻 2001年 長崎市教育委員会・シーボルト記念館。
- (16) 『新・シーボルト研究』I・II 八坂書房 2003年。
- (17) 開国150周年記念資料集『江戸の外国公使館』港区郷土資料館 2005年。
- (18) 『異国人の見た幕末明治 JAPAN』新人物往来社 2005年。
- (19) 石山禎一・牧幸一訳『シーボルト日記』八坂書房 2006年。
- (20) 宮崎克則「復元：シーボルト『NIPPON』の配本」（『九州大学総合研究博物館研究報告』3号 2005年），同「シーボルト『NIPPON』の色つき図版」（『九州大学総合研究博物館研究報告』5号 2007年），同「シーボルト『NIPPON』のフランス語版」（『九州大学総合研究博物館研究報告』6号 2008年），同「シーボルト『NIPPON』のロシア語版」（『九州大学総合研究博物館研究報告』8号 2010年）。
- (21) 栗原福也編訳『シーボルトの日本報告』東洋文庫784 平凡社 2009年。
- (22) Dr. Hans Körner: Die Würzburger Siebold. Eine Gelehrtenfamilie des 18. und 19. Jahrhunderts. Leipzig Johann Ambrosius Barth Verlag. 1967. S., 356-557. (Lebensdarstellungen deutscher Naturforscher, hrsg. von der Deutschen Akademie der Naturforscher Leopoldina durch Rudolph Zaunick. Nr.13). : 竹内精一訳『シーボルト父子伝』創造社 1974年。
- (23) ACTA SIEBOLDIANA III. Die Sieboldiana-Sammlung der Ruhr-Universität Bochum, Beschrieben von Vera Schmidt., 1989. OTTO HARRASSOWITZ · WIESBADEN.
- (24) Philipp Franz von Siebold. : Schreib-Kalender für das Schaltjahr 1852.
- (25) Philipp Franz von Siebold. : Geschäfts-und Termin-Kalender für das Schltjahr 1856.
- (26) Philipp Franz von Siebold. : Nederlandsche en Japansche Almanak voor het Jaar 1861.
- (27) Liefer-und Abrechnungsbuch über Nippon und andere grosse Veröffentlichungen Siebolds für die Jahre 1833-1838.
- (28) Liefer-und Abrechnungsbuch über Nippon und andere grosse Veröffentlichungen Siebolds für die Jahre 1832-1840.
- (29) Liefer-und Abrechnungsbuch über Bücher und Immobilien für die Jahre 1836-1843, mit

einem Voewort.

- (30) Liefer-und Abrechnungsbuch für die Jahre 1839-1847.
- (31) Philipp Franz von Siebold. : Tägliches Erinnerungs-Buch für alle Stände. 1848-1850.
- (32) Verzeichnis der Subskribenten und Lieferungen zu Nippon, mit einer Zusammenstellung und Pro Memoria durch Alexander von Siebold.
- (33) Philipp Franz von Siebold. : Buecherversendungen nach Russland 1853.
- (34) Aufstellungen etc. letr Subskription auf Werk. Philipp Franz von Siebold's Nippon, Fauna, Flora u.s.w. 1834-1848.
- (35) PHILIPP FRANZ VON SIEBOLD, A Contribution to the Study the Historical Relation betwe-en Japan and the Netherlands. The Netherlands Association for Japanese Studies, c/o Center for Japanese Studies, Leiden University 1978. (Philipp Franz von Siebold and the Opening of Ja-pan, 1843-1866) (注：マックリオン論文は、横山伊徳『幕末維新論集7 幕末維新と外交』吉川弘文館 2001年)。

* (22)~(33)の原本は、ドイツのポフム大学図書館に所蔵されている。

3. ヨーロッパでの日本研究と活動

1833年（天保4年） 37歳

○春、ドイツに旅行。

- * 1月5日（閏11・15）デットナー？（Dettner）がミッデルブルグ（Middelburg）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月6日（閏11・16）ベルサク？（Berussac）がパリ（Paris）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月12日（閏11・22）オランダ内務大臣（デ・コック de Kock）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月16日（閏11・26）オランダ内務大臣（デ・コック）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。オランダ内務省課長職ファン・ラッパルド（Anthony Gerard van Rappard）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 1月20日（閏11・30）図版製作者エクスレーベン（J. Exleben シーボルト『NIPPON』図版担当）がミュンヘン（München）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月4日（12・15）フーベルト・Fr.フィシュバッハ（Hubert Fr. Fischbach）がシャトウ・ドゥ・モン・サン・ジャン（Chateau du Mont St. Jean）からシーボルト宛に

書簡を送る。

- * 2月5日 (12・16) オランダ領東インド総督府のヘルマン (Hellemann) がバタヴィアからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月10日 (12・21) 母アポロニア (Apollonia von Siebold) がヴュルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月13日 (12・24) オランダ内務大臣 (デ・コック) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月18日 (12・29) ペーター・ファン・オウテレン (Peter van Outeren) がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 2月25日 (1・6) ミュンヘン大学植物学教授ツッカーニーニ博士 (Prof. Dr. J. G. Zuccarini) がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月26日 (1・7) バタヴィア芸術科学協会事務局がバタヴィアからシーボルト宛に書簡を送る。
- 3月4日 (1・13) ユリウス・マクスミリアン大学哲学部J.フレーリッヒ博士 (Prof. Dr. J. Frohlich) の名において、ヴュルツブルグ大学名誉哲学博士を授与する。
- * 3月5日 (1・14) ハンス・フォン・Ed (Hans von Ed) がボンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月17日 (1・26) ペーター・ファン・オウテレンがアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月22日 (2・2) プレイスラー (Preysler) がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月5日 (2・16) 前オランダ領東インド総督ファン・デル・カペレン (van der Capellen) がボーレンハウベン (Vollenhoven) からシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月12日 (2・23) ライデンにて、ミュンヘン大学植物学教授ツッカーニーニ博士宛に手紙を書く。
- * 同日、ハンス・フォン・Edがボンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日、叔父ヨアヒム・ロット (Joachim Lotz) がキッシンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月14日 (2・25) ライデンにて、ミュンヘン大学植物学教授 J. G. ツッカーニーニ

博士宛に手紙を書く。

△ 4月18日（2・29）吉雄忠次郎江戸で没する（享年46歳）。

- * 4月24日（3・5）P.ファン・オウテレンがアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月26日（3・7）オランダ内務省課長職 A.G.A.ファン・ラッパルドがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。ベルサック？（Berussac）がパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月5日（3・16）伯父ロッツがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 5月9日（5・9）水谷助六没する（享年54歳）。
- * 5月10日（3・21）ルザック（L. B. Luzac）がシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月14日（3・25）ハンス・フォン・Ed がボンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月17日（3・28）オランダ内務省課長職 A.G.A.ファン・ラッパルドがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月18日（3・29）フランクフルト・アム・マインのゼンケンベルグ研究所教授クレッチマー博士（Prof. Dr. Ph. J. Cretzschmer）がフランクフルトからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月23日（4・5）オランダ内務省課長職 A.G.A.ファン・ラッパルドがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。サンディフォルト（G. Sandifort）がシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月2日（4・15）前オランダ領東インド総督ファン・デル・カペレンがパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月7日（4・20）ハンス・フォン・Ed がボンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月20日（5・3）ファン・デル・ザント（van der Zandt）がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月19日（6・3）P.ファン・オウテレンがアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月20日（6・4）ファン・デル・ツワット？（van der Zwat）がロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月1日（6・16）オランダ領東インド総督府のティシュ（G. J. Teitsch）がヴェルテフレーデン（現ジャカルタ）からシーボルトに書簡を送る。

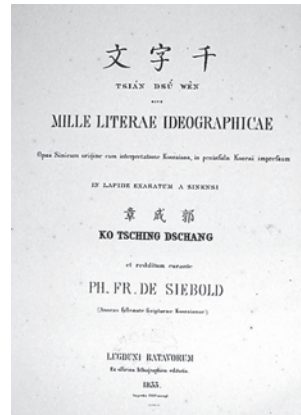
- * 8月12日（6・27）フランクフルト・アム・マインのゼンケンベルグ研究所教授クレッチマー博士（Prof. Dr. Philipp Jakob Cretzmar）がフランクフルトからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月4日（7・21）P.ファン・オウテレンがヴィースバーデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月9日（7・26）ファリツ（A. H. Falitz）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月22日（8・9）P.ファン・オウテレンがアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 10月1日（8・18）モール（J. Mohl）がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 10月初旬から中旬頃までに、『NIPPON』2つ折り本、第1分冊（第I章日本における数学的・自然学的地理学、第III章神話と歴史）、第2分冊（第IV章農業、工業そして商業、第VII章日本の近隣及び保護国）を配本。以後、1851年までに第20分冊を刊行。
- 10月13日（9・1）オレンジ公国皇太子殿下宛に『NIPPON』2つ折本、第1及び第2分冊、1部（贈呈）。1836年5月15日（4・1）までに同書2つ折本、第3から第6分冊、1部（贈呈）送付。
- * 10月16日（9・4）オランダ内務省課長職 A.G.A.ファン・ラッパルドがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 10月22日（9・10）P.ファン・オウテレンがアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 10月25日（9・13）ファン・リンデン（J. G. van Lijnden）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 10月28日（9・16）オランダ内務大臣（デ・コック）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 10月29日（9・17）オランダ領東インド総督府の医師 G.エイシンガー（G. Eisinger）がバタヴィアからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 11月6日（9・25）前オランダ領東インド総督ファン・デル・カペレンがボーレンハウベンからシーボルト宛に書簡を送る。

- *11月12日（10・1）フォン・モール（J. von Mohl）がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月15日（10・4）オランダ国務大臣クリフォード（G.G. Clifford）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月20日（10・9）ベルナルド（J.C.B. Bernard）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月24日（10・13）P.ファン・オウテレンがアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- 11月26日（10・15）『NIPPON』第1分冊をライデン所在のオランダ文学協会に贈呈（アルレッテ・カウヴェンホーフェン／マティ・フォラー『シーボルトと日本』—その生涯と仕事—ライデン Hotei Publishing. 2000年, 57頁参照）。
- *12月3日（10・22）叔母フリーデリケ・フォン・シーボルト（Friederike von Siebold 叔父エリアス・フォン・シーボルトの妻）がベルリン（Berlin）からシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月4日（10・27）ネーデル・ヘメルト（Neder Hemert）のファン・ナゲル（C.A.D. van Nagell）男爵がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月5日（10・28）庭師アトラヘム・ハクビイル（Atrahem Hakbyl）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。ペーター・ファン・オウテレンがアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- 12月7日（10・26）アムステルダムのJ.ミュレル書店宛に『NIPPON』2つ折本、第1及び第2分冊、40部。同書4つ折本、第1及び第2分冊、50部を送付。
- *12月10日（10・29）ファン・ホーゲンドルフ（G.W. Hogendorff）がハーグからシーボルト宛書簡を送る。
- 12月13日（11.3）ネーデル・ヘメルト（Neder Hemert）のファン・ナゲル（C.A.D. van Nagell）男爵が『NIPPON』の購買案内（印刷物）と予約購入リストを作成。
- 12月21日（11・11）オランダの植民地省宛に『NIPPON』2つ折本、第1及び第2分冊の3部（150フローリン）を送付。
- *12月21日（11・11）ハンス・フォン・Edがボンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月27日（11・17）G.W.ファン・ホーゲンドルフがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

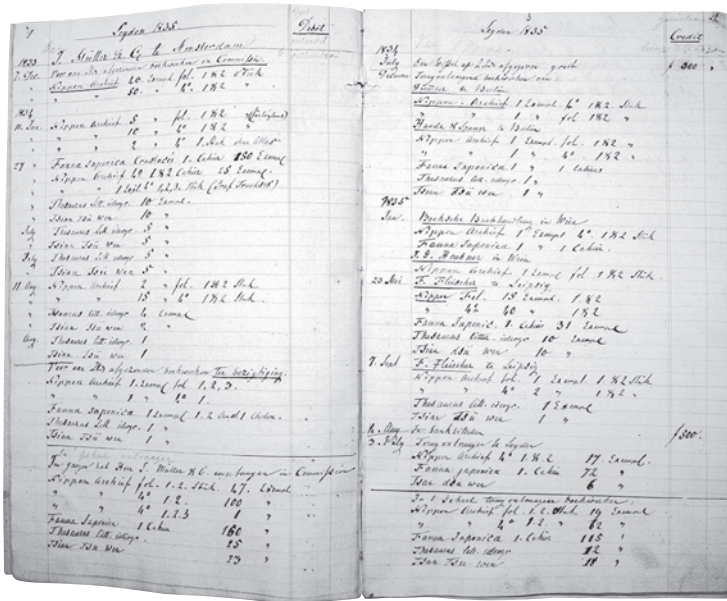
- *12月29日 (11・19) 元出島オランダ商館長ヤン・コック・プロムホフがビルクホーヴェンデン (Birkhovenden) からシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月31日 (11・21) オランダ内務省課長職 A.G.A.ファン・ラッパルドがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 12月日付不詳, ベルリンで自然研究者アレクサンダー・フォン・フンボルト (Alexander von Humboldt), ベルリン大学地理学教授カール・リッター (Prof. Karl Ritter), 同大学動物学教授マルティン・ハインリッヒ・カール・リヒテンシュタイン (Prof. Martin Heinrich Karl Lichtenstein), 同大学教授で探検旅行家クリスティアン・ゴットフリード・エーレンベルグ (Prof. Christian Gottfried Ehrenberg), パリ大学東洋語教授クラプロート (Prof. J.H. Klaproth) など学識者と会う。
- 12月日付不詳, 『日本動物誌』 (Fauna Japonica) 甲殻類篇, 第1分冊 (本文1~24頁, 図版8, A.B.) 出版。以後, 1850年までに鳥類篇 (Aves) 第12分冊 (本文125~141頁), 魚類篇 (Pisces) 第15分冊 (本文269~323頁), 甲殻類篇 (Crustacea) の Commentatio p.VII-XVII を出版。
- 月日不詳, オランダ国王ウィレム一世宛の手紙を書く。
- *月不詳10日, モウリン? (Moulin) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 月日不詳, 『日本の鍼療法に関する若干の考察。鍼医師石坂宗哲の書簡からの抜書』 (蘭文) を「バタヴィア芸術科学協会雑誌」第14巻に掲載。
- 月日不詳, 『日本叢書』 (Bibliotheca Japonica) の内『千字文』 (Tsian dsü wen) を印



〔図29〕『日本動物誌』の内表紙
(福岡県立図書館所蔵)



『日本叢書』(『千字文』)の内表紙
(福岡県立図書館所蔵)



〔図30〕 アムステルダムのJ.ミュレル社（書籍・出版業）から発送の献本先リストと同社の販売リスト（1833~38年『シーボルト著作販売帳』〈Liefer-und Abrechnungsbuch über Nippon und andere grosse Veröffentlichungen Siebolds für die Jahre 1833-1838〉ドイツ ボフム大学図書館所蔵 No：1.554.000）

刷。以後1841年まで全6冊をライデンにて出版（中国人郭成章とホフマンの協力による）。

- ◇伊東玄朴が江戸に象先堂を開く。
- ◇『道訳ハルマ』完成，献上。
- ◇天保大飢饉（~37年）。

1834年（天保5年） 38歳

- * 1月1日（11・22）オランダ内務大臣デ・コックがミッデルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月7日（11・28）伯父ロッツがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月10日（12・1）P.ファン・オウテレンがアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。

- 1月11日 (12・2) アムステルダムのJ.ミュレル書店宛に『NIPPON』2つ折本、第1及び第2分冊、5部(イギリスへ)、同書4つ折り本、第1及び第2分冊、10部。同書4つ折本、第1及び第2分冊(地図を欠く)2部を送付。
- 同日、『日本動物誌』爬虫類篇(Reptilia)、第1分冊(亀類の部:本文1~80頁、地図・図版1~9)を出版。
- 1月12日(12・3)ライデンにて、J.ミュレル書店と『NIPPON』販売に関する契約書(証書)を交わす。
- * 1月15日(12・6)王立レオポルディーナ自然科学アカデミー総裁ネース・フォン・エーゼンバック博士がブレスラウ Breslau からシーボルト宛に書簡を送る。
- 1月中旬頃までに、『日本叢書』(Bibliotheca Japonica)の内、第1冊『新增字林玉篇』(Thesaurus literarum ideographicarum)を出版。
- 1月中旬~下旬頃までに『NIPPON』第3分冊(第II章民族と国家、第V章日本における神々)を配本。
- * 1月17日(12・8)カロリーネ・フォン・シーボルト(Caroline von Siebold)がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月23日(12・14)シューベルト(Schubert)がボンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月25日(12・16)伯父ロッツがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 1月26日(12・17)ライデンにて、伯父ロッツ宛の手紙を書く。
- 1月27日(12・18)アムステルダムのJ.ミュレル書店宛に『日本動物誌』甲殻類篇、第1分冊、150部、『NIPPON』4つ折本、第1及び第2分冊、25部。同書4つ折本、第1から第3分冊の1部(トラクセス伯爵 Graf. Truckses 宛)、『日本叢書』の内、第1冊『新增字林玉篇』10部。同書第3冊『千字文』10部を送付。
- 1月28日(12・19)ライデンにて、オランダ植民大臣宛の手紙を書く。
- * 同日、園芸家ハインリッヒ・メッテ(Heinrich Mette)がクエドリンプルグ(Quedlinburg)からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月29日(12・20)オランダ政府植民地部長官がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月30日(12・21)前オランダ領東インド総督ファン・デル・カペレンがボーレンハウベンからシーボルト宛に書簡を送る。

- 1月日付不詳，ミュンヘン近郊テゲルンセー（Tegernsee）の薬剤師・作曲家フォエル博士（Dr. Georg Hermann Vogel）宛に『NIPPON』2つ折本，第1から第3分冊，3部（225フローリン）。同書4つ折本，第1から第3分冊，1部（45フローリン）。同書4つ折本，第1から第3分冊，1部（贈呈）を送付。
- * 2月4日（12・26）シンケル（A. Sinkel）がライデンからシーボルト宛に請求書を送る。
- * 2月6日（12・28）前オランダ領東インド総督ファン・デル・カペレンがボーレンハウベンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月8日（12・30）グラーフ・フォン・ミュンヘリング？（Graf von Münchering）がシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月12日（1・4）ファン・マルム（N. van Marum）がハーレム（Haarlem）からシーボルト宛に書簡送る。
- * 2月14日（1・6）オランダ内務大臣（デ・コック）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月17日（1・9）前オランダ領東インド総督ファン・デル・カペレンがボーレンハウベンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月23日（1・15）元出島オランダ商館長ヘンドリック・ドーフ（Hendrik Doeff）がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月26日（1・18）P.ファン・オウテレンがアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月28日（1・20）オランダ内務大臣（デ・コック）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- △同日，ミュンヘン大学植物学教授 J.G.ツッカーリーニ博士がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- △同日，ミュンヘンの図版製作者（植物描写石版師）S.ミンシングル（Sebastian Minsinger）がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月4日（1・24）オランダ植民地省がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月7日（1・27）前オランダ領東インド総督ファン・デル・カペレンがボーレンハウベンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月10日（2・1）オランダ領東インド総督府の G.J.ティシュがヴェルデフレーデ

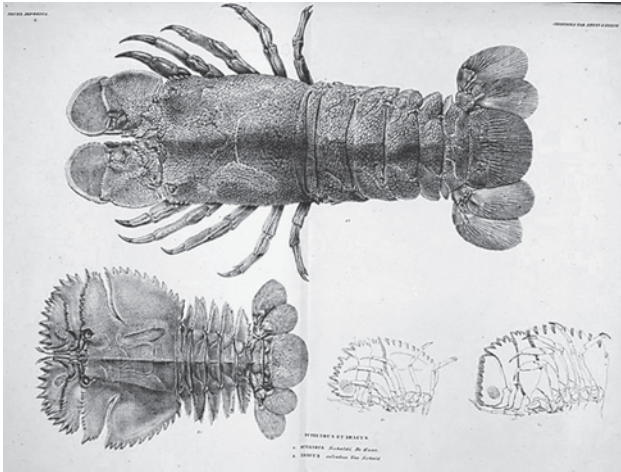
ン（現ジャカルタ）からシーボルト宛に書簡を送る。

- * 3月16日（2・7）ベルリン大学教授・動物学者マルティン・ハインリッヒ・カール・リヒテンシュタイン（のちベルリン自然史博物館館長，Martin Heinrich Karl Lichtenstein）がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月17日（2・8）テレーゼ・ストックハウゼン（大叔父ダミアン・フォン・シーボルトの養女，Therese Stockhausen）がダルムシュタット（Darmstadt）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月18日（2・9）アスタニアおよびフォンテイン商会（Astania & Fontaine）がマンハイム（Mannheim）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月31日（2・22）ロシア帝立科学アカデミー地学博物館学芸員シュラーデル（G. Schrader）がサンクト・ペテルブルグ（St. Petersburg）からシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月2日（2・24）ライデンにて，伯父ロッツ宛の手紙を書く。
- 4月7日（2・29）ライデンにて，オランダ植民大臣宛の手紙を書く。
- 4月9日（3・1）ライデンのシフヴェール書店（J.C. Cyfveer）宛に『NIPPON』2つ折本，第1から第3分冊，1部（56.25フローリン）。同書4つ折本，第1から第3分冊，1部（36フローリン）。『日本動物誌』第1分冊，甲殻類篇，1部（10フローリン）。『日本叢書』の内，第1冊『新增字林玉篇』1部（50フローリン）を送付。
- * 4月10日（3・2）ライデン大学教授 C.G.K.ラインワルトがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日，ファン・リンデン（J.G. van Lijnden）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日，ファン・アルフケーン（H. van Alfkeem）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月11日（3・3）ライデンにて，ライデンの王立植物標本館館長 C.L.ブルーム（Dr. Carl Ludwig Blume）宛の手紙を書く。
- △ 4月12日（3・4）ライデンの王立自然史博物館館長 C.J.テミンクがシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日，叔母フリーデリケ・フォン・シーボルトがベルリンからシーボルト宛に書簡

を送る。

- * 同日、ロシア帝立科学アカデミー地学博物館学芸員シュラーダー（G. Schrader）がサンクト・ペテルブルグ（St. Petersburg）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月14日（3・6）ライデンの王立植物標本館館長C.L.ブルームがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月17日（3・9）アルタリア=フォンテーン商会（Artaria Fontaine）がマンハイム（Mannheim）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日、オランダ内務省高官がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月18日（3・10）元出島オランダ商館長ヘンドリック・ドゥーフがアントワープ（Antwerpen）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日、ファン・アルフケーン（H. van Alfkeem）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 4月24日（3・13）アムステルダムのJ.ミュレル書店がシーボルト宛に受領証を送る。
- * 5月5日（3・27）ヴェンケバッハ（C.J. Wenckebach）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月14日（4・6）ネーデル・ヘメルトのファン・ナゲル男爵がツォエスタイク（Zoestayk）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月26日（4・18）母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月28日（4・20）オランダの植民地省宛に『日本動物誌』甲殻類篇、第1及び第2分冊、1部（24フローリン）を送付。
- 6月1日（4・24）ライデンにて、前出島オランダ商館員P.W.フェルケルク・ピストリウス宛の証文・借用書（金額2,000フローリン）を書く。
- * 6月2日（4・25）ハッセルマン（Hasselman）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月4日（4・27）ドロウイン・デ・リュウス（Drouyn de L'huys）がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月9日（5・3）J.モールがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月11日（5・5）ヴェルター（G. Velter）がハーグからシーボルト宛に請求書を送る。

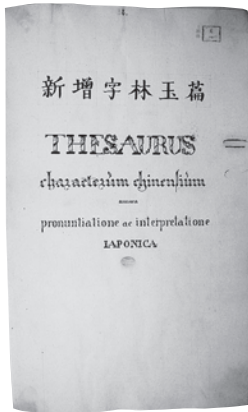
- * 6月12日（5・6）J.G.ファン・リンデンがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 6月15日（5・9）ライデンにて、オランダ内務大臣（デ・コック）宛の手紙を書く。
- 同日、パリのロレ書店（L. Roret）宛に『日本動物誌』甲殻類篇，第1分冊，25部（650フラン）を送付。



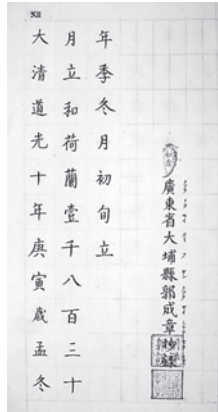
〔図31〕『日本動物誌』甲殻類篇（福岡県立図書館所蔵）

- * 6月16日（5・10）オランダ内務省課長職 A.G.A.ファン・ラッパルドがツァイスト（Zeist）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月18日（5・12）H.ファン・アルフケーンがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月30日（5・24）オランダ領東インド総督府の G.J.ティシュがヴェルデフレエデン（現ジャカルタ）からシーボルト宛に書簡を送る。
- 7月4日（5・28）ライデンにて、草稿『オランダ植民大臣宛の報告書下書き』を執筆。
- 7月5日（5・29）ライデンにて、オランダ植民大臣（J.C.バウド）宛の手紙を書く。
- * 7月7日（6・1）オランダ政府植民地部長官がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

- △7月8日（6・2）ミュンヘン大学植物学教授 J.G.ツッカーニー博士がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 7月11日（6・5）ライデンにて、母アポロニア宛の手紙を書く。
- *7月14日（6・8）オランダ内務大臣（デ・コック）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *7月18日（6・12）元出島オランダ商館長ヤン・コック・ブロムホフがビルクホーヴェンからシーボルト宛に書簡を送る。
- △7月19日（6・13）ミュンヘン大学植物学教授 J.G.ツッカーニー博士がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 7月20日（6・14）ライデンにて、前出島オランダ商館員フェルケルク・ピストリウス（P.W. Verkerk Pistrus）宛の証文・借用書（金額2,000フローリン）を書く。
- *7月22日（6・16）母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *7月23日（6・17）J.モールがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 7月25日（6・19）ライデンにて、オランダ国王（ウィレム1世）宛の手紙を書く。
- 7月26日（6・20）ライデンにて、オランダ植民大臣（J.C.バウド）宛の手紙を書く。
- 7月日付不詳、アムステルダムのJ.ミュレル書店宛に『日本叢書』の内、第1冊『新增字林玉篇』5部。同書第3冊『千字文』5部を送付。
- 夏ごろ（月日不詳）、『NIPPON』予約購読及び研究資金援助を要請するためヨーロッパ各地を訪問する。
- *8月1日（6・26）ヘッセン（Hessen）王国判事 G.ストックハウゼン（G. Stockhausen テレーゼ・フォン・シーボルトの夫）がダルムシュタットからシーボルト宛に書簡を送る。
- *8月4日（6・29）ハーグからリスト／名簿「シーボルト教授が学問上関心を示されるであろうコペンハーゲンにおける人物一覧」をシーボルト宛に送る。
- *7月21日（6・15）～8月6日（7・2）ホテル・ドゥ・ノルド・ア・モスクワのジャン・コップ（Hotel du Nord a Moscou Jean Kopp）がシーボルト宛にホテルの請求書を送る。
- 8月11日（7・7）アムステルダムのJ.ミュレル書店宛に『NIPPON』2つ折本、第1及び第2分冊、2部。同書4つ折本、第1及び第2分冊、15部、『日本叢書』



郭成章筆『新增字林玉篇』原稿



郭の序文・印
(ポフム大学図書館所蔵)
〔図32〕



出版された『新增字林玉篇』内表紙

の内、第1冊『新增字林玉篇』4部。第3冊『千字文』2部を送付。

*同日、フォン・マルスブルグ (von Malsburg) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

○8月12日(7・8)ライデンにて、オランダ植民大臣(J.C.バウド)宛の手紙を書く。

*8月13日(7・9)オランダ植民大臣(J.C.バウド)がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

*8月14日(7・10)オランダ内務大臣秘書官フォーレンホウベン (Vollenhouven) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

*同日、ネーデル・ヘメルトのファン・ナゲル男爵がシーボルト宛に書簡を送る。

*8月26日(7・22)オランダ内務省高官がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

*8月30日(7・26)ヘンリー・A.ウォーカー (Henry A. Walker) がライデンからシーボルト宛に書簡送る。

○8月日付不詳、ミュンヘン近郊テゲルンゼーの薬剤師・作曲家G.H.フォーゲル博士宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第3分冊、2部(150フローリン)。同書4つ折本、第1から第3分冊、1部(45フローリン)を送付。

○8月日付不詳、アムステルダムのJ.ミュレル書店宛に『日本叢書』の内、第1冊『新

増字林玉篇』1部，第3冊『千字文』1部を送付。

- 8月日付不詳，アムステルダムのJ.ミュレル書店からライデン所在著作検定協会宛に『NIPPON』2つ折本，第1及び第3分冊，1部。同書4つ折本，第1分冊，1部。『日本動物誌』甲殻類篇，第1及び第2分冊，1部。同書爬虫類篇，第1分冊（亀類の部），1部。『日本叢書』の内，第1冊『新增字林玉篇』1部，第3冊『千字文』1部を送付。
- 8月日付不詳～1836年9月3日（7・23）スウェーデン国王陛下宛に『NIPPON』2つ折本，第1から第5分冊，1部（250ルーブル）を送付。
- 9月10日（8・8）サンクト・ペテルブルグのJ.J.ブリエフ書店（J.J. Brieff）から「シーボルト著作物の広告」を出版。
- *9月13日（8・11）ベレント博士（Dr. Berendt）がシーボルト宛に書簡を送る。
- *9月30日（8・28）医師カール・フォン・シーボルト博士（Dr. Carl von Siebold）がケーニツヒスベルグ（Königsberg）からシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月2日（8・30）ヴウヴァノフ？（Vuwanoff）がシーボルト宛に書簡を送る。
- △10月3日（9・1）以後1ヵ月モスクワに滞在。ロシア皇帝ニコライ1世と謁見。
- *10月7日（9・5）ユステイーネ・フォルスター（Justine Forster シーボルトの姪）がロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- △10月10日（9・8）ドイツ人の東洋文献学者ヨーゼフ・ホフマン博士（Dr. Joseph Hohmann）がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月18日（9・16）デ・ハイダー伯爵（L. Conte de Heider）がクロンシュタット？（Cronstadt）からシーボルト宛に書簡を送る。
- 10月20日（9・18）ライデン所在のオランダ文学協会がライデンからシーボルト宛に領収書を送る。
- *10月21日（9・19）ロシアの植物学者カール・ベルナルド・フォン・トリニウス博士（Dr. Carl Bernhard von Trinius）がサンクト・ペテルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月23日（9・21）ドイツの薬学者マルクァルト博士（Dr. L.C. Marquart）がパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月24日（9・22）L.デ・ハイダー伯爵がクロンシュタット？からシーボルト宛に

書簡を送る。

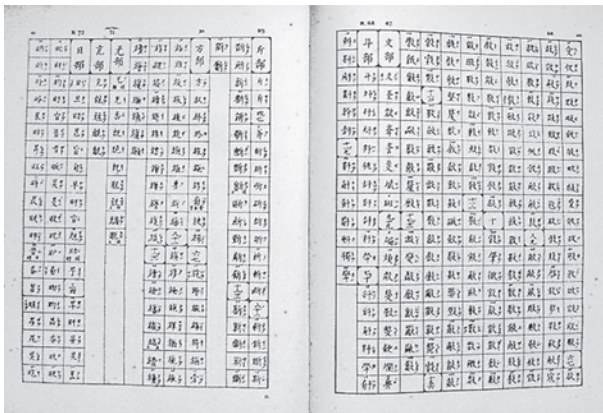
*10月26日 (9・24) ショーニング (Schöning) がシーボルト宛に書簡を送る。

*10月27日 (9・25) ムルター? (J. Murter) がシーボルト宛に書簡を送る。

○10月日付不詳, サンクト・ペテルブルグのJ.J.プリエフ書店宛に『NIPPON』4つ折本, 第1及び第2分冊, 2部 (1部, 正価96ルーブル:小売価格120ルーブル)。

『日本動物誌』甲殻類篇, 第1分冊, 1部正価20ルーブル:小売価格24ルーブル)。

『日本叢書』の内, 第1冊『新增字林玉篇』1部 (正価75ルーブル:小売価格100ルーブル), 第3冊『千字文』1部 (正価24ルーブル:小売価格30ルーブル) を送付。



〔図33〕『新增字林玉篇』の内部 (長崎歴史文化博物館所蔵)

*11月5日 (10・5) ファン・ステーケレン男爵? (B. van Steeckeren) がサンクト・ペテルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

*11月9日 (10・9) フッシャー? (J. Hucher) がシーボルト宛に書簡を送る。

△11月14日 (10・14) 東洋文献学者ヨーゼフ・ホフマン博士がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。

*11月17日 (10・17) ファン・ステーケレン男爵 (Baron van Steeckeren) がサンクト・ペテルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

*11月26日 (10・26) ドロウ博士? (Dr. Dorow) がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。



〔図34〕 ホフマン
（ライデン大学日本韓国研究所図書館所蔵）

- 11月30日（10・30）ベルリンにて、『ベルリンにおける日記風メモ』を書く。
- ◇12月，ヨハネス・エデウィン・ニーマン（Johannes Edewin Nieman）が出島商館長に着任（在任：1834年12月1日～1838年11月17日）。
- *12月4日（11・4）ロシア皇帝侍従武官で大佐のルトケ（Lutke）がサンクト・ペテルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月7日（11・7）マルティン・フォン・クラウゼヴィツ（Martin von Clausewitz）がシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月14日（11・14）マックス・コック博士（Dr. Max Koch）がシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月15日（11・15）オランダ領東インド総督府の医師エイシンガー（Grietman J.F. Eisinga）がバタヴィアからシーボルト宛に書簡を送る。
- *同日，ユステイーネ・フォルスター（Justine Forster シーボルトの姪）がライデンからシーボルト宛書簡を送る。
- 12月17日（11・17）ベルリンにて，オランダ国王（ウィレム1世）宛の手紙を書く。
- 12月19日（11・19）ベルリンにて，母アポロニア宛の手紙を書く。
- *12月23日（11・23）元出島オランダ商館長ヤン・コック・ブロムホフ（Jan Cock Blomhoff）がビルクホーヴェンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 12月24日（11・24）ベルリン所在，地理学会名誉会員。
- *12月25日（11・25）エストルグ？（L. Estorg）がシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月26日（11・26）ヴィヒャー？（Wicher）がサンクト・ペテルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 12月日付不詳，サンクト・ペテルブルグのブリエフ書店（J.J. Briefff）宛に『NIPPON』4つ折本，第1及び第2分冊，2部（120ルーブル）。『日本動物誌』甲殻類篇，第1分冊，1部（24ルーブル）。『日本叢書』の内，第1冊『新增字林玉篇』1部（100ルーブル），第3冊『千字文』1部（30ルーブル）を送付。
- 月日不詳，草稿『バタヴィア科学芸術協会宛報告，茶樹の栽培について』執筆。

The image shows two pages of a historical Japanese calendar, known as 'wa-nen-kei'. The pages are filled with columns of text, including dates, lunar phases, and various events or observations. The text is written in traditional Japanese characters. The layout is dense and organized into a grid-like structure.

〔図35〕『倭年契』の内部（長崎歴史文化博物館所蔵）

△月日不詳，サンクト・ペテルブルグで探検旅行家クルーゼンシュテルン（Adam Johann von Krusenstern）と会う。

○月日不詳，『日本叢書』の内，第5冊『日本與地路程度全図による日本列島地図表』（Insularum Japonicarum taburæ geographicae secundum opus Nippon jo tsi roo tei sen tsu.）及び『倭年契』（Wa nen kei sive succincti Annales Japonici）をライデンにて出版。

*月日不詳，デ・オーソン男爵 de Ohsson がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

*月日不詳，ヴェッター（S. Vetter）がハーグからシーボルト宛に請求書（金額159.50 フローリン）を送る。

*月不詳31日，オレニーヌ？（Olenine）がシーボルト宛に書簡を送る。

○ロシア皇帝から聖ウラジミール勲章勳四等を下賜さる。モスクワ所在，帝立自然科学者学会会員。

○ハールレム所在，オランダ科学協会会員。

○1833年～34年，レオポルディーナ学会総裁ネース・フォン・エーゼンベック（Christian Gottfried Nees von Esenbeck）宛に『NIPPON』2つ折本，第1から第3

分冊，1部（献呈）を送付。（注：1834年1月15日，シーボルト宛に書簡を送る。前掲書『シーボルト父子伝』ハンス・ケルナー著／竹内精一訳72頁参照）。

- 1833年～34年，オランダ国務大臣ファルク男爵閣下（A.R. Falk）宛に『NIPPON』2つ折本，第1分冊，1部（贈呈）を送付。
- 1833～34年，オランダ陸軍中将デ・コック閣下（de Kock）宛に『NIPPON』2つ折本，第1及び第2分冊，1部（贈呈）を送付。
- 1833～34年，オランダ領東インド総督バウド（J.C. Baud 後に植民大臣）宛に『NIPPON』2つ折本，第1及び第2分冊，1部（贈呈）を送付。
- 1833～34年，デ・ケヴェルベルグ男爵（de Keeverberg）宛に『NIPPON』2つ折本，第1及び第2分冊，1部（贈呈）を送付。
- 1833～34年，オランダ国王陛下宛に『NIPPON』第1から第3分冊，1部（贈呈）を送付。
- 1833～34年，オランダ国王女王陛下宛に『NIPPON』2つ折本，第1から第3分冊，1部（贈呈）を送付。
- 1833～34年，プロイセン国王陛下宛に『NIPPON』2つ折本，第1から第3分冊，1部（贈呈）を送付。
- 1833～34年，プロイセン国王女王陛下宛に『NIPPON』2つ折本，第1から第3分冊，1部（贈呈）送付。
- 1833～34年，フランクフルト・アム・マインのゼンケンベルグ研究所教授クレッチマー（Ph. J. Cretsch-mar）宛に『NIPPON』2つ折本，第1から第3分冊，1部（贈呈）を送付。
- 1833～34年，前東インド総督ファン・デン・ボッシュ伯爵（J. Graf van den Bosch）宛に『NIPPON』2つ折本，第1及び第2分冊，1部（贈呈）を送付。
- ◇水野忠邦が老中となる。
- ◇ドイツ関税同盟。

1835年（天保6年） 39歳

△1月初旬から1ヵ月ドレスデン（Dresden）に滞在。その後プラハ（Praha）に向かう。

△1月4日（12・6）ドレスデンにて，ライデンの王立自然史博物館管理官・動物学

者ヘルマン・シュレーゲル (Hermann Schlegel) 宛の手紙を書く (注:『新・シーボルト研究』 I. 234-235頁参照)。

* 1月5日 (12・7) ゴフィー? (Sophie) がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 1月13日 (12・15) ユステイーネ・フォルスター (Justine Forster シーボルトの姪) がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 1月31日 (1・3) ドゥ・ミュレル・リッテルドルプ夫人? (Mademoiselle de Müller Ritterdorp) がシーボルト宛に書簡を送る。

○ 1月日付不詳, ウィーンの Fr.シャウムブルグ書店 (Fr. Schaumburg & Co) 宛に『NIPPON』2つ折り本, 第1及び第2分冊, 1部 (24.30フローリン)。『日本動物誌』甲殻類篇, 第1分冊 (亀類の部), 1部 (7.30フローリン) を送付。

* 2月2日 (1・5) ヴィルヘルム・クスター (Wilhelm Kuster) がモスクワからシーボルト宛に書簡 (11月10日付シーボルト書簡に対する返書) を送る。

△ 2月初旬, ウィーンに滞在。

△ 2月12日 (1・15) 東洋文献学者ヨーゼフ・ホフマン博士がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 2月13日 (1・16) ユステイーネ・フォルスター (シーボルトの姪) がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。ヴァルダウ・ヴァルデンシュタイン (Waldau Waldenstein) がシーボルト宛に短信を送る。

* 2月14日 (1・17) ウィーンにて, 伯父ロツツ宛の手紙を書く。

* 2月15日 (1・18) ライケンバッハ博士 (Dr. Reichenbach) がウィーンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 2月19日 (1・22) トウイッケル (Twickel) のファン・ヘーツケレン (J.D.K. van Heeckeren) 男爵がサンクト・ペテルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 2月20日 (1・23) 伯父ロツツがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 2月21日 (1・24) オランダ領東インド総督府のバウムハウアー (C.M. Baumhauer) がバタヴィアからシーボルト宛に書簡を送る。

* 同日, マルガレータ・フォン・シーボルト (Margaretha von Siebold 叔父バルテル・フォン・シーボルト Bartel von Siebold の未亡人) とヴェルツブルグ大学解剖学教授ゴットフリート・フォン・シーボルト (Gottfried von Siebold) がヴェルツブ

ルグからシーボルト宛に書簡を送る。

- * 2月25日（1・28）ドレスデンのライケンバッハ博士がブランスコ（Blansco）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月3日（2・5）トゥイッケル（Twickel）のファン・ヘーツケレン男爵（Baron J.D.K. van Heeckren）がサントペテルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月4日（2・6）ドレスデンのライケンバッハ博士（Dr. Ludwig Reichenbach）がブランスコからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月7日（2・9）学友ハリッツ Haritz（ハルツ Hartz?）がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月9日（2・11）シュヴァルツ（J.G. Schwarz）がウィーンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月11日（2・13）旧オランダ領東インド総督ファン・デル・カペレンがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月13日（2・15）ユスティーネ・フォルスター（シーボルトの姪）がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。

△同日、東洋文献学者ヨーゼフ・ホフマン博士がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。

- * 3月14日（2・16）セーリス Salis がウィーンからシーボルト宛に書簡を送る。

△3月18日（2・20）ゲオルグ・フランツ書店（Georg Franz）がミュンヘンからシーボルト宛に書簡送る。

- * 3月19日（2・21）ユスティーネ・フォルスター（シーボルトの姪）がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。

△3月20日（2・22）東洋文献学者ヨーゼフ・ホフマンがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。

○3月月日不詳、ウィーンのシャウムブルグ書店宛に『NIPPON』2つ折本、第1及び第2分冊、1部（36.50フローリン）。同書4つ折本、第1及び第2分冊、1部（22.50フローリン）。『日本動物誌』第1分冊、2部（18フローリン）を送付。

△4月初旬、ミュンヘンでミュンヘン大学植物学教授ヨーゼフ・ゲルハルド・ツッカーニ博士と会う。

- * 4月3日（3・6）ファン・デル・カステレー（A.A. van der Castele）がハーグか

らシーボルト宛に書簡を送る。

* 4月9日 (3・12) ドウ・サンティ伯爵 (Conte. de Santi) がワイマール (Weimar) からシーボルト宛に書簡を送る。

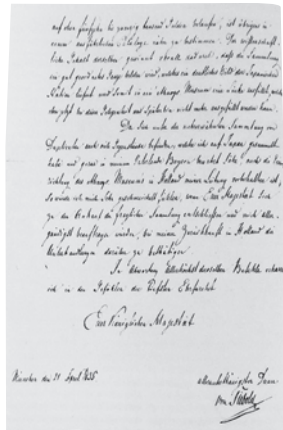
○ 4月10日 (3・13) J.G.ツッカーニ教授が『一般植物彙報』 (Allgemeine Botanische Zeitung) の中で、『日本植物誌』 (Flora Japonica) 発行のためシーボルトと協定した計画を発表。

○ 同日, サンクト・ペテルブルグにて、『日本旅行』 (Voyage au Japon フランス語版『NIPPON』) 予約購読見本 (印刷物: シーボルト署名入り) 配布される。

△ 4月20日 (3・23) 薬剤師・作曲家フォークル博士 (Dr. Georg Hermann Vogel) がトルツ (Tolz) からシーボルト宛に書簡を送る。

△ 4月21日 (3・24) バイエルン国王ルートヴィヒ1世 (Ludwig I) に「王立民族学博物館設立に関する書簡」と「計画草案」を提出。

* 同日, ドウ・サンティ伯爵がワイマールからシーボルト宛に書簡を送る。



〔図36〕 バイエルン国王ルートヴィヒ一世の肖像とシーボルトが国王宛に書いた書簡の一部 (ミュンヘン国立民族学博物館所蔵)

○ 4月月日不詳, ライプツィヒの書籍商レオポルト・フォス宛に『日本植物誌』彩色版, 第3及び第4分冊, 25部 (130ターラー)。同書黒色版, 第3及び第4分冊, 2部 (献本)。同書彩色版, 第5及び第6分冊, 25部 (130ターラー)。同書黒色版, 第5及び第6分冊, 2部 (献本)。同書彩色版, 第7及び第8分冊, 25部 (130ター

ラー)。同書黒色版、第7及び第8分冊、2部（献本）を送付。

△5月9日（4・12）図版製作者・動物学者のAeg.ザーグマンズ・ファン・デル・ムルダー博士（Dr. Aeg. Saagmans van der Mulder）がフラネッカー（Franeker）からシーボルト宛に書簡を送る。

*5月10日（4・13）ネーデルヘメルト（Neder-Hemert）のファン・ナゲル男爵（Baron C.A.D. van Nagell）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

△5月12日（4・15）ワイマールに着く。

△5月13日（4・16）ザクセン・ワイマールの宰相フリードリッヒ・フォン・ミュラー（Friedrich von Müller）とライデンからシーボルトに同行のアムステルダム園芸家スタドニツスキー（P.C. Stadnitski）と「花の展示会」に行く。展示場でエルフルト（Erfurt）の庭師フィッシャー（Fischer）と知り合う。午後、宰相フォン・ミュラーとワイマールの宮廷を訪れ、大公妃アンナ・パウロヴィナ（Anna Paulowina）の榮譽を称え、花に彼女の名前をつけた日本のノート「皇帝の桐」模写を提出。

○同日、草稿『従来の原料による紙製造に関するいくつかのメモ』を執筆。

○同日、バリのL.ロレ書店宛に『日本動物誌』第2分冊、25部（650フラン）を送付。

*5月15日（4・18）ホフマン博士（Dr. A.G. Hoffmann）がイエナ（Jena）からシーボルト宛に「ブロックハウス辞書への掲載問い合わせ」についての書簡を送る。

△5月16日（4・19）画家・図案家のヨーゼフ・シュメラ（Joseph Schmeller）がシーボルトのクレヨン画を作成。

○5月23日（4・26）ライプツィヒのフリードリッヒ・フライシャー書店（Friedrich Fleischer）宛に『NIPPON』2つ折本、第1及び第2分冊の10部、同書2つ折本、第1から第3分冊の1部、同書4つ折本、第1及び2分冊の3部、『日本動物誌』甲殻類篇、第1分冊、8部。『日本叢書』の内、第1冊『新增字林玉篇』8部。第3冊『千字文』8部を送付。

○同日、リスト「未返品 of 書籍商一覧」を作成。以後、旅行せずにヴェルツブルグの自宅に居住。

*5月27日（5・1）シュヴァルツ（J.G. Schwarz）がウィーンからシーボルト宛に書簡を送る。

*6月10日（5・15）ハール・ラ・ヤン？（Haar la Jan）がライデンからシーボルト宛に請求書を送る。クナーゲ（Knage）がライデンからシーボルト宛に請求書を送る。

- * 6月17日 (5・22) フラチング? (Flaching) がシーボルト宛に書簡を送る。
- 6月20日 (5・25) ライデンにて、前出島オランダ商館員 P.W.フェルケルス・ピストリウス宛の証文・借用書 (金額800フローリン) を書く。
- * 6月22日 (5・27) 元オランダ領東インド総督ファン・デル・カペレンがボーレンハウベンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月24日 (5・29) ロッツ博士 (Dr. Lotz) がマルクスシュタット (Marxstadt) からシーボルト宛書簡送る。
- * 6月28日 (6・3) フーベルト・Fr.フィシュバッハ (Hubert Fr. Fischbach) がシャトウ・ドゥ・モン・サン・ジャン (Chateau de Mont St. Jean) からシーボルト宛に書簡 (1832年9月28日付シーボルト書簡に対する返書) を送る。
- * 6月30日 (6・5) 元オランダ領東インド総督ファン・デル・カペレンがボーレンハウベンからシーボルト宛に書簡を送る。ムンチ (D. Munch) がシュトゥットガルト (Stuttgart) からシーボルト宛に書簡を送る。
- 7月1日 (6・6) ライデンにて、オランダ内務大臣 (デ・コック) 宛の手紙を書く。
- * 同日、シュラーダー (Schrader) がゲッチンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月3日 (6・8) オランダ内務大臣秘書官がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月7日 (6・12) シュラーダーがゲッチンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 7月15日 (6・20) ライデンの C.C.ファン・デル・フーク書店 (C.C. van der Hoek) 宛に『NIPPON』4つ折本、第3及び第4分冊、5部 (72フローリン)。同書2つ折本、第3及び第4分冊、1部 (37.50フローリン) を送付。
- * 7月16日 (6・21) 元オランダ領東インド総督ファン・デル・カペレンがボーレンハウベンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 7月20日 (6・25) サンクト・ペテルブルグの J.J.プリエフ書店宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第4分冊、5部 (正価750ルーブル：小売価格1,000ルーブル)、同書4つ折本、第3及び第4分冊、4部 (正価96ルーブル：小売価格120ルーブル)。『日本動物誌』甲殻類篇、第1及び第2分冊、5部 (正価200ルーブル、小売価格240ルーブル)。同書爬虫類篇、第1分冊、1部 (正価20ルーブル：小売価格24ルーブル) を送付。

- 同日、サンクト・ベテルブルグのステイーグリッツ（Stieglitz & Co）商会からロシア帝国皇帝宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第4分冊、20部（2,000ルーブル）。『日本動物誌』第1及び第2分冊、10部（480ルーブル）。『日本叢書』の内、第3冊『千字文』10部（300ルーブル）を送付。
- *同日、オランダ内務大臣（デ・コック）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 7月21日（6・26）アムステルダムのJ.ミュレル書店宛に『NIPPON』2つ折本、第3及び第4分冊、3部（150フローリン）。同書4つ折本、第3及び第4分冊、3部（30フローリン）。『NIPPON』4つ折本、第4分冊（トラックセス伯爵宛、15フローリン）を送付。
- 同日、ライデンのC.C.ファン・デル・フーク書店宛に『NIPPON』2つ折本、第3及び第4分冊、7部（262.50フローリン）。同書4つ折本、第3及び第4分冊（48フローリン）。『日本動物誌』第2分冊、2部（20フローリン）。同書第1分冊（ブーケル Bouquer 氏へ、1部、12フローリン）を送付。書店用展示品として：『NIPPON』2つ折本、第1から第3分冊、1部。同書4つ折本、第1及び第2分冊。『日本叢書』の内、第3冊『千字文』1部を送付。
- 7月22日（6・27）ライデンにて、オランダ国王（ウィレム一世）宛の手紙を書く。
- *7月24日（6・29）アルベルティーネ・フォルスター（シーボルトの姪）がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *7月27日（7・2）フーベルト・Frh.フィッシュバッハ・マロード（Hubert Frh. Fischbach Malaurd）がディース近郊のシャトウ・ドゥ・モン・サン・ジャン（Pres de Diese Chateau du Mont St. Jean）からシーボルト宛に書簡を送る。
- 7月28日（7・3）バリの書籍商ドゥ・ドンデ・デュプレ夫人（De Dondeg Dupre）宛てに『NIPPON』第1及び第2分冊の図版集、150部（3,000フラン）を送付。
- *同日、ヴェルツブルグ地方裁判所所長ゲオルグ・デアエルフアー（Georg Doerffer シーボルトのメナーニア会友人）がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 7月29日（7・4）ライプツィヒのFr.フライシャー書店宛に『NIPPON』2つ折本、第3及び第4分冊の25部、同書4つ折本、第3及び第4分冊、30部。『日本動物誌』爬虫類篇（亀類の部）、第1分冊、45部を送付。
- *8月4日（7・10）オランダ内務省課長職ファン・ラッパルド（A.G.A. van Rappard）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

- * 8月10日（7・16）プロイセン王国教育医学省がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月12日（7・18）シュヴァルツ（J. George Schwarz）がウィーンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月15日（7・21）伯父ロットがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月25日（閏7・2）オランダ内務省事務次官がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 8月29日（閏7・6）アムステルダムのヒュルスト・ファン・ケウレン書店（G. Hulst van Keulen）宛に「日本国の地図」100部（195フローリン）を送付。
- 8月日付不詳，オランダの植民地省宛に『NIPPON』2つ折本，第3及び第4分冊，3部（150フローリン）。『日本動物誌』甲殻類篇，第1及び第2分冊，1部（24フローリン）を送付。
- 同日，ライプツィヒのFr.フライシャー書店宛に『NIPPON』2つ折本，第3及び第4分冊，10部を送付。
- * 9月4日（閏7・12）ドロウイン・リュウス（Drouyn L' huys）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月5日（閏7・13）元オランダ領東インド総督ファン・デル・カペレンがボーンハウベンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月6日（閏7・14）ソエス？（Soes）がシュトゥットガルトからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月7日（閏7・15）アエリアン・デ・バルベ（Aerian de Balbe）がウィーンからシーボルト宛に書簡を送る。ブヒンガー（Buchinger）がシュトゥットガルトからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月10日（閏7・18）オランダ植民大臣（J.C.バウド）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日，プロイセン王国教育医学省のストレーマン（E. Strehmann）がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月12日（閏7・20）ロッテルダムの園芸店ファン・レーウヴェン（J.D. van Leeuwen）がアーンヘム（Arnhem）からシーボルト宛に書簡を送る。
- 9月15日（閏7・23）ライデンにて，オランダ国王宛の手紙を書く。

- 同日、ライプツィヒのFr.フライシャー書店宛に『NIPPON』2つ折本、第3及び第4分冊の10部を送付。
- * 9月17日（閏7・25）伯父ロッツがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 9月20日（閏7・28）Ph. Fr.フォン・シーボルトの叔母フリーデリケ・フォンシーボルトを通して、ベルリンのプロイセン王国教育医学省宛に『NIPPON』2つ折版、第1から第4分冊、12部（672.ターラー）を送付。
- * 同日、オランダ内務大臣秘書室がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 9月22日（8・1）ライデンにて、伯父ロッツ宛の手紙を書く。
- * 9月23日（8・2）ヴェルツブルグ地方裁判所所長ゲオルグ・デエルファー（シーボルトのメナーニア会の友人）がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 9月25日（8・4）ライデンにて、元出島オランダ商館員C.H.ドゥ・ヴィルヌーヴ宛の請求書を書く。
- △9月27日（8・6）図版製作者・動物学者A.eg.ザーグマンズ・ファン・デル・ムルダー博士がフラネッカーからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月28日（8・7）元オランダ領東インド総督ファン・デル・カペレンがボーレンハウベンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 9月下旬までに『日本植物誌』（Flora Japonica ツツカリーニ J.G. Zuccarini との共著）彩色版及び黒色版：第1巻、第1及び第2分冊（tt.1-10）を出版。以後1870年（ミケル F.A.W. Miquel の著）まで刊行。
- 10月1日（8・10）ライデンにて、元出島オランダ商館員P.W.フェルケルス・ピストリウス宛の証文・借用書を書く。
- 10月2日（8・11）ケルン行きの船中にある。船上にて、伯父ロッツ宛に手紙を書く。
- 10月9日（8・18）ライプツィヒのレオボルド・フォス書店（Leopold Voss）宛に『日本植物誌』彩色版、第1巻、第1及び第2分冊、25部（200ターラー）。同書黒色版、第1巻、第1及び第2分冊、10部（40ターラー）。同書彩色版、第1巻、第1及び第2分冊、6部（32ターラー）を送付。
- * 10月10日（8・19）庭師アトラヘム・ハクビイル（Atrahem Hakbyl）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 10月11日（8・20）ヴェルツブルグ地方裁判所所長ゲオルグ・デエルファー（シー

ボルトのメナーニア会の友人) がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

*10月12日 (8・21) ユステイーネ・フォルスター (シーボルトの姪) がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。

*10月13日 (8・22) ファブリシウス (Fabricius) がシーボルト宛に書簡を送る。フラチングがウィーンからシーボルト宛に書簡を送る。

*10月15日 (8・24) オランダ植民地省がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

*10月14日 (8・23) ファブリシウスがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

○10月22日 (9・1) パリのL.ロレ書店宛に『日本叢書』の内、第1冊『新增字林玉篇』1部 (135フラン)、第3冊『千字文』1部 (38フラン)。『NIPPON』2つ折本、第1から第4分冊、1部 (373フラン) を送付。

*同日、ハールバウアー (P. Harbauer) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

○10月23日 (9・2) パリの書籍商ドゥ・ドンデ・デュプレ夫人宛に『日本叢書』の内、第1冊『新增字林玉篇』3部 (405フラン)、第3冊『千字文』3部 (114フラン)。『NIPPON』2つ折本、第1から第4分冊、1部 (200フラン)。同書4つ折本、第1から第4分冊、1部 (144フラン) を送付。

*同日、ルートヴィヒ・ライケンバッハ博士 (Dr. Ludwig Reichenbach) がシュロート・R.? (Schloth R) からシーボルト宛に書簡を送る。

○10月25日 (9・4) ライデンにて、オランダ内務大臣 (デ・コック) 宛の手紙を書く。

*10月30日 (9・9) オランダ植民地省がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

*同日、ヴェルツブルグ地方裁判所所長ゲオルグ・デエルファー (シーボルトのメナーニア会友人) がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

*同日、オランダ植民地省がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

○10月31日 (9・10) ライデンにて、オランダ内務大臣 (デ・コック) 宛の手紙を書く。

○同日、ライデンのC.C.ファン・デル・フーク書店宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第4分冊、1部 (101.25フローリン)。同書2つ折本、第1及び第2分冊、1部 (67.50フローリン)。同書4つ折本、第2分冊、1部 (ブーケル氏へ、72フローリン) を送付。現在、書店の書籍として『NIPPON』2つ折本、第1及び第2分冊、2部を保管。

- △同日、図版製作者・動物学者 Aeg.ザーグマンズ・ファン・デル・ムルダー博士 (Dr. Aeg. Saagmans van der Mulder) がフラネッカー (Franeker) からシーボルト宛に書簡を送る。
- △同日、薬剤師・作曲家ヴォーゲル博士 (G. Vogel) がテルゲルンサー (Tergernsee) からシーボルト宛に書簡を送る。
- 10月日付不詳、ライデンの C.C.ファン・デル・フーク書店宛に『NIPPON』2つ折本、第1及び第2分冊、8部 (1部37.50フローリン：計300フローリン)。同書4つ折本、第1及び第2分冊 (1部24フローリン)、同書4つ折本、第1及び第2分冊 (ルヒトマンス Luchtmans 氏へ)。『日本動物誌』第1分冊、4部 (40フローリン)。同書、第2分冊、2部 (テキスト版欠く：20フローリン)。『日本叢書』の内、第1冊『新增字林玉篇』1部 (50フローリン)、第3冊『千字文』1部 (15フローリン) などを送付。
- 11月2日 (9・12) ミュンヘン近郊テゲルンサーの薬剤師・作曲家 G.H.フォーゲル博士宛に『NIPPON』2つ折本、第4分冊、5部 (125フローリン)。同書4つ折本、第4分冊、2部 (30フローリン)。同書4つ折本、第4分冊、1部 (贈呈) を送付。
- 同日、ライプツィヒの Fr.フライシャー書店宛に『日本動物誌』甲殻類篇、第2分冊、45部。『NIPPON』2つ折本、第4分冊、3部を送付。
- 同日、ライデンの C.C.ファン・デル・フーク書店宛に『日本動物誌』4つ折本、甲殻類篇、第2分冊、1部 (40フローリン) を送付。
- *11月3日 (9・13) オランダ植民地省がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月6日 (9・16) オランダ植民地省がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 11月9日 (9・19) ライデンにて、オランダ植民大臣 (J.C.バウド) 宛の手紙を書く。
- *同日、オランダ植民地省がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月10日 (9・20) ジャクイン (Jaquin) がウィーンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月12日 (9・22) 伯父ロッツがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 11月14日 (9・24) 叔母フリーデリケ・フォン・シーボルト宛にプロイセン王国教育医学省から『NIPPON』2つ折本 第1から第5分冊を9月20日付で送付 (670

ターラー) が支払われ、併せて同書第1から第5分冊の1部が返却される。

○同日、フランクフルト・アム・マイン駐在の連邦軍事委員会全権、オーストリア国陸軍少将ルートヴィヒ・フォン・ヴェルデン男爵 (Ludwig Frhr von Welden) が、雑誌『植物誌』Flora (18年度 66頁) で、ライデンのシーボルト博物館訪問について紹介。Ludwig Welden., [Über die Siebold-Sammlung in Leiden.]. In Flora oder Allgemeine Botanische Zeitung, 18 (1835). (ハンス・ケルナー著/竹内精一訳『シーボルト父子伝』80-82頁, および石山禎一編著『シーボルトの日本研究』吉川弘文館1997年 24-25頁参照)。

* 同日、プロイセン王国教育医学省がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 11月16日 (9・26) ハールバウアー (P. Harbauer) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 11月20日 (10・1) ウィーン王立農業協会所属ゲース (Goes) がウィーンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 11月24日 (10・5) ラール? (Lahr) がシュトゥツガルトからシーボルト宛に書簡を送る。

* 11月25日 (10・6) 元オランダ領東インド総督ファン・デル・カペレンがボレーンハウベンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 11月26日 (10・7) ファン・リスティング (J.G. van Rysting) がヴォンメル (Wommel) からシーボルト宛に書簡を送る。

* 11月30日 (10・11) ロッテルダムの船主・貿易商ホボークン (Antny van Hoboken) がロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。

○12月1日 (10・12) ライデンにて、ライデンの王立自然史博物館館長 (C.J. テミンク) 宛の手紙書く。

○12月5日 (10・16) ライデンにて、オランダ内務大臣デ・コック宛の手紙を書く。

○12月7日 (10・18) 1833年及び1834年にアムステルダムのJ. ミュレル書店宛送付の内、現在、同書店に委託保管の書籍：『NIPPON』2つ折本、28部、第1及び第2分冊 (1部14ターラー：計784ターラー)。同書4つ折本、38部、第1及び第2分冊 (1部8.12ターラー：計616ターラー)。『日本動物誌』第1分冊45部 (1部6.25ターラー：計300ターラー)。『日本叢書』の内、第1冊『新增字林玉篇』13部 (1部36ターラー：計468ターラー)。第3冊『千字文』5部 (1部10ターラー：計50ター

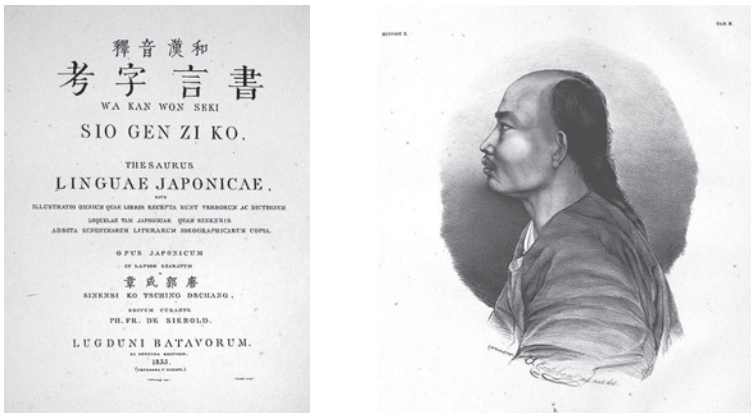
- ラー)。『NIPPON』2つ折本，1部，第1から第3分冊，バタヴィアへ（42ターラー）。同書4つ折本，1部，第1から第3分冊（バタヴィアへ，25.12ターラー）。『NIPPON』4つ折本，1部，第1から第3分冊（トラックセス伯爵へ，25.12ターラー）を送付。
- 12月9日（10・20）ライプツィヒのレオポルド・フォス書店（Leopold Voss）宛に、『日本植物誌』彩色版，第1巻，第1及び第2分冊，25部（200ターラー）。同書彩色版，第及び第2分冊，6部（32ターラー）。同書黒色版，第1巻，第1及び第2分冊，10部（40ターラー）を送付。
- 12月10日（10・21）ウィーンのシャウムブルグ書店（Friedrich Scaumburg & Co）宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第1及び第2分冊，25部（195フローリン）を送付。
- *12月13日（10・24）J.G.シュヴァルツがウィーンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月18日（10・29）アルベルティーネ・フォルスター（Arbertine Forster シーボルト家の一族）がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月24日（11・5）オランダ国務大臣クリフォード（G.G. Clifford）がハイス・テル・ヘーク（Huis ter Heek）からシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月26日（11・7）ヴェルツブルグ地方裁判所長ゲオルグ・デアエルフアー（Georg Doerffer シーボルトのメナーニア会友人）がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 12月29日（11・10）ライデンにて，オランダ内務大臣デ・コック宛の手紙を書く。
- ◇12月31日（11・12）出島オランダ商館員ビュルゲル（Heinrich Bürger）が，この年バタヴィアへ発送した「日本産鳥類の品名リスト」を作成する。
- 12月日付不詳，ライデンにて，オランダ内務大臣デ・コック宛の手紙を書く。
- 12月月日不詳。アムステルダムのJ.ミュレル書店宛に『日本植物誌』彩色版，第1及び第2分冊，20部，同書黒色版，第1及び2分冊，5部（324フローリン）を送付。
- 12月月日不詳，ウィーンのシャウムブルグ書店宛に『日本植物誌』彩色版，第1及び第2分冊，26部（279.75フローリン）を送付。
- *12月日付不詳，母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *月日不詳，ヘンリエット・フォン・ペライラ（Henriette von Pereira）がシーボルト

宛に書簡を送る。

○月日不詳, リスト『出版社に対する要求一覧』を作成。

△月日不詳, 青年医師エヴァルト・ハッセ (Ewald Hasse 後のゲッティンゲン大学医学部教授) がライデンのシーボルト博物館を訪れる (エヴァルト・ハッセ著『わが人生の回想録』K. Ewald. Hasse., *Erinn-erungen aus meine Leben*. Leipzig 1901)。

○月日不詳, 『日本叢書』の内, 第2冊『和漢音釈書言字考』 (Wa kan won seki sjo gen zi ko, *Thesaurus linguae Japonicae*) をライデンにて出版。



〔図37〕『和漢音釈書言字考』の内表紙と郭成章の肖像画 (福岡県図書館所蔵)

○1833~35年, パリ大学アジア語教授クラプロート (Julius Klapproth) 宛に『NIPPON』2つ折本, 第1から第4分冊, 1部を送付。

○1833~35年, フランス国王陛下宛に『NIPPON』2つ折本, 第1から第4分冊, 1部を送付。

○1833~35年, フランス国王女王陛下宛に『NIPPON』2つ折本, 第1から第4分冊, 1部を送付。

○1833~35年, ハーレム (Haarlem) のロージェス公 (Roojes) 宛に『NIPPON』2つ折本, 第1から第4分冊, 1部 (75フローリン)。『日本動物誌』甲殻類篇, 第1及び第2分冊, 1部 (20フローリン)。同書甲殻類篇, 第2分冊, 1部 (9フローリン) を送付。

○1833~35年, バーデンの宮廷狩猟長官シリング男爵 (Ferdinand von Canstatt Schil-

- ling) 宛に『NIPPON』2つ折り本, 第1から第4分冊, 1部を送付。
- 1833～35年, オランダ陸軍司令部査察官ベルナルド (J.C.B. Bernard) 閣下宛に『NIPPON』2つ折本, 第1から第4分冊, 1部を送付。
- 1833～35年, オランダの動物学者デ・ハーン (Willem de Haan) 宛に『NIPPON』2つ折本, 第1から第4分冊, 1部 (贈呈) を送付。
- 1833～35年, ラウドレッセ (Laudresse) 宛に『NIPPON』2つ折本, 第1から第4分冊, 1部送付。
- ウィーン所在, 帝立王立農業協会会員。

1836年 (天保7年) 40歳

- * 1月1日 (11・13) 元出島オランダ商館員 P.W.フェルケルク・ピストリウスがヴェルプ Velp からシーボルト宛に書簡を送る。
- 1月2日 (11・14) アムステルダムのヨハネス・ミュレル書店宛に『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第1及び第2分冊, 20部 (216フローリン)。同書黒色版, 第1巻, 第1及び第2分冊, 5部 (27フローリン) を送付。
- * 同日, 母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月3日 (11・15) 元出島オランダ商館長ヤン・コック・ブロムホフがビルクホーヴェンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 1月4日 (11・16) アムステルダムの J.ミュレル書店宛に『日本植物誌』黒色版, 第1巻, 第1及び第2分冊, 4部 (21.60フローリン) を送付。
- * 1月7日 (11・9) バベッテ・フォルスター Babette Forster (シーボルト家の一族?) がバンベルグ (Bamberg) からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月10日 (11・22) ライデンの王立自然史博物館館長 C.J.テミンクがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- △1月17日 (11・29) ミュンヘン大学植物学教授 J.G.ツッカーリーニ博士がトルツからシーボルト宛に書簡を送る。
- 1月20日 (12・3) ライデンにて, リスト『元出島オランダ商館員オーベルメール・フィッセル氏 (Overmeer Fisscher) 収集の書籍一覧』を作成。
- 同日, オランダの植民地省宛に『日本動物誌』甲殻類篇, 第2分冊の2部 (24フローリン)。『日本植物誌』第1巻, 第1及び第2分冊の2部 (28.80フローリン) を送付。



『日本植物誌』彩色版
(福岡県図書館所蔵)



川原慶賀筆「紫藤」
(コマロフ植物研究所蔵)

〔図38〕



ロシア サンクトペテルブルグ コマロフ植物研究所外観 (2009年撮影)

- * 1月22日 (12・5) カール・フォン・ブラウン男爵 (Carl von Braun) がウィーンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月5日 (12・19) シルテマ・デ・グロテスティンス男爵 (Sirtema de Grotestins) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月6日 (12・20) グイルレト (P. Guillet) がボッスール (Bossul) からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月8日 (12・22) ファン・リスティング (J.G. van Rysting) がシーボルト宛に書

簡を送る。

- * 2月10日（12・24）オランダ植民地省がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月16日（12・30）バーデン（Baden）の宮廷狩猟官シリング・フォン・カンスダッド男爵（Shilling von Cannstatt）がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月18日（1・2）ヴェルツブルグ地方裁判所長ゲオルグ・デエルファー（シーボルトのメナーニア会友人）がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月20日（1・4）元出島オランダ商館長ヤン・コック・プロムホフがビルクホーヴェンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日、ドランヘーウェン（Dranheeuwen）がアーンハイム（Arnheim）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月22日（1・6）母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 2月24日（1・8）ライデンにて、ドランヘーウェン宛ての手紙を書く。
- * 同日、プロギアード教授（Prof. A. Bronguiard）がパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- 2月25日（1・9）パリの書籍商ドウ・ドンデ・デュプレ夫人宛に『NIPPON』第3及び第4分冊、函版集、300部（6000フラン）を送付。
- 同日、パリのロレ書店宛に『日本動物誌』第3分冊、10部（260フラン）。『日本植物誌』彩色版、第1及び第2分冊、6部（180フラン）。同書黒色版、第1及び第2分冊、4部（64フラン）を送付。
- * 2月26日（1・10）ミュレル博士（Dr. G.W. Müller）がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月27日（1・11）元出島オランダ商館長ヤン・コック・プロムホフがビルクホーヴェンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月29日（1・13）ドランヘーウェン（Dranheeuwen）がアーンハイムからシーボルト宛に書簡を送る。
- 3月2日（1・15）ハーグの書籍商フランク（J. Frank）宛に『日本植物誌』彩色版、第1巻、第1及び第2分冊、2部（21.60フローリン）を送付。
- 3月10日（1・23）プロイセン王国教育医学省宛に『NIPPON』第5分冊、12部（168ターラー）を送付。
- * 3月11日（1・24）オランダ領東インド総督府のメドハースト（W.H. Medhurst）

がバタヴィアからシーボルト宛に書簡を送る。

- 3月13日 (1・26) ライデンのC.C.ファン・デル・フーク書店宛に『日本動物誌』第1から第3分冊, 2部 (60フローリン)。『日本叢書』の内, 第1冊『新增字林玉篇』1部 (50フローリン) を送付。
- * 3月24日 (2・8) ファン・デル・カステーレ (A.A. van der Castele) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 3月25日 (2・9) ライデンのファン・デル・フーク書店宛に『日本植物誌』第1及び第2分冊, 2部 (21.60フローリン) を送付。
- * 3月26日 (2・10) ユステイーネ・フォルスター (シーボルトの姪) がバンベルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月27日 (2・11) マールブルグ (Marburg) 大学およびゲッチェンゲン大学医学部教授エドワルド・フォン・シーボルト (Eduard von Siebold 叔父 A. エリアス・フォン・シーボルトの長男) がゲッチェンゲン (Göttingen) からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月30日 (2・14) コンラード・レーマンス博士 (Dr. Conraad Leemans 後にライデンの王立民族学陳列館館長) がロンドンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月31日 (2・15) オランダ領東インド総督府の医師エイシンガー G. Eisinger がバタヴィアからシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月2日 (2・17) ライデンにて, J.G. シュヴァルツ宛ての手紙を書く。
- 同日, ライデンのC.C.ファン・デル・フーク書店宛に『日本叢書』の内『新增字林玉篇』1部 (50フローリン) を送付。
- 4月3日 (2・18) ライデンにて, オランダ植民大臣 (J.C.バウド) 宛の手紙 (フィッシャー収集の日本書籍リストを含む) を書く。
- * 4月16日 (3・1) フランクフルト・アム・マインのゼンケンベルグ研究所教授 Ph. J. クレチマー博士がフランクフルトからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月19日 (3・4) アガテ・ガイスト? (Agathe Geist) がヴェルツブルグからシーボルト宛の書簡 (音楽に関する世界調査旅行を計画中の甥に対する忠告と支援を願う記述) を送る。
- * 4月21日 (3・6) ドランヘーウェンがアーンハイムからシーボルト宛に書簡を送る。

- * 4月25日（3・10）G.ヴォーゲル博士がトルツからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日，ドランヘーウェンがアーンハイムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月29日（3・14）プロイセン王国教育文化省がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月下旬から5月初旬頃までに，シーボルト，キュフナー著『日本の旋律』（Japanische Weisen, 日本語・ラテン語：楽譜5枚）をライデンにて出版。
- 5月1日（3・16）ザクセンのワイマール公国ベルナルド大公殿下（Z.K. Hoogheid Hertog van SachsenMeiningen Bernard）宛に『NIPPON』2つ折本，第6分冊，1部（25フローリン）。同書第7及び第8分冊，1部（50フローリン）を送付。
- 5月5日（3・20）ライデンのC.C.ファン・デル・フーク書店宛に『NIPPON』2つ折本，2部（112フローリン）。同書4つ折本，5部（60フローリン）を送付。
- * 同日，A.A.ファン・デル・カステーレがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。前出島オランダ商館長ヤン・コック・ブロムホフがビルクホーヴェンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月9日（3・24）ミュンヘン近郊テゲルンセーの薬剤師・作曲家G.H.フォーゲル博士宛に『NIPPON』2つ折本，第5分冊，4部（100フローリン）。同書4つ折本，第5分冊，2部（30フローリン）。同書4つ折本，第5分冊，1部（無料）。同書2つ折本，第5分冊，1部（25フローリン）を送付。またフォーゲル博士を通じて，バイエルン国王陛下へ『NIPPON』2つ折本，第1から第5分冊，1部（贈呈）。オットー国王陛下へ同書2つ折本，第3から第5分冊，1部（贈呈）。陸軍大将フォン・ツヴァイブルッカー（von Zweibrucker）へ同書4つ折本，第1から第5分冊，1部（贈呈）。ギリシャ国王陛下へ同書2つ折本，第1及び第2分冊，1部（贈呈）。王室中央図書館へ2つ折本，第1から第4分冊の1部（贈呈）。ドゥエル・マクリング＝デリンゲン商会（Comp. d' oel Macling & Doellingen）へ同書2つ折本，第1から第4分冊及び4つ折本，第1から第4分冊，1部（贈呈）。『日本の旋律』（楽譜5枚）1部（贈呈）をそれぞれ送付する。
- 同日，ライプツィヒのFr.フライシャー書店宛に『NIPPON』2つ折本，第5分冊，28部。同書4つ折本，第5分冊，30部。『日本の旋律』（楽譜5枚）25部を送付。
- 同日，ウィーンのシャウムブルグ書店宛に『日本の旋律』（楽譜5枚），25部（15フローリン）を送付。

△同日、図版製作者・動物学者 Aeg.ザーグマンス・ファン・デル・ムルダー博士がフラネッカーからシーボルト宛に書簡を送る。

○5月10日（3・25）Ph. Fr.フォン・シーボルトの叔母フリーデリケ・フォン・シーボルト（Friederike von Siebold）を通して、プロシア王国教育医学省宛に『NIPPON』2つ折本、第5分冊、12部（168ターラー）を送付。

○同日、アムステルダムのJ.ミュレル書店宛に『NIPPON』2つ折本、第5分冊、3部（75フローリン）。同4つ折本、第5分冊、1部（15フローリン）。同書4つ折本、第5分冊、1部（トラックセス伯爵へ、15フローリン）を送付。

○5月11日（3・26）ロッテルダム船主・貿易商アントニー・ファン・ホボークン（Antony van Hoboken）宛に『NIPPON』2つ折本、第1及び第2分冊、1部（贈呈）を送付。

○同日、アムステルダムの園芸家スタドニツスキー（H. Stadnitski）宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第6分冊、1部（贈呈）を送付。

○同日、ライデン大学教授ラインワルト（Prof. C.G. Reinwardt）宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第6分冊、1部（贈呈）を送付。

○同日、デ・コック陸軍中將閣下（S.E. General L. de Cock）宛に『NIPPON』2つ折本、第1及び第2分冊、1部（贈呈）を送付。

○同日、ライデンの動物学者テンミンク（J.C. Temminck）宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第6分冊、1部（贈呈）を送付。

○同日、ブリュッセルの園芸家ファン・デル・マーレン（van der Maelen）宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第3分冊、1部（贈呈）を送付。

○同日、デ・ケヴェルベルグ男爵（Baron de Keeverberg）宛に『NIPPON』2つ折本、第1及び第2分冊、1部（贈呈）を送付。

○5月15日（4・1）ロシア皇帝女王陛下宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第5分冊、1部（贈呈）送付。

○同日、ザクセンのワイマール公国ベルナルド大公殿下宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第6分冊、1部（贈呈）を送付。

*同日、ライデン大学教授ラインワルトがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。

○5月16日（4・2）ハーレム（Haarlem）のH.ロージェス公（H. Loojes）宛に『NIPPON』2つ折本、第5分冊、1部（18.75フローリン）を送付。

- 同日、オランダの植民地省宛に『NIPPON』2つ折本、3部（75フローリン）を送付。
- 同日、ファン・デル・カペレン（Goderd Alexander Gerard Philip van der Capellen）閣下宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第6分冊、1部（贈呈）を送付。（注：ハンス・ケルナー著／竹内精一訳『シーボルト父子伝』71頁参照）。
- 5月16日（4・2）ファゲル男爵閣下宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第6分冊、1部（贈呈）を送付。
- 同日、ファン・エウイック（S.E.J.D. van Ewyck）閣下宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第6分冊、1部（贈呈）を送付。
- 同日、デ・テルセン男爵（Baron de Terussen）宛に『NIPPON』第1分冊、1部（贈呈）を送付。
- 同日、ファン・エイシंगा（J.F. van Eysinga）宛に『NIPPON』4つ折本、第1から第6分冊、1部（贈呈）を送付。
- 同日、ソースのクラールベルゲン・フレデラグラール在のヴェリリゲン准男爵（Mr. P.B.J. Vegelin van Claarbergen Vrederagler & te Souse）宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第6分冊、1部（贈呈）を送付。
- 同日、ゲントの園芸家コック（E. de Cock）宛に『NIPPON』2つ折本、第1及び第2分冊、1部（贈呈）を送付。
- * 5月17日（4・3）オランダの貴族院議員シュルツ（Schulz）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月18日（4・4）ライデンにて、オットー（Otto）国王陛下宛に手紙を書く。
- 同日、オレンジ公国王女殿下宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第6分冊、1部（贈呈）を送付。
- 同日、ロシア皇帝陛下宛に『NIPPON』第1から第5分冊、1部（贈呈）送付。
- * 同日、ヴェルツブルグ地方裁判所所長G.デエルファー（シーボルトのメナーニヤ会友人）がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月19日（4・5）J.G.ファン・リンデンがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月20日（4・6）サンクト・ペテルブルグのステイーグリッツ商会からロシア帝国皇帝宛に『NIPPON』2つ折り本、第5分冊、10部（500ルーブル）。『日本動物誌』甲殻類篇、第2分冊、10部（240ルーブル）。『日本叢書』の内、第1冊『新增

字林玉篇』10部(1,000ルーブル)を送付。

- * 5月22日(4・8) マールブルグ大学およびゲッチンゲン大学医学部教授エドワード・フォン・シーボルトがヴュルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月23日(4・9) A.A.ファン・デル・カステーレがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月25日(4・11) フラッチング? (Flaching) がウィーンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月26日(4・12) ファン・リンデン・ファン・ヘンメン (Van Lynden van Hemmen) 宛に『NIPPON』2つ折本, 第1から第6分冊, 1部(贈呈)を送付。
- 同日, クレッチマー教授 (Prof. Cretschmar) 宛に『NIPPON』2つ折本, 第1から第3分冊, 1部(贈呈)を送付。
- 同日, バーデンの宮廷狩猟官シリング・フォン・カンスタット男爵閣下 (S.E. Baron Schilling von Canstatt) 宛に『NIPPON』2つ折本, 第1から第4分冊, 1部(贈呈)を送付。
- 同日, フォン・ツヴァイブルッカー陸軍大将閣下 (S.E. General von Zweibrucker) 宛に『NIPPON』2つ折本, 第1から第5分冊, 1部(贈呈)を送付。
- 同日, トールベック教授 (Prof. Thorbecke) 宛に『NIPPON』2つ折本, 第1から第5分冊, 1部(贈呈)を送付。
- 同日, オランダ陸軍司令部査察官ユスペクト・ベルナルド (Juspec' t Generaal Bernard) 宛に『NIPPON』2つ折本, 第1から第4分冊, 1部(贈呈)を送付。
- 同日, バウド総督閣下 (S.E. Gouverneur generaal Baud) 宛に『NIPPON』2つ折本, 第1及び第2分冊, 1部(贈呈)を送付。
- 同日, ファン・デル・ボッシュ総督閣下 (S.E. Gouverneur generaal v. der Bosch) 宛に『NIPPON』2つ折本, 第1及び第2分冊, 1部(贈呈)を送付。
- 同日, ファルク国務大臣閣下 (S.E. Minister Falk) 宛に『NIPPON』2つ折本, 第1分冊, 1部(贈呈)を送付。
- 同日, オウドレ・グロウ (Audre Greau) 宛に『NIPPON』2つ折本, 第1から第5分冊, 1部(贈呈)を送付。
- 同日, オランダの内務大臣閣下 (S.E. Minist. van Binnenl. Zaken) 宛に『NIPPON』第1から第5分冊, 1部(贈呈)を送付。

- 同日、オランダの動物学者シュレーゲル（H. Schlegel）宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第6分冊、1部を送付。
- 同日、オランダの動物学者デ・ハーン（W. de Haan）宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第4分冊、1部（贈呈）を送付。
- 同日、ラウドレッセ（Mr. Laudresse）宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第4分冊、1部（贈呈）を送付。
- 同日、シーボルトの伯父ロット（Fr. Lotz）宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第6分冊、1部（贈呈）を送付。
- 同日、ネース・フォン・エーゼンベック（Nees von Esenbeck）宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第3分冊、1部（贈呈）を送付。
- 同日、バリ大学東洋語教授クラブロート（J. Klapproth）宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第3分冊、1部（贈呈）を送付。
- 同日、オランダの枢密顧問官フォン・シュルツ（de Herrn Staatrath von Schurz）宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第6分冊、1部（贈呈）を送付。
- 同日、ベルナルド公国ボックテル（Bernard Herzogv. S.W. Boxtel）宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第4分冊、1部（贈呈）を送付。
- * 同日、J.G.ファン・リンデンがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月27日（4・13）母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 6月2日（4・19）ライデンにて、伯父ロット宛ての手紙を書く。
- * 6月4日（4・21）オランダ内務大臣（デ・コック）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月5日（4・22）ライデン大学教授C.G.C.ラインワルトがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 6月7日（4・24）ライデンのC.C.ファン・デル・フーク書店宛に『NIPPON』2つ折本、第5分冊、1部（18.75フローリン）。同書4つ折本、第5分冊、1部（12フローリン）を送付。
- * 6月8日（4・25）伯父ロットがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月9日（4・26）ライデンの王立自然史博物館管理官スザンナ（J.A. Susanna）がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月17日（5・4）オランダ領東インド総督府のリッツ（Ritz）がバタヴィアから



『NIPPON』 2つ折本の口絵
(九州大学付属図書館医学分館所蔵)



『NIPPON』 4つ折本の口絵
(東洋文庫所蔵)

【図39】

シーボルト宛に書簡を送る。

- * 6月22日 (5・9) ライデンの王立自然史博物館管理官スザンナ (J.A. Susanna) がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月26日 (5・13) ステルンベルグ? (Sternberg) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月30日 (5・17) オランダ内務大臣秘書官がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 7月3日 (5・20) ライデンにて、伯父ロッツ宛ての手紙を書く。
- * 7月14日 (6・1) オランダ内務大臣書記官がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日、プロイセン王国王子アルブレヒト (Albrecht) の侍従グリム (B. Grimm) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

- * 同日，母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月15日（6・2）伯父ロツツがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月16日（6・3）フォルスター（K.E. Forster シーボルト家の一族？）がライプツィヒからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月20日（6・7）シュラクター・シェー（Schlachter Scher）がシーボルト宛に請求書を送る。
- * 7月23日（6・10）ライデンの王立自然史博物館管理官 J.A.スザンナがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月24日（6・11）プロイセン王国アルブレヒト王子の侍従 B.グリムがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 7月25日（6・12）ハーグの書籍商 J.フランク宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第1及び第2分冊，1部（21.60フローリン）。『NIPPON』2つ折本，第1から第5分冊，6部（750フローリン）。『日本動物誌』第1及び第2分冊，1部（24フローリン）。『日本叢書』の内，第1冊『新增字林玉篇』1部（60フローリン），第3冊『千字文』1部（15フローリン）を送付。
- * 7月28日（6・15）ライデン大学植物学教授デ・フリーゼ（W.H. de Vriese）がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月6日（6・24）伯父ロツツがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月9日（6・27）前オランダ領東インド総督府のティシュ（G.J. Teitsch）がロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月12日（7・1）フランクフルト・アム・マインのゼンケンベルク研究所教授フィリップ・ヤコブ・クレッチマーがフランクフルトからシーボルト宛に書簡を送る。
- 8月22日（7・11）ライデン市ラーペンブルグ（Rapenburg）19番地の家を購入する。



〔図40〕ラーペンブルグ19番地の「シーボルトハウス」にある胸像（2009年撮影）

- * 同日、プロイセン王国教育文化省がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月30日（7・19）ライデンの王立自然史博物館管理官 J.A.スザンナがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月31日（7・20）ライデンの王立自然史博物館管理官 J.A.スザンナがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 8月日付不詳、ギリシャ国王陛下宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第6分冊、1部（贈呈）を送付。
- 8月から9月下旬頃までに、『日本植物誌』彩色版及び黒色版、第1巻、第3および第4分冊（tt.11-20）を出版。
- 9月3日（7・23）スウェーデン国王陛下宛に『NIPPON』2つ折り本、第6分冊、1部（50ルーブル）。『日本動物誌』第1から第5分冊、1部（120ルーブル）。『日本植物誌』彩色版、第1及び第2分冊、1部（30ルーブル）を送付。
- * 9月4日（7・24）シュミット博士（Dr. J.E. Schmidt）がシーボルト宛に書簡を送る。
- 9月9日（7・29）ライデンにて、オランダ国王（ウィレム一世）宛の手紙を書く。
- * 同日、オランダ王国リュベック（Lübeck）領事マルティ（Marty）がリュベックからシーボルト宛に書簡を送る。
- 9月10日（7・30）アムステルダムにて、伯父ロッツ宛ての手紙を書く。
- * 同日、プロイセン王国教育医学省のストレーマン（E. Strehmann）がベルリンからシーボルト宛書簡を送る。
- * 9月12日（8・2）前オランダ領東インド総督府の G.J.ティシュがロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月15日（8・5）グローガー博士（Dr. Groeger）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月24日（8・14）Dr. G.ヴォーゲル博士がテゲルンセーからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月26日（8・16）シッフ（H.H. Schiff）がシーボルト宛に書簡を送る。プロイセン王子アルブレヒトの侍従 B.グリムがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 10月1日（8・21）伯父ロッツがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 10月2日（8・22）ライデンにて、伯父ロッツ宛ての手紙を書く。

- 10月3日（8・23）ハーグのJ.フランク書店宛に『NIPPON』2つ折り本，第1から第5分冊，3部（375フローリン）。『日本動物誌』甲殻類篇，第1及び第2分冊，1部（24フローリン）。『日本植物誌』彩色版，第1巻，第3及び第4分冊，1部（10.80フローリン）を送付。
- 同日，オランダの植民地省宛に『日本動物誌』爬虫類篇（亀類の部），第1分冊の2部（24フローリン）を送付。
- 同日，『日本動物誌』爬虫類編（蛇類の部），第2分冊（本文81～96，図版1～10）を出版。（注：L.B. Holthuis／酒井恒『シーボルトと日本動物誌』によれば，発行年月日はオランダ政府から各図書館に送付された日付，1836年10月3日に出版とある。また『江崎悌三著作集』によれば，1837年に出版と記している。シーボルト自筆の1833～38年『シーボルト著作販売帳』〈ボフム大学図書館所蔵〉では，オランダ植民地省宛に送付した1836年10月3日が初出であり，前掲書の『シーボルトと日本動物誌』に見られる日付と一致する）。
- 10月5日（8・25）ライプツィヒのFr.フライシャー書店宛に『日本動物誌』4つ折本，爬虫類篇（蛇類の部），第1分冊の45部，『NIPPON』2つ折本，第5分冊，6部を送付。
- *同日，ファン・ストラテン（J.J. van Straaten）がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。



〔図41〕 ファン・ストラテン作成の石版画
 (『NIPPON』捕鯨図 九州大学付属図書館医学分館所蔵)

- 10月7日（8・27）ライデンのC.C.ファン・デル・フーク書店宛に『日本動物誌』第4分冊、爬虫類篇（蛇類の部）6部（60フローリン）を送付。
- *同日、母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月8日（8・28）J.E.シュミット博士がシーボルト宛に書簡を送る。
- 10月10日（9・1）ハーレムのロースジェス公（H. Loosjes）宛に『日本動物誌』爬虫類篇（蛇類の部）、第4分冊、1部（9フローリン）を送付。
- 同日、パリのL.ロレ書店宛に『日本動物誌』爬虫類篇（蛇類の部）、第1分冊、10部（260フラン）を送付。
- *同日、オランダ植民地省がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。オランダ内務省がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月11日（9・2）ロット博士（Dr. H. Lotz）がデッテルバッハ（Dettelbach）からシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月13日（9・4）オランダ教育・芸術・科学局管理官がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- ◇10月14日（9・5）最上徳内没する（享年81歳）。
- *10月15日（9・6）A.A.ファン・デ・カステーレがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月18日（9・9）オランダ領東インド総督府のレーランツ？（Roelants）がバタヴィア付近のリュスヴィク（Ryswyk）からシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月20日（9・11）フラッチングがウィーンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月21日（9・12）オランダ内務大臣書記官がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 10月24日（9・15）アムステルダムのJ.ミュレル書店宛に『日本植物誌』黒色版、4部、第1及び第2分冊を送付。
- △同日、ライデンのJ.ミュレル書店がシーボルト宛に請求書を送る。
- 10月25日（9・16）サンクト・ペテルブルグのステイーグリッツ商会からロシア帝国皇帝宛に『日本動物誌』爬虫類篇（蛇類の部）、10部（240ルーブル）。『日本植物誌』彩色版、第1及び第2分冊、5部（140ルーブル）。同書黒色版、第1及び第2分冊、5部（70ルーブル）を送付。
- △同日、ミュンヘンの図版製作者（植物描写）S.ミンシゲルがミュンヘンからシー

ボルト宛に請求書の写し（草稿）を送る。

○10月28日（9・19）ハーグのJ.フランク書店宛に『日本叢書』の内、第1冊『新增字林玉篇』2部（100フローリン）、第3冊『千字文』2部（30フローリン）。『NIP-PON』2つ折本、第1から第4分冊、1部（100フローリン）を送付。

△10月31日（9・22）図版製作者（植物描写石版師）S.ミンシングルがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。

*11月2日（9・24）ライデン大学植物学教授 W.H.デ・フリーゼがライデンからシーボルト宛書簡送る。

*11月5日（9・27）オランダ領東インド総督府のファン・デル・シンネ（van der Sinne）がバタヴィア付近のリュースヴィク（Ryswyk）からシーボルト宛に書簡を送る。

*11月7日（9・29）前オランダ領東インド総督府のG.J.ティシュがカールスルーヘ（Carlsruhe）からシーボルト宛に書簡を送る。

*11月12日（10・4）ドルゴロンニ？（Dolgoronni）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

*11月14日（10・6）ライデンの王立自然史博物館管理官J.A.スザンナがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。

*11月15日（10・7）元出島オランダ商館長ヤン・コック・ブロムホフがビルクホーヴェンからシーボルト宛に書簡を送る。

*11月16日（10・8）G.フォーゲル博士がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。

*11月17日（10・9）シュラウバウム（Capt. Schlaubaum）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

*11月19日（10・11）ライデンの王立自然史博物館管理官J.A.スザンナがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。

△11月20日（10・12）ミュンヘン大学植物学教授J.G.ツッカーリーニ博士がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。

△11月24日（10・16）ライデンの王立自然史博物館館長C.J.テミンクがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。

△12月1日（10・23）ライデンのJ.ミュレル書店がシーボルト宛に領収書を送る。

*同日、母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

- 12月3日(10・25) ハーグのJ.フランク書店宛に『NIPPON』2つ折本, 第1から第5分冊, 3部(375フローリン)。『日本動物誌』第3及び第4分冊, 1部(24フローリン)。『日本植物誌』第1及び第2分冊, 1部(10.8フローリン)を送付。
- *同日, ロシア帝立科学アカデミー地学博物館学芸員 G.シュラーダーがシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月9日(11・2) ブルーケ・ランベルト(A. Bouke Lambert)がロンドンからシーボルト宛書簡を送る。
- △12月13日(11・6) ミュンヘン大学植物学教授 J.G.ツッカーニ博士がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *同日, ファン・ハーゲンドルフ(W. van Hagendorp)がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 12月15日(11・8) ライデンにて, オランダ領東インド陸軍将軍ファン・デル・ボッシュ伯爵宛ての手紙を書く。
- *同日, ロシア帝立科学アカデミー地学博物館学芸員 G.シュラーダーがシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月20日(11・13) ヴェンドランド(A. Wendland)がウィーンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月23日(11・16) 伯父ロッツがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月24日(11・17) 園芸家ストリイボッシュ(Luise Strybosch)がボッシュ(Bosch)からシーボルト宛に書簡を送る。
- 12月28日(11・21) ハーグのJ.フランク書店宛に『日本叢書』の内, 第1冊『新增字林玉篇』2部(100フローリン), 第3冊『千字文』2部(30フローリン)。『NIPPON』2つ折本, 1部(100フローリン:ハーグのファン・ロングメン van Longmen 氏へ)を送付。
- *月日不詳, ファン・デル・カステーレ(A.A. van der Castele)がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 1832年~36年, ファン・デル・カブレレン男爵閣下宛に『NIPPON』2つ折本, 第1から第6分冊, 1部(150フローリン)。『日本動物誌』第1から第4分冊, 1部(48フローリン)。『日本叢書』の内, 第3冊『千字文』1部(贈呈)。『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第1及び第2分冊, 1部(14.40フローリン)を送付。

- 1832～36年、ザクセンのワイマール公国ベルナルド大公殿下宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第5分冊、1部（125フローリン）を送付。
- 1833～36年、バイエルン国王陛下宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第6分冊、1部を送付。
- 1833～36年、バイエルン国王女王陛下宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第6分冊、1部を送付。
- 1833～36年、ギリシャ国王女王陛下宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第6分冊、1部を送付。
- 1833～36年、アムステルダムの園芸家スタドニツスキー（P.C. Stadnitski）宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第6分冊、1部を送付。
- 1833～36年、オランダ内務大臣閣下（デ・コック男爵 H. Baron Merkus de Kock）宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第5分冊、1部を送付。
- 1833～36年、ライデン大学教授 C.C.ラインワルト（Caspar Georg Karl Reinwardt）宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第6分冊、1部を送付。
- 1833～36年、ライデンの動物学者テンミンク（J.C. Temminck）宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第6分冊、1部を送付。
- 1833～36年、アンドレ・オーレアン（Andre Oreaan）宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第5分冊、1部を送付。
- 1833～36年、オランダの動物学者シュレーゲル（Hermann Schlegel）宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第6分冊、1部を送付。
- 1833～36年、ブリュッセルの園芸家ファン・デル・マーレン（Ph. van der Maelen）宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第3分冊、1部を送付。
- 1833～36年、陸軍大将フォン・ツヴァイブルッカー閣下（von Zweibrucker）宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第6分冊、1部を送付。
- 1833～36年、ライデン大学教授トゥールベッケ（Johan Rudolf Thorbecke 後に内務大臣）宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第5分冊、1部を送付。
- 1833～36年、母方の伯父ロットツ（Franz Joseph Lotz）宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第6分冊、1部を送付。
- 1833～36年、オランダ植民地省宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第5分冊、3部（375フローリン）。『日本動物誌』第1から第5分冊、2部（120フローリン）を送付。

1837年（天保8年） 41歳

- * 1月3日（11・27）バベッテ・フォルスター（Babette Forster シーボルト家の一族？）がシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月5日（11・29）グローガー博士（Dr. Groeger）がユトレヒト近郊のハルダーウエイク（Harderwyk）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月6日（11・30）H.ロッツ博士がデッテルバッハ（Dettelbach）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月9日（12・4）園芸家ストリイボッシュ（W. Louise Strybosch）がボッシュ（Bosch）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月12日（12・6）フォーゲル博士（Dr. Georg Hermann Vogel）がシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月13日（12・7）ライデン大学教授 C.G.C.ラインワルトがシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月14日（12・8）伯父ロッツがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 1月21日（12・29）ライデンにて、動物学者 H.シュレーゲル宛の手紙を書く。
- △ 1月28日（12・22）草稿『日本植物輸入協会会則』（蘭文）をライデンにて執筆。
- * 2月14日（1・10）オルレアン（Orléans）植物園長デュレール（J. Delaire）がパリからシーボルト宛に書簡（植物の鉛筆画記載）を送る。
- * 2月16日（1・12）リッター・フォン・ヨーゼフ・ドオトレポント（Ritter von Joseph d' Outrepont）がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 2月18日（1・14）東洋文献学者ヨーゼフ・ホフマン博士がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 2月25日（1・21）ミュンヘンの図版製作者（植物描写石版師）ミンシンゲル（Sebastian Minsinger）がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 月日不詳、居宅1階をライデン学生会ミネルヴァ（Minerva）に賃貸、コレクションは2階に移動する。
- * 3月8日（2・2）オランダ内務大臣デ・コックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月10日（2・4）クアック=R.ベックマン（Quack & R. Beckmann）商会がアーヘム（Arhem）からシーボルト宛に書簡を送る。

- * 3月11日（2・5）ライデンの王立植物標本館館長 C.L.ブルーメがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月12日（2・6）ネグリオリ（S. Negrioli）がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月15日（2・9）ライデンの王立自然史博物館管理官 J.A.スザンナがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日、元出島オランダ商館員 P.W.フェルケルク・ピストリウスがアルンヘムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日、ライデン大学植物学教授デ・フリーゼ（Prof. W.H. de Vriese）がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月16日（2・10）元オランダ領東インド総督ファン・デル・カペレンがボーレンハウベンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月20日（2・14）ライデンの王立植物標本館館長 C.L.ブルーメがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月23日（2・17）ライデンの王立植物標本館館長 C.L.ブルーメがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日、フリードリッヒ・ローゼンストラオッホ（Friedrich Rosenstrauch）がモスクワからシーボルト宛に書簡を送る。
- 3月24日（2・18）ライデンにて、王立植物標本館館長 C.L.ブルーメ宛の手紙を書く。
- * 同日、前オランダ領東インド総督府の G.J.ティシュがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日、クアック商会在がミュンヘンからシーボルト宛に飲食代の請求書を送る。
- * 3月26日（2・20）ファブリシウス（Fabricius）がバリからシーボルト宛に書簡を送る。
- 3月27日（2・21）ライデンにて、元出島オランダ商館員でジャワの栽培園所有者 H.ピュルゲル宛の手紙を書く。
- * 4月8日（3・4）オランダ王国フレデリック（Frederik）王子がハーグからシーボルト宛に招待状を送る。

- * 4月14日 (3・10) オランダ領東インド総督府のリッツ (Ritz) がバタヴィアからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月26日 (3・22) ガンビツヒラー? (Gambichler) がクラウブホーフ? (Klaubhof) からシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月28日 (3・24) ハーレムのH.ロースジェス公宛に『NIPPON』2つ折本, 第6分冊, 1部 (18.75フローリン) を送付。
- 同日, オランダの植民地省宛に『NIPPON』2つ折本の3部 (75フローリン) を送付。
- * 5月5日 (4・1) マリア・ブリュッヒャー? (Maria Brücher) がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月6日 (4・2) ダニヤン? (A. Danyan) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月9日 (4・5) ミュンヘン近郊テゲルンセーのフォーゲル博士を通して, 『NIPPON』2つ折本, 綴じ本, 第5分冊, 1部 (贈呈) をバイエルン国王陛下へ。同書2つ折本の綴じ本, 第5分冊の1部 (贈呈) をオットー国王陛下へ。同書4つ折本の綴じ本, 第5分冊の1部 (贈呈) を陸軍大将ツヴェイブルッカー (Generaal L. Zweibrücker) へ。同書『NIPPON』2部及び『日本の旋律』5部 (贈呈) をドゥアル・マクリング=デリンゲン商会 (Comp. d'oeal Macling & Doellingen) へ, それぞれ送付。
- * 同日, オランダ内務大臣デ・コックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月11日 (4・7) フラネッカーの王立アテネウム図書館宛に『NIPPON』4つ折本, 第1から第6分冊, 1部 (贈呈) を送付。
- * 5月13日 (4・9) 伯父ロッツがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月16日 (4・12) Ph. Fr.フォン・シーボルトの叔母フリーデリケ・フォン・シーボルトを通して, プロイセン王国教育医学省宛に『NIPPON』4つ折本, 第6分冊, 11部 (154ターラー) を送付。
- 同日, ミュンヘン近郊テゲルンセーのフォーゲル博士宛に『NIPPON』2つ折本, 第6分冊, 5部 (125フローリン)。同書4つ折り本, 第6分冊, 3部 (2部贈呈), 1部 (15フローリン)。フォーゲル博士を通じて, オットー国王陛下へ『NIPPON』2つ折り本, 第1から第4分冊, 1部 (贈呈)。またバイエルン国王陛下へ同書2

つ折本，第1から第4分冊の1部（贈呈）。陸軍大将ツヴァイブルッカーへ同書4つ折本，第1から第4分冊の1部（贈呈）。ギリシャ国王陛下へ同書2つ折本，第1及び第2分冊の1部（贈呈），それぞれ送付。

- * 5月17日（4・13）ファン・リステイング（J.G. van Rysting）がヴォンメル（Wommel）からシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月19日（4・15）ライデンにて，オランダ内務大臣デ・コック宛ての手紙を書く。
- * 5月20日（4・16）フォン・モール（von Mohr）がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月22日（4・18）ライデンにて，伯父ロツツ宛ての手紙を書く。
- * 5月23日（4・19）地方医官ルドルフ・フォン・シーボルト（Rudolf von Siebold シーボルト家の一族）がシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月26日（4・22）ファブリシウスがパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月28日（4・24）ライデンにて，プロイセン王国教育医学省宛ての手紙を書く。
- 5月30日（4・26）サンクトペテルブルグのスティーグリッツ商会からロシア帝国皇帝宛に『NIPPON』2つ折本，第6分冊，10部（500ルーブル）を送付。
- * 6月1日（4・28）ライデン大学教授 C.G.C.ラインワルトがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。



〔図42〕ロシア科学アカデミー図書館（サンクトペテルブルグ）の外観と、所蔵の未製本『NIPPON』仮表紙（2009年撮影）

* 6月14日（5・12）ルイズ・ハウシンガー（Louis Hausinger）が⁵アムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。

* 6月15日（5・13）アドルフ・ハーゲン（Fr. Adolph Haagen）が⁵エルフルト（Erfurt）からシーボルト宛に書簡を送る。

△ 6月21日（5・19）ライデンにて、ライデンの王立自然史博物館管理官・動物学者 H.シュレーゲル宛の手紙を書く。

* 6月23日（5・21）オランダ内務大臣デ・コックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 6月26日（5・24）シャルロッテ・エストルフ（Charlotte Estorff）がハーグからシーボルト宛書簡を送る。

* 6月28日（5・26）前オランダ領東インド総督府の G.J.ティシュがカンスタット（Cannstadt）からシーボルト宛に書簡を送る。

* 6月29日（5・27）フォン・モールがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 7月1日（5・29）マンターラー？（Manthaler）がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。

○ 7月2日（5・30）ライデンにて、オランダ内務大臣デ・コック宛ての手紙を書く。

* 7月6日（6・4）アンティング（A. Anthing）がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 7月7日（6・5）ルイズ・ハウシンガー（Louise Hausinger）がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。

* 7月10日（6・8）マンターラー？（Manthaler）がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。オランダ内務大臣デ・コックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 7月14日（6・12）前オランダ領東インド総督府の G.J.ティシュがカールスルーヘ（Carlsruhe）からシーボルト宛に書簡を送る。

△ 7月15日（6・13）ライデンにて、オランダ国王ウィレム1世宛の手紙（シーボルトが収集した民族学的コレクションをはじめ、元出島オランダ商館長フィッシャー Johan Frederik van Overmer Fisscher のコレクションと併せて民族学博物館の設立について国王に勧める内容）を書く。

* 7月17日（6・15）ディーテリッヒ博士（Dr. L. Dieterich）がミュンヘンからシー

ボルト宛に書簡を送る。

- * 7月18日（6・16）元出島オランダ商館員 P.W.フェルケルク・ピストリウスがアンヘムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日，A.ダニヤン？がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日，フリードリッヒ・ローゼンストラオッフがラストブルグ（Rastburg）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月19日（6・17）前オランダ領東インド総督府のメドハースト（W.H. Medhurst）がハックネイ（Hackney）らシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月25日（6・23）オランダ内務大臣デ・コックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月29日（6・27）プロイセン王国教育文化省がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月30日（6・28）G.H.ヴォーゲル博士がテゲルンサー（Tegernsee）からシーボルト宛に書簡を送る。
- 7月31日（6・29）ライデンにて，オランダ内務大臣デ・コック宛の手紙を書く。
- * 8月4日（7・4）アロペンス？（Alopens）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月8日（7・8）アルベルティーネ・フォルスター（Albertine Forster シーボルト家一族？）がシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月9日（7・9）伯父 F.J.ロッツがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。ブライス？（J.M.F. Breis）がユトレヒト（Utrecht）からシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 8月10日（7・10）オランダ王国政府はシーボルトの意見書をもとに目録の上で 4.723点にのぼるシーボルト・コレクションの受け入れと評価のための委員会設立を決定（ハンス・ケルナー／竹内精一訳『シーボルト父子伝』78-79頁参照）。
- * 8月12日（7・12）ブルッヒゲシュナー？（G. Wurchgessner）がバンベルグ（Bamerg）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日，ヤン・サクセ（Jan Saxe）がシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月15日（7・15）シュヴァルツ（J.G. Schwarz）がウィーンからシーボルト宛に書簡を送る。

- * 8月19日（7・19）オランダ内務大臣デ・コックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月21日（7・21）オランダ内務大臣デ・コックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月23日（7・23）ファン・デル・カステーレ（van der Castele）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月26日（7・26）元出島オランダ商館長ヤン・コック・ブロムホフ（Jan Cock Blomhoff）がバス（Bath）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月31日（8・1）ライデン大学教授 C.G.C.ラインワルトがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 8月下旬から9月初旬頃までに、『日本動物誌』甲殻類篇の第3分冊（本文25～64頁，図版16，18～24，E，F）を出版。
- * 9月1日（8・2）前オランダ領東インド総督府の G.J.ティシュがカールスルーヘからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月2日（8・3）プロイセン王国教育医学省のストレーマン（E. Strehmann）がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日，ユステイーネ・フォルスター（シーボルトの姪）がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月3日（8・4）元出島オランダ商館員 P.W.フェルケルク・ピストリウスがアーンヘムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月4日（8・5）オランダ内務大臣デ・コックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 9月8日（8・9）スウェーデン国王陛下宛に『NIPPON』2つ折本，第6分冊，1部（50ターラー）。『日本動物誌』甲殻類篇，第1から第3分冊，1部（120ターラー）。『日本植物誌』彩色版，第1巻，第1及び第2分冊，1部（30ターラー）を送付。
- 同日，サンクト・ペテルブルグの J.J.ブリエフ書店宛に『NIPPON』2つ折本，第5及び第6分冊，5部（500ルーブル）。同書4つ折り本，第5及び第6分冊，2部（120ルーブル）。『日本動物誌』甲殻類篇，第2及び第3分冊，爬虫類篇（蛇類の部）第2分冊，3部（216ルーブル）。『日本植物誌』彩色版，第1巻，第1及び第

2分冊，1部（48ルーブル）を送付。

○同日，サンクト・ペテルブルグのステイーグリッツ商会からロシア帝国皇帝宛に『日本動物誌』第5分冊，10部（240ルーブル）を送付。

* 9月19日（8・20）ギンク博士（Dr. Gink）がケルンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 9月21日（8・22）ズルプケ（G. Sulpke）がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。

* 9月28日（8・29）クラレンバッハ（I.D. Clarenbach）がフックスワーゲン（Huckeswagen）からシーボルト宛に書簡を送る。

○9月日付不詳，ハーレム（Haarlem）のH.ロースジェス公（Loosjes）宛に『NIPPON』2つ折本，第6分冊，1部（18.75フローリン）。『日本動物誌』甲殻類篇，第3分冊，1部（9フローリン）を送付。

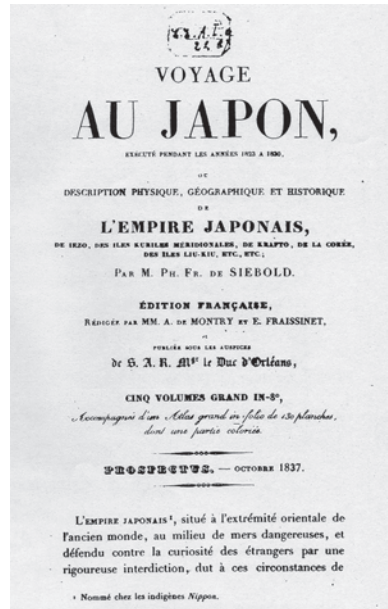
○9月日付不詳，パリのL.ロレ書店宛に『日本動物誌』甲殻類篇，第5分冊，10部（260フラン）を送付。

△10月3日（9・4）ライデンにて，ライデンの王立自然史博物館館長C.J.テンミンク宛の手紙を書く。

* 同日，ファン・デル・カステールがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

○10月26日（9・27）ライデンにて，母アポロニアと伯父ロッツ宛ての手紙を書く。

○10月日付不詳，案内書『1823年から1830年の間になされた日本旅行，また日本帝国と蝦夷，南千島諸島，朝鮮，琉球諸島等々の自然的地理的歴史的記述』（フランス語版）の予約募集書（全8頁）を出す。（注：宮崎克則「シーボルト『NIPPON』のフランス語版－Voyage au Japon－」：『九州大学総合研究博物館研究報告』第6号 2008年参照）。



〔図43〕1837年10月の「Voyage au Japon」予約募集書 表紙（東洋文庫所蔵）

- *11月6日 (10・9) プロイセン王国教育文化省がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月9日 (10・12) フィッシュバッハ・マロード (Firschbach Malaud) がヴェルボモント近郊のシャトウ・ドゥ・グリメンスター (Chateau de Grimenster pres de Werbomont) からシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月19日 (10・22) フランクフルト・アム・マインのゼンケンベルグ研究所教授フィリップ・ヤコブ・クレッチマーがフランクフルトからシーボルト宛に書簡を送る。
- 11月23日 (10・26) ライデンにて、母アポロニアと伯父ロッツ宛ての手紙を書く。
- △11月29日 (11・2) 図版製作者 (植物描写石版師) S. ミンシゲルがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月1日 (11・4) オランダ内務大臣デ・コックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月12日 (11・15) フォン・エックアルト (H.J.von Eckart) がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月15日 (11・18) オランダの園芸家 L. ストリイボッシュがボッシュからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月20日 (11・23) シェア・デア・パラベイ (Cher der Paravey) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *年月日不詳, カロン・ドゥ・ヴィラーズ (Carron du Villards) がパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- 月日不詳, 『日本植物誌』 彩色版及び黒色版, 第1巻, 第5～6分冊 (tt. 21-30) を出版。
- 月日不詳, 『貿易用 (シキミ) に関する植物学起源について, W.H. デ・フリーゼ氏論文に回答』 著者のもとで, ライツィヒ, L. フォス社, 1837年刊。Erwiederung auf W.H. de Vroese's Abhandlung "Het gezag van Kaempfer, Thunberg, Linnaeus en anderen, omtrent den botanischen orsprong van den steranijs das handels gehandhaafd tegen Dr. Ph. Fr. von Siebold en Prof. J.G. Zuccarini", Leiden : bei dem Verfasser ; Leipzig : L. Voss. 19.S.4°.
- ◇モリソン Morison 号事件。

◇宇田川榕菴『舎密開宗』刊。

◇大塩平八郎の乱。

1838年（天保10年） 42歳

- * 1月2日（12・7）オランダの園芸家ストリイボッシュ（L. Strybosch）がボッシュ（Bosch）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月8日（12・13）フォン・エックルト（H.J. von Eckart）がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月9日（12・14）プロイセン王国教育医学省がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 1月15日（12・20）ライデンにて、オランダ内務大臣デ・コック宛の手紙を書く。
- * 1月18日（12・23）伯父ロッツがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 1月19日（12・14）ライデンにて、オランダ植民大臣（J.C.バウド）宛の手紙を書く。
- * 1月23日（12・28）デ・ゲブローデルス・ファン・クリーフ（de Gebroeders van Cleef）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。オランダ内務大臣デ・コックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 1月27日（1・2）ロンドンのブラック＝アームストロング書店（Black & Armstrong Co）宛に『NIPPON』2つ折本，第1から第5分冊，3部。同書2つ折本，第1から第4分冊，1部。『日本叢書』の内，第1冊『新增字林玉篇』1部，第3冊『千字文』1部。『日本動物誌』甲殻類篇，1部を送付。
- 2月1日（1・7）シーボルト・コレクションは58,500フローリンで評価される。オランダ国王はその評価額から前金12,000フローリンを差引き，残額を4カ年分割払いすることを決定。
- △ 2月21日（1・27）図版製作者（植物描写石版師）S.ミンシゲルがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月22日（1・28）アロペンス？（Alopens）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月23日（1・29）園芸家L.ストリイボッシュがボッシュからシーボルト宛に書簡を送る。

- * 3月4日 (2・9) 母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月12日 (2・17) 母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 3月16日 (3・21) デンマーク王国のクリスティアン皇太子殿下 (Z.K. Hooghuis Prinz Christian) 宛に『NIPPON』2つ折本, 第1から第6分冊, 1部 (150フローリン)。『日本動物誌』第1から第6分冊, 1部 (72フローリン)。『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第1から第4分冊, 1部 (28フローリン) を送付。
- * 3月19日 (2・24) オランダ内務大臣デ・コックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月20日 (2・25) オランダの貴族院議員シュルツ (Schulz) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日, セルビィ (Selby) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 3月25日 (2・30) ライデンにて, 母アポロニア宛ての手紙を書く。
- * 3月日付不詳, レジナ・ヴァルター (Regina Walter) がオクセンフルト (Ochsenfurt) からシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 4月12日 (3・18) ツー・ゲッテルンベルグ書店 (zu Getterunberg) がテュービンゲン (Tübingen) からシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月20日 (4・3) ライデンにて, オランダ内務大臣 (デ・コック) 宛の手紙を書く。
- * 4月23日 (3・29) オランダ内務大臣デ・コックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月25日 (4・2) オランダの貴族院議員シュルツがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 4月27日 (4・4) ライデンにて, 図版製作者ナーデル (Ludwig Michael Nader シーボルト『NIPPON』の図版担当) 宛の手紙を書く。
- 4月日付不詳, ウィーンのFr.シャウムブルグ書店宛に『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第3及び第4分冊, 25部 (195フローリン)。同書彩色版, 第1巻, 第5及び第6分冊, 25部 (195フローリン)。同書彩色版, 第1巻, 第7及び第8分冊, 25部 (195フローリン)。同書彩色版, 第1巻, 第9及び第10分冊, 25部 (195フローリン) を送付。
- 4月日付不詳, ライプツィヒのレオポルド・フォス書店宛に『日本植物誌』彩色版,

第1巻、第3及び第4分冊の25部、同書黒色版、第1巻、第3及び第4分冊、2部（130ターラー）。同書彩色版、第1巻、第5及び第6分冊の25部、同書黒色版、第1巻、第5及び第6分冊の2部。同書彩色版、第1巻、第7及び第8分冊の25部、同書黒色版、第1巻、第7及び第8分冊の2部。総額130ターラーを送付。

△5月1日（4・8）ライデンの王立自然史博物館館長 C.J.テンミンクがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 5月2日（4・9）母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 5月3日（4・10）フィシュバッハ・マロード（Fischbach Malaud）がシャトウ・ドゥ・グリメンスラー（Chateau de Grimensler）からシーボルト宛に書簡を送る。

* 5月17日（4・24）ファン・オウテレン（P. van Outeren）がファン・ホウイス（van Houis）からシーボルト宛に書簡を送る。

* 5月23日（4・30）母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

○5月25日（閏4・2）ライデンにて、オランダ内務大臣（デ・コック）宛の手紙を書く。

* 5月26日（閏4・3）ファン・デル・カステーレ（A.A. van der Castele）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 5月27日（閏4・4）ダニエル・ホヴィビエンク（Daniel Hovibienk）がウィーンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 5月28日（閏4・5）シュヴァルツ（J.G. Schwarz）がアントワープ（Antwerp）からシーボルト宛に書簡を送る。

* 6月7日（閏4・15）ドゴロニイ？（Dogorony）がロツテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。

* 6月12日（閏4・20）パウル・レイスト？（Paul Leist）がバンベルグ（Bamberg）からシーボルト宛に書簡を送る。

* 6月15日（閏4・23）ライデンの王立植物標本館館長 C.L.ブルームがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 6月16日（閏4・24）ライデンにて、オランダ内務大臣デ・コック宛の手紙を書く。

* 6月18日（閏4・26）ユスティアーネ・フォルスター（シーボルトの姪）がバンベルグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 6月24日（5・3）グラッセル？（Glasel）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

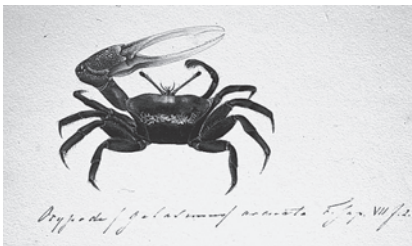
- * 7月1日 (5・10) シュミツクレイン (Schmicklein) がエルランゲン (Erlangen) からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月2日 (5・11) ライデンの王立植物標本館館長 C.L.ブルーメがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月3日 (5・12) オランダ内務大臣デ・コックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月5日 (5・14) A.A.ファン・デル・カステレーがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月6日 (5・15) 母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 7月7日 (5・16) アムステルダムの J.ミュレル書店宛に『NIPPON』2つ折本、第6分冊、4部 (75フローリン)。同書4つ折本、第6分冊、2部 (22.50フローリン) を送付。
- △ 7月18日 (5・27) シーボルトはオランダ国王政府の一切の条件に同意する旨言明する。博物館の設立案は見送られる。
- * 7月23日 (6・3) 園芸家 L.ストリイボッシュがボッシュからシーボルト宛に書簡を送る。
- 7月25日 (6・5) ビルンバウム博士 (Dr. Birnbaum) がユトレヒトからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 7月29日 (6・9) 門人湊長安没する (享年52歳?)。
- * 8月5日 (6・16) キルスト (A.F. Kirst) がバンデ (Bande) からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月8日 (6・19) オランダ内務大臣デ・コックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月15日 (6・26) スタール博士 (Dr. Stall) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日、前オランダ領東インド総督府のファン・テン・ブリック (van ten Brink) 商會がコンスタンツ (Konstanz) からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月20日 (7・1) メジャー・ゲンチ (Major Genzch) がシュトゥットガルトからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月22日 (7・3) 園芸家 L.ストリイボッシュがボッシュからシーボルト宛に書

簡を送る。

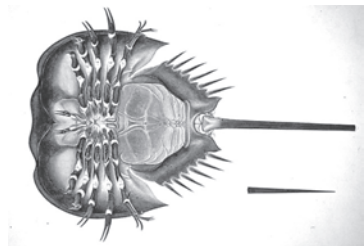
- * 8月23日（7・4）ルドルフ・マイヤー博士（Dr. Rudolf Mayer）が⁵ハイルブロン（Heilbronn）からシーボルト宛に書簡を送る。
- 8月日付不詳，ザルツブルグのトゥルン＝タクシス領侯爵殿下（Durchl. der Fürst von Thurn & Taxis Salzburg）宛に『NIPPON』2つ折本，第1から第6分冊，1部（150フローリン）を送付。
- 8月下旬から9月初旬頃までに、『日本動物誌』爬虫類篇（蜥蜴類と両棲類の部）第3分冊を出版。（注：L.B. Holthuis／酒井恒著『シーボルトと日本動物誌』（266頁）によれば，第3分冊の日付1838年は江崎（1937，p.39）と Sherborn & Jentink（1835）によった。この第3分冊にはシーボルトの序論が含まれており，日付は1838年5月とあるが，発行はそれより後になったことは確かであろうと述べている。本年表で紹介のシーボルト自筆1833～38年『シーボルト著作販売帳』（ボフム大学図書館所蔵）では，下記の9月25日が初出となっている）。
- 9月1日（7・13）ライデンにて，ライデンの王立自然史博物館管理官 J.A.スザンナ宛の手紙を書く。
- * 9月6日（7・18）母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 9月7日（7・19）アムステルダムの J.ミュレル書店宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第3及び第4分冊，20部（216フローリン）。同書黒色版，第1巻，第3及び第4分冊，1部（5.40フローリン）を送付。
- * 9月11日（7・23）ユステイーネ・フォルスター（シーボルトの姪）がバンベルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月12日（7・24）ダニエル・ホヴィビエンクがウィーンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日，園芸家テル・ブルゲン（Ter Burggen）がドルデレヒト（Dordrecht）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月18日（7・30）テル・ブルゲンがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 9月25日（8・7）アムステルダムの J.ミュレル書店宛に『日本動物誌』爬虫類篇，第2分冊（蛇類の部），1部（9フローリン）。同書第3分冊（蜥蜴類と両棲類の部），1部（7フローリン）。同書甲殻類篇，第3分冊，1部（9フローリン）を送付。
- 同日，ハーレムの H.ロースジェス公宛に『日本動物誌』爬虫類篇，第3分冊（蜥

蜴類の部)と第2分冊(蛇類の部), 1部(9フローリン)を送付。

- 9月26日(8・8)ロンドンのブラック=アームストロング書店(Black & Armstrong)宛に『日本動物誌』爬虫類篇, 第3分冊(蜥蜴類と両棲類の部)1部。『NIPPON』2つ折本, 第4分冊, 3部。同書2つ折本, 第5及び第6分冊, 4部。『日本動物誌』爬虫類篇, 第2分冊(蛇類の部), 3部。『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 1部。同書黒色版, 第1巻, 2部を送付。
- 同日, サンクト・ペテルブルグの書籍商J.J.ブリエフ書店宛に『日本動物誌』甲殻類篇, 第1から第3分冊, 2部。爬虫類篇, 第3分冊(蜥蜴類と両棲類の部), 2部(48ルーブル)。『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第3から第5分冊, 1部(42ルーブル)を送付。
- 同日, バリのロレ書店宛に『日本動物誌』爬虫類篇, 第3分冊(蜥蜴類と両棲類の部), 10部(260フラン)。『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第3及び第4分冊, 6部(180フラン)。同書黒色版, 第1巻, 4部(64フラン)を送付。
- 9月28日(8・10)オランダ内務省宛に『NIPPON』2つ折本, 第1から第6分冊の5部(750フローリン)。同書4つ折り本, 第1から第6部の5部(450フローリン)。『日本動物誌』爬虫類篇, 第3分冊(蜥蜴類と両棲類の部)の10部(360フローリン)。同書甲殻類篇, 第3分冊, 10部(360フローリン)。『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第1から第4分冊の5部(144フローリン)。同書黒色版, 第1巻, 第1から第4分冊の5部(贈呈)。『日本叢書』の内, 第1冊『新增字林玉篇』10部, 第3冊『千字文』10部。(総額650フローリン)を送付。
- 同日, バリのロレ書店宛に『日本動物誌』第3分冊(蜥蜴類篇)及び第4分冊(両



(シオマネキ)

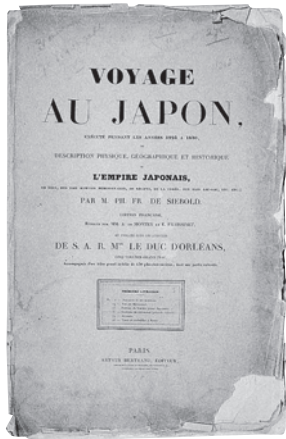


(カブトガニ メス 腹)

〔図44〕川原慶賀筆の原画(ライデン国立自然史博物館所蔵)

- 棲類篇)の10部(260フラン)。『日本植物誌』彩色版,第3及び第4分冊,6部(180フラン)。同書黑色版,第3及び第4分冊,4部(64フラン)を送付。
- 同日,パリにて,母アポロニアと伯父ロツ宛ての手紙を書く。
- *9月30日(8・12)レジナ・ヴァルターがオクセンフルトからシーボルト宛に書簡を送る。
- 9月日付不詳,ザクセンのマイニンゲン公国大公殿下宛に『NIPPON』2つ折本,第1から第6分冊,1部(150フローリン)。『日本動物誌』爬虫類篇,第1から第3分冊,甲殻類篇,第1から第3分冊,1部(72フローリン)。『日本植物誌』彩色版,第1巻,第1から第4分冊,1部(28フローリン)を送付。
- 10月2日(8・14)ミュンヘンにて,母アポロニア宛ての手紙を書く。
- *10月9日(8・21)オランダ植民地省がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月12日(8・24)ユステイーネ・フォルスター(シーボルトの姪)がバンベルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月17日(8・29)オランダ内務大臣デ・コックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 10月25日(9・8)ライプツィヒのフリードリッヒ・フライシャー書店宛に『日本動物誌』爬虫類篇,第3分冊(蜥蜴類と両棲類の部),45部(180ターラー)を送付。
- 10月28日(9・11)ミュンヘンにて,母アポロニア宛ての手紙を書く。
- 10月29日(9・12)プロイセン王国教育医学省宛に『NIPPON』2つ折本,第7及び第8分冊,11部(308ターラー)を送付。
- 10月日付不詳,ハーレムのロースジェス公殿下宛に『NIPPON』2つ折本,第7及び第8分冊,1部(36フローリン)。『日本旅行』(フランス語版)第1巻,第1及び第2節,1部(贈呈)。『日本動物誌』甲殻類篇,第4分冊,1部(9フローリン)を送付。
- △11月1日(9・15)マイニンゲン図書館館長・童話収集家ルートヴィヒ・ベヒシュタイン(Ludwig Bechstein)がマンハイム(Mannheim)からシーボルト宛に書簡を送る。
- *同日,母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 11月8日(9・22)プロイセン王国教育医学省宛に『日本動物誌』爬虫類篇,第1から第3分冊,1部(21ターラー)を送付。

- *11月11日 (9・25) ユステイーネ・フォルスター (シーボルトの姪) がバンベルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月17日 (10・1) 母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月18日 (10・2) ボン大学教授・言語学者フォン・シュレーゲル (A.W. von Schlegel) がボンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月25日 (10・9) 母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- ◇11月, エドワード・グランディソン (Edouard Grandisson) が出島商館長に着任 (在任: 1838年11月17日~1842年11月10日)。
- *12月6日 (10・20) 母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 12月10日 (10・24) シュトゥットガルトにて, 母アポロニア宛ての手紙を書く。
- 12月19日 (11・3) ライプツィヒのF.フライシャー書店宛に『日本動物誌』爬虫類篇 (蜥蜴類と両棲類の部), 12部 (48ターラー) を送付。
- *12月22日 (11・6) フォン・チハク博士 (Dr. von Czihak) がイエシイ (Jessy) からシーボルト宛に書簡を送る。
- 12月23日 (11・9) パリにて, 母アポロニア宛ての手紙を書く。
- 12月下旬頃までに, 『日本植物誌』彩色版及び黒色版, 第1巻, 第7及び第8分冊 (tt. 31-40) を出版?
- *月不詳24日, フーベルト・フィッシュバッハ・マロード男爵 (Hubert Frh Fischbach Malaurd) がディース近郊のシャトゥ・ドゥ・モン・サン・ジャン (Chateau du Mont St. Jean pres de Diese) からシーボルト宛に書簡を送る。
- 月日不詳, 『日本叢書』の内, 第4冊『類合』 (Lui ho) 出版。
- 月日不詳, ファン・デル・カベレン男爵閣下宛に『日本動物誌』爬虫類篇, 第1及び第2分冊, 1部 (24フローリン)。『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第3から第5分冊, 1部 (21.60フローリン) を送付。
- 月日不詳, サンクト・ペテルブルグのステীগリッツ商会からロシア帝国皇帝宛に『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第3及び第4分冊, 5部 (140ルーブル)。『日本植物誌』黒色版, 第1巻, 第3及び第4分冊, 5部 (70ルーブル)。『日本動物誌』爬虫類篇, 第3分冊 (蜥蜴類と両棲類の部), 10部 (240ルーブル) を送付。
- 月日不詳, 『日本旅行』 (フランス語版) モントリー (A. de Montry) とフレシネ (E. Fraissinet) による作成及びS.A.R.オルレアン公閣下の援助を受けて出版。



〔図45〕『日本旅行 Voyage au Japon』（『NIPPON』フランス語版）図版の第1分冊仮表紙と第4分冊「箱根峠」（長崎：シーボルト記念館所蔵）

- 1832～38年，ファン・デル・カペレン男爵閣下宛に『NIPPON』2つ折本，第1から第6分冊，1部（150フローリン）。『日本動物誌』爬虫類篇，第1から第3分冊，同書甲殻類篇，第1から第3分冊，1部（72フローリン）。『日本叢書』の内，第3冊『千字文』1部（贈呈）。『日本植物誌』彩色版，第1巻，第1から第6分冊，1部（43.20フローリン）を送付。
- 1833～38年，ライデンの動物学者C.J.テンミンク宛に『NIPPON』2つ折本，第1から第6分冊，1部（90フローリン）。『日本動物誌』甲殻類篇，第1から第6分冊，1部（72フローリン）。『日本動物誌』甲殻類篇，第1から第6分冊，1部（贈呈）。『日本植物誌』彩色版，第1巻，第1から第5分冊，1部（36フローリン）を送付。
- 1835年～38年，ロシア帝国政府宛に『NIPPON』2つ折本，第1から第6分冊，10部，『日本動物誌』第1から第6分冊，10部，『日本植物誌』彩色版，第1巻，第1から第4分冊 10部，『日本叢書』の内，第1冊『新增字林玉篇』10部，第3冊『千字文』10部。（総額6，160ルーブル）を送付。
- 1835～38年，オランダのオレンジ公国王女宛に『NIPPON』2つ折本，第1から第6分冊，1部（150フローリン）。『日本植物誌』彩色版，第1巻，第1から第4分冊，1部（28フローリン）。『日本植物誌』彩色版，第1巻，第5分冊，1部（8フローリン）を送付。

○1837年～38年、オランダ植民地省宛に『NIPPON』第6分冊、3部(75フローリン)。

『日本植物誌』第1から第6分冊、2部(86.40フローリン)。『日本動物誌』爬虫類篇、第1から第3分冊、同書甲殻類篇、第1から第3分冊、2部(24フローリン)を送付。

○ヤッシ(Jassy)所在、モルダウ(Moldau)地方の医師と自然研究者協会正会員。

◇緒方洪庵が大坂に適々斎塾(適塾)を開く。

1839年(天保10年) 43歳

○1月1日(11・16)パリのL.ロレ書店宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第3分冊、第5及び第6分冊、1部。同書4つ折本、第1から第4分冊、1部。『日本叢書』の内、第1冊『新增字林玉篇』1部、第3冊『千字文』1部、第5冊「日本輿地路程度全図」1部。『日本動物誌』爬虫類篇、第3分冊(蜥蜴類・両棲類の部)、10部。『日本植物誌』黒色版、第1及び第2分冊、3部。同書黒色版、第1巻、第1から第4分冊、1部を送付。

○同日、パリのアルトゥス・ベルトラン社・地理学協会書店(Arthus Bertrand)宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第6分冊、2部。『日本叢書』の内、第2冊『和漢音釈書言字考』3部、第3冊『千字文』3部。『日本動物誌』甲殻類篇 第2及び第3分冊、3部。同書爬虫類篇、第2分冊(蛇類の部)、3部など(総額726.05フラン)を送付。

* 1月6日(11・21)母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 1月14日(11・29)伯父ロッツがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 1月16日(12・2)オランダ内務大臣デ・コックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 1月17日(12・3)オランダ内務大臣デ・コックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 1月29日(12・15)母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 2月17日(1・4)ジュリー・キルスト(Julie Kirst)がドレスデンからシーボルト宛に書簡を送る。

△2月20日(1・7)草稿『日本からオランダ、オーストリアへの植物輸入会社設立計画』(仏文)をウィーンにて執筆。

- 2月20日 (1・2) ロンドンのブラック＝アームストロング書店宛に『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第5及び第6分冊, 5部。『日本旅行』(フランス語版) 第1巻, 第1及び第2節, 20部(内10部献本)を送付。
- 2月22日 (1・4) ライデンのC.J.テンミンク宛に, 『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第6分冊, 1部(7.20フローリン)を送付。
- * 2月26日 (1・13) ヴァレンティン・ウルリッヒ博士 (Dr. Valentin Ullrich) がショルクリップペン (Scholkrippen) からシーボルト宛にオランダ領東インド会社医師に志願する際の支援を請う書簡を送る。
- * 2月27日 (1・14) レジナ・ヴァルターがオクセンフルトからシーボルト宛に書簡を送る。
- 3月1日 (1・16) フィラデルフィア (Philadelphia) のカリー・ハルト商会 (Carry & Hart) 宛に『NIPPON』4つ折本, 第1から第6分冊, 1部(90フローリン)。『日本動物誌』爬虫類篇, 第1から第3分冊, 1部(36フローリン)。『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第3及び第4分冊, 1部(14フローリン)を送付。
- 3月5日 (1・20) オランダ植民地省宛に『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第7及び第8分冊, 4部(28.80フローリン)。同書彩色版, 第9及び第10分冊, 2部(28.80フローリン)を送付。
- * 同日, ファン・デル・ホーヴェン (J. van der Hoeven) がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日, ライデンの王立自然史博物館管理官 J.A.スザンナがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日, オランダ内務大臣デ・コックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 3月6日 (1・21) オランダ内務省宛に『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第5及び第6分冊の5部(72フローリン)。同書黒色版, 第1巻, 第5及び第6分冊の5部(36フローリン)。同書黒色版, 第1巻, 第1から第4分冊の5部(72フローリン)を送付。
- 3月8日 (1・23) オランダ内務省宛に『日本旅行』(フランス語版) 第1巻, 第1及び第2節の10部(贈呈)を送付。
- 同日, フィラデルフィアのユダ・ドブソン (Juda Dobson) 宛に『NIPPON』4つ折本, 第1から第6分冊, 1部(90フローリン)。『日本動物誌』爬虫類篇, 第1から

His Ministers van		Yoch	Binnenlandsche Laken	
1832			1832	
April 28	5 Exempl. Nippon in fol. 1-6. offe.	750	April 22	1547
5	" " " " " 1-6 "	150	July 11	1547
10	" Fauna japonica 3 bichy. Geph. lra	360		
10	" Fauna japonica 5 " Chelodactyl.	360		
5	" Flora japonica fasc. 1-4 color.	144		
5	" " " " " 1-4 Zwack	---		
10	" Phytologiae lict. idig.) (Bibl. M. ...)	650		
10	" Melle lineae)	---		
		2776		
1839				
March 6	5 Exempl. Flora japonica fasc. 5 & 6 color.	72		
5	" " " " " 5 & 6 Zwack	36		
5	" " " " " 5 & 6 Zwack	72		
July 15	5 " " " " 7, 8, 9, 10 color.	144		
5	" " " " " 7, 8, 9, 10 Zwack	72		
October 16	5 " Nippon in fol. 7 & 8 abtween,	250		
5	" " " " " 7 & 8 abtween,	150		
10	" Fauna Japonica Crustacea 4.	150		
		736		
March 8	10 Exempl. Voyage au Japon 12. 1. pul. 1. 2.	Yoch		

【図46】オランダ内務省宛のリスト

シーボルト自筆の1832~40年『シーボルト著作販売帳』〈Liefer-und Abrechnungsbuch über Nippon und andere grosse Veröffentlichungen Siebolds für die Jahre 1832-1840〉(ポフム大学図書館所蔵 No: 1.555.000)

第3分冊, 1部 (36フローリン)。『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第3及び第4分冊, 1部 (14フローリン)。『日本旅行』(フランス語版) 第1巻, 1部 (献本)などを送付。

- * 3月13日 (1・28) オランダ植民地省がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月18日 (2・4) 元オランダ領東インド総督ファン・デル・カペレンがボレンホウベンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日, フリッツ・レムレイン (Fritz Remlein) がヴェルツブルグからシーボルト宛

に書簡を送る。

- * 3月20日（2・6）オランダ内務大臣デ・コックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 3月22日（2・8）図版製作者（植物描写石版師）S.ミンシングルがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 3月24日（2・10）パリのL.ロレ書店宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第5から第8分冊，6部。同書黒色版，第1巻，第3及び第4分冊，3部。同書黒色版，第1巻，第5から第8分冊4部。『日本動物誌』甲殻類篇，第2及び第3分冊，10部。同書爬虫類篇（蛇類の部），10部。『NIPPON』4つ折本，第5及び第6分冊，1部を送付。
- * 同日，アルベルティーネ・ノルテ（Albertine Nolte）がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 3月25日（2・11）ライデンにて，母アポロニア宛ての手紙を書く。
- △ 3月26日（2・12）草稿『1839年3月26日にヴェルツブルグで死亡した大聖堂司教座参事会員フランツ・ヨーゼフ・ロットの遺言状の抜粋』（執筆者不明）。
- * 3月27日（2・13）ヴィベキング（Wiebeking）がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日，F.レムレインがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月30日（2・16）レジナ・ヴァルターがオクセンフルトからシーボルト宛に書簡を送る。
- 3月下旬頃までに，『日本植物誌』彩色版及び黒色版，第1巻，第9及び第10分冊（tt.41-50）を出版？
- 3月月日不詳，オランダの植民地省宛に『日本旅行』（フランス語版）第1巻，第1及び第2節，3部（贈呈）を送付。
- * 4月4日（2・21）ファバー（S. Faber）がミュンヘンからシーボルト宛に領収書を送る。
- △ 4月6日（2・23）図版製作者（植物描写石版師）S.ミンシングルがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日，母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月7日（2・24）ライデンにて，母アポロニア宛ての手紙を書く。

- * 4月10日 (2・27) F.レムレインおよび叔父ヨアヒム・ロット (Joachim Lotz) がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月11日 (2・28) ライデンにて、母アポロニア宛ての手紙を書く。
- * 同日、メンデル・ローゼンbaum (Mendel Rosenbaum) がシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月12日 (2・29) 叔父ヨアヒム・ロットがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月19日 (3・6) レムレイン (Fritz Remlein) がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月22日 (3・9) F.レムレインがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月24日 (3・11) ライデンのC.C.ファン・デル・フーク書店宛に『日本植物誌』彩色版、第1巻、第5及び第6分冊、2部 (28.80フローリン)。同書彩色版、第1巻、第7及び第8分冊、2部 (28.80フローリン) を送付。
- △ 4月27日 (3・14) ライデン在住のファン・カンペン (J. van Campen) の「ライデルドプ土地測量図面・書類」(ライデン気候馴化園の土地関係など) などを受け取る。
- * 4月28日 (3・15) ムンチ (D. Munch) がストウツガルト (Stuttgart) からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日、F.レムレインがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月29日 (3・16) ケーニッヒベルク (Königberg) のメイヤー博士? (Prof. Dr. Meyer) がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日、母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月1日 (3・18) ファブリシウス (Fabricius) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月4日 (3・21) ライデンにて、母アポロニア宛ての手紙を書く。
- * 5月13日 (4・1) バウゾン? (Bauzon) がヴァプァノラ (Vapeur Norna) からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月19日 (4・7) 元出島オランダ商館員でジャワの栽培園所有者者 H.ビュルゲルがアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月20日 (4・8) アムステルダムのミュレル書店宛に『日本植物誌』彩色版、第

5分冊，19部（108フローリン）。同書黒色版，第5分冊，1部（5.40フローリン）。同書彩色版，第6から第8分冊，20部（324フローリン）。同書黒色版，第6から8分冊）1部（8.10フローリン）を送付。

- * 5月20日（4・8）ライデンにて，母アポロニア宛ての手紙を書く。
- * 5月21日（4・9）ユスティーンネ・フォルスター（シーボルトの姪）がバンベルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月22日（4・10）叔父ヨアヒム・ロッツがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月24日（4・12）アムステルダムのJ. ミュレル書店宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第5分冊，20部（108フローリン）。同書黒色版，第1巻，第5分冊，1部（5.40フローリン）。同書彩色版，第1巻，第7及び第8分冊，20部（324フローリン）。同書黒色版，第1巻，第6から第8分冊，1部（8.10フローリン）を発送。
- 同日，バリのアルトゥ・ベルトラン社・地理学協会書店宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第6及び第8分冊，5部を送付。
- 同日，ロンドンのブラック＝アームストロング書店宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第7及び第8分冊，同書黒色版，第1巻，第5から第8分冊，2部を送付。
- * 5月27日（4・15）ギルデマイスター（J. Gildemeister）がパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月1日（4・20）レジナ・ヴァルター（Regina Walter）がオクセンフルト（Ochsenfurt）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月14日（5・4）F.レムレインがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月21日（5・11）オランダ内務大臣デ・コックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 6月22日（5・12）図版製作者（植物描写石版師）S. ミンシンゲルがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 6月28日（5・18）ライデンのC.C.ファン・デル・フーク書店（van der Hoek）宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第9及び第10分冊，2部（28.80フローリン）を送付。
- * 6月30日（5・20）母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 6月日付不詳，ライデンの動物学者C.J.テンミンク宛に『日本植物誌』彩色版，第

1巻, 第7及び第8分冊, 1部 (14.40フローリン) を送付。

△夏季はライデン, 冬季はドイツに住むようになる。ヘレーネ・フォン・ガーゲルン (Helene von Gägern 後にシーボルトの妻) と出会う。

○7月4日 (5・24) パリのL.ロレ書店宛に『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第9及び第10分冊, 6部。同書黒色版, 第1巻, 第9及び第10分冊, 4部を送付。

○同日, パリのアルトゥ・ベルトラン社・地理学協会書店宛に『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第9及び第10分冊, 5部を送付。

*7月6日 (5・26) エンゼンスベルゲル (Enzensberger) がハルダーウエイク (Harderwyk) からシーボルト宛に書簡を送る。

*7月8日 (5・28) ユステイーネ・フォルスター (シーボルトの姪) がバンベルグからシーボルト宛に書簡を送る。

○7月11日 (6・1) ライツィヒの書籍商宛に『NIPPON』2つ折本, 第7及び第8分冊, 31部。同書4つ折本, 第7及び第8分冊, 30部 (合せて827ターラー)。『日本動物誌』甲殻類篇, 第4分冊, 45部: 7部納品 (180ターラー)。同書甲殻類篇, 第2分冊及び第3分冊 (注: 原本破損のため部数不詳) (合せて19.19ターラー) を送付。

○7月15日 (6・5) オランダの内務省宛に『日本植物誌』彩色版, 第7から第10分冊, 5部 (144フローリン)。同書黒色版, 第7から第10分冊, 5部 (72フローリン) を送付。

*7月19日 (6・9) 母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

○7月25日 (6・15) オランダ内務省宛に『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第7から第10分冊, 5部 (144フローリン)。同書黒色版, 第1巻, 第7から第10分冊, 5部 (72フローリン) を送付。

*同日, ファン・ナゲル男爵 (van Nagell) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

*同日, 園芸家テル・ブルゲン (Ter Burggen) と同じくルーゼ・ストリイボッシュがボッシュからシーボルト宛に書簡を送る。

*7月27日 (6・17) トーニン? (Tonin) がパリからシーボルト宛に書簡を送る。

○7月28日 (6・18) ライデンの動物学者C.J.テミンク宛に『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第9及び第10分冊, 1部 (14.40フローリン) を送付。

*7月29日 (6・19) ユステイーネ・フォルスター (シーボルトの姪) がバンベルグ

からシーボルト宛に書簡を送る。

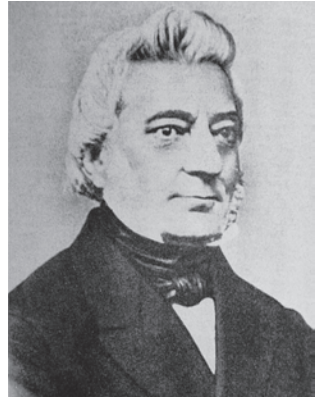
- * 8月3日（6・24）メイヤー（W.C. Meyer）がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 8月4日（6・25）ミュンヘンの図版製作者（植物描写石版師）S.ミンシングルがミュンヘンからシーボルト宛に請求書を送る。
- △ 8月6日（6・27）ミュンヘンの図版製作者（植物描写石版師）S.ミンシングルがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月7日（6・28）オランダ内務大臣デ・コックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月8日（6・29）叔父ヨアヒム・ロッツおよび母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月20日（7・12）オランダ内務大臣デ・コックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月29日（7・21）ホトプ？（J.H. Hothop）がシーボルト宛に書簡を送る。
- 8月下旬頃までに、『日本動物誌』甲殻類篇，第4分冊（本文73～108頁，図版25～32，G，H。）を出版。
- * 9月4日（7・27）ユステイーネ・フォルスター（シーボルトの姪）がバンベルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月7日（7・30）ドロウイン・デ・リュウス（Drouyn de L' huys）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 9月9日（8・2）ロンドンのブラック＝アームストロング書店宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第9及び第10分冊，5部。同書黒色版，第1巻，第9及び第10分冊，2部。『日本動物誌』甲殻類篇，第1から第4分冊，1部を送付。
- 9月18日（8・11）ロンドンのブラック＝アームストロング書店宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第1から第4分冊，1部。同書黒色版，第1巻，第1から第10分冊，1部を送付。
- 同日，ロシア帝国政府宛に『日本動物誌』甲殻類篇，第4分冊，10部（240ルーブル）。『日本植物誌』彩色版，第1巻，第5から第10分冊，5部（420ルーブル）。『日本植物誌』黒色版，第1巻，第5から第10分冊，5部（210ルーブル）。『NIPPON』2つ折本，第7及び第8分冊，10部（1,000ルーブル）。『日本旅行』（フランス語

- 版) 第1巻, 第1及び2節, 10部(贈呈)を送付。
- 同日, サンクト・ペテルブルグのJ.J.プリエフ書店宛に『日本動物誌』甲殻類篇, 第4分冊, 2部(48ルーブル)。『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第6から第10分冊, 1部(70ルーブル)。『日本旅行』(フランス語版)第1巻, 第1及び第2節, 6部(献本)を送付。
- * 9月19日(8・12)元出島オランダ商館員P.W.フェルケルク・ピストリウスがアーンヘムからシーボルト宛に書簡と決算書を送る。
- 9月23日(8・16)アムステルダム(J.ミュレル書店宛に『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第9及び第10分冊, 20部(216フローリン)。同書黒色版, 第9及び第10分冊, 1部(5.40フローリン)。『日本動物誌』甲殻類篇, 第4分冊, 1部(9フローリン)を送付。
- * 同日, 母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 9月26日(8・19)ライデンの動物学者C.J.テンミンク宛に『日本動物誌』甲殻類篇, 第4分冊, 1部(12フローリン)。同書甲殻類篇, 第4分冊, 1部(贈呈)を送付。
- 9月28日(8・21)ライデンのC.C.ファン・デル・フーク書店宛に『日本動物誌』甲殻類篇, 第4分冊, 6部(72フローリン)を送付。
- △同日, C.C.ファン・デル・フーク書店がライデンからシーボルト宛に書簡と請求書を送る。
- * 9月29日(8・22)ドロウィン・デ・リュウスがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 9月下旬頃までに、『日本植物誌』彩色版及び黒色版, 第1巻, 第11から第14分冊(tt.51-70)出版?
- 10月6日(8・29)ライプツィヒのレオボルド・フォス書店宛に『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第11から第13分冊, 25部(195ターラー)。同書黒色版, 第1巻, 第11から第13分冊, 2部(献本)。同書黒色版, 第1巻, 第11から第13分冊, 1部(3.22ターラー)を送付。
- 同日, ザクセンのマイニンゲン公国大公殿下宛に『NIPPON』2つ折本, 第7及び第8分冊, 1部(50フローリン)。『日本動物誌』甲殻類篇, 第4分冊, 1部(12フローリン)。『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第5から第10分冊, 1部(42フローリ

ン)を送付。

- 10月8日（9・2）ウィーンのシャウムブルグ書店宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第11から第13分冊，25部（292.10フローリン）を送付。

△同日，ユトレヒト大学植物学教授ミケル（A.G. Miquel 後に1862年からライデンの王立植物標本館館長）がロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。



〔図47〕 F.A.W.ミケルの肖像画
（ライデン国立植物標本館所蔵）

- 10月16日（9・10）オランダ内務省宛に『NIPPON』2つ折本，第7及び第8分冊，5部（230フローリン）。同書4つ折本，第7及び第8分冊，5部（150フローリン）。『日本動物誌』甲殻類篇，第4分冊10部（120フローリン）を送付。
- 10月17日（9・11）ライデンにて，オランダ内務大臣デ・コック宛の手紙を書く。
- 10月19日（9・13）ライデンにて，自らの著作納品請求書を書く。
- *同日，オランダ内務大臣デ・コックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 10月21日（9・15）ライデンにて，オランダ植民大臣（J.C.バウド）宛の手紙を書く。
- 10月25日（9・19）ライデンのC.C.ファン・デル・フーク書店宛に『NIPPON』2つ折本，第7及び第8分冊，4部（200フローリン）。同書4つ折本，第7及び第8分冊，4部（120フローリン）を送付。
- 同日，アムステルダムのJ.ミュレル書店宛に『NIPPON』2つ折本，第7及び第8分冊，4部。同書テキスト版，第1から第8分冊，44部（2つ折本とテキスト版を含めて150フローリン。同書4つ折本，第7及び第8分冊，2部（45フローリン）。『日本動物誌』甲殻類篇，第4分冊，1部（9フローリン）。『日本旅行』（フランス語版）第1巻，第1節及び第2節，1部（献本）を送付。
- 10月26日（9・20）オランダ植民地省宛に『NIPPON』2つ折本，第7及び第8分冊，3部（150フローリン）。『日本動物誌』甲殻類篇，第4分冊，2部（24フローリン）を送付。

- 10月29日（9・23）ロンドンのブラック＝アームストロング書店宛に『NIPPON』2つ折本，第7及び第8分冊，5部を送付。
- 同日，ベルリンのプロイセン王国教育医学省宛に『NIPPON』2つ折本，第7及び第8分冊，11部（308ターラー）を送付。
- *同日，オランダ植民大臣次官がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 10月30日（9・24）パリのL.ロレ書店宛に『日本動物誌』甲殻類篇，第4分冊，20部，『NIPPON』2つ折本，第7及び第8分冊，1部。同書4つ折本，第7及び第8分冊，1部を送付。
- 10月日付不詳，アムステルダムミュレル書店宛に『NIPPON』2つ折本，第7及び第8分冊，4部（価格未記入。同書テキスト版，第1から第8分冊，4部（150フローリン）。『日本旅行』第1巻，第1及び第2節，4部（献本）。『日本動物誌』甲殻類篇，第4分冊，1部（9フローリン）を送付。
- 10月日付不詳，ライデンの動物学者C.J.テンミンク宛に『NIPPON』2つ折本，第7及び第8分冊，1部（30フローリン）を送付。
- 10月日付不詳，ライプツィヒのレオポルド・フォス書店宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第9及び第10分冊 25部。同書黒色版，第1巻，第9及び第10分冊，2部（130ターラー）。同書黒色版，第1巻，第3から第10分冊，1部（10.16ターラー）を送付。
- 10月日付不詳，デンマーク王国クリスティアン皇太子殿下（Z.K. Hoogsheis Prinz Christian van Denmark）宛に『NIPPON』2つ折本，第7及び第8分冊，1部（50フローリン）。『日本旅行』（フランス語版）第1巻，第1から第2節，1部（贈呈）。『日本動物誌』甲殻類篇，第4分冊，1部（12フローリン）。『日本植物誌』彩色版，第1巻，第5から第10分冊，1部（43.20フローリン）を送付。
- 10月日付不詳，ファン・デル・カペレン男爵閣下宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第6分冊，1部（7.20フローリン）。『NIPPON』2つ折本，第7及び第8分冊，1部（50フローリン）。『日本動物誌』甲殻類篇，第4分冊，1部（12フローリン）。『日本植物誌』彩色版，第1巻，第7から第10分冊，1部（28.80フローリン）を送付。
- 10月日付不詳，オランダのオレンジ公国王女宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第6から第10分冊，1部（36フローリン）。『NIPPON』2つ折本，第7及び第8分

冊，1部（30フローリン）。『日本植物誌』彩色版，第1巻，第11から第13分冊，1部（21フローリン）を送付。

○10月日付不詳，ザルツブルグのトゥルン＝タクシス領侯爵殿下宛に『NIPPON』2つ折本，第7及び第8分冊 1部（50フローリン）を送付。

○10月日付不詳，ミュンヘンの図版製作者（植物描写石版師）S.ミンシンゲル宛に『NIPPON』2つ折本及び4つ折本，第7及び第8分冊の販売と寄贈先を委託。フィンランド国王陛下宛に『NIPPON』2つ折本，第7及び第8分冊，3部（150フローリン）。エドアード・グラーフ・フォン・イルシュ（Eduard Graf von Yrsch）宛に同書4つ折り本，第7及び第8分冊，1部（30フローリン）。バイエルン王立図書館宛に同書2つ折り本，第7及び第8分冊，1部（50フローリン）への販売と発送の依頼。またバイエルン国王陛下宛に同書2つ折り本，第7及び第8分冊，1部（贈呈）。大公殿下宛に同書2つ折本，第7及び第8分冊，1部（贈呈）。陸軍大将ツヴァイブルッカー（General Zweibrucker）宛に同書4つ折本，第7及び第8分冊1部（贈呈）。バイエルン王国皇太子殿下宛に同書2つ折本，第7及び第8分冊，1部（贈呈）を委託。

○10月日付不詳，ハーレムのH.ロースジェス公宛に『NIPPON』2つ折本，第7及び第8分冊，1部（36フローリン）。『日本動物誌』甲殻類篇，第4分冊，1部（9フローリン）。『日本旅行』（フランス語版）第1巻，第1節及び第2節，1部（贈呈）を送付。

○11月6日（10・1）ライプツィヒのFr.フライシャー書店宛に『NIPPON』4つ折本，第7及び第8分冊，30部を送付（同年6月11日発送の同書2つ折本と合せて総額827ターラー）。『日本動物誌』甲殻類篇，第4分冊，25部（180ターラー）。同書甲殻類篇，第2及び第3分冊，21部（19.19ターラー）を送付。

*同日，スペングラー（Spengler）商会在アムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。

*11月8日（10・3）オランダの枢密院顧問・貴族院議員フォン・シュルツ（von Schulz）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

*11月12日（10・7）母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

○11月29日（10・24）オランダ植民地省宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第11か

ら第13分冊， 2部（44フローリン）を送付。

△11月30日（10・25）マイニンゲン図書館館長・童話収集家ルートヴィヒ・ベヒシュタイン（Ludwig Bechstein）がマイニンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。

△11月日付不詳，ミュンヘンの図版製作者（植物描写石版師）S.ミンシングルがミュンヘンからシーボルト宛に「1839年3月20日から11月15日までの請求額リスト」を送る。



〔図48〕『NIPPON』・『日本動物誌』・『日本植物誌』・『日本叢書』（一部）（福岡県立図書館所蔵）

○12月6日（11・1）パリのアルトゥ・ベルトラン社宛に『日本動物誌』甲殻類篇，第4分冊，5部，『NIPPON』2つ折本，第7及び第8分冊，2部を送付。

◇12月8日（11・3）岡研介没する（享年40歳）。

*同日，ペリー？（Perry）がダブリン（Dublin）からシーボルト宛に書簡を送る。

*12月11日（11・6）母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

○12月30日（11・25）『日本植物誌 Flora Japonica 挿絵彩色分リスト』をミュンヘンの図版製作者（植物描写）S.ミンシングルが作成。

*同日，オランダ内務大臣デ・コックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

○1833～39年，ライデンの動物学者C.J.テンミンク宛に『NIPPON』2つ折本，第1から第8分冊，1部（120フローリン）。『日本動物誌』爬虫類篇，1部（36フローリン）。同書1部（贈呈）。同書甲殻類篇，第1から第4分冊，1部（60フローリン）。同書1部（贈呈）。『日本植物誌』彩色版，第1巻，第1から第10分冊，1部（72フローリン）。同書彩色版，第1巻，第11及び第12分冊，1部（21.60フローリン）を

送付。

- 1835～39年, オランダ国王陛下宛に『NIPPON』2つ折本, 第1から第8分冊, 1部 (200フローリン)。『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第1から第13分冊, 1部 (93.60フローリン) を送付。
- 月日不詳, コペンハーゲン (Copenhagen) の王立博物館館長トムゼン (Christian Jürgensen Thomsen) がライデンにいるシーボルトを訪ねる。
- * 月不詳15日, 母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- ウィーン所在, 帝立王立園芸学会選出会員。
- ◇ 蛮社の獄が起こり, 渡辺崋山・高野長英ら処罰される。

1840年 (天保11年) 44歳

- * 1月1日 (11・27) オランダ貿易会社がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 1月20日 (12・16) ミュンヘンの図版製作者 (植物描写石版師) S.ミンシンゲルがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 2月3日 (1・1) パリのアルトゥ・ベルトラン社・地理学協会書店宛に『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第10から第13分冊, 5部 (225フラン) を送付。また, フランス国王宛の『NIPPON』2つ折本, 第5及び第6分冊, 1部。アンドレ・ブレアン (Andre Brean) 宛の同書2つ折本, 第5及び第6分冊, 1部の取次ぎを委託。
- △ 2月15日 (1・13) ミュンヘンの図版製作者 (植物描写石版師) S.ミンシンゲルがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 2月23日 (1・21) ライデンのC.C.ファン・デル・フーク書店宛に『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第11から第13分冊, 2部 (43.20フローリン:25パーセント割引, 33.90フローリン) を送付。
- 同日, アムステルダムのJ.ミュレル書店宛に『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第11から第13分冊, 20部。同書黒色版, 第1巻, 第11から第13分冊, 1部 (8.10フローリン) を送付。
- * 2月25日 (1・23) 元出島オランダ商館員 P.W.フェルケルク・ピストリウスがアーンヘムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月2日 (1・29) ファン・デル・カステーレがハーグからシーボルト宛に書簡を

送る。

- * 3月18日（2・15）プロイセン王国教育文化省がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月23日（2・20）レジナ・ヴァルターがオクセンフルトからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月25日（2・22）プロイセン王国教育医学省 E.ストレーマンがベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月28日（2・25）アダム・ゾルナー（Adam Sollner）がツェール（Zell）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月22日（3・20）元出島オランダ商館員 P.W.フェルケルク・ピストリウスがアーンヘムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月24日（3・22）ステーラー？（Staeler）がレーゲンスブルグ（Regensburg）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月8日（4・7）プロイセン王国教育文化省がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月16日（4・15）シェ・ドウ・パラヴェイ（Che de Paravey）がパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月27日（4・26）ペイシュ（F.K.A. Peitsch），ストウレン（C.B. Stulen）がアルメロ（Almelo）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月6日（5・7）元出島オランダ商館員 P.W.フェルケルク・ピストリウスがアーンヘムからシーボルト宛に書簡を送る。
- 6月19日（5・20）ライプツィヒの書籍商宛に「以前委託の書籍代総額1,250.3ターラー」を請求。
- △ 6月23日（5・24）ミュンヘンの図版製作者（植物描写石版師）S.ミンシングルがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月26日（5・27）元出島オランダ商館員でジャワの栽培園所有者 H.ビュルゲルがアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月4日（6・6）元出島オランダ商館員でジャワの栽培園所有者 H.ビュルゲルがアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月10日（6・12）ルイズ・ゾルト？（Louse Zold）がダルムシュタット（Darmstadt）

からシーボルト宛に書簡を送る。

- * 7月12日（6・14）元出島オランダ商館員 P.W.フェルケルク・ピストリウスがアーンヘムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月20日（6・22）元出島オランダ商館員でジャワの栽培園所有者 H.ビュルゲルがアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月3日（7・6）アムステルダムの園芸家スタドニツスキー（P.C. Stadnitski）がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月4日（7・7）ハドニツキーがリユーンホーウ？（Rynhouw）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月8日（7・11）叔父ヨアヒム・ロッツがキッシンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月21日（7・24）フリードリッヒ・サンダー（Friedrich Sander）がキッシンゲン（Kissingen）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月22日（7・25）元出島オランダ商館員 P.W.フェルケルク・ピストリウスがアーンヘムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月27日（8・1）ウェンド（Wendt）がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月8日（8・13）アダム・ヴォールラップ？（Adam Wohlraapp）がセグムール（Segmuhl）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月14日（8・19）元出島オランダ商館員 P.W.フェルケルク・ピストリウスがアーンヘムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月15日（8・20）オランダ内務大臣デ・コック男爵がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月19日（8・24）元出島オランダ商館員 P.W.フェルケルク・ピストリウスがアーンヘムからシーボルト宛に書簡を送る。
- 9月21日（8・26）パリのL.ロレ書店宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第11から第13分冊，6部。同書黒色版，第1巻，第11から第13分冊，4部（彩色版と合わせて270フローリン）を送付。
- 同日，ロンドンのブラック＝アームストロング書店宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第11から第13分冊，6部（48.30ターラー）。同書黒色版，第1巻，第11から

第13分冊，2部（16ターラー）を送付。

△ 9月25日（8・30）ライデンにて，ライデンの王立自然史博物館管理官・動物学者 H.シュレーゲル宛に書簡・経費・決算書を送る（注：『新・シーボルト研究』Ⅰ，239-240頁参照）。

* 9月26日（9・1）ユスティーネ・フォルスター（シーボルトの姪）がバンベルグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 9月30日（9・5）元出島オランダ商館員でジャワの栽培園所有者 H.ビュルゲルがハンブルグ（Hamburg）からシーボルト宛に書簡を送る。

○ 9月日付不詳，オランダ人医師・植物学者ピエロ（J. Pierot）がオランダの園芸復活とシーボルトおよびライデン国立植物標本館館長 C.L.ブルーメの植物学研究協力のため，バタヴィアに向かい，ジャワのバイテンゾルフ植物園に勤務。

* 10月12日（9・17）プロイセン王国教育文化省がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 10月19日（9・24）元出島オランダ商館員 P.W.フェルケルク・ピストリウスがアーンヘムからシーボルト宛に書簡を送る。

* 10月28日（10・4）ジェームス・C.ラオドン（James. C. Loudon 後にオランダ植民大臣？）がベイスウォーター（Bayswater）からシーボルト宛に書簡を送る。

○ 10月月日不詳，フランクフルトの園芸協会会長 Ph. J.リンツ宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第1から第13分冊，1部（91フローリン：単価7フローリン）を送付。

○ 10月下旬頃までに，『日本植物誌』彩色版及び黒色版，第1巻，第15から第20分冊（tt. 71-100）出版？

* 11月29日（11・6）コルマン？（H. Kollmann）がハッテム（Hattem）からシーボルト宛に書簡を送る。

* 12月3日（11・10）元出島オランダ商館員 P.W.フェルケルク・ピストリウスがアーンヘムからシーボルト宛に書簡を送る。

○ 12月10日（11・17）オランダ海軍省及び植民地省宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第14から第16分冊，2部（43.20フローリン）を送付。

○ 12月15日（11・22）ライプツィヒのレオポルド・フォス社宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第14から第16分冊，25部（195ターラー）。同書黒色版，第1巻，第14

から第16分冊，3部（3.22ターラー）を送付。

- 同日，ウィーンのFr.シャウムブルグ社宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第14から第16分冊，25部（292.10フローリン）を送付。
- 12月18日（11・25）ファン・デル・カペレン男爵閣下宛に『NIPPON』2つ折本，第7及び第8分冊，1部（50フローリン）。『日本動物誌』甲殻類篇，第5分冊，1部（12フローリン）。『日本植物誌』彩色版，第7から第13分冊，1部（50.40フローリン）を送付。
- *12月19日（11・26）ホルトロップ（J.W. Holtrop）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月26日（12・3）アルベルティーネ・ノルテがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- ◇12月31日（12・8）гент（Gent）植物園園長キッカー（J. Kicher）が『ヘント植物園のためのシーボルト日本植物リスト』（フランス語・ラテン語）を作成。
- *月不詳9日，オランダ内務省課長職ファン・ラッパルド（A.G.A. van Rappard）がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *月日不詳，グローネ？（Grone）がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *月不詳21日，パリの王立図書館地理学部門管理部長エドム・フランソワ・ジョマール（Edme François Jomard）がパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- 月日不詳，ライデンの花卉栽培家J.C.ロッドバルド宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第1から第13分冊，1部（93.60フローリン）。同書彩色版，第1巻，第15及び第16分冊，1部（21.60フローリン）。同書彩色版，第1巻，第1から第16分冊，1部（115.20フローリン）。同書彩色版，第1巻，第17から第20分冊，2部（57.60フローリン）などを送付。
- 月日不詳，オランダ国王陛下宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第14から第16分冊，1部（21.60フローリン）1などを送付。
- 月日不詳，ロシア提督クルーゼンステルン（Krusenstern）に献上した『原地図と日本人の天文学的観察による日本国の地図。九州・四国諸島と日本』ライデンから出版。
- 月日不詳，ライデルドルプ Leiderdorp（現在のライデン市デ・コーイ De Kooi 地区）に土地を購入。日本・中国植物をオランダの気候に馴らした“気候馴化園

Jardin d'acclimation” を設け、そこに邸宅「ニッポン」(Nippon) を建てる。

- 月日不詳、『NIPPON』の一部ロシア語訳(雑誌『祖国の息子』1840年第1巻, 377~428頁, 雑誌『軍事教育学校の生徒たちのための教育雑誌』1840年, 第25-97号, 13~73頁) 掲載。



『祖国の息子』表紙



『軍事教育学校の生徒たちのための教育雑誌』表紙

〔図49〕『NIPPON』(江戸参府「概要」)のロシア語訳(ロシア科学アカデミー図書館所蔵)

- 1833~40年, ブリュッセルの園芸家ファン・デル・マーレン宛に『NIPPON』2つ折本, 第1から第8分冊, 1部(200フローリン)。『日本動物誌』爬虫類篇, 1部(36フローリン)。『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第1から第13分冊, 1部(93.60フローリン)。『日本叢書』の内, 第1冊『新增字林玉篇』1部(50フローリン), 第3冊『千字文』1部(15フローリン)を送付。
- 1839~40年12月18日(11・25)ファン・デル・カベレン男爵閣下宛に『NIPPON』2つ折本, 第7から第8分冊, 1部(50フローリン)。『日本動物誌』甲殻類篇, 第4巻, 1部(12フローリン)。『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第7から第13分冊, 1部(50.40フローリン)を送付。



〔図50〕 気候馴化園と白亜の邸宅「ニッポン」



〔図51〕 気候馴化園の1856年当時の「日本植物群設計図」

(図50・51はライデンの国立植物標本館図書室所蔵)

○アムステルダム所在，動物学協会「自然は芸術の師匠なり」(Natura artis Magistra) の名誉会員。ヴェルツブルグ所在，ウンターフランケン (Unterfranken) とアシャッフェンブルグ (Aschaffenburg) 歴史協会名誉会員。ロンドン所在，王立園芸協会会員。ミュンヘン所在，バイエルン科学アカデミー正会員。

◇アヘン戦争 (～42年)。

◇和蘭風説書でアヘン戦争の情報が入る。

◇幕府，蘭書翻訳の流布を取り締まる。

1841年 (天保12年) 45歳

* 1月12日 (12・20) プロイセン王国教育文化省がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 1月27日 (1・5) F.レムレインがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

○1月30日 (1・8) ライデンにて，プロイセン王国教育医学省宛ての手紙を書く。

△同日，ミュンヘンの図版製作者 (植物描写石版師) S.ミンシゲルがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。

○2月6日 (1・15) ライデンにて，母アポロニア宛ての手紙を書く。

- △ 2月11日（1・20）ミュンヘンの図版製作者（植物描写石版師）S.ミンシングルがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 2月15日（1・24）ライデンの動物学者・図版製作者 Aeg. S. ムルダー博士（Dr. Aeg. Saagmans van der Mulder）宛に『日本動物誌』甲殻類篇の石版画2枚（55フローリン）。同書魚類篇の石版画2枚（40フローリン）を送付。
- 2月下旬から3月初旬頃までに、『日本動物誌』甲殻類篇，第5分冊（本文109～164頁，図版33～37，39～42，47）を出版。
- △ 3月1日（閏1・9）ヘンリー＝コーエン社（書籍・出版業 Henry & Cohen）がボンからシーボルト宛に書簡と請求書を送る。
- * 3月4日（閏1・12）ユステイーネ・フォルスター（シーボルトの姪）がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡と精算書を送る。
- 3月8日（閏1・16）ライデンのC.G.K.ラインワルト教授宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第14から第16分冊，1部（21.60フローリン）。『日本動物誌』甲殻類篇，第5分冊，1部（12フローリン）を送付。
- * 同日，叔父ヨアヒム・ロットがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月15日（閏1・23）ノルテ（F. W. Nolte）がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 3月18日（閏1・26）ライデンの動物学者C.J.テンミンク博士宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第14から第16分冊，1部（21.60フローリン）を送付。
- 3月19日（閏1・27）ライデンのC.C.ファン・デル・フーク書店宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第14から第16分冊，2部（33.90フローリン）。『日本動物誌』甲殻類篇，第5分冊，6部（50.40フローリン）を送付。
- 3月22日（閏1・30），（4月3日：閏2・12）オランダ海軍省及び植民地省宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第17及び第18分冊，2部（28.80フローリン）。同書第17及び第18分冊の石版画2枚（400.80フローリン）。『日本動物誌』甲殻類篇，第5分冊，2部（24フローリン）。『日本植物誌』彩色版，第1巻，第19及び第20分冊，2部（28.80フローリン）を送付。
- 同日，パリのアルトゥ・ベルトラン社・地理学協会書店宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第14から第16分冊，5部（146.25フローリン）を送付。
- 同日，ロンドンのブラック＝アームストロング書店宛に『日本植物誌』彩色版，第

- 1巻，第14から第16分冊，6部（48ターラー）。同書黒色版，第1巻，第14から第16分冊，2部（価格未記入）。同書黒色版，第1巻，第17から第20分冊，2部（18ターラー・4グロス）。同書第1巻，第17から第20分冊，2部（価格未記入）。『日本叢書』の内，第2冊『和漢音積書言字考』1部（45ターラー・12グロス）を送付。
- 同日，パリのL.ロレ書店宛に『日本動物誌』甲殻類篇，第5巻，10部（250フラン）を送付。
- 同日，アムステルダムのJ.ミュレル書店宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第14～16分冊，20部（324フローリン）。同書黒色版，第1巻，第14～16分冊，1部（8.10フローリン）。『日本動物誌』甲殻類篇，第5分冊，1部（9.10フローリン）を発送。
- 3月23日（2・1）ライデンのファン・カンペン（W. van Campen）の図面「土地台帳写し（ライデン気候馴化園予定地）及び説明書」を受け取る。
- * 3月28日（2・6）ライデンにて，母アポロニア宛ての手紙を書く。
- △4月4日（2・13）ミュンヘンの図版製作者（植物描写石版師）S.ミンシンゲル及びL.ナーダー（シーボルト『NIPPON』図版担当）がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月5日（2・14）ヴィットリンガー？（Wittlinger）がハルダーウエイク（Harderwyk）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月7日（2・16）グイオ＝タルディフ（Guiot & Tardif）商會がブリュッセルからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月8日（2・17）オランダ植民大臣次官がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- △4月14日（2・23）ミュンヘンの図版製作者（植物描写石版師）S.ミンシンゲルが「シーボルトに対する精算リスト」をミュンヘンで作成して，シーボルト宛に送る。
- 4月15日（2・24）リージュの園芸家L.ヤコブ・マッコイ宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第1から第16分冊，1部（240フラン）を送付。
- 同日，гент Gent のハーン・デ・ゴッテル（Haan de Gotter）宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第1から第16分冊，1部（240フラン）を送付。
- * 4月17日（2・26）オランダ領東インド総督府のディオ？（Dion）がバタヴィアからライデンの国立植物標本館館長C. L.ブルーメとシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月19日（2・28）フリッカ？（Vricka）がヴァルソヴィ（Varsovie）からシーボ

ルト宛に書簡を送る。

- * 4月21日 (3・1) カスパー・リンニグ (Kaspar Linnig) がヴュルツブルグからシーボルト宛に証明書を送る。
- * 4月22日 (3・2) 元出島オランダ商館長ヤン・コック・プロムホフがアーヘムからシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月24日 (3・4) ライプツィヒのレオポルド・フォス書店宛に『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第17から第20分冊, 25部 (260ターラー)。同書黒色版, 第1巻, 第17から第20分冊, 2部 (献本)。同書黒色版, 第1巻, 第17から第20分冊, 1部 (5.4ターラー) を送付。
- 同日, オランダの海軍省及び植民地省宛に『日本植物誌』石版画, 第19及び第20分冊, 同書石版画2部 (28.80フローリン)。同書第19及び20分冊, 2部 (400フローリン) を送付。
- 同日, ウィーンのFr.シャウムブルグ書店宛に『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第17から第20分冊, 25部 (390フローリン) を送付。
- 4月25日 (3・5) オランダ国王陛下宛に『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第17から第20分冊, 1部 (28.80フローリン) を送付。
- * 5月1日 (3・11) ジャワのバイテンゾルフ植物園副・ドイツ人植物学者ハッシカール (J. K. Hasskarl) がバタヴィアのビッツ (Bitz) から, また庭師ショウリング (Scheuring) がヴュルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月2日 (3・12) 母アポロニアがヴュルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月3日 (3・13) ファン・デル・カペレン男爵閣下宛に『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第14から第16分冊, 1部 (21.60フローリン)。『日本動物誌』甲殻類篇, 第5分冊, 1部 (12フローリン) を送付。
- * 同日, オランダの枢密院顧問・貴族院議員フォン・シュルツがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月5日 (3・15) オランダ国王陛下宛に『日本動物誌』爬虫類篇, 第1から第3分冊, 1部 (96フローリン) を送付。
- * 5月12日 (3・22) フォン・モール (J. von Mohl) がパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日, グイオ＝タルディフ商会 (Guijot & Tardif) がブリュッセルからシーボルト

宛に書簡を送る。

* 同日, F.レムレインがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

△ 5月13日（3・23）ライデンにて、ミュンヘン大学植物学教授 J. G. ツッカーニ博士宛の手紙を書く。

* 5月17日（3・27）園芸家 L. ストリー・ボッシュがボッシュからシーボルト宛に書簡を送る。

* 5月17日（3・27）元出島商館長 ヤン・コック・ブロムホフがシーボルト宛に書簡を送る。

* 5月25日（4・5）アルベルティーネ・ノルテがロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。

* 5月30日（4・10）F.レムレインがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 6月3日（4・14）叔父ヨアヒム・ロッツがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 6月6日（4・17）アントン・ドッター（Anton Dotter）がガイサ（Geisa）からシーボルト宛に書簡を送る。

○ 6月10日（4・21）ライプツィヒの書籍商宛に「以前委託の書籍価格1,063.17ターレル Thr.」を請求。

* 6月12日（4・23）元オランダ領東インド総督ファン・デル・カペレンがボーレンハウベンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 同日, 前オランダ領東インド総督府のファン・テン・ブリンク（van ten Brink）商會がコンスタンツ（Constanz）からシーボルト宛に書簡を送る。

* 同日, アルベルティーネ・ノルテがロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。

* 6月20日（5・2）マールブルグ大学およびゲッチンゲン大学医学部教授 エドアード・フォン・シーボルトがゲッチンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 6月23日（5・5）グイオ＝タルディフ社がブリュッセルからシーボルト宛に書簡を送る。

* 6月25日（5・7）ワルチナー（J. A. Walchner）がカールスルーヘ（Carlsruhe）からシーボルト宛に書簡を送る。

* 7月3日（5・15）ドゥ・サン-エイグナン（de Saint-Aignan）がパリからシーボルト宛に書簡を送る。

- 7月6日(5・18)ライデンにて、母アポロニア宛ての手紙を書く。
- *同日、J.A.ワルチナーがシーボルト宛に書簡を送る。
 - *7月8日(5・20)ヨハン・ゴットフリード・ルッデ(Johann Gottfried Ludde)がシーボルト宛に書簡を送る。
 - *7月10日(5・22)ベールマン(Behrmann)がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
 - *7月12日(5・24)オランダの枢密院顧問・貴族院議員フォン・シュルツがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
 - *同日、母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
 - *7月13日(5・25)オランダの枢密院顧問・貴族院議員フォン・シュルツがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
 - *7月14日(5・26)母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- △7月15日(5・27)ミュンヘンの図版製作者(植物描写石版師)S.ミンシゲルがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *同日、オランダの枢密院顧問・貴族院議員フォン・シュルツがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
 - *同日、F.レムレインがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
 - *7月18日(6・1)ライデンにて、デ・グリム(de Grimm)宛の手紙を書く。
 - *7月20日(6・3)アルベルティーネ・ノルテがロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- △7月21日(6・4)ミュンヘンの図版製作者(植物描写石版師)S.ミンシゲルがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *同日、グイオ＝タルディフ商会がブリュッセルからシーボルト宛に書簡を送る。
 - *7月24日(6・7)フォン・デ・マルティツ男爵(Baron von de Maltiz)がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
 - *7月26日(6・9)グスタフ・ガーヴェンフェルト(Gustav Gavenfeldt)がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。ハフナー(Hafner)がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- △7月29日(6・12)書籍・出版業のヘンリー＝コーエン社(Henry & Cohen)がボンからシーボルト宛に書簡と請求書を送る。

- 7月30日（6・13）パリのL.ロレ書店宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第16から第17分冊，6部（270フラン）。『日本植物誌』黒色版，第1巻，第14から第16分冊，4部（96フラン）を送付。
- 同日，ロンドンのブラック＝アームストロング書店宛に『日本動物誌』甲殻類篇，第5分冊，1部（4ターラー.10グロス）。『日本植物誌』彩色版，第1巻，第17から第20分冊，1部（62ターラー）を送付。
- 同日，ライデンのC.C.ファン・デル・フーク社宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第17から第20分冊，2部（43.20フローリン）を送付。
- 同日，パリのL.ロレ社宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第17から第20分冊，6部（270フラン）。同書彩色版，第1巻，第17から第20分冊，6部（360フラン）。『日本植物誌』黒色版，第1巻，第17から第20分冊，4部（128フラン）。『日本叢書』の内，第2冊『和漢音釈書言字考』1部（200フラン）を送付。
- 同日，アムステルダムのJ.ミュレル書店宛に『日本植物誌』彩色版，第17から第20分冊，20部（420.12フローリン）。同書黒色版，第17から第20分冊，1部（10.80フローリン）。『日本叢書』の内，第2冊『和漢音釈書言字考』，1部（100フローリン）及び同書1部（献本）を送付。
- 同日，ライデンの動物学者C. J.テンミンク博士宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第17から第20分冊，1部（28.80フローリン）を送付。
- 8月1日（6・15）フランクフルトの園芸協会会長 Ph. J.リンツ宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第14から第20分冊，1部（49フローリン）を送付。
- 8月4日（6・18）パリのアルトゥ・ベルトラン社・地理学協会書店宛に『日本動物誌』甲殻類篇，第5分冊，5部（81.25フラン）。『日本植物誌』彩色版，第1巻，第17から第20分冊，5部（195フラン）。『日本叢書』の内，第2冊『和漢音釈書言字考』1部（130フラン）を送付。
- 同日，アムステルダムのJ.ミュレル書店宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第17から第20分冊，20部（420.12フローリン）。同書黒色版，第1巻，第17から第20分冊，1部（10.80フローリン）。『日本叢書』の内，第2冊『和漢音釈書言字考』1部（献本）を送付。
- 同日，リージュの園芸家L.ヤコブ・マッコイ宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第17から第20分冊，1部（60フラン）を送付。

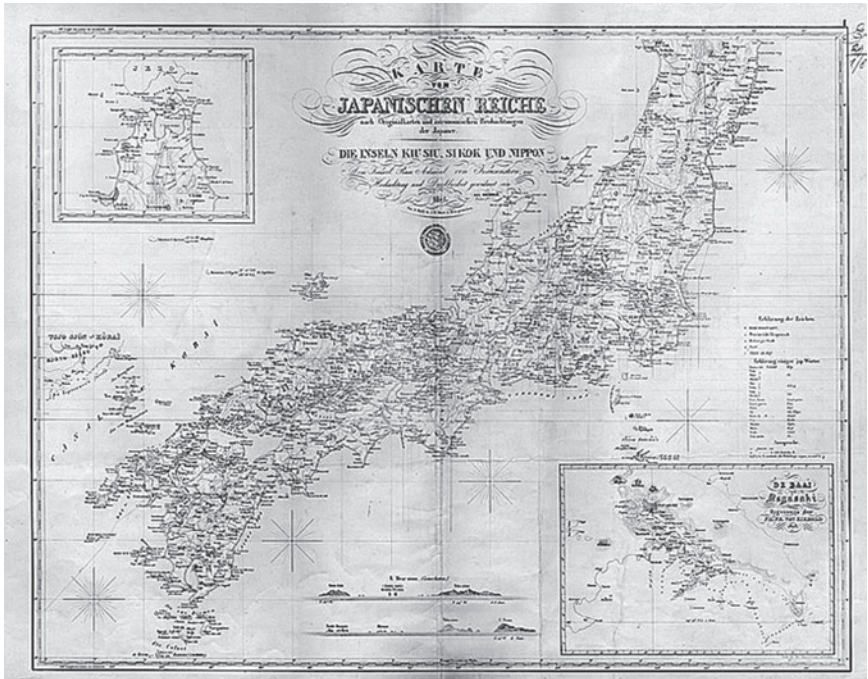
- 同日、ゲントのハーン・デ・ゴッテル宛に『日本植物誌』彩色版、第1巻、第17から第20分冊、1部（60フラン）を送付。
- △8月5日（6・19）ミュンヘンの図版製作者（植物描写石版師）S.ミンシゲルがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 同日、オランダ国王陛下宛に『日本叢書』の内、第2冊『和漢音釈書言字考』の「表意文字複写付録」1部（50フローリン）。同『和漢音釈書言字考』1部（100フローリン）。第3冊『千字文』1部（15フローリン）を送付。
- 同日、デンマーク国王陛下宛に『日本植物誌』彩色版、第1巻、第11から第20分冊、1部（70フローリン）。『日本動物誌』甲殻類篇、第5分冊、1部（12フローリン）。『日本叢書』の内、第2冊『和漢音釈書言字考』の「表意文字複写付録」1部（50フローリン）。同『和漢音釈書言字考』1部（100フローリン）。第3冊『千字文』1部（15フローリン）を送付。
- * 8月6日（6・20）元オランダ領東インド総督ファン・デル・カペレンがボーレンハウベンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日、ヴェントランド（A. Wendland）がパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日、ファン・マッソウ？（W. C. van Massow）がシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月7日（6・21）ボルレ（J. Bolle）がロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日、セルビィ（Selby）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月9日（6・23）カイザー（T. Kaiser）がシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日、ノルテ（F. W. Nolte）がロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月10日（6・22）オランダの貴族院議員シュルツがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月17日（7・1）母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月24日（7・8）ジャクソン・トンプソン（Jackson Thompson）がスケーヘンニンヘン（Scheveningen）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月25日（7・9）オップ（F. Opp）がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月26日（7・10）スペース・ツウ・シッキンゲン？（Speth zu Sickingen）がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月27日（7・11）アルベルティーネ・ノルテ（Albertine Nolte）がロッテルダム

からシーボルト宛に書簡を送る。

- ◇ 8月日付不詳、オランダ人医師・植物学者ピエロ博士（Dr. J. Pierot）がミッテルブルグ（Middelburg）号で日本旅行に向かう途中、海難事故に遭い、マカオに入港。同地で病死（享年29歳）。
- △ 9月1日（7・16）図版製作者（植物描写石版師）S.ミンシンゲルがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 9月初旬から中旬頃までに、『NIPPON』第9及び第10分冊の合併号（第Ⅱ章民族と国家，第Ⅶ章日本の近隣諸国と保護国），第11及び第12分冊（第Ⅱ章民族と国家，第Ⅲ章神話・歴史）を出版。
- 9月12日（7・27）サンクト・ペテルブルグのJ. J.ブリエフ書店宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第11から第20分冊，1部（112.25ルーブル）。『日本叢書』の内，『和漢音釈書言字考』の「日本図書と日本文字研究入門」1部（献本）。『日本動物誌』甲殻類篇，第5分冊，1部（36ルーブル）を送付。
- 同日，サンクト・ペテルブルグのストログノフ（Graaf Gregoir de Stroganoff）宛に『NIPPON』2つ折本，第1から第12分冊，1部（600ルーブル），同書「テキスト版，第1冊の第ⅠとⅡ章及び第5冊の第Ⅰ章」，1部（価格未記入）を送付。
- 同日，サンクト・ペテルブルグのスティーグリッツ商会を通して，ロシア帝国政府宛に『NIPPON』2つ折本，第9から第12分冊，10部（2,000ルーブル）。『日本旅行』（フランス語版）第5巻，第1節，1部（贈呈）。『日本叢書』の内，第2冊『和漢音釈書言字考』10部（2,000ルーブル），同書『日本図書と日本文字研究入門』10部（贈呈）。『日本動物誌』甲殻類篇，第5分冊，10部（250ルーブル）。『日本植物誌』彩色版，第1巻，第11から第20分冊，5部（750ルーブル）。同書黒色版，第1巻，第11から第20分冊，5部（400ルーブル）を送付。
- 9月13日（7・28）ロシア帝国宛に『NIPPON』2つ折本，第9から第10分冊，10部（2,000ルーブル）。『日本叢書』の内，第2冊『和漢音釈書言字考』10部（2,000ルーブル）。『日本動物誌』甲殻類篇，第5分冊，10部（240ルーブル）。『日本植物誌』彩色版，第11から第20分冊，5部（750ルーブル）。『日本植物誌』第11から第20分冊，5部（400ルーブル）。『日本旅行』（フランス語版）第5巻，第1節，10部（贈呈）など送付。
- * 9月14日（7・29）カール・マリア・フォン・シュバンナー（Carl Maria von

Schwaner) がシーボルト宛に書簡を送る。

- * 9月19日 (8・5) アルベルティーネ・ノルテがロツテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- 9月21日 (8・7) ライデンの動物学者 C.J.テンミンク博士宛に『NIPPON』4つ折本, 第9から第12分冊, 1部 (60フローリン) を送付。
- 同日, ライデンの C.G.K.ラインワルト教授宛に『日本動物誌』甲殻類篇, 第5分冊, 1部 (12フローリン)。『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第17から第20分冊, 1部 (28.80フローリン)。『NIPPON』4つ折本, 第9から第12分冊, 1部 (60フローリン) を送付。
- * 同日, 母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月26日 (8・12) グイオ＝タルディフ商会在ブリュッセルからシーボルト宛に書簡と請求書を送る。
- * 10月4日 (8・20) J.B.ミュレル博士がヴェルツブルグからシーボルト宛てに書簡を送る。
- * 10月6日 (8・22) ワインハーゲン (Weinhagen) がアーンハイム (Arnheim) からシーボルト宛に書簡を送る。
- 10月7日 (8・23) アムステルダムの J.ミュレル書店宛に『NIPPON』2つ折本, 第9から第12分冊, 3部 (225フローリン)。同書4つ折本, 第9から第12分冊, 2部 (90フローリン)。同書ドイツ語のテキスト版, 第1から第6分冊, 1部 (価格未記入) などを発送。
- * 同日, ゲント植物園長 J.キッカー (J. Kicker) がシーボルト宛に書簡を送る。
- * 10月8日 (8・24) 地方医官ルドルフ・フォン・シーボルト (Rudolf von Siebold シーボルト家の一族) がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 10月10日 (8・26) ホーニグ (J. P. Honing) がハルダーウエイク (Harderwyk) からシーボルト宛に書簡を送る。
- 10月13日 (8・29) ライデンにて, マイニンゲン図書館館長・童話収集家ルートヴィヒ・ベヒシュタイン宛に自著『NIPPON』の分冊に関する手紙と母アポロニア宛ての手紙も書く。
- 同日, ハーレムの H.ロージェス公未亡人宛に『NIPPON』4つ折本, 第9から第12分冊, 1部 (75フローリン) を送付。



【図52】1841年刊「原地図と日本人の天文学的観察による日本国の地図」
（ロンドン 王立地理学協会所蔵）

- 同日、マンハイムのザクセンのワイマール公国ベルナルド大公爵殿下宛に『NIPPON』2つ折本、第9から第12分冊、1部（100フローリン）。『日本動物誌』甲殻類篇、第5分冊、1部（12フローリン）。『日本植物誌』彩色版、第11から第20分冊、1部（70フローリン）。『日本叢書』の内、第2冊『和漢音釈書言字考』の『日本図書と日本文字研究入門』1部（贈呈）などを送付。
- 同日、ミュンヘンの図版製作者（植物描写石版師）S.ミンシングル宛に『NIPPON』2つ折本、第9から第12分冊、4部（400フローリン）。同書4つ折本、第9から第12分冊、1部（60フローリン）。『日本叢書』の内、第2冊『和漢音釈書言字考』1部（124フローリン）、「表意文字複写付録」1部（57フローリン）、『日本図書と日本文字研究入門』1部。同書第5冊「日本與地路程全図」1部（価格未記入）。『NIPPON』4つ折本、第9から第12分冊、2分冊綴り、1部（60フローリン）を

送付。

- 同日、マンハイムのザクセンのワイマール公国ベルナルド大公殿下宛に『NIPPON』2つ折本、第9から第12分冊、1部(100フローリン)。『日本動物誌』甲殻類篇、第5分冊、1部(12フローリン)。『日本植物誌』彩色版、第1巻、第11から第20分冊、1部(70フローリン)。『日本叢書』の内、第2冊『和漢音釈書言字考』の『日本図書と日本文字研究入門』1部(贈呈)などを送付。
- 10月14日(8・30)ライデンのC.C.ファン・デル・フーク書店宛に『NIPPON』2つ折本、第9から第12分冊、4部(280フローリン)。同月17日(9・2)同書4つ折本、第9から第12分冊、4部(168フローリン)などを送付。
- *10月15日(9・1)ゲント植物園主席庭園芸家ドンケラール(A. Donkelaar)がゲントからシーボルト宛に書簡を送る。
- 10月17日(9・3)オランダ国王陛下宛に『NIPPON』2つ折本、第9から第12分冊、1部(100フローリン)を送付。
- 同日、デンマークの国王陛下宛に『NIPPON』2つ折本、第9から第12分冊、1部(100フローリン)を送付。
- *同日、出島オランダ商館員バイフレス? (J. A. E. Baifles)が出島からシーボルトに書簡を送る。
- *10月19日(9・5)セルビィがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月21日(9・7)セルビィがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 10月23日(9・9)スウェーデン国王陛下宛に『NIPPON』2つ折本、第7から第12分冊、1部(300ルーブル)。『日本植物誌』彩色版、第1巻、第3から第20分冊、1部(270ルーブル)。『日本動物誌』爬虫類篇、第2分冊(蛇類の部)、1部(24ルーブル)。同書甲殻類篇、第4及び第5分冊、1部(48ルーブル)。『日本叢書』の内、第2冊『和漢音釈書言字考』1部(200ルーブル)、「表意文字複写付録」1部(100ルーブル)。同書第3冊『千字文』1部(30ルーブル)などを送付。
- 10月24日(9・10)ハーレムのオランダ王立園芸協会名誉会員ファン・エウイック(D. J. van Ewijk)宛に『NIPPON』4つ折本、第9から第12分冊、1部(60フローリン)。『日本叢書』の内、第2冊『和漢音釈書言字考』の『日本図書と日本文字研究入門』1部(贈呈)を送付。
- *同日、セルビィがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

- 10月25日（9・11）フラネッカー（Franecker）のF.グプマ（F.Gpma）宛に『NIPPON』4つ折本，第9から第12分冊，1部（47フローリン）。『日本叢書』の内，第2冊『和漢音釈書言字考』の『日本図書と日本文字研究入門』1部（贈呈）を送付。
- 同日，レーワルデン（Leewaarden）のファン・エイシंगा（J. F. van Eisinga）宛に『NIPPON』4つ折本，第9から第12分冊，1部（60フローリン）を送付。
- 同日，ジュール（Joure）のP.B.J.ヴェゲリン准男爵（P.B.J. Jonkheer Vegelin）宛に『NIPPON』2つ折本，第9から第12分冊，1部（100フローリン）を送付。
- 同日，アムステルダムのアレンツエニウス博士宛に『NIPPON』2つ折本，第7から第12分冊，1部（90フローリン）。『日本旅行』（フランス語版）第1巻の第2節及び第5巻の第1節，1部（贈呈）を送付。
- *同日，ヴォルフス？（Wolfs）がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 10月27日（9・13）ライデンにて，母アポロニア宛ての手紙を書く。
- *10月30日（9・16）ユリウス（Julius）がハンブルグ（Hamburg）からシーボルト宛に書簡を送る。
- 11月2日（9・19）プロイセン王国教育医学省宛に『NIPPON』第9から第12分冊，11部（616ターラー）。『日本叢書』の内，第2冊『和漢音釈書言字考』1部（贈呈）を送付。
- 同日，ベルリンのプロシア王国教育医学省宛に『NIPPON』2つ折本，第9から第12分冊，11部（616ターラー）。『日本叢書』の内，第2冊『和漢音釈書言字考』1部（贈呈）。同書「図表」彩色版の7枚（贈呈），同『日本図書と日本文字研究入門』6部（贈呈）を送付。
- △11月17日（10・5）マイニンゲン図書館館長・童話収集家ルートヴィッヒ・ベヒシュタインがマイニンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 11月20日（10・8）ライデンにて，プロイセン王国教育医学省宛ての手紙を書く。
- *11月21日（10・9）セルビイがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 11月29日（10・15）ライプツィヒのF.フライシャー書店宛に『NIPPON』2つ折本，第9から第12分冊，30部（1,680ターラー）。同書4つ折本，第9から第12分冊，30部（1,020ターラー）。『日本動物誌』甲殻類篇，第5分冊，55部（833.8ターラー）。同書甲殻類篇，第2分冊，17部。同書甲殻類篇，第3分冊，15部。同書甲殻類篇，第4分冊，15部。同書爬虫類篇，第1分冊（亀類の部），11部。同書爬虫類篇，第

- 2分冊（蛇類の部）12部。同書甲殻類篇 第3分冊，15部。同書甲殻類篇，第4分冊，15部。『日本国の地図』75部（375ターラー）。同書の内，第2冊『和漢音釈書言字考』の『日本図書と日本文字研究入門』25部（37.2ターラー）。同書の内，第2冊『和漢音釈書言字考』15部（840ターラー）。同書第2冊『和漢音釈書言字考』3部（価格未記入）。『W. H. ドゥ・フリーゼの論文，貿易用（しきみ）の植物学的起源に関し Ph. Fr. フォン・シーボルト博士と J.G. ツッカーニ教授に対抗して支持されているケンペルとツェンペリーとリンネその他の権威に対する回答』ライデン著者のもとで，ライプツィヒ，L. フォス社，1837年刊，6部（価格未記入）。フライシャー社宛の献本『和漢音釈書言字考』15部。『NIPPON』2つ折本，図版40枚所有（注：この箇所は記載用紙が一部破損のため解読不能：14ターラー）。同書4つ折本，1部（8.12ターラー）。『日本動物誌』1部（6.16ターラー）。『日本叢書』の内，第2冊『和漢音釈書言字考』の「表意文字複写付録」1部（36ターラー）。同書第3冊『千字文』1部（10ターラー）。同書第6冊『倭年契』1部（15ターラー）。同書『和漢音釈書言字考』1部（70ターラー：値引き56ターラー）。同書第6冊『日本輿地路程全図による日本列島地図表4．2つ折本』1部（6ターラー）。同書第4冊『類合』1部（10ターラー）。同書『日本の図書及び写本目録』1部（6ターラー）などを送付。
- 同日，パリの L. ロレ書店宛に『日本植物誌』彩色版，第2巻，第1から第3分冊，6部（270フラン）を送付。
- 同日，ライデンにて，プロイセン王国教育医学省宛ての手紙を書く。
- * 12月9日（10・27）メルヴィル（Melvill オランダ海軍士官ピーテル・メルヴィル・ファン・ドゥ・カルンベール男爵 Pieter Melvill van de Carnbee）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 12月11日（10・29）ライデンにて，オランダ内務大臣（デ・コック）宛の手紙を書く。
- * 同日，ベルリン自然史博物館館長・動物学者マルティン・ハインリッヒ・カール・リヒテンシュタイン（Martin Heinrich Carl Lichtenstein）がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日，F. レムレインがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 12月22日（11・10）セルビイがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

- 12月28日（11・16）ファン・デル・カペレン男爵閣下宛に『NIPPON』2つ折本，第9から第12分冊，1部（100フローリン）。『日本植物誌』彩色版，第1巻，第17から第20分冊，1部（28.80フローリン）。『日本叢書』の内，第2冊『和漢音積書言字考』1部（100フローリン）。同書第3冊『千字文』1部，同書図表1部，『日本図書と日本文字研究入門』1部，同書図表3部（贈呈）などを送付。
- 12月日付不詳，オランダ内務省宛に『NIPPON』2つ折本，第9から第12分冊，5部（500フローリン）。同書4つ折本，第9から第12分冊，5部（300フローリン）。『日本動物誌』甲殻類篇，10部（120フローリン）。『日本植物誌』彩色版，第1巻，第11から第20分冊，5部（360フローリン）。同書黒色版，第1巻，第11から第20分冊，5部（180フローリン）。『日本叢書』の内，第2冊『和漢音積書言字考』10部（1,000フローリン）。同書第3冊『千字文』10部（贈呈）。『日本旅行』（フランス語版）第1巻，10部（贈呈）などを送付。
- 12月日付不詳，草稿『日本の書籍についての概観』（蘭文）ライデンにて執筆。
- 月日不詳，ブリュッセルの園芸家 Ph.ファン・デル・マーレン宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第14から第20分冊，1部（50.40フローリン）。『NIPPON』2つ折本，第9から第12分冊，1部（100フローリン）。『日本叢書』の内，第2冊『和漢音積書言字考』1部（100フローリン）。『日本動物誌』甲殻類篇，第1から第5分冊，1部（60フローリン）を送付。
- 1834～41年，サンクト・ペテルブルグの J. J.ブリエフ書店宛に『NIPPON』2つ折本，第1から第6分冊，5部（1,125ルーブル：単価37.50ルーブル）。同書4つ折本，第1から第6分冊，2部（288ルーブル：単価24ルーブル）。『日本動物誌』甲殻類篇，第1から第5分冊，2部。同書爬虫類編，第1から第3分冊，2部。同書甲殻類篇，第1分冊，3部。同書亀類の部，第1分冊，3部。同書甲殻類篇，第2及び第3分冊，1部。同書蛇類の部，第1分冊，1部。合せて25部（450ルーブル）。『日本植物誌』彩色版，第1から第20分冊，1部（220ルーブル：単価11ルーブル）。『新增字林玉篇』1部（75ルーブル）。『千字文』1部（25ルーブル）を送付。
- 1838～41年，ロンドンのブラック＝アームストロング書店宛に『NIPPON』2つ折本，第1から第6分冊，4部（224ターラー）。同書2つ折本，第6分冊，6部（56ターラー）。『日本植物誌』彩色版，第1から第20分冊，6部（314.16ターラー）。同書彩色版，第1から第3分冊欠本，同書黒色版，第1から第20分冊，2部（53.8

ターラー)。『日本動物誌』甲殻類篇，第1分冊，1部（18.4ターラー）。同書爬虫類編，3部（39.18ターラー）。『日本叢書』の内，第1冊『新增字林玉篇』1部（26ターラー），第2冊『和漢音積書言字考』1部（45.12ターラー），第3冊『千字文』1部（8ターラー）。『日本旅行』（フランス語版）10部（価格未記入）。『日本動物誌』甲殻類篇，第1分冊，1部（4.10ターラー）を送付。

○月日不詳，シーボルトがJ. B.ミュレル博士宛に請求書を送る。

○ヘントの植物園管理部がシーボルトの植物80種類を返却。

○赤鷲勲章勳三等（プロイセン）を受ける。

◇天保改革（老中水野忠邦～43年）。

◇長崎町年寄高島秋帆が徳丸が原で洋式銃隊訓練を行う。

1842年（天保13年） 46歳

○1月4日（11・23）ライデンの委託業者J.C.ファン・ボカーレン（J. C. van Borcharen）宛に『日本旅行』（フランス語版）第5巻，第1～12節（第6節欠本），1部（価格未記入）。『日本植物誌』黒色版，第1から第20分冊，1部（7.20フローリン）（同書黒色版を含めて77フローリン）。『日本叢書』の内，第2冊『和漢音積書言字考』1部，「表意文字複写付録」1部。同書第3冊『千字文』1部：（両書とも価格未記入）を送付。

* 1月6日（11・25）オランダ海軍大臣補佐官カッテンディーケ男爵（van Kattendijke）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

○1月8日（11・27）ライデンにて，オランダ海軍大臣補佐官カッテンディーケ男爵宛の手紙を書く。

* 同日，J.B.ミュレル博士がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 1月18日（12・7）母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 1月23日（12・12）前オランダ領東インド総督ファン・デル・カペレンがパリからシーボルト宛に書簡を送る。

○2月4日（12・24）ライデンにて，母アポロニア宛の手紙を書く（注：前掲書『シーボルト関係書翰集』1～4頁 参照）。

○2月5日（12・25）ライデンにて，オランダ国王（ウィレム一世）宛の手紙を書く。

- * 2月8日 (12・28) プロイセン王国侍従武官フォン・ブラウヒッシュ (von Brauchitsch) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月10日 (1・1) オランダ植民大臣 (J.C.バウド) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月15日 (1・6) プロイセン王国教育文化省がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月16日 (1・7) サトリウス (G. S. Satorius) がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- 2月18日 (1・9) ライデンにて、貴族院議員シュルツ宛の手紙を書く。
- * 2月21日 (1・12) オランダ内務大臣デ・コックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月22日 (1・13) サムエル・パール (Samel Ball) がロンドンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月25日 (1・16) プロイセン王国教育文化省がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 2月日付不詳、ドイツ人化学者・植物学者テキストール (J. C. Textor) がオランダ人医師・植物学者J.ピエロの後任として、出島オランダ商館員に任命される。
- * 3月2日 (1・21) オランダ植民大臣 (J.C.バウド) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。ヴェッケレント? (Weckerennt) がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月6日 (1・25) アルベルティーネ・ノルテがシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月8日 (1・27) ボン大学動物学教授ゴルドフス (Prof. G. A. Goldfuth) がボンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月13日 (2・2) 母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。ヴェクヘルリン (Wekherlin) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月15日 (2・4) ベルリン自然史博物館館長・動物学者マルティン・ハインリッヒ・カール・リヒテンシュタインがベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 3月16日 (2・5) オランダ海軍省及び植林地省宛に『NIPPON』2つ折り本、第9～12分冊、3部：販売価格300フローリンを送付。
- * 3月18日 (2・7) デン・テックス? (C. A. den Tex) がアムステルダムからシー

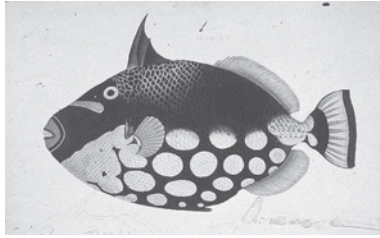
ボルト宛に書簡を送る。

- 3月19日 (2・8) ライデンにて、母アポロニア宛の手紙を書く。
- * 3月21日 (2・10) ペイネルト博士? (Dr. Peinert) がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月26日 (2・15) プロイセン王国使節がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月28日 (2・17) ヴェルツブルグの園芸家トーマス・バウアー (Thomas Bauer) がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月5日 (2・25) ヨハン・ゴットフリート・ルッデ (Johann Gottfried Ludde) がシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月7日 (2・27) アルベルティーネ・ノルテがロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月19日 (3・9) デン・テックス? (C. A. den Tex) がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月24日 (3・14) F.レムレインがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月28日 (3・18) C.A.デン・テックス?がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月9日 (3・29) 叔父ヨアヒム・ロッツがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月10日 (3・30) ライデンの委託業者J.C.ファン・ボーカレン宛に『日本動物誌』甲殻類篇、第5巻、1部 (価格未記入) を送付。
- * 5月13日 (4・4) マールブルグ大学およびゲッチェンゲン大学医学部教授エドワード・フォン・シーボルトがゲッチェンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月16日 (4・7) ライデンにて、オランダ植民大臣 (J.C.バウド) 宛の手紙を書く。
- * 同日, C.A.デン・テックス?がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月18日 (4・9) ティリング (Tiling) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月20日 (4・11) ユステーネ・フォルスター (シーボルトの姪) がバンベルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月22日 (4・13) 母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日, 叔父ヨアヒム・ロッツがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

- * 5月26日（4・17）F.レムレインがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月10日（5・2）オランダ内務大臣（デ・コック）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。ファン・ノールト（van Noort）がシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月17日（5・9）J.B.ミュレル博士がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月23日（5・15）C.A.デン・テックス？がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 6月27日（5・19）ライデンのJ.H.ファン・デン・ヘウヴェル（J. H. van den Heuvel）宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第1から第20分冊，1部（144フローリン）。同書彩色版，第2巻，第1から第3分冊，1部（22.60フローリン）を送付。
- * 7月4日（5・26）F.レムレインがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 7月5日（5・27）ライデンにて，オランダ国王（ウィレム一世）宛の手紙を書く。
- * 7月7日（5・29）デ・ビンデルスターン（de Binderstern）がユトレヒト（Utrecht）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月8日（6・1）アレクサンダー・フォン・ベルク（Alexander von Berk）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月11日（6・4）印刷業ヴォルシェ博士（Dr. Wol'sche）がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- △同日，ミュンヘンの図版製作者（植物描写石版師）S.ミンシングルがミュンヘンからシーボルト宛に書簡と請求書を送る。
- * 7月12日（6・5）オランダ国王家会計係ウィレム・フレデリック（Willem Frederik）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。F.レムレインがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月20日（6・13）オランダ植民大臣（J. C.パウド）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月21日（6・14）デ・ヴェートレーネン男爵（de Weetreenen）とデ・ティールランド（de Tiellandt）がシーボルト宛に書簡を送る。
- 7月26日（6・19）ライデンにて，オランダ植民地局長宛の手紙を書く。
- 7月29日（6・22）ライデンにて，ワイラー？商会（Wayler & Co）宛の手紙を書く。
- * 8月2日（6・26）C. A.デン・テックス？がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

- * 8月4日(6・28) レンツ? (Renz) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月5日(6・29) アルベルティーネ・ノルテがラインスブルグ (Rheinsburg) からシーボルト宛に書簡を送る。
- 8月8日(7・3) オランダ海軍省及び植民地省宛に『日本叢書』3部(495フローリン)。『日本植物誌』黒色版, 第1から第3分冊, 2部(43.20フローリン)を送付。
- * 8月9日(7・4) フォン・エストルフ (G. von Estorff) がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- 8月12日(7・7) ライデンにて, バタヴィアのオランダ東インド総督(パウド)宛に手紙を書く。
- * 同日, デ・テサウリエール・ラガイー (de Thesurier Ragaij) がハーグからシーボルト宛に招待状を送る。
- * 同日, 前オランダ領東インド総督ファン・デル・カペレンがボーレンハウベンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月13日(7・8) ファン・ヴェートレーネン男爵とデ・ティールランドがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 8月14日(7・9) 「1842年8月14日の裁可に関するメモ」をライデンにて書く。
- 8月15日(7・10) ミュンヘンの図版製作者(植物描写石版師) S. ミンシングル宛に『日本植物誌』彩色版, 第2巻, 第1から第3分冊, 2部(42フローリン)を送る。
- * 8月16日(7・11) レンツ? がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月19日(7・14) アレクサンダー・フォン・ベルクがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 8月29日(7・24) ミュンヘンの図版製作者(植物描写石版師) S. ミンシングルがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月2日(7・28) グディン? (Gudin) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月4日(7・30) オランダ内務大臣(デ・コック) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月12日(8・8) オランダ貿易会社がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。

- * 9月13日（8・9）フーク？（J. F. Huuk）がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月19日（8・15）シュルテ（Schulte）がシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日，ストライクーゼン博士？（Dr. Streikusen）がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月21日（8・17）マルテレルト？（Marterelt）がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日，ティリング（Tiling）がゲッチンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 秋ごろ（月日不詳），ミュンヘン大学植物学教授 J.G.ツッカーニがシーボルトの『日本植物誌』の編集をするため，6週間の予定でライデンに来る。
- * 10月8日（9・5）エドムント・マウチ？（Edmund Mauch）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 10月10日（9・7）ウェーケレム？（Weekerem）がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 10月11日（9・8）セルビィ（Selby）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 10月18日（9・15）セルビィがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 10月23日（9・20）アルベルティーネ・ノルテがラインスブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 10月下旬頃までに、『日本動物誌』魚類篇，第1分冊（本文1～20頁）を出版。
- 10月30日（9・27）ライプツィヒのレオポルド・フォス書店宛に『日本植物誌』彩色版，第2巻，第1から第3分冊，25部（195ターラー）。同書黒色版，第2巻，第1から第3分冊，2部（献本）。同書黒色版，第2巻，第1から第3分冊，1部（3.22ターラー）を送付。
- 10月31日（9・28）ライデンのアーネツ書店（Arnz & C）宛に『日本動物誌』魚類篇，第1分冊，25部（375フローリン：単価15フローリン，40パーセント割引で25部225フローリン）を送付。
- 同日，ライデンの動物学者ヘルマン・シュレーゲル宛に『日本動物誌』魚類篇，第1分冊，1部（編集に対して，クレジット100フローリン）を送付。
- 10月日付不詳，ウィーンのFr.シャウムブルグ書店宛に『日本植物誌』彩色版，第2巻，第1から第3分冊，25部（292.10フローリン）を送付。



〔図53〕川原慶賀筆「モンガラカワハギ」
(ライデン国立自然史博物館所蔵)

- 11月2日(9・30)ライデンのC.C.ファン・デル・フーク書店宛に『日本植物誌』彩色版, 第2巻, 第1から第3分冊, 2部(32.40フローリン)を送付。
- *同日, 母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月3日(10・1)母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月4日(10・2)ムリンズ?(Mulins)がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 11月10日(11・8)ハーレムのH.ロースジェス公未亡人宛に『日本植物誌』彩色版, 第1から第3分冊, 1部(価格未記入)を送付。
- 同日, オランダ国王陛下宛に『日本動物誌』魚類篇, 第1分冊, 1部(15フローリン)。『日本植物誌』彩色版, 第2巻, 第1から第3分冊, 1部(21.60フローリン)を送付。
- ◇同日, ピーテル・アルベルト・ビク(Pieter Albert Bik)出島商館長に着任(在任: 1842年11月10日~1845年10月31日)。
- *11月11日(10・9)オランダの枢密院顧問官・貴族院議員フォン・シュルツがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 11月17日(10・15)オランダ国王ウィレム二世からヨルクヘール(准男爵)の爵位を授与され, オランダの貴族に列せられる(1801年の王国貴族令による)。
- *同日, デ・テサウリエール・ラガイー(de Thesurier Ragaij)がハーグからシーボルト宛に招待状・短信を送る。
- *11月18日(10・16)アルベルティーネ・ノルテがラインスブルグ(Rheinsburg)からシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月20日(10・18)母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

- *同日、ヨアヒム・ロッツがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月22日（10・20）アルベルティーネ・ノルテがラインスブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月26日（10・24）ウィルヘルミーネ・フォン・ガーゲルン（Wilhelmine von Gagern シーボルトの義弟）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 11月29日（10・17）パリのアルトゥ・ベルトラン社・地理学協会書店宛に『日本植物誌』彩色版、第2巻、第1から第3分冊、5部（146.25フラン）を送付。
- 同日、パリのL.ロレ書店宛に『NIPPON』2つ折本、第9から第12分冊、1部（200フラン）。同書4つ折本、第9から第12分冊、1部（120フラン）。同書2つ折本、第6から第12分冊、2部（価格未記入）を送付。
- 11月30日（10・18）アムステルダムのJ.ミュレル書店宛に『日本植物誌』彩色版、第2巻、第1から第3分冊、20部。同書黒色版、第2巻、第1から第3分冊、1部（彩色版を含めて332.10フローリン）を送付。
- *12月19日（11・18）母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 12月22日（11・21）クレフェルト（Crefeld）のフォン・リガール男爵（Baron von Riga）宛に『日本植物誌』彩色版、第1巻、第1から第20分冊、1部。同書黒色版、第2巻、第1から第3分冊、1部（いずれも価格未記入）を送付。
- *同日、カッテンス？（Kattens）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月28日（11・27）母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 12月30日（11・29）ライプツィヒのレオポルト・フォス書店宛に『日本植物誌』黒色版、第1巻、第11から第16分冊、1部（7.20ターラー）を送付。
- *12月30日（11・29）アルベルティーネ・ノルテがラインスブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *同日、ヨアヒム・ロッツがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月31日（11・30）フォン・エストルフ（G. von Estorff）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 12月下旬頃までに、『日本動物誌』哺乳類篇、第1分冊（本文1～24頁、図版1～10）を出版？
- *月日不詳、母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- △月日不詳、園芸家L.ヤコブ・マッコイがリユージュ（Liege）からシーボルト宛書

簡を送る。

- ライデンの王立植物標本館館長 C.L.ブルーメと実務にたけた園芸家ロッドバルト (J. C. Rodbard) とともにライデルドルプにオランダ王立園芸奨励協会 (De Koninklijke Nederlandsche Maatschappij tot aanmoediging van den tuinbouw) を設立。会長にはシーボルトとブルーメの2人が就任する。株式を募集して、種子や苗木の繁殖と販売を目的とする「王立協会園芸施設」を運営。施設は最初「ロッドバルト商会 Rodbard & Comp」の社名で創設され、その後「フォン・シーボルト商会 Von Siebold & Comp」となる。1845年から日本や中国から植物を輸入した植物の販売目録を定期的に発行して通信販売を開始。以後、シーボルト没後の1882年まで継続され、通信販売によって大きな成果を上げる。
- ユトレヒト所在、農業と植物学会名誉会員。バーゼル (Basel) 所在、自然研究協会正会員。
- アムステルダムの文庫で200年以上顧みられなかったオランダ人マティス・クァストおよびアーベル・ヤンスゾーン・タスマン (Mathys Quast & Abel Janszoon Tasman) の航海日誌 (1639年の「黄金と白銀諸島」発見のための航海) 見つける。この年から1852年まで『日本海域における発見史の研究』に没頭する。
- ◇幕府、異国船打払令を撤去して、薪水供給令に復す。

1843年 (天保14年) 47歳

- * 1月1日 (12・1) 母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 1月2日 (12・2) ライデンにて、デ・ボス・ル・コンテ男爵 (de Bos le Conte) 宛の手紙を書く。
- * 1月9日 (12・9) デ・フエツ? (de Huez) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 1月11日 (12・11) オランダ国王ウィレム・フレデリック陛下侍従がシーボルト宛に国王拝謁用の招待状を送る。
- 1月16日 (12・16) ライデンのアーンツ書店宛に『日本動物誌』哺乳類篇、第1分冊、25部 (375フローリン：単価15フローリン、40パーセント割引で225フローリン、単価9フローリン) を送付。
- 同日、ライデンの動物学者ヘルマン・シュレーゲル宛に『日本動物誌』哺乳類篇、

第1分冊（編集に対して100フローリン）を送付。

- * 同日、オランダ内務大臣（デ・コック）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月20日（12・20）ヴェンケバッハ（E. Wenckebach）がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- 1月23日（12・23）ライデンにて、王立自然史博物館管理官・動物学者 H.シュレーゲル宛手紙を書く。
- 1月24日（12・24）オランダ内務省宛に『日本動物誌』哺乳類篇、第1分冊、10部（150フローリン）。同書魚類篇、第1分冊、10部（150フローリン）。『日本植物誌』彩色版、第2巻、第1から第3分冊、5部（108フローリン）。同書黒色版、第2巻、第1から第3分冊、5部（54フローリン）を送付。
- 同日、オランダ海軍省及び植民地省宛に『日本動物誌』哺乳類篇、第1分冊、2部（30フローリン）。同書魚類篇、2部（30フローリン）を送付。
- * 1月25日（12・25）アドルフ・シェーファー（Adolf Schaefer）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月28日（12・28）ボーデメイヤー（Bodemeyer）がゲッチングンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月4日（1・6）ライデンの王立自然史博物館管理官・動物学者 H.シュレーゲルがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月5日（1・7）G.フォン・エストルフがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月9日（1・11）マイニンゲン図書館館長・童話収集家ルートヴィッヒ・ベヒシュタインがマイニンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月16日（1・18）G.フォン・エストルフがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 2月17日（1・18）ライデンの気候馴化園庭師 A.ハクビル（Atrahem Hakbyl）との連名で、ロンドンのブラック＝アームストロング（Black & Armstrong）商会宛に手形（証書）を送る。
- * 同日、グイツ？（Z. Guiz）がシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月20日（1・22）アドルフ・シェーファーがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月22日（1・24）G.フォン・エストルフがベルリン（Berlin）からシーボルト宛に書簡を送る。

- * 2月27日 (1・29) ドウ・ル・オッフエンモント? (de L' Offenmont) 氏がシャトウ・ドウ・ル・オッフエンモント (Chateau de L' Offenmont) からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月1日 (2・1) G.フォン・エストルフがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日, ヴェクヘルリン (Wekherlin) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月2日 (2・2) ホウトコベル (A. B. Houtkoper) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月3日 (2・3) ライデン大学植物学教授 W.H.デ・フリーゼがアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月6日 (2・6) アドルフ・シェーファ (Adolf Schaefer) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日, マウル? (Maur) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月7日 (2・7) フランス代理公使がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 3月8日 (2・8) パリの大砲隊陸軍中佐アルフレッド・ドウ・ルージュモン (Arfred de Rougemont) 宛に『NIPPON』2つ折本, 第1から第12分冊, 1部 (600フラン)。『日本叢書』の内, 第3冊『千字文』1部 (30フラン) を送付。
- * 同日, シャルル・ヴァイデンバッハ (Charles Weidenbach) がパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日, ドウ・ル・オッフエンモント氏 (de Le Offenmont) がドウ・ル・オッフエンモント城 (Chateau de L' Offenmont) からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月16日 (2・16) 母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月21日 (2・21) ボーネンカンブ (A. J. Boonenkamp) がロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月22日 (2・22) シャルル・ヴァイデンバッハ (Charles Weidenbach) がパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- 3月から6月にかけてドイツ人化学者・植物学者の C.J.テキストールがバタヴィアに滞在し, バイテンゾルフ (Buitenzorg) 付近の植物調査と茶栽培に関する各種土壌, 天候の影響などを調査。
- * 3月26日 (2・26) パリのテルノウ・コンパン (Ternaux Compans) がパリからシーボルト宛書簡を送る。

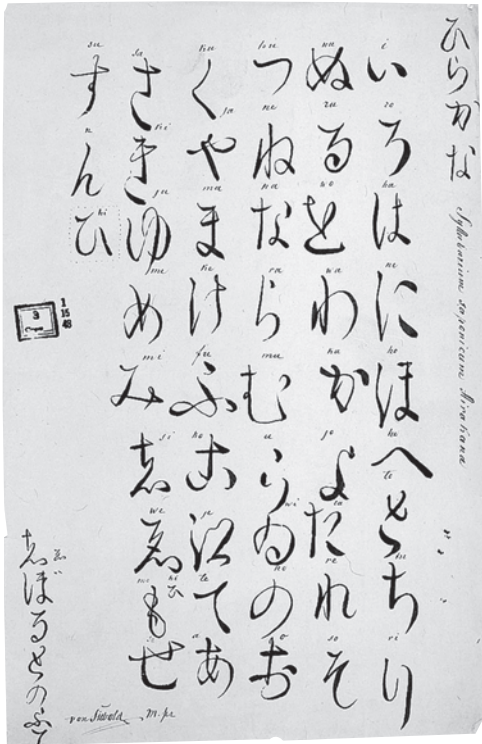
- 3月28日（2・28）パリのベンジャミン・デュブラ書店宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第12分冊、1部（672フラン）。『日本叢書』の内、第2冊『和漢音釈書言字考』1部（280フラン）、「表意文字複写付録」1部（144フラン）。同書第3冊『千字文』1部（40フラン）。『NIPPON』4つ折本、第1から第12分冊、1部（380フラン：1分冊18%割引で68.40フラン、12分冊で311.60フラン）。「日本国の地図」、「ファン・デル・カペレン海峡図」、「長崎図」、「朝鮮図」など1枚（44フラン：35%割引で15.40フラン、28.60フラン）を送付。
- *3月30日（2・30）母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *3月31日（3・1）スタニスラス・ジュリアン（Stanislas Julien）がパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- 3月日付不詳、フランス国王陛下宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第12分冊、1部（600フラン）を送付。
- *4月4日（3・5）フォン・エストルフ（Carl von Estorff）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月5日（3・6）パリのL.ロレ書店宛に『日本動物誌』爬虫類篇、第1から第3分冊、6部（450フラン、1部：単価25フラン）。同書甲殻類篇、第1から第5分冊、6部（750フラン、1部：単価25フラン）。『日本植物誌』黒色版、第1巻、第1から第20分冊、4部（640フラン、1部：単価8フラン）を送付。
- 同日、パリのベンジャミン・デュブラ書店宛に『NIPPON』4つ折本、第1から12分冊、1部（218.40フラン）を送付。
- 同日、パリのベンジャミン・デュブラ書店宛に『日本叢書』の内、第1巻『新增字林玉篇』、第2巻『和漢音釈書言字考』、第3巻『千字文』、1部（116ターラー）。『日本叢書』の内、第1巻『新增字林玉篇』、2部（72ターレル）。同書、第3巻『千字文』、1部（10ターラー）。『NIPPON』2つ折本、第1から第6分冊、1部（84ターラー）。同書2つ折本、第6分冊、2部（28ターラー）。同書2つ折本、第5分冊、1部（14ターラー）。同書2つ折本、第5及び第6分冊、1部（28ターラー）などを送付。
- △4月9日（3・10）ミュンヘンの図版製作者（植物描写石版師）S.ミンシングルがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。ドゥ・シャオウ（de Schux）がパリからシーボルト宛に書簡を送る。スタニスラス・ジュリアンがパリからシーボルト宛

に書簡を送る。

- * 4月11日（3・12）フランス代理公使がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月15日（3・16）スタニスラス・ジュリアンがパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月16日（3・17）スタニスラス・ジュリアンがパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月18日（3・19）フランスのレジョン・ドゥ・ヌール（L' Ordre royale de la Legion d'honneur）勲章勳五等の通知書を受ける。同日、レジョン・ドゥ・ヌール勲章記（印刷物）。
- * 同日、グアゲンギゲル博士（Dr. Ig. Guagengil）がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月23日（3・24）アドルフ・シェーファーがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月27日（3・28）スタニスラス・ジュリアンがパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月29日（3・30）スタニスラス・ジュリアンがパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月日付不詳、パリの王立図書館地理学部門管理部長エドム・フランソア・ジョマールに民族学博物館の設立を勧める。彼の願望がパリの出版社から『植民地を有するか、もしくは世界の他の部分と貿易関係を有するヨーロッパ諸国において民族学博物館の効用とその設立の重要性に関する書簡』（Lettre sur l' utilité des musée ethnographiques et sur l'important de leur création dans les états européens, qui possèdent des colonies, ou qui entrent en relations commerciales avec les autres parties du monde, à M.Edme-François Jomard, Conservateur Administrateur du Dépôt Géographique de la Bibliothèque Royale. [Datiert: Paris, April 1843.] Paris: B. Duprat 1843.22.S.,8^e）と題して発行（注：石山禎一編著『シーボルトの日本研究』29－44頁参照）。
- 4月日付不詳、マンハイムのザクセンのワイマール公国ベルナルド大公殿下宛に『NIPPON』第9から第12分冊の図表1枚（100フローリン）を送付。
- 4月日付不詳、パリのベンジャミン・デュプラ書店宛に、フランスの東洋学者スタ

ニスラス・ジュリアン（Stanislas Julien）宛引渡し『日本叢書』の内、第1冊『新增字林玉篇』、第2冊『和漢音釈書言字考』1部（106ターレル）を送付。

- * 5月1日（4・2）ウールリッチ＝アルベルティーネ（J. Ulrich & Albertine）商會がシーボルトに書簡送る。
- * 5月3日（4・4）アドルフ・シェーファーがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月4日（4・5）デ・ティール de Tir 協會がシーボルト宛に同協會の召集通知と書簡を送る。
- * 同日、ロッテルダムの船主・貿易商ホボーケン（A. v. Hoboken）がシーボルト宛に結婚通知（ホボーケンの娘の結婚通知）を送る。
- * 5月8日（4・9）ハインリッヒ・ロット（Heinrich Lotz）がバンベルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日、ライデンの王立植物標本館館長 C. L. ブルメがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月9日（4・10）モイラー（A. Moiller）がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月10日（4・11）リージュの園芸家ヤコブ・マッコイ（L. Jacob Makoy）宛に『日本植物誌』彩色版、第2巻、第1から第3分冊、1部（45フラン）。同書彩色版、第2巻、第4及び第5分冊、1部（80フラン）などを送付。
- * 5月12日（4・13）オランダ内務大臣（デ・コック）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月16日（4・17）ライデンにて、オランダ国王（ウィレム二世）宛の手紙を書く。
△同日、フランスの東洋学者スタニスラス・ジュリアンがパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月17日（4・18）ヴェッテベューン（F. J. Witteveen）がブリュッセル（Bruxelles）からシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月20日（4・21）ゲントのハーン・デ・ゴッテル（Haan de Gottel）宛に『日本植物誌』彩色版、第2巻、第1から第3分冊、同書黒色版、第2巻、第1及び第2分冊及び第1巻、1部（45フラン）。『日本旅行』（フランス語版）第5巻、第1から第12節、テキスト版第1及び5巻、1部（単価14フラン、総額168フラン）を送付。



〔図54〕シーボルトの「ひらがな」練習
(ボフム大学図書館所蔵 No: 1.292.000)

- 5月22日 (4・23) オランダ国王ウィレム・フレデリック拝謁に関する Ph. Fr.フォン・シーボルトに対する招待状がハーグから送られる。
- * 同日, 叔父ヨアヒム・ロッツがヴュルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月23日 (4・24) G.フォン・エストルフがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月25日 (4・26) アルベルティーネ・ノルテがライドシエンダム (Leidschendam) からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月26日 (4・27) ホウトコッパー (A. B. Houtkoper) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。母アポロニアがヴュルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月27日 (4・28) オランダ内務大臣デ・コックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月28日 (4・29) オランダの園芸家テル・ブルゲン (Ter Burggen) がユトレヒトからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 5月29日 (5・1) フランスの東洋学者スタニスラス・ジュリアンがパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日, ファン・アルフケーン (H. van Alfkeem) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日, F.レメリンがヴュルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

△6月3日（5・6）ミュンヘンの図版製作者（植物描写石版師）S.ミンシゲルがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。

△同日、フランスの東洋学者スタニスラス・ジュリアンがパリからシーボルト宛に書簡を送る。

*6月5日（5・8）G.フォン・エストルフがシュロート・ロー（Schloth Loo）からシーボルト宛に書簡を送る。

○6月6日（5・9）ブリュッセルの園芸家 Ph.ファン・デル・マーレン宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第12分冊、1部（300フローリン）。『日本植物誌』彩色版、第1巻、第1から第20分冊、1部（144フローリン）。『日本動物誌』爬虫類篇、1部（36フローリン）を送付。

*同日、E.メイヤー博士（Dr. E. Meyer）がケーニッヒベルク（Königsberg）からシーボルト宛に書簡を送る。

*6月10日（5・13）パリの王立図書館地理学部門管理部長エドム・フランソワ・ジョマールがパリからシーボルト宛に書簡を送る。

*6月13日（5・16）G.フォン・エストルフがシュロート・ローからシーボルト宛に書簡を送る。

*6月14日（5・17）元オランダ領東インド総督ファン・デル・カペレンがボーレンハウベンからシーボルト宛に書簡を送る。

△6月20日（5・23）フランスの東洋学者スタニスラス・ジュリアンがパリからシーボルト宛に書簡を送る。

*同日、叔父ヨアヒム・ロッツがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

*6月23日（5・26）コーニグスマルク（Königsmarck）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

○6月26日（5・29）ドイツ人化学者・植物学者のC. J.テキストールがフリーゲート船アンナ・エリザ号で長崎に着く。シーボルトの依頼により2カ月間に精力的に活動し、出島植物園の管理と数百種類の日本植物・種子を収集。これを11月初旬バタヴィアに戻る同船に積み込み発送する。

△6月27日（5・30）シャウムブルグ書店（Fr. Schaumburg & Comp）がウィーンからシーボルト宛に書簡と請求書を送る。

*6月30日（6・3）ハウトコッパー（A. B. Houtkoper）がハーグからシーボルト宛

に書簡を送る。

- 6月日付不詳, ユトレヒトのファン・デル・カペレン男爵閣下宛に『日本動物誌』魚類篇, 第1分冊, 1部 (15フローリン)。同書哺乳類篇, 第1分冊, 1部 (15フローリン)。『日本植物誌』彩色版, 第2巻, 第1から第3分冊, 1部 (21.60フローリン) を送付。
- 6月日付不詳, パリのファゲル男爵閣下宛に『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第1から第20分冊, 1部 (144フローリン)。同書彩色版, 第2巻, 第1から第3分冊, 1部 (21.60フローリン) を送付。
- △ 7月1日 (6・4) ミュンヘン大学植物学教授 J. G. ツッカーニ博士がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
 - * 同日, アルベルティーネ・ノルテがライドシェンダムからシーボルト宛に書簡を送る。
 - * 7月2日 (6・5) 母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
 - * 7月3日 (6・6) ジャワ植物園副・ドイツ人植物学者 J. K. ハッシカールがバイテンゾルフからシーボルト宛に書簡を送る。
 - * 7月7日 (6・10) パリの王立図書館地理学部門管理部長エドム・フランソア・ジヨマールがパリからシーボルト宛てに書簡を送る。
 - * 7月10日 (6・13) ボーデメイヤー (Bodemeyer) がゲッチェンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 7月12日 (6・15) ウィーンの Fr. シャウムブルグ社がウィーンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 7月13日 (6・16) オレンジ公国皇太子殿下宛に『NIPPON』2つ折本, 第1から第12分冊, 1部 (300フローリン)。『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第1から第20分冊, 1部 (144フローリン)。『日本動物誌』爬虫類篇, 1部 (36フローリン)。同書甲殻類篇, 第1から第5分冊, 1部 (60フローリン)。同書哺乳類篇, 第1分冊, 1部 (15フローリン)。同書魚類篇, 第2分冊, 1部 (15フローリン) を送付。
 - * 7月17日 (6・20) G. フォン・エステルフがシュロート・ロー (Schloth Loo) からシーボルト宛に書簡を送る。
 - * 7月18日 (6・21) 叔父ヨアヒム・ロッツがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

- 7月23日（6・26）ライデルドルブのシーボルト所有土地登記簿写し（証書）を受け取る。
- 7月26日（6・29）ライデンのアーント書店宛に『日本動物誌』魚類篇，第2分冊，25部（225フローリン）を送付。
- 同日，ライデンの動物学者ヘルマン・シュレーゲル宛に『日本動物誌』魚類篇，第2分冊（編集に対して100フローリン）を送付。
- *同日，オランダ大蔵省がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *7月28日（7・2）叔父ヨアヒム・ロッツがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *7月29日（7・3）A. B.ホウトコペルがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *同日，オランダ内務大臣がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *同日，叔父ヨアヒム・ロッツがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 8月2日（7・7）草稿『オランダ領東インド総督府命令書抜粋』（蘭文）を執筆。
- *8月4日（7・9）パンドラン？（Pandorin）がフォールブルグ（Voorburg）からシーボルト宛に書簡を送る。
- *8月7日（7・12）叔父ヨアヒム・ロッツがキッチンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *8月12日（7・17）オランダ大蔵省がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- △8月13日（7・18）ミュンヘンの図版製作者（植物描写石版師）S. ミンシゲルがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *8月23日（7・28）G. フォン・エストルフがシュロート・ローからシーボルト宛に書簡を送る。
- *同日，母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *同日，叔父ヨアヒム・ロッツがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *8月日付不詳，ロシア公邸の料亭がキッシンゲンからシーボルト宛に請求書を送る。
- *9月3日（8・10）トゥシン（Tussin）がオステンド（Ostende）からシーボルト宛に書簡を送る。
- 9月8日（8・15）パリのベンジャミン・デュプラ社宛に『日本叢書』の内，第2冊『和漢音釈書言字考』，2部（114ターラー）。同書第3冊『千字文』（翻訳），3部（価格未記入）。『NIPPON』2つ折本，第1分冊，テキスト版，1部（価格未記

入)及び図版1. b (「平戸オランダ人の商館」) 1枚 (価格未記入)。『NIPPON』2つ折本, 第5分冊, テキスト版, 1部及び図版XIII (「下関」) 1枚, XVI (「ファン・デル・カペレン海峡」), XVII (「陸の風景: 山の輪郭・参府旅行の途上・下関付近など」) 1枚 (価格未記入)。「海図及び陸図」第1~4部, 1枚 (11ターラー)。「原地図と日本人の天文学的観察による日本国の地図」10枚 (50ターラー)。パリのテルノー・コンパン (Ternaux Compans) 宛引渡しの, 同上「日本国の地図」1枚 (価格未記入) 及び『NIPPON』4つ折本, 第1から第12分冊, 1部 (価格未記入)。パリのアンドレ・ドゥ・プレアン (Andrè du Prean te Parijs) 宛引渡しの『NIPPON』2つ折本, 第5から第12分冊, 1部 (価格未記入)。「石版画包装」2包 (価格未記入)。『日本の書籍』関係 (3,000フラン) など送付。

* 9月17日 (8・24) 母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 10月12日 (9・19) スタニスラス・ジュリアンがパリからシーボルト宛に書簡を送る。

○10月中旬頃までに、『日本動物誌』魚類編, 第2分冊を出版。

* 10月18日 (9・25) 叔父ヨアヒム・ロットがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 10月24日 (閏9・2) ライデン大学教授カスパー・ゲオルグ・カール・ラインワルトがシーボルト宛に書簡を送る。マールブルグ大学およびゲッチンゲン大学医学部教授エドアード・フォン・シーボルトがゲッチンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。

○10月26日 (閏9・4) ユトレヒトのファン・デル・カペレン男爵閣下宛に『日本動物誌』魚類篇, 第2分冊, 1部 (15フローリン)。

○同日, ザクセンのマイニンゲン公国大公伯爵殿下宛に『日本植物誌』彩色版, 第2巻, 第1から第3分冊, 1部 (21.30フローリン)。『日本動物誌』哺乳類篇, 第1分冊, 1部 (15フローリン)。同書魚類篇, 第1及び第2分冊, 1部 (30フローリン)。『日本叢書』の内, 第2冊『和漢音積書言字考』1部 (100フローリン) などを送付。

* 10月31日 (閏9・9) オランダ植民大臣パウト (J. C. Baud) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 11月3日 (閏9・12) シーボルトが日本への使節の派遣準備を担当していた時, オ

ランダ植民大臣（J. C.バウト）がハーグからシーボルト宛に、日本での経験、その国に関する科学的な長期にわたる研究成果についての感謝の意を表わす書簡を送る。

（注：横山伊徳『幕末維新と外交』吉川弘文館 2001年所収のマクリーン著の訳文「シーボルトと日本の開国」1843-1866 55-56頁参照）。

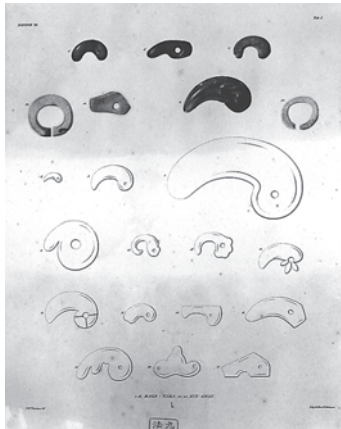
- *11月4日（閏9・13）元オランダ領東インド総督ファン・デル・カペレンがゾーレンハウエン（Sollenhouen）からシーボルト宛の書簡を送る。
- *11月6日（閏9・15）G.フォン・エストルフがパレイス・ノールド・アインデ（Paleys Noord Einde）からシーボルト宛に書簡を送る。
- 11月7日（閏9・16）ライデンのアーント商会宛に『日本動物誌』魚類篇、第3分冊、25部（225フローリン）を送付。
- 同日、ライデンの動物学者ヘルマン・シュレーゲル宛に『日本動物誌』魚類篇、第3分冊（編集に対して100フローリン）を発送。
- 11月15日（閏9・24）ライデンにて、オランダ植民大臣（J. C.バウト）宛の手紙を書く。
- *11月19日（閏9・28）オランダ植民大臣 J. C.バウトがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月23日（10・2）オランダ植民大臣（J. C.バウト）がハーグからシーボルト宛に書簡（秘密文書）を送る。
- *11月24日（10・3）元オランダ領東インド総督ファン・デル・カペレンがゾーレンハウエンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月26日（10・5）ウンヴェルリヒト（C. Unverricht）がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 11月29日（10・8）草稿『オリーブ樹栽培に関する簡単な覚え』を執筆。
- 11月日付不詳、オランダ植林地省より日本政府に宛て、国際状況についての親書を書くよう依頼される。
- *12月1日（10・10）デ・フエツ？（de Huez）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月3日（10・12）デ・フエツ？がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 12月6日（10・15）ライデンにて、「贈呈書籍に関する控え」（書簡下書き）を書く。
- △同日、微細画家・石版師ハイデマン（H.Ph.Heidemann シーボルト『NIPPON』図

版担当)がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。伯父ヨアヒム・ロツクがヴェルトブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

*12月7日(10・16)時計職人ヨーゼフ・ボッシュレ(Joseph Boschle)がシーボルト宛に請求書を送る。

△同日、微細画家・図版製作者 H. Ph.ハイデマンがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

*同日、デ・フェツ?がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。



〔図55〕ハイデマン石版画「勾玉・金環」
(『NIPPON』九州大学付属図書館医学分館所蔵)

*12月8日(10・17)微細画家・石版師 H. Ph.ハイデマンがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

*12月9日(10・18)デ・フェツ?(de Huez)がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

*12月12日(10・21)デ・フェツ?がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

△12月14日(10・23)微細画家・石版師 H.Ph.ハイデマンがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

*12月15日(10・24)ライデンの王立自然史博物館管理官 J. A.スザンナがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。

- 12月中旬頃までに、『日本動物誌』魚類篇，第3分冊，第4分冊を出版。
- 12月16日（10・25）ライデンにて，オランダ植民大臣（J. C.バウト）宛の手紙を書く。
- 12月20日（10・29）ザクセンのマイニンゲン公国大公伯爵殿下宛に『日本動物誌』魚類篇，第3分冊，1部（15フローリン）を送付。
- *同日，ヴェンケバッハ（E. Wenckebach）がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月21日（11・1）ユステーネ・フォルスター（Justine Forster シーボルトの姪）がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 12月23日（11・3）ライデンのアーント書店宛に『日本動物誌』魚類篇，第4分冊，25部（225フローリン）を送付。
- 同日，ライデンの動物学者ヘルマン・シュレーゲル宛に『日本動物誌』魚類篇，第4分冊（編集に対して100フローリン）を送付。
- *同日，デ・フェツ？がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月28日（11・8）元出島オランダ商館員フェルケルク・ピストリウス（W. Verkerk Pistorius）がアーヘン（Arnhem）からシーボルト宛に書簡を送る。
- △12月31日（11・11）ヘンリー＝コーエン社（書籍・出版業）がボンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 12月日付不詳，ライデンのC. C.ファン・デル・フーク書店宛に『日本植物誌』彩色版，第2巻，第1から第3分冊，1部（16.20フローリン）を送付。
- 月日不詳，ライプツィヒのレオポルド・フォス書店宛に『日本植物誌』彩色版，第2巻，第4及び第5分冊，25部。同書黒色版，第2巻，第4及び第5分冊，1部などを送付。
- *月日不詳，マルシリン・ドゥ・フレスネ（Marcillin de Fresne）がアルクマール（Alcmaar）からシーボルト宛に書簡を送る。
- △月日不詳，『Ph. Fr.フォン・シーボルトとJ. G.ツッカーニーの刊行せる日本で，Ph. Fr.フォン・シーボルトの収集せる植物の新属，その植物の特色を示す注解とスケッチの挿絵入り』を「王立バイエルン科学アカデミーの数学物理部門論文集」ミュンヘン，巻3に掲載。
- △月日不詳，『1639年にオランダの航海者による小笠原諸島発見に関する重要記録』

を「航海と地理学史」バリ、巻98（第4系列巻2）に掲載。

○ミュンヘン所在、バイエルン自然科学アカデミー外国会員。

◇佐藤泰然が佐倉に順天堂を開く。

1844年（弘化元年） 48歳

○1月1日（11・12）オランダ植民地省宛に『日本植物誌』彩色版、第1巻、第1から第20分冊、1部（144フローリン）。『日本動物誌』爬虫類篇、第1～3分冊、1部（36フローリン）。同書甲殻類篇、第1から第6分冊、1部（84フローリン）。同書魚類篇、第1から第4分冊、1部（45フローリン）。同書哺乳類篇、第1から第3分冊、1部（45フローリン）を送付。

*1月3日（11・14）元出島オランダ商館員 P. W.フェルケルク・ピストリウスがアーンヘムからシーボルト宛に書簡を送る。

○1月7日（11・18）オレンジ公国皇太子殿下宛に『日本植物誌』彩色版、第1巻、第1から第3分冊、1部（21.60フローリン）。『日本動物誌』魚類篇、第3及び第4分冊、1部（30フローリン）を送付。

*同日、元出島オランダ商館長ニーマン（J. E. Nieman）がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。

*1月9日（11・20）E.ヴェンケバッハがロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。

*1月10日（11・21）叔父ヨアヒム・ロッツがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。元出島オランダ商館員 P. W.フェルケルク・ピストリウスがアーンヘムからシーボルト宛に書簡を送る。

*1月11日（11・22）ヒュルスト・ファン・ケウレン（Hulst van Keulen）出版社社長 J.スワルト（J. Swart）がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。

*1月14日（11・25）マイニンゲン図書館館長・童話収集家ルートヴィッヒ・ベヒシュタインがマイニンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。

○1月15日（11・26）ハーレムのオランダ教育・芸術・科学局長 D. J.ファン・エウイック宛に『NIPPON』4つ折本、第13及び14分冊、1部（30フローリン）を送付。

*1月16日（11・27）E.ヴェンケバッハがアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。

- * 1月21日 (12・2) デ・フェツ?がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月22日 (12・3) E.ヴェンケバッハがロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日, 図書館司書ホルドツイーケ? (Hoordzieke) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月23日 (12・4) コルネット・デ・フロート (Cornet Groot) 男爵 (後に植民大臣) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。デ・フェツ?がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月26日 (12・7) 元出島オランダ商館員 P. W.フェルケルク・ピストリウスがアーンヘムからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 1月27日 (12・8) G.ヒュルスト・ファン・ケウレン書店社社長 J.スワルトがアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日, スタニスラス・ジュリアンがパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日, オランダ植民大臣 (J. C.バウト) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 1月28日 (12・9) オランダ植民地省宛に『日本動物誌』魚類篇, 第2から第4分冊 (単価15フローリン: 2部90フローリン)。『植民地を有するか, もしくは世界の他の部分と貿易関係を有するヨーロッパ諸国において民族学博物館の効用とその設立の重要性に関する王立学士院会員・フランス王立図書館地理局管理官エドム・フランソワ・ジョマール宛の書簡』6部 (価格未記入) を送付。
- 1月日付不詳, ライデンの C. C.ファン・デル・フーク書店宛に『日本叢書』第3冊『千字文』2部 (22.50フローリン) を送付。
- * 2月3日 (12・15) コルネット・デ・フロート男爵 (のちに植民大臣) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 2月4日 (12・16) アムステルダムのヨハネス・ミュレル書店宛に『日本動物誌』魚類篇, 第1から第4分冊, 1部 (価格未記入)。同書哺乳類篇, 第1分冊, 1部 (56.25フローリン) を送付。
- * 2月5日 (12・17) ヤーゲル博士 (Dr. P. Jager) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 2月8日 (12・20) 微細画家・石版師 H. Ph.ハイデマン (シーボルト『NIPPON』図版担当) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。オランダの貴族院議員シユル

ツがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

△ 2月9日 (12・21) ヘンリー＝コーエン社がボンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 2月12日 (12・24) コルネット・デ・フロート男爵 (のちに植民大臣) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 2月14日 (12・26) 母アポロニアがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 同日, O. A. ウーレンベク (O. A. Uhlenbek) がデルフト (Delft) からシーボルト宛に書簡を送る。

○ 2月15日 (12・27) 日本へ開国勧告のオランダ国王親書を起草。

* 同日, フィリップ・フランツ・リーブラー (Philipp Franz Liebler) がカツェンバッハ (Katzenbach) からシーボルト宛に書簡を送る。

* 同日, 元出島オランダ商館員 P. W. フェルケルク・ピストリウスがアーンヘムからシーボルト宛に書簡を送る。

○ 2月中旬頃までに、『NIPPON』第13及び第14分冊の合併号 (第Ⅲ章と第Ⅴ章神話・歴史) を出版。

○ 同じく、『日本動物誌』甲殻類篇, 第6及び第7分冊 図版38.43~46.48.51~I-N) 出版。

(注: L. B. Holthuis/酒井恒『シーボルトと日本動物誌』[263頁]によれば, 甲殻類篇第6, 7分冊の発行年が2つにまたがっているのは, 著者デ・ハーンが1841年に病に倒れ, 1849年まではこの書の仕事につけなかったことによる。図版の方は1844年に完成していたので, 記載なしに先に発行し, デ・ハーンが恢復して記載を完了したので1849年に刊行されたのである)。

* 2月16日 (12・28) デ・フェツ?がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

△ 2月17日 (12・29) G. ヒュルスト・ファン・ケウレン書店および同書店社長 J. B. スワルト (Swart) がアムステルダムからシーボルト宛に請求書3点 (金額6.50フローリン, 48.50フローリン, 6.50フローリン) と書簡を送る。

△ 同日, 庭師 A. ハクビイルとシーボルトがロンドンのブラック＝アームストロング (Black & Armstrong) 社宛に手形証書を送る。

○ 2月18日 (12・30) アムステルダムのヨハネス・ミュレル書店宛に『NIPPON』2つ折り本, 第13及び第14分冊, 3部 (112.50フローリン)。同書4つ折本, 第13及び第14分冊, 1部 (22.50フローリン) を送付。

- 2月19日（1・2）ライデンのC. C.ファン・デル・フーク書店宛に『NIPPON』2つ折本，第13及び第14分冊，4部（140フローリン）。同書4つ折本，第13及び第14分冊，4部（84フローリン）を送付。
- * 2月20日（1・3）デ・フェツ？がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 2月21日（1・4）オランダ内務省宛に『日本動物誌』魚類篇，第2及び第4分冊，10部（450フローリン）。同書甲殻類篇，第4分冊，10部（120フローリン）。『NIPPON』2つ折本，第13及び第14分冊，5部（250フローリン）。同書4つ折本，第13及び第14分冊，5部（150フローリン）。『日本動物誌』甲殻類篇，第6分冊，10部（120フローリン）などを送付。
- * 2月21日（1・4）デ・フェツ？がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日，ヴェンケバッハ（W. Wenckebach）がブレダ（Breda）からシーボルト宛に書簡と気象学関係の資料を送る。
- 2月23日（1・6）ライデンにて，オランダ外務省宛の手紙（地図・書籍・器具類価格表等）を書く。
- 同日，オランダ植民地省宛に『日本動物誌』甲殻類篇，第6分冊，2部（24フローリン）。『NIPPON』2つ折本，第13及び第14分冊，3部（150フローリン）。『日本動物誌』甲殻類篇，第7分冊，2部（24フローリン）を送付。
- * 同日，パリの王立図書館地理学部門管理部長エドム・フランソワ・ジョマールがパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月24日（1・7）マイニンゲン図書館館長・童話収集家ルートヴィッヒ・ベヒシュタインがマイニンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月29日（1・12）元出島オランダ商館員P. W.フェルケルク・ピストリウスがアーンヘムからシーボルト宛に書簡を送る。
- 2月日付不詳，ハーレムのH.ロースジェス公宛に『NIPPON』2つ折本，第13及び第14分冊，1部（37.50フローリン）を送付。
- 2月日付不詳，ドイツ人化学者・植物学者で出島商館職員C. J.テキストールが商館長P. A.ビッグの書記役として江戸参府に加わり，シーボルトから依頼の各地産業および商品の調査研究，収集に努める。
- 3月1日（1・13）アムステルダムのアレンツエニウス博士宛に『NIPPON』2つ折本，第13及び第14分冊，1部（30フローリン）。『日本旅行』（フランス語版）第

2巻, 第2節, 1部(贈呈)を送付。

- 3月3日(1・15)ライプツィヒのフリードリッヒ・フライシャー書店宛に『NIPPON』2つ折本, 第13及び第14分冊, 1部(30フローリン)を送付。
- 3月5日(1・17)ブリュッセルの園芸家 Ph.ファン・デル・マーレン宛に『NIPPON』2つ折本, 第13及び第14分冊, 1部(30フローリン)を送付。
- *同日, O. A.ウーレンバクがデルフトからシーボルト宛に書簡を送る。
- 3月6日(1・18)ライデンの C. C.ファン・デル・フーク書店宛に『日本植物誌』彩色版, 第1巻, 第14から第20分冊, 1部, 同書彩色版, 第2巻, 第1から第3分冊, 1部(合せて総額54フローリン)を送付。
- 3月8日(1・20)ザクセンのマイニンゲン公国大公爵殿下宛に『日本動物誌』魚類篇, 第4分冊, 1部(15フローリン)。『NIPPON』2つ折本, 第13及び第14分冊, 1部(50フローリン)を送付。
- 同日, サンクト・ペテルブルグのストロガノフ大公伯爵宛に『NIPPON』2つ折本, 第13及び第14分冊, 1部(100ルーブル)。『日本旅行』(フランス語版)第5巻, 第2節, 1部(贈呈)を送付。
- *3月14日(1・26)叔父ヨアヒム・ロッツがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *3月17日(1・29)ウィルヘルミーネ・フォン・ガーゲルン(シーボルトの義弟)がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *3月27日(2・9)元オランダ領東インド総督ファン・デル・カペレンがパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- 3月下旬頃までに, 『日本動物誌』魚類篇, 第5分冊を出版。
- 3月日付不詳, ハーグの F. G.ヘルマン・ファン・リンデン宛に『NIPPON』4つ折り本, 第13~14分冊, 1部: 販売価格未記入を送付。
- 3月日付不詳, ライデンの王立自然史博物館館長・動物学者 C. J.テンミンク宛に『NIPPON』2つ折本, 第13及び第14分冊, 1部(30フローリン)を送付。
- 3月日付不詳, ライデンの C.G.K.ラインワルト教授宛に『NIPPON』2つ折本, 第13及び第14分冊, 1部(30フローリン)を送付。
- 4月3日(2・16)オレンジ公国皇太子殿下宛に『NIPPON』2つ折本, 第13及び第14分冊, 1部(30フローリン)。『日本動物誌』魚類篇, 第5分冊, 1部(15フ

ローリン)。同書哺乳類篇，第2分冊，1部（15フローリン）などを送付。

- * 4月4日（2・17）ドゥ・ウオトレポント（d' Outrepont）がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月10日（2・23）ドイツ人植物学者J. K.ハッシカールがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月12日（2・25）叔父ヨアヒム・ロッツがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- ◇ 4月13日（2・26）間宮林蔵没する（享年69歳）。
- * 4月14日（2・27）オランダ陸軍司令部査察官ベルナルド（J. C. B. Bernard）がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月16日（2・29）ライデンのアーンツ書店宛に『日本動物誌』魚類篇，第5分冊，25部（225フローリン）。同書哺乳類篇，第2分冊，25部（225フローリン）を送付。
- 同日，ライデンの動物学者ヘルマン・シュレーゲル宛に『日本動物誌』魚類篇，第5分冊（編集に対して100フローリン）。同書哺乳類篇，第2分冊（編集に対して100フローリン）を送付。
- * 同日，元出島オランダ商館員P. W.フェルケルク・ピストリウスがアーンヘムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月17日（2・30）ドイツ人植物学者J. K.ハッシカールがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月20日（3・3）元出島オランダ商館員P. W.フェルケルク・ピストリウスがアーンヘムからシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月21日（3・4）ベルギー国王陛下王室文庫（文庫長シーグム博士 Dr. Seegm）宛に『日本植物誌』彩色版，第1巻，第3から第20分冊及び同書彩色版，第2巻，第1から第3分冊，1部（128フローリン）を送付。
- * 4月26日（3・9）オランダ貿易会社がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。ドイツ人植物学者J. K.ハッシカールがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月28日（3・11）ユトレヒトのファン・デル・カペレン男爵閣下宛に『NIPPON』2つ折本，第13及び第14分冊，1部（50フローリン）。『日本動物誌』哺乳類篇，第2分冊，1部（15フローリン）。同書魚類篇，第3から第5分冊，1部（45フロー

リン)を送付。

- * 4月29日(3・12)オランダ植民大臣(J. C.バウト)がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月2日(3・15)ライデンにて、元オランダ領東インド総督ファン・デル・カペレン宛の手紙を書く。
- * 5月3日(3・16)ファン・グリンズヴェン(van Grinsven)がボッシュ(Bosch)からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月4日(3・17)叔父ヨアヒム・ロッツがキッシンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月6日(3・19)、ライデンのC. C.ファン・デル・フーク書店宛に『日本植物誌』彩色版、第1巻、第14及び第15分冊、1部、同書彩色版、第1巻、第1から第23分冊(第1巻:第1から第20分冊、第2巻:第1から第3分冊まで)の綴本、1部など(合せて総額72.90フローリン)を送付。
- 5月8日(3・21)ザクセンのマイニンゲン公国大公伯爵殿下宛に『日本動物誌』魚類篇、第5分冊、1部(15フローリン)。同書哺乳類篇、第2分冊、1部(15フローリン)fl.などを送付。
- 同日、アムステルダムのヨハネス・ミュレル書店宛に『日本動物誌』哺乳類篇、第2分冊、1部及び魚類篇、第5分冊、1部(哺乳類篇を含めて総額22.50フローリン)を送付。
- * 5月10日(3・23)元出島オランダ商館員P. W.フェルケルク・ピストリウスがアーンヘムからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月12日(3・25)サンクト・ペテルブルグのスティエグリッツ商会を通して、ロシア宰相ネッセルローデ伯爵宛に『NIPPON』2つ折本、第13及び第14分冊、10部(1,000ルーブル)。『日本動物誌』魚類篇、第1から第5分冊、彩色版、10部(1,500ルーブル)。同書哺乳類篇、第1及び第2分冊、彩色版、10部(600ルーブル)。『日本植物誌』彩色版、第2巻、第1及び第3分冊(単価15ルーブル:5部225ルーブル)。同書黒色版、第2巻、第1及び第3分冊、5部(120ルーブル)。『日本叢書』の内、第3冊『千字文』10部(贈呈)。『W. H. ドゥ・フリーゼの論文、貿易用(しきみ)の植物学的起源に関し Ph. Fr. フォン・シーボルト博士と J. G. ツッカーリーニ教授に対抗して支持されているケンペル、ツェンベリーとリンネその他の権

威に対する〔フォン・シーボルトの〕回答』ライデン、著者のもとで、ライプツィヒ、L.フォス社、1837年、19頁、4つ折り本、2部（贈呈）などを送付。

- 同日、スウェーデン国王陛下宛に『NIPPON』2つ折本、第13及び第14分冊、1部（100ルーブル）。『日本植物誌』彩色版、第2巻、第1から第3分冊、1部（45ルーブル）。『日本動物誌』魚類篇、第1から第5分冊、1部（150ルーブル）。同書哺乳類篇、第1及び第2分冊、1部（60ルーブル）銀貨などを送付。
- 5月15日（3・28）ベルリンのプロシア王国教育医学省宛に『NIPPON』2つ折本、第13及び第14分冊、11部（308ターラー）。『植民地を有するか、もしくは世界の他の部分と貿易関係を有するヨーロッパ諸国において民族学博物館の効用とその設立の重要性に関する王立学士院会員、フランス王立図書館地理局管理官エドム・フランソワ・ジョマール宛の書簡』パリ、1843年4月、パリ、B.デュプラ社、1843年、22頁、8つ折り本、3部（贈呈）を送付。
- 同日、ライプツィヒのフリードリッヒ・フライシャー書店宛に『NIPPON』2つ折本、第13及び第14分冊、29部、3月3日の分を含めて、販売価格（504ターラー）。同書4つ折り本、第13及び第14分冊、29部（306ターラー）を送付。
- 5月16日（3・29）トゥルム＝タクシス領公爵殿下宛に『NIPPON』2つ折本、第13及び第14分冊、1部（50フラン）を送付。
- * 5月24日（4・8）ファン・デル・ヴェス（H. T. J. van der Vess）がボツシュからシーボルト宛に書簡を送る。コルネット・デ・フロート男爵（のちに植民大臣就任）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月日付不詳、マンハイムのザクセンのワイマール公国ベルナルド大公伯爵殿下宛に『NIPPON』2つ折本、第9から第14分冊、1部（150フローリン）。同書2つ折本、第6から第8分冊、1部（75フローリン）を送付。
- * 6月6日（4・21）T.カイザー（T. Kaiser）がシーボルト宛に書簡を送る。
- △6月7日（4・22）微細画家・石版師H. Ph.ハイデマン（シーボルト『NIPPON』図版担当）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 6月8日（4・23）オランダ植民大臣（J. C.バウト）宛の手紙とライデンの国立植物標本館館長C. L.ブルーメ宛の手紙を書く。
- △6月14日（4・29）Fr.フライシャー書店がライプツィヒから書簡と請求書を送る。

- * 同日、アルベルティーネ・ノルテがパラマリボ (Paramaribo) からシーボルト宛に書簡を送る。
- 6月16日 (5・1) オランダ植民地省宛に『日本動物誌』魚類篇, 第5分冊, 2部 (30フローリン)。同書哺乳類篇, 第2分冊, 2部 (30フローリン) を送付。
- 同日、ライデンにて、元出島オランダ商館員でジャワの栽培園所有者 H.ビュルゲル宛の手紙を書く。
- * 6月18日 (5・3) ウェーケレム? (Weekerem) がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 6月19日 (5・4) Fr.フライシャー書店がライプツイッヒからシーボルト宛に書簡と請求書を送る。
- * 7月1日 (5・16) ライデンの王立自然史博物館館長 C. J. テミンクがライデンからシーボルト宛に受領証を送る。
- △ 7月8日 (5・23) ミュンヘンの図版製作者 (植物描写石版師) の S. ミンシングルがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 7月10日 (5・25) ライデンにて、ライデンの王立自然史博物館管理官・動物学者 H. シュレーゲル宛に書簡を送る (注: 前掲書『新・シーボルト研究』I, 240頁参照)。
- 7月12日 (5・27) パリのベンジャミン・デュブラ書店宛に『NIPPON』2つ折本, 第13及び第14分冊, 1部 (28ターラー)。同書4つ折り本, 第13及び第14分冊, 3部 (51ターラー) (総額79ターラー: 35%割引で27.12ターラー, 差し引きで51.12ターラー) を送付。
- 7月13日 (5・28) パリの大砲隊陸軍中佐アルフレッド・ドゥ・ルージュモン宛に、パリのベンジャミン・デュブラ社を通して『NIPPON』2つ折本, 第13及び第14分冊, 1部 (100フラン) を送付。
- 同日、フランス国王陛下宛に『NIPPON』2つ折本, 第13及び第14分冊, 1部 (100フラン)。パリのファゲル男爵を通して送付。
- 同日、デンマーク国王陛下宛に『NIPPON』2つ折り本, 第13及び第14分冊, 1部 (50フローリン)。『日本植物誌』彩色版, 第2巻, 第1から第3分冊, 1部 (21.60フローリン)。『日本動物誌』魚類篇, 第1から第5分冊, 1部 (75フローリン)。同書哺乳類篇, 第1及び第2分冊, 1部 (30フローリン) などを送付。
- * 7月15日 (6・1) スタニスラス・ジュリアンがパリからシーボルト宛に書簡を送る。

- * 7月17日（6・3）ドイツ人植物学者J. K.ハッシカールがデュッセルドルフからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月24日（6・10）オランダ植民地省がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月26日（6・12）オーベルクリフト商会（Overklift & Co）がブリュッセルからシーボルト宛に両替証を送る。
- * 7月28日（6・14）アルベルティーネ・ノルテがパラマリボからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月29日（6・15）時計職人ヨーゼフ・ボッシュレ（Joseph Boschle）がヴェルツブルグからシーボルト宛に請求書を送る。
- * 8月1日（6・18）ヴェルツブルグ大学医学部学生レール（J. Löhr）がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月3日（6・20）ハーグのナフィス・ファン・ブルヘスト男爵（Nahuijs van Burgst）がブレダ（Breda）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月7日（6・24）Fr.フライシャー書店がライプツイッヒから書簡を送る。
- * 8月10日（6・27）ヴェルツブルグ出身のヴィットマン（Wittman）がヴェルツブルグからシーボルト宛に願書を送る。
- * 8月13日（6・30）ユステイーネ・フォルスター（シーボルトの姪）がバンベルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- ◇ 8月15日（7・2）フリーゲート艦パレムバン（Palembang）号長崎入港，ウイレム二世の特使コープス6日後に上陸。親書は出島オランダ商館長ピーテル・アルベルト・ビックにより長崎奉行に手渡される。
- * 同日，ハーグのナフィス・ファン・ブルヘスト男爵（Nahuijs van Burgst）がブレダからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月21日（7・8）フォン・モール（J.von Mohr）がヴェルツブルグからシーボルト宛に請求書を送る。
- * 8月22日（7・9）ドイツ・ツウム・ホテル（Hotels zum Deutsche）がヴェルツブルグからシーボルト宛に請求書を送る。
- * 8月23日（7・10）肉屋フランツ・バーダー（Franz Bader）がシーボルト宛に領収書を送る。F.レムレインがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月26日（7・13）フランクフルト・アム・マイン・ゼンケンベルグ研究所教授 Ph.

ヤコブ・クレッチマーがフランクフルトからシーボルト宛に書簡を送る。

* 8月28日(7・15) 叔父ヨアヒム・ロッツがヴュルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 8月29日(7・16) プロイセン王国教育医学省所属ラーデンベルグ(Ladenberg)がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 8月31日(7・18) 園芸家L.ストリイボッシュがボッシュからシーボルト宛に書簡を送る。

* 8月日付不詳, ロシア王室の料亭(Gasthof zum russischen Hof)がキッシンゲンからシーボルト宛に請求書を送る。

◇ 8月日付不詳, ユトレヒトにて, 日本植物の販売と展示会開催。

○ 8月下旬から9月中旬頃までに, 『日本植物誌』彩色版及び黒色版, 第2巻, 第4及び第5分冊を出版。

* 9月3日(7・21) オランダ内務大臣H.メルキュース・デ・コック男爵(H. Merkus de Kock)がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

△ 9月6日(7・24) ヒュルスト・ファン・ケウレン書店(Hulst van Keulen)のレベルト(C.H.Lever)がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。

○ 9月9日(7・27) サンクト・ペテルブルグのステイーグリッツ商会を通して, スウエーデン国王陛下宛に「書籍価格669.71フローリンの請求書」を送る。

○ 同日, バイエルン国王陛下宛に『NIPPON』2つ折り本, 第1から第8分冊, 1部(価格未記入)を送付。

△ 9月12日(8・1) ヘンリー=コーエン社(書籍・出版業)がボンから書簡と請求書を送る。

○ 9月中旬頃までに, 『日本動物誌』哺乳類篇, 第3分冊を出版。

○ 9月16日(8・5) アムステルダムのヨハネス・ミュレル書店宛に『日本植物誌』彩色版, 第2巻, 第4及び第5分冊, 20部(216フローリン)。同書黒色版, 第2巻, 第4及び第5分冊, 1部(2.90フローリン)を送付。

* 同日, ミュレル(Müller)がフランクフルトからシーボルト宛に書簡を送る。

○ 9月18日(8・7) ライデンのアーントツ書店宛に『日本動物誌』哺乳類篇, 第3分冊, 25部(225フローリン)を送付。

○ 同日, ライデンの動物学者ヘルマン・シュレーゲル宛に『日本動物誌』哺乳類篇,

第3分冊（編集に対して100フローリン）を送付。

- 9月22日（8・11）オランダ植民地省宛に『日本植物誌』彩色版，第2巻，第4及び第5分冊，2部（28.80フローリン）。『日本動物誌』哺乳類篇，第3分冊，1部（30フローリン）を送付。
- 9月23日（8・12）ライデンのC. C.ファン・デル・フーク書店宛に『日本植物誌』彩色版，第2巻，第4及び第5分冊，3部，同書黒色版，第4及び第5分冊，2部，彩色版，黒色版を合せて48.60フローリンなどを送付。
- 同日，アムステルダムのヨハネス・ミュレル書店宛に『日本動物誌』哺乳類篇，第3分冊，1部（11.25フローリン）を送付。
- *同日，G.フォン・エストルフがシュロス・ヴェールセン？（Schloth Veersen）からシーボルト宛に書簡を送る。
- 9月25日（8・14）ライデンのC.G.K.ラインワルト教授宛に『日本植物誌』彩色版，第2巻，第4及び第5分冊，1部（14.40フローリン）を送付。
- △9月27日（8・16）ブラック＝アームストロング書店（Black & Armstrong）がロンドンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月7日（8・26）オランダの貴族院議員シュルツがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月10日（8・29）ウィルヘルミーネ・フォン・ガーゲルン（シーボルトの義弟）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月12日（9・1）ドイツ人植物学者J. K.ハッシカールがデュッセルドルフからシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月13日（9・2）ベルリン自然史博物館館長・動物学者マルティン・ハインリッヒ・カール・リヒテンシュタインがベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月15日（9・4）オランダ王子ヘンドリック（Prinz Hendrik）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 10月中旬頃までに、『日本動物誌』魚類篇の第6分冊を出版。
- △10月16日（9・5）Fr.フライシャー書店がライプツイッヒからシーボルト宛に書簡を送る。
- 10月18日（9・7）ライデンのアーント書店宛に『日本動物誌』魚類篇，第6分冊，25部（225フローリン）を送付。

- 同日、ライデンの動物学者ヘルマン・シュレーゲル宛に『日本動物誌』魚類篇、第6分冊（編集に対して100フローリン）を送付。
- *10月27日（9・16）ロッテルダムの船主・貿易商 A.ファン・ホボーケンがロッテルダムからフローウェ・トゥヴィス（G. W. Vrouwe Twiss）の死亡広告についてシーボルト宛に送る。
- 10月31日（9・20）ライデンにて、ロッテルダムの船主・貿易商 A.ファン・ホボーケン宛の手紙（フローウェ・G. W.トゥヴィスの死亡広告に対する返書）を書く。
- *11月4日（9・24）ドイツ人植物学者 J. K.ハッシカールがデュッセルドルフ（Düsseldorf）からシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月15日（10・6）元オランダ領東インド総督ファン・デル・カペレンがゾーレンホウエンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月19日（10・10）ユステーネ・フォルステル（シーボルトの姪）がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月25日（10・16）元オランダ領東インド政庁の医師エイシンガー（G. Eisinger）がファルダイク（Valdyk）からシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月30日（10・21）ドイツ人植物学者 J. K.ハッシカールがデュッセルドルフからシーボルト宛に書簡を送る。
- 11月日付不詳、オランダ内務省宛に『日本動物誌』魚類篇、第5及び第6分冊、10部（300フローリン）を送付。
- 12月2日（10・24）ライデンのアーンツ書店宛に『日本動物誌』魚類篇、第1及び第6分冊、1部（54フローリン）。同書哺乳類篇、第1～3分冊、1部（27フローリン）を送付。
- 12月初旬までに、『日本動物誌』哺乳類篇、第2分冊（本文24～40頁、図版11～20）、同書第3分冊（海獣の部：本文1～24頁、図版21～30）出版。第4分冊（本文41～59頁）の出版年代は、1844年12月、1847年の両説があるが不明。これに関しては、以下の注に簡単に触れる（注：L. B. Holthuis／酒井恒『シーボルトと日本動物誌』〔263頁〕によれば、第2、第3分冊は1844年12月18日、第4分冊は12月発行とあるが、これは明らかに第2分冊か、第3分冊の一部と考えられる〔264頁〕と述べている。シーボルト自筆の『購読者名簿と書籍販売帳』〈ボフム大学図書館所蔵 No：1.557.000〉には、下記で示した日付12月7日に第2～3分冊配本とあるので、12

月初旬にはすでに出版されていたものと推定したい。第4分冊の出版については、このシーボルト自筆の販売帳には見られない。なお、『江崎悌三著作集』〔236頁〕には、第2分冊の本文25～40頁、第3分冊の本文は1～26頁となっている。また同書〔237頁〕によれば、第4分冊についての出版年月日は明らかではないとしながらも、黒田博士の引用された記事をもとに1847年までには発表されたものと思われるが、その理由については何らの典拠も挙げていないとしている。

- 12月7日（10・29）オランダ内務省宛に『日本動物誌』魚類篇、第5から第6分冊、10部（300フローリン）。同書哺乳類篇、第2及び第3分冊、10部（300フローリン）。『日本植物誌』彩色版、第2巻、第4及び第5分冊、5部（72フローリン）。同書黒色版、第2巻、第4及び第5分冊、5部（36フローリン）を送付。
- 同日、オランダ植民地省宛に『日本動物誌』魚類篇、第6分冊、2部（30フローリン）を送付。
- *12月11日（11・2）オランダ植民大臣（J. C.バウト）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月18日（11・9）ドイツ人植物学者J. K.ハッシカールがデュッセルドルフからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月27日（11・18）ノイマン教授（Prof. Neumann）がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月28日（11・19）元出島オランダ商館員P. W.フェルケルク・ピストリウスがアンヘムからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月31日（11・22）叔父ヨアヒム・ロッツがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 月日不詳、レーワルデン（オランダ北部の都市）のJ. F.ファン・グリートマン・エイシガ宛に『NIPPON』4つ折本、第13及び第14分冊、1部（30フローリン）を送付。
- 月日不詳、ジュールのP.B.J.ヴェゲリン・ファン・クラールヴェルゲン准男爵宛に『NIPPON』2つ折本、第13及び第14分冊、1部（30フローリン）を送付。
- 月日不詳、フランクフルトの園芸協会会長J.リンツ宛に『日本植物誌』彩色版、第2巻、第1から第5分冊、25部（195フローリン）を送付。
- 月日不詳、ミュンヘンの図版製作者（植物描写石版師）S.ミンシゲル宛に『NIP-

PON』第13及び第14分冊，3部（150フローリン）。『日本植物誌』彩色版，第2巻，第1から第5分冊，3部（38.15フローリン）を送付。

△月日不詳，パリの王立図書館地理学部門管理部長エドム・フランソワ・ジョマールがパリからシーボルト宛に書簡を送る。

○月日不詳，『オランダ王立園芸奨励協会年報』シーボルト，ブルーメ共編（仏文）出版（1844～45年）。園芸奨励協会の活動状況などを公表。同年報の第1号に「王立園芸奨励協会の種苗園で栽培された日本と中国から輸入された新旧の植物目録。1824年から1844年までの日本からの輸入についての歴史的説明」（蘭文）を掲載。

○パリ所在，王立園芸協会名誉会員。アントワープ所在，王立動物学協会名誉会員。

○士官在勤20年功勞勲章（オランダ）を受ける。

◇幕府が蘭書翻訳の出版を天文方の許可制とする。

1845年（弘化2年） 49歳

○1月6日（11・28）ライデンにて，オランダ内務大臣（デ・コック）宛の手紙を書く。

* 1月7日（11・29）ミュンヘンの図版製作者（植物描写石版師）S. ミンシゲルがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。

◇1月13日（12・6）桂川甫賢没する（享年48歳）。

* 1月24日（12・17）植物学者J. K. ハッシカールがデュッセルドルフからシーボルト宛に書簡を送る。

○1月日付不詳，前出島オランダ商館員でドイツ人化学者・植物学者C. J. テキストールがオランダに帰国する。

* 2月10日（1・4）オランダ内務大臣（デ・コック）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 2月16日（1・10）ドイツ人植物学者J. K. ハッシカールがデュッセルドルフからシーボルト宛に書簡を送る。クラマー（D. G. Kramer）がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 2月20日（1・14）元出島オランダ商館員でジャワの栽培園所有者H. ビュルゲルがバタヴィアからシーボルト宛に書簡を送る。

* 2月21日（1・15）ウェーケレム？（Weekerem）がアムステルダムからシーボルト

ト宛に書簡を送る。

- * 2月25日（1・19）ヘイガー（G. F. Hager）がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 2月日付不詳、『日本図書及び写本目録。付録にハーグの王立博物館所蔵物の目録』シーボルト収集・ホフマン解説，ライデン，著者のもとで，35頁，表16，2つ折り本。（*Catalogus librorum et manusc-riptorum Japonicorum a Ph. Fr. de Siebold. Libros descripsit J. Hoffman. Leiden : beim Verfasser 1845. VI.35.S.und 16 Tafeln.2°*）125部限定本，ライデンにて出版。
- 3月9日（2・2）ハーグにて，オランダ植民大臣（J. C.バウト）宛の手紙を書く。
- * 3月12日（2・5）ドイツ人植物学者J. K.ハッシカールがデュッセルドルフからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月14日（2・7）叔父ヨアヒム・ロッツがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月26日（2・19）ドイツ人植物学者J. K.ハッシカールがデュッセルドルフからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月29日（2・22）ミュレル博士（Dr. J. B. Müller）がダム（Damm）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月日付不詳，ヤコブソン（Jacobson）がシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月3日（2・27）フランス外務省がパリからシーボルト宛にフランス叙勲通知書（印刷物）を送る。
- * 4月5日（2・29）F.レムレインがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月7日（3・1）ヴェルツブルグ大学医学部学生ヨーゼフ・ラー（Joseph Löhr）がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月初旬頃までに、『日本動物誌』鳥類篇の第1分冊（本文1～24頁，図版1. 2. 5. 6. 8. 9. 11. 12. 13. 17.），6月初旬ころまでに，第2分冊（本文25～44頁，図版21. 22. 25. 28. 32. 35. 40. 41. 52. Suppl. B.）を出版。（注：L. B. Holthuis／酒井恒『シーボルトと日本動物誌』〔265頁〕によれば，第1分冊の出版は1844年〔1845年7月14日〕オランダ政府から各国図書館に配布したときの日付で，実際の出版日付は幾分それより前にさかのぼるとあり，第2分冊は1845年7月14日としている。また『江崎悌三著作集』〔238頁〕では，第1分冊は1844年で第2分冊は1845年に出版

とある。シーボルト自筆の販売帳では、下記の4月12日に第1分冊、6月2日に第2分冊配本とあるので、上述の2つの前掲書に見られる出版年月日と明らかに異なる。この出版年月日については今後他の史資料から再度調査・検討する必要があると思われる。

- △4月12日（3・6）ミュンヘンの図版製作者（植物描写石版師）S.ミンシゲルがミュンヘンからシーボルト宛の荷物送り状と書簡を送る。
- 同日、ライデンのアーント書店宛に『日本動物誌』鳥類篇、第1分冊、25部（234フローリン）を送付。
- 同日、ライデンのヘルマン・シュレーゲル宛に『日本動物誌』鳥類篇、第1分冊（編集に対して、クレ100フローリン）を送付。
- *4月20日（3・14）ヴォルフ博士（Dr. C. Wolff）がオベルブリイのライン？（Rain in Oberbry）からシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月26日（3・20）オランダ植民地省がハーグからシーボルト宛の通知（印刷物）。
- *4月日付不詳、園芸家L.ストロイボッシュがボッシュからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月5日（3・29）ライデンにて、オランダ植民大臣（J. C.バウド）宛の公式書簡を書く。
- *5月22日（4・17）ジーゲサール（Fr. Ziegesar）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *5月23日（4・18）元オランダ領東インド総督ファン・デル・カペレンがヴォーレンハウヴェンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *5月25日（4・20）Fr.ジーゲサールがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *5月26日（4・21）オランダ王子ヘンドリックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 6月2日（4・28）ライデンのアーント書店宛に『日本動物誌』鳥類篇、第2巻、26部（234フローリン）を送付。
- 同日、ライデンの動物学者ヘルマン・シュレーゲル宛に『日本動物誌』鳥類篇、第2分冊（編集に対して100フローリン）を送付。
- △6月3日（4・29）Fr.フライシャー書店がライプツィヒからシーボルト宛に書簡と請求書を送る。

- 6月8日 (5・4) ベルリンにて、ドイツ人植物学者 J. K.ハッシカール宛の手紙を書く。
- * 6月8日 (5・4) ライデンの気候馴化園庭師 A.ハクビイルがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月9日 (5・5) 母アポロニアがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月11日 (5・7) ライデンの気候馴化園庭師 A.ハクビイルがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 6月中旬頃までに、『NIPPON』第15分冊 (第Ⅱ章及び第Ⅵ章陸と海の旅) を出版。
- * 6月16日 (5・12) J.ザイヘル (J. Zaiher) がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 6月17日 (5・13) ライデンの C.G.K.ラインワルト教授宛に『NIPPON』2つ折本、第15分冊、1部 (15フローリン) を送付。
- 同日、ライプツィヒのフリードリッヒ・フライシャー書店宛に『NIPPON』2つ折本、第15分冊、32部、同書4つ折本、第15分冊、30部。同書2つ折本、第13及び第14分冊、2部。『日本図書及び写本目録、附録にハーグの王立博物館所蔵物の目録』25部など (総額909ターラーの40パーセント割引363ターラーを差し引いた546ターラー) を送付。
- * 同日、エイヒホーン博士 (Dr. Eichhorn) がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 6月19日 (5・15) ライデンの気候馴化園の庭師 A.ハクビイルがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 6月20日 (5・16) ミュンヘンの図版製作者 (植物描写石版師) の S.ミンシンゲルがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 6月24日 (5・20) ミュンヘンの図版製作者 (植物描写石版師) の S.ミンシンゲルがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 同日、ハーレムのオランダ教育・芸術・科学局長 D. J.ファン・エウイック宛に『NIPPON』2つ折本、第15分冊、1部 (15フローリン) を送付。
- * 6月25日 (5・21) ホルガー・ピルチ? (Holger Pirch) がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 6月26日 (5・22) アムステルダムのアルンツエニウス医学博士宛に『NIPPON』

2つ折り本，第15分冊，1部：請求価格15フローリンを送付。

- 6月27日（5・23）ライデンの王立自然史博物館館長・動物学者 C. J. テンミンク宛に『NIPPON』2つ折本，第15分冊，1部（15フローリン）を送付。
- 6月30日（閏5・7）ベルリンにて，オランダ植民大臣（J. C. バウド）宛に手紙を書く。
- *同日，アルベルティーネ・ノルテがパラマリボからシーボルト宛に書簡を送る。
- △同日，パリの王立図書館地理学部門管理部長エドム・フランソワ・ジョマールがパリからシーボルト宛に書簡を送る（注：石山禎一編『シーボルトの日本研究』45-47頁参照）。
- 6月日付不詳，ライデンの C. C. ファン・デル・フーク書店宛に『NIPPON』2つ折本，第15分冊，4部（70フローリン）。同書4つ折本，第15分冊，4部（42フローリン）を送付。
- 6月日付不詳，アムステルダムのヨハネス・ミュレル書店宛に『NIPPON』2つ折本，第15分冊，3部（56.25フローリン）。同書4つ折本，第15分冊，1部（11.25フローリン）。『日本動物誌』魚類篇，第6分冊，1部（11.25フローリン）。同書鳥類篇，第1分冊，1部（11.25フローリン）。同書鳥類篇，第2分冊，1部（11.25フローリン）。『日本図書及び写本目録，付録にハーグの王立博物館所蔵物の目録』1部（7.50フローリン）などを送付。
- 6月日付不詳，パリのベンジャミン・デュブラ書店宛に『NIPPON』2つ折本，第15分冊，1部（14ターラー）。同書4つ折本，第15分冊，3部（25.12ターラー）。『日本図書及び写本目録，附録にハーグの王立博物館所蔵物の目録』4部（24ターラー）を送付。
- 7月1日（5・27）レーワルデン（オランダ北部の都市）の J. F. ファン・グリートマン・エイシナガ宛に『NIPPON』4つ折本，第15分冊，1部（15フローリン）を送付。
- 同日，ジュールの P. B. J. ヴェゲリン・ファン・クラールヴェルゲン准男爵宛に『NIPPON』2つ折本，第15分冊，1部（25フローリン）を送付。
- 同日，スウエーデン国王陛下宛に『NIPPON』2つ折本，第15分冊，1部（50ルーブル）。『日本植物誌』彩色版，第2巻，第4及び第5分冊，1部（30ルーブル）。『日本動物誌』哺乳類篇，第3分冊，1部（30ルーブル）。同書魚類篇，第6分冊，

1部 (30ルーブル)。同書鳥類篇, 第1及び第2分冊, 1部 (60ルーブル) などを送付。

△7月2日 (5・28) エドワード・フライシネ (Eduard Fraissinet シーボルト『NIPPON』の仏文訳者) がライデンからシーボルト宛に短信を送る。

* 7月3日 (5・29) オランダ植民地省がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

○7月10日 (6・6) ヘレーネ・フォン・ガーゲルンとベルリンで結婚。のちライデン付近のライデルドルプの邸宅「ニッポン」(Nippon) に住む。

* 同日, ドイツ人植物学者 J. K.ハッシカールがデュッセルドルフからシーボルト宛に書簡を送る。

* 7月11日 (6・7) Fr.ジージェサールがワイマール近郊エテルスブルグ (Ettersburg bei Weimar) からシーボルト宛に書簡を送る。

* 7月14日 (6・10) ユステイーネ・フォルスター (シーボルトの姪) がヴュルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 7月19日 (6・15) オランダ植民大臣 (J. C.バウト) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

○7月22日 (6・18) オレンジ公国皇太子殿下宛に『NIPPON』2つ折本, 第15分冊, 1部 (25フローリン)。『日本動物誌』魚類篇, 第6分冊, 1部 (15フローリン)。同書哺乳類篇, 第3分冊, 1部 (15フローリン)。同書鳥類篇, 第1及び第2分冊, 1部 (30フローリン)。『日本植物誌』彩色版, 第2巻, 第4及び第5分冊, 1部 (14.40フローリン) などを送付。

* 7月23日 (6・19) オランダ内務大臣 W. H. シンメルペンニク・ファン・デル・オイ・ファン・デ・ポル男爵 (W. H. Schimmelpennik van der Oye van de Poll) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

○7月日付不詳, オランダ内務省宛に『NIPPON』2つ折本, 第15分冊, 5部 (125フローリン)。同書4つ折本, 第15分冊, 5部 (75フローリン)。『日本動物誌』鳥類篇, 第1及び第2分冊, 10部 (300フローリン) などを送付。

○7月日付不詳, オランダ植民地省宛に『NIPPON』2つ折本, 第15分冊, 3部 (75フローリン)。『日本動物誌』鳥類篇, 第1及び第2分冊, 2部 (60フローリン)。『日本図書及び写本目録, 附録にハーグの王立博物館所蔵物の目録』3部 (贈呈) を送付。

- 7月日付不詳、プロシア王国教育医学省宛に『NIPPON』2つ折本、第15分冊、1部（154ターラー）を送付。
- 7月日付不詳、ザクセンのマイニンゲン公国大公伯爵殿下宛に『NIPPON』2つ折本、第15分冊、1部（25フローリン）。『日本動物誌』魚類篇、第6分冊、1部（15フローリン）。同書哺乳類篇、第3分冊、1部（15フローリン）。同書鳥類篇、第1及び第2分冊、1部（30フローリン）。『日本植物誌』彩色版、第2巻、第4及び第5分冊、1部（14.40フローリン）。『日本図書及び写本目録、附録にハーグの王立博物館所蔵物の目録』1部（贈呈）などを送付。
- 7月日付不詳、マンハイムのザクセンのワイマール公国ベルナルド大公殿下宛に『NIPPON』2つ折本、第15分冊、1部（25フローリン）を送付。
- 7月日付不詳、サンクト・ペテルブルグのストロガノフ大公伯爵殿下宛に『NIPPON』2つ折本、第15分冊、1部（50ルーブル）を送付。
- 7月日付不詳、デンマーク国王陛下宛に『NIPPON』2つ折本、1部（25フローリン）。『日本動物誌』哺乳類篇、第3分冊、1部（15フローリン）を送付。
- * 8月2日（6・29）オランダ内務省長官がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月7日（7・5）レーダー親子商会（S. Raeder & Sohn）がマインツ（Mainz）からシーボルト宛書簡を送る。
- * 8月8日（7・6）オランダ大蔵省がハーグからシーボルト宛に書簡（オランダ大蔵大臣決済記録抜粋）を送る。
- * 同日、F.レムレインがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 8月11日（7・9）ライデンのアーント書店宛に『日本動物誌』魚類篇、第7分冊、26部（234フローリン）を送付。
- 同日、ライデンのヘルマン・シュレーゲル宛に『日本動物誌』魚類篇、第7分冊（編集に対して100フローリン）を送付。
- * 8月13日（7・11）サルム＝メイヤー商会（Salm & Meyer Com）がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月14日（7・12）オランダ植民大臣（J. C. バウト）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月15日（7・13）サルム＝メイヤー商会がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。

- * 8月16日 (7・14) ライデンの王立自然史博物館管理官 J. A. スザンナがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月18日 (7・16) セイフキンド (H. Seifkind) がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月20日 (7・18) シーベルグ (S. Syberg) がヴィースバーデン (Wiesbaden) からシーボルト宛書簡を送る。
- 8月22日 (7・20) ミュンヘンの図版製作者 (植物描写石版師) S. ミンシングル宛に『NIPPON』2つ折本, 第15分冊, 3部 (75フローリン) を送付。
- * 8月23日 (7・21) サルム=メイヤー商会在がシーボルト宛に請求書を送る。
- * 8月27日 (7・25) プロイセン王国教育医学省がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月28日 (7・26) オランダ内務大臣 (ファン・デ・ボル男爵) がハーグからシーボルト宛書簡を送る。
- 8月30日 (7・28) ライデンにて, エドワード・フライシネ (シーボルト『NIPPON』の仏文訳者) 宛の手紙を書く。
- * 8月日付不詳, サルム=メイヤー商会在がアムステルダムからシーボルト宛に書簡と請求書を送る。
- △ 9月4日 (8・3) 書籍商エドワード・フライシネがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月10日 (8・9) マルクス博士 (Dr. Marcus) がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月21日 (8・20) ハマリウス? (G. Hamarius) がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 9月22日 (8・21) ブリュッセルのデ・マン・デ・レンニック (E. de Man de Lenick) 宛に『日本植物誌』彩色版, 第1から第25分冊 (第1巻: 第1から第20分冊と第2巻: 第1から第5巻), 1部 (180フローリン) を送付。
- * 同日, 医師カール・フォン・シーボルト博士 (Dr. Carl von Siebold 大叔父ダミアン・フォン・シーボルトの長男) がエルランゲン (Erlangen) からシーボルト宛に書簡を送る。
- 9月27日 (8・26) オランダ王立園芸奨励協会第1回総会在がライデンのブリード・

ストラート（Breede sstraat）の“ホテル黄金のライオン”（Hotel du Lion d' er）で開催。シーボルトが議長をつとめ、自ら「王立園芸協会の起源と発展について」講演。この年度中、王立園芸協会の理事会が月1回定期的に開かれる。

- * 同日、ヴェルツブルグ大学医学部学生ヨーゼフ・レアーがヴェルツブルグからシーボルト宛書簡を送る。
- * 9月29日（8・28）オランダ植民大臣（J. C.バウト）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 9月30日（8・29）サンクト・ペテルブルグのステイーグリッツ商会を通して、ロシア宰相ネッセルローデ伯爵宛に『NIPPON』2つ折本、第15分冊、10部（500ルーブル）。『日本動物誌』魚類篇、第6分冊、10部（300ルーブル）。同書鳥類篇、第1及び第2分冊、10部（600ルーブル）。同書哺乳類篇、第3分冊、10部（300ルーブル）。『日本植物誌』彩色版、第2巻、第4及び第5分冊、5部（150ルーブル）。同書黒色版、第2巻、第4及び第5分冊、5部（80ルーブル）。『日本図書及び写本目録、附録にハーグの王立博物館所蔵物の目録』10部（贈呈）。『日本動物誌』魚類篇、第7分冊、1部（300ルーブル）などを送付。
- 同日、デンマーク国王陛下宛に『日本動物誌』魚類篇、第6分冊、1部（15フローリン）。同書鳥類篇、第1及び第2分冊、1部（30フローリン）。『日本植物誌』彩色版、第2巻、第4及び第5分冊、1部（14.40フローリン）。『日本図書及び写本目録、附録にハーグの王立博物館所蔵物の目録』1部（贈呈）。『植民地を有するか、もしくは世界の他の部分と貿易関係を有するヨーロッパ諸国において民族学博物館の効用とその設立の重要性に関する王立学士院会員、フランス王立図書館地理局管理官エドム・フランソワ・ジョマル宛の書簡』パリ、1843年刊、1部（贈呈）。『日本動物誌』魚類篇、第7分冊、1部（15フローリン）などを送付。
- 同日、スウェーデン国王陛下宛に『日本動物誌』魚類篇、第7分冊、1部（30ルーブル）を送付。
- 同日、ライデンにて、サンクトペテルブルグの書籍商ブリエフ（J. J. Brieff）商会宛の手紙を書く。
- * 9月30日（8・29）バイヤー博士（Dr. Bayer）がエルランゲンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 10月1日（9・1）ファン・デル・ヴェッテン（van der Vetten）がデルフトからシー

ボルト宛書簡を送る。

- *10月2日(9・2) デ・コックホルド? (F. de Kochfold) がコペンハーゲン (Copenhagen) からシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月3日(9・3) マット商人エドアルド・ストルック (Eduard Struk) がアムステルダムからシーボルト宛に請求書を送る。
- 10月5日(9・5) ライデンにて、オランダ植民地省宛の手紙を書く。
- 同日、オランダ内務省宛に『日本動物誌』魚類篇、第7分冊、10部(150フローリン)。『日本図書及び写本目録、附録にハーグの王立博物館所蔵物の目録』10部(100フローリン)。『日本動物誌』魚類篇、第8分冊、10部(150フローリン)などを送付。
- 10月6日(9・6) ライデンにて、オランダ植民大臣 (J. C.バウト) 宛の手紙とオランダ内務大臣 (デ・コック) 宛の手紙を書く。
- 同日、オランダ植民地省宛に『日本動物誌』魚類篇、第7及び第8分冊、2部(60フローリン)を送付。
- 同日、ライデンのアーント書店宛に『日本動物誌』魚類篇、第8分冊、26部(234フローリン)を送付。
- 同日、ライデンの動物学者ヘルマン・シュレーゲル宛に『日本動物誌』魚類篇、第8分冊(編集に対して100フローリン)を送付。
- *10月18日(9・18) マルクス (Marx) がアシャフェンブルグ (Aschaffenburg) からシーボルト宛に書簡を送る。
- △10月20日(9・20) ~11月5日(10・6) 「ライデン市の貧民救済のための国王陛下の命令による日本工業物産製品展覧会」をシーボルトの居宅ラーベンプルフ19番地で開催。同展覧会の手引書出版。
- *10月21日(9・21) オランダ貿易会社がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月26日(9・26) ファン・リッケヴォレール (H. van Ryckevoreel) がロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- △10月30日(9・30) 書籍商エドワード・フライシネ (シーボルト『NIPPON』仏文訳者) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- △10月31日(10・1) ライデンの王立自然史博物館管理官・動物学者デ・ハーン (de

Haan) がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。

◇11月日付不詳, ヨセフ・ヘンリー・レフィスゾーン (Joseph Henruij Levissohn) 出島商館長に着任 (在任: 1845年11月1日~1851年10月31日)。

*11月1日 (10・2) 其扇が出島からシーボルト宛に書簡 (其扇口述, お稲の消息など) を送る。オランダ植民地省事務次官がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

*11月5日 (10・6) リッター・ファン・ラッバルド (H. W. A. Ridder van Rappard) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

*11月8日 (10・9) ヴォイグトおよび? (Voigt&) 商會がヴェルツブルグからシーボルト宛書簡を送る。

*11月9日 (10・10) ライデンのファン・ホールン博士 (Dr. P. G. van Hoorn) がシーボルト宛に書簡を送る。ユスティーネ・フォルステル (シーボルトの姪) がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。ヴァッヒター博士? (Dr. W. Wachter) がクラーヴェ (Grave) からシーボルト宛に書簡を送る。

○11月13日 (10・14) ロッテルダムの H.ファン・リッケヴォール宛に『NIPPON』4つ折本, 第1から第15分冊, 1部 (225フローリン) を送付。

*11月13日 (10・14) スターレン (Stoelen) がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。ブルントマ? (J. J. Bruntma) がライメンデン? (Laimenden) からシーボルト宛に書簡を送る。

○11月15日 (10・16) シーボルトの母アポロニアが没する (享年77歳)。

*11月18日 (10・19) ファン・カップマン (H. van Kappmann) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

*11月20日 (10・21) 元オランダ領東インド総督ファン・デル・カペレンがソーレンオウエン (Sollenouen) からシーボルト宛に書簡を送る。

△同日, 書籍商エドワード・フライシネがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

*11月22日 (10・23) 妻ヘレーネ・フォン・シーボルトがライデンからシーボルト宛に書簡 (11月15日ライデン近郊のライデルドルプで母アポロニア死亡についての内容など) を送る。

*11月27日 (10・28) ユスティーネ・フォルスター (シーボルトの姪) がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

*11月30日 (11・2) オランダ海軍士官メルヴィル・ファン・ドゥ・カルンペー (P.

- Melvill van de Carnbee) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- △12月3日 (11・5) デンマーク王室図書館司書ティーレ (Thiele) がコペンハーゲンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月5日 (11・7) ヴェルツブルグ大学医学部学生ヨーゼフ・ラーがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 12月15日 (11・17) ライデンにて、オランダ植民大臣 (J. C.バウト) 宛の手紙を書く。
- *12月16日 (11・18) シモンディ (L. R. Simondi) がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月18日 (11・20) ファン・リッケヴォレール (H. Ryckevoreel) がロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- 同日、ライデンのアーント書店宛に『日本動物誌』魚類篇、第9分冊、26部 (234フローリン) を送付。
- 同日、ライデンの動物学者ヘルマン・シュレーゲル宛に『日本動物誌』魚類篇、第9分冊 (編集に対して125フローリン) を発送。
- △12月21日 (11・23) ドイツ人東洋文献学者ヨーゼフ・ホフマン博士がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月23日 (11・25) トール? (Tol) がテルブルグ (Telburg) からシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月24日 (11・26) E. M.ベイマ (E. M. Beima) がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月27日 (11・29) H.ファン・リッケヴォレールがロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- 12月29日 (12・1) ザクセンのマイニンゲン公国大公伯爵殿下宛に『日本動物誌』魚類篇、第7及び第8分冊、1部 (30フローリン) を送付。
- *12月31日 (12・3) ドイツ人植物学者J. K.ハッシカールがヴェルテフレーデン (Wolvevreden) からシーボルト宛に書簡を送る。
- *月日不詳、ユステイーネ・フォルスター (シーボルトの姪) がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- △月不詳28日、書籍商エドワード・フライシネがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

- △月日不詳，ラウ J. G. Lau 社がライデンからシーボルト宛に請求書を送る。
- △月日不詳，居宅1階を借用していたライデン学生会ミネルヴァは場所を移動。シーボルトはその場所をライデン大学教授 C. G. C. ラインワルト博士に賃貸。
- 月日不詳，ユトレヒトのファン・デル・カペレン男爵閣下宛に『日本動物誌』哺乳類篇，第3分冊，1部（15フローリン）。同書鳥類篇，第6分冊，1部（15フローリン）。『日本植物誌』彩色版，第4及び第5分冊，1部（14.40フローリン）。『日本動物誌』鳥類篇，第1及び第2分冊，1部（30フローリン）。『NIPPON』2つ折本，第15分冊，1部（25フローリン）を送付。
- 月日不詳，パリのファゲル男爵閣下宛に『日本植物誌』彩色版，第2巻，第4及び第5分冊，1部（14.40フローリン）を送付。
- 月日不詳，フランス国王陛下に『日本』2つ折本，第15分冊，1部（価格未記入）をパリのファゲル男爵を通して送付。
- 月日不詳，『日本植物誌の自然分科篇』第1部 雙子葉離弁花植物（ラテン文）を「王立バイエルン科学アカデミー，数学物理部門論文集」に掲載。翌年（1846年），第2部 雙子葉植物，合弁花・単花被花と単子葉植物（ラテン文）を同誌に掲載。
- アントワープ所在，王立動物協会名誉会員。ブリュッセル所在，王立医学アカデミー会員。
- ウィーン帝立王立協会の金メダルを受ける。
- ◇高野長英脱獄。

1846年（弘化3年） 50歳

- * 1月5日（12・8）H.ファン・リッケヴォールがロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- 1月日付不詳，オランダ植民地省宛に『日本動物誌』魚類篇，第9分冊，2部（30フローリン）を送付。
- △1月日付不詳，ライデンの王立自然史博物館館長 C. J. テンミンクがライデンからシーボルト宛に受領書を送る。
- * 2月2日（1・7）シモンディ（L. R. Simondi）がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- △2月4日（1・9）ミュンヘンの図版製作者（植物描写石版師）S. ミンシゲルが

ミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。

- * 2月9日 (1・14) セイフキンド (H. Seifkind) がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月13日 (1・18) オランダ植民大臣 (J. C.バウト) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月16日 (1・21) H.ファン・リッケヴォールがロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月17日 (1・22) ハルベルスマ (Halbersma) がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 2月18日 (1・23) 書籍商エドワード・フライシネがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月25日 (1・30) H.セイフキンドがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月27日 (2・2) オランダ植民大臣 (J. C.バウト) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 2月日付不詳, G.ヒュルスト・ファン・ケウレン書店がアムステルダムからシーボルト宛に請求書を送る。
- * 3月11日 (2・14) オランダ内務大臣秘書官がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。ウィルヘルミーネ・フォン・ガーゲルン (シーボルトの義弟) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 3月16日 (2・19) G.ヒュルスト・ファン・ケウレン書店社長 J.スワルトがアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- 3月18日 (2・21) ライデンにて, シーボルトがルザック (L. B. Luzac) 宛に手紙を書く。
- * 3月29日 (3・3) バーベンベルグ (Babenberg) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 3月日付不詳, 草稿『日本歴史に関する記述』(フランス語文) をハーグで執筆。
- * 4月9日 (3・14) C.ヴォルフ博士がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月10日 (3・15) オランダ貿易会社のファン・ブレダ教授 (Prof. J. G. S. van Breda) がハーレム (Haalem) からシーボルト宛に招待状を送る。
- 4月11日 (3・16) ライデンのアーント書店宛に『日本動物誌』魚類篇, 第10分冊,

26部（234フローリン）を送付。

- 同日、ライデンの動物学者ヘルマン・シュレーゲル宛に『日本動物誌』魚類篇、第10分冊（編集に対して100フローリン）を送付。
- △4月14日（3・19）書籍商エドワード・フライシネがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *4月15日（3・20）H.ファン・アルフェネス（H. Alphenes）がシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月16日（3・21）ライデンにて、ミュンヘンの図版製作者（植物描写石版師）S. ミンシンゲル宛ての手紙を書く。
- △同日、ミュンヘンの図版製作者（植物描写石版師）S. ミンシンゲルがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *4月19日（3・24）マールブルグ大学およびゲッチェンゲン大学医学部教授エドワード・フォン・シーボルトがゲッチェンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *4月20日（3・25）ヴェルツブルグ大学医学部学生カール・ヴィットマン（Carl Wittmann）がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月23日（3・28）オランダ内務省宛に『日本動物誌』魚類篇、第9から第10分冊、10部（300フローリン）を送付。
- 同日、オランダ植民地省宛に『日本動物誌』魚類篇、第10分冊、2部（30フローリン）を送付。
- △4月24日（3・29）オランダ植民地省翻訳局勤務・東洋文献学者ヨーゼフ・ホフマン博士がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月27日（4・2）オレンジ公国皇太子殿下宛に『日本動物誌』魚類篇、第7から第10分冊、1部（60フローリン）。同書魚類篇、第11から第13分冊、1部（45フローリン）を送付。
- △4月29日（4・4）オランダ植民地省翻訳局勤務・東洋文献学者ヨーゼフ・ホフマン博士がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- △5月1日（4・6）『東西インド諸島報知』アジアとアメリカのオランダ領に関する科学的産業的記録と略述、重要な情報と事実の収録（フランス文）シーボルトとドゥ・カルンペー共編 巻1をデン・ハーグにて出版（シーボルト協力は巻1のみ）。Le Moniteur des Indes-Orientales et Occidentales. Recueil de mémoires et de notices

Scientifiques et industries, de nouvelles et de faits importants concernant les possessions Neerlandaises d'Asie et d'Amérique. Pulié sous les auspices de S. A. R. Monseigneur le Prince Henri des Pays-Bas. Avec la coopération de plusieurs membres de la Société des Arts et Sciences de Batavia par Ph. Fr. de Siebold et P. Melvill de Carnbee. 1. Band. Den Haag : Gebr. Belinfante : Staatsdruckerei 1846 / 47, X, VII. S., 2 Kupfertafeln, 4° [Von Siebold ; Introduction (Den Haag, 1.5. 1846), S.I-VI ; Essai historique, statistique et politique sur commerce de Japon (aus "Nippon"), S.29-38, 111~116 u.295-318.]

- △ 5月3日 (4・8) 書籍商エドワード・フライシネがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月7日 (4・12) ハーグからシーボルト宛にオランダ王子フレデリック拝謁用招待状が届く。
- △ 5月8日 (4・13) 書籍商エドワード・フライシネがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。H.ファン・アルフェネスがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 5月9日 (4・14) 書籍商エドワード・フライシネがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月11日 (4・16) ショット教授 (Prof. W. Schott) がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。アガシツズ (L. Agassiz) がパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月13日 (4・18) ライデンのサロモン博士 (Dr. G. Salomon) がオーストグスト (Oestgust) からシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 5月14日 (4・19) 書籍商エドワード・フライシネがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- △同日, オランダ植民地省翻訳局勤務・東洋文献学者ヨーゼフ・ホフマンがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- △同日, ベルリン自然史博物館館長・動物学者マルティン・ハインリッヒ・カール・リヒテンシュタインがベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 5月22日 (4・27) 書籍商エドワード・フライシネがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月23日 (4・28) オランダ植民大臣 (J. C.バウト) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月24日 (4・29) コルネット・デ・フロート男爵 (後にオランダ植民大臣) が

ハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 5月27日（5・3）デンマーク王国代理大使ドゥ・モルゲンスジェルネ（J. G. de Morgenstjerne）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

△ 6月2日（5・9）書籍商エドワード・フライシネがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

○ 6月8日（5・15）ライデンにて、コペンハーゲン・デンマーク王室文庫長ティール卿宛の『日本植物誌』第4及び第5分冊に関する手紙を書く（注：『参考書誌研究』第11号、12頁及び『上野図書館紀要』Vol.1 No2. i - ii 頁参照）。

○ 6月9日（5・16）オランダ植民地省宛に『日本動物誌』魚類篇、第11分冊、2部（30フローリン）を送付。

○ 同日、クレフェルトのフォン・リガール男爵宛に『日本植物誌』彩色版、第2巻、第4及び第5分冊、1部（価格未記入）を送付。

* 6月15日（5・22）ヒルシュ博士（Dr. S. Hirsch）がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。

△ 6月19日（5・26）Fr.フライシャー書店がライプツィヒからシーボルト宛に書簡と請求書を送る。

* 6月27日（閏5・4）ファン・アルヘフェネス（van Alphenes）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

△ 同日、図版製作者（植物描写）S. ミンシンゲルがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 7月1日（閏5・8）レンツ（J. H. F. Lenz）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

△ 7月8日（閏5・15）Fr.フライシャー書店がライプツィッヒからシーボルト宛に請求書を送る。

* 7月17日（閏5・24）オランダ王子侍従ラグート（J. Ragut）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

○ 7月23日（6・1）ライデンにて、オランダ王立園芸奨励協会理事会（議長シーボルト、書記ヨーゼフ・ホフマン）開催。

* 7月28日（6・6）イセンセー（Isensee）がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 8月1日 (6・10) P.メルヴィル (オランダ海軍士官ピーテル・メルヴィル・ファン・ドゥ・カルンペー男爵) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 8月4日 (6・13) P.ヤーゲル博士がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

○ 8月10日 (6・19) ライデンにて, アレクサンダー・フォン・フンボルト (Alexander von Humboldt) 宛の手紙 (『東西インド諸島報知誌』発行について) を書く。

△ 8月11日 (6・20) 図版製作者エルクスレーベン (J. Erxleben シーボルト『NIPPON』図版担当) がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 8月12日 (6・21) P.メルヴィル (オランダ海軍士官ピーテル・メルヴィル・ファン・ドゥ・カルンペー男爵) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

◇ 8月13日 (6・22) 江戸の蘭学者宇田川榕菴没する (享年48歳)。

○ 8月16日 (6・25) 長男アレクサンダー (Alexsander von Siebold) がライデンで生まれる。

○ 8月17日 (6・26) シーボルト宛「1846年8月19日オランダ国王拝謁のための招待状」を受け取る。

○ 8月19日 (6・28) ライデンにて, オランダ国王および植民大臣 (J. C.バウド) 宛の手紙を書く。

○ 同日, オランダ内務省宛に『日本動物誌』魚類篇, 第11及び第12分冊, 10部 (300フローリン) を送付。

* 同日, 元オランダ領東インド総督ファン・デル・カペレン男爵がソールレホウエン (Sollenhouen) からシーボルト宛に書簡を送る。

* 8月25日 (7・4) ドイツ人植物学者J. K.ハッシカールがマルガレータ・イダ (Margaretha Ida) 号船上からシーボルト宛に書簡を送る。



【図57】 宇田川榕菴がシーボルトに送った『本草写真』(ライデン大学図書館所蔵 No: UB975)

- * 8月26日（7・5）C.ヴォルフ博士がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月30日（7・9）元オランダ領東インド総督ファン・デル・カペレンがソールレノウエンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 同日、デンマーク国王陛下宛に『日本動物誌』魚類篇、第8から第15分冊、1部（120フローリン）。同書鳥類篇、第3分冊、1部（15フローリン）を送付。
- 8月日付不詳、オランダ植民地省宛に『日本動物誌』魚類篇、第12分冊、2部（30フローリン）を送付。
- * 9月1日（7・11）P.メルヴィル（オランダ海軍士官ピーテル・メルヴィル・ファン・ドゥ・カルンペー男爵）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 9月10日（8・20）オランダ王立園芸奨励協会第2回総会がライデンのホテル「黄金のライオン」で開かれ、協会規定の立案・園芸施設の拡充計画・栽培植物試行の提案など協議。議長にシーボルト、書記にホフマンがつとめる。
- * 同日、ファン・リッケヴォレール（H. van Ryckevoreel）がロッテルダムからシーボルト宛てに書簡を送る。
- * 同日、ゲオルグ・フォン・シーボルト（Georg von Siebold 大叔父ダミアン・フォン・シーボルトの次男）がマインツからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月12日（7・22）H.ファン・リッケヴォレールがロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- △9月15日（7・25）ベリンファンテ（J. Belifante）書店がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月16日（7・26）ドーベル（E. Chr. Döbel）がエイゼンナッハ近郊のベテローデ（Beterode bei Eisenach）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月17日（7・27）P.メルヴィル（オランダ海軍士官ピーテル・メルヴィル・ファン・ドゥ・カルンペー男爵）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 9月23日（8・3）ライデンにて、ゲオルグ・フォン・シーボルト（大叔父ダミアン・フォン・シーボルトの次男）宛の手紙を書く。
- 9月25日（8・5）アムステルダムの委託販売業者 A.エギディウス（A. Egidius）を通して、スウエーデン国王陛下宛に『日本動物誌』哺乳類篇、第3分冊、1部（30ルーブル）。同書鳥類篇、第1及び第2分冊、1部（60ルーブル）。同書魚類篇、第6から第12分冊、1部（210ルーブル）。『日本植物誌』彩色版、第2巻、第4及び

第5分冊，1部（30ルーブル）。『NIPPON』2つ折本，第15分冊，1部（50ルーブル）などを送付。

○同日，ギリシャ王国オットー国王殿下宛に『NIPPON』2つ折本，第1及び第5分冊，1部（価格未記入）を送付。

△10月7日（8・17）Fr.フライシャー書店がライプツイッヒからシーボルト宛に書簡を送る。

*10月11日（8・21）書籍商エドワード・フラシイネ（シーボルト『NIPPON』の仏文訳者）がパシイからシーボルト宛に書簡を送る。

*10月12日（8・22）ブレーカー（Bleeker）がバタヴィアからシーボルト宛に書簡を送る。

○10月15日（8・25）オランダ内務省宛に『日本動物誌』魚類篇，第13分冊，10部（150フローリン）を送付。

○同日，オランダ植民地省宛に『日本動物誌』魚類篇，第13分冊，2部（30フローリン）を送付。

○10月19日（8・29）ライデンにて，図版製作者（植物描写石版師）S.ミンシングル宛の手紙を書く。

*10月21日（9・2）P.メルヴィル（海軍士官ピーテル・メルヴィル・ファン・ドゥ・カルンペー男爵）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

◇11月3日（9・13）門人高良斎没する（享年48歳）。

*11月12日（9・24）ゲオルグ・フォン・シーボルト（大叔父ダミアン・フォン・シーボルトの次男）がマインツからシーボルト宛に書簡を送る。

*同日，ヴィンケル（Winkel）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

△11月13日（9・25）レオポルド・フォス書店（Leopold Voss）がライプツイッヒからシーボルト宛に書簡を送る。

○12月1日（10・13）ハーグにて，オランダ植民大臣（J. C.バウト）宛の手紙を書く。

○12月9日（10・21）ライデンにて，『ライデンの書店に納入した書籍について』メモする。

○12月14日（10・28）ユトレヒトのファン・デル・カペレン男爵閣下宛に『日本動物誌』魚類篇，第7～13分冊，1部：販売価格105フローリンを送付。

*12月14日（10・26）H.ファン・リッケヴォレールがロッテルダムからシーボルト宛

に書簡を送る。

* 12月30日 (11・13) H.ファン・リッケヴォレールがロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。

○ 月日不詳, ハーグのD.ヘイツエ・リトグラヴェール (D. Heyze Lithografeur) 宛に「ファン・ベイリーvan Bayly」の石版画4枚 (50フローリン)。「東西インド諸島報知」に関する図3枚 (175フローリン)。「琉球の図」3枚 (100フローリン)。「長崎一大坂航路用水先案内図」1枚 (60フローリン)。「樺太の図」1枚 (60フローリン)。「蝦夷の図」1枚 (60フローリン) などを送付。

* 月日不詳, デ・ゲブローデルス・ファン・クリーフ (de Gebroeders van Cleef) がハーグからシーボルト宛に請求書を送る。

△ 月日不詳, ノールデンドルプ (P. H. Noordendorp) 書店がハーグから書簡と請求書を送る。

△ 月日不詳, 書籍商エドワード・フライシネがパシイ (Passy) からシーボルト宛に書簡を送る。

○ ハレとライプツィヒ所在, ドイツ東方学会正会員。ドルトレヒト所在, 園芸および農業学会名誉会員。アントワープ所在, 王立ベルギー考古学アカデミー名誉会員。

◇ アメリカの東インド艦隊司令官ビッドル浦賀に入港して通商を求めると、幕府は拒絶。

◇ フランス軍艦クレオパートル号長崎に来航。

1847年 (弘化4年) 51歳

○ 1月3日 (11・17) オレンジ公国皇太子殿下宛に『日本動物誌』魚類篇, 第14分冊, 1部 (15フローリン) を送付。

○ 1月5日 (11・19) ライデンにて, オランダ植民大臣 (J. C.バウト) 宛の手紙を書く。

* 1月6日 (11・20) H.ファン・リッケヴォレールがロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。

* 1月8日 (11・22) H.ファン・リッケヴォレールがロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。

* 1月10日 (11・24) H.ファン・リッケヴォレールがロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。

- △ 1月16日 (11・30) 書籍商エドワード・フライシネ (シーボルト『NIPPON』の仏文訳者) がシーボルト宛に書簡を送る。
- 1月23日 (12・7) ライデンにて、ハーレム在住のライデン王立自然史博物館管理官・動物学者 H. シュレーゲル宛の手紙を書く。
- * 同日, H. ファン・リッケヴォレールがロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月20日 (12・4) H. ファン・リッケヴォレールがロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- 1月26日 (12・10) ザクセンのマイニンゲン公国大公伯爵殿下宛に『日本動物誌』魚類篇, 第9から第14分冊, 1部 (90フローリン) を送付。
- * 同日, H. ファン・リッケヴォレールがロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 1月27日 (12・11) 書籍商エドワード・フライシネがシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月30日 (12・14) カンプマン (Kampmann) がマリエンベルグ (Marienberg) からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月31日 (12・15) E. ヴェンケバッハ (E. Wenckebach) がアムステルダムからシーボルト宛書簡を送る。
- * 1月日付不詳, ゲブハード (J. Gebhard) がシーボルト宛に請求書を送る。
- * 2月2日 (12・17) H. ファン・リッケヴォレールがロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- 2月3日 (12・18) ハーグにて, 書籍商エドワード・フライシネ宛の手紙を書く。
- * 2月4日 (12・19) ライデン大学教授 C.G.C. ラインワルトがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月10日 (12・25) H. ファン・リッケヴォレールがロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月13日 (12・28) ライデンの王立自然史博物館管理官 J. A. スザンナがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。ライデン大学教授 C.G.C. ラインワルトがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月15日 (1・1) ライデン大学教授 C.G.C. ラインワルトがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月18日 (1・4) ファン・ビヤランド (L. Bylandt) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

- * 2月22日（1・8）ゲオルグ・フォン・シーボルト（大祖父ダミアン・フォン・シーボルトの次男）がマインツからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月4日（1・18）H.ファン・リッケヴォレールがロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月16日（1・30）G.ヒュルスト・ファン・ケウレン出版社社長J.スワルトがアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。H.ファン・リッケヴォレールがロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月20日（2・4）モウリン？（Moulin）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月26日（2・10）デンマーク王室図書館司書ティーレがコペンハーゲンからシーボルト宛書簡を送る。
- * 3月28日（2・12）叔父ヨアヒム・ロッツがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月3日（2・18）ヴェルツブルグの器械製作者メッツ（A. Metz）がミュンヘンからシーボルト宛に請求書を送る。
- △ 4月4日（2・19）ミュンヘンの図版製作者（植物描写石版師）S.ミンシングルがミュンヘンからシーボルト宛に請求書を送る。
- * 4月11日（2・26）モウリン？がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。イセンセー（Isensee）がロンドンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月16日（3・2）デ・ファン・ヴェートレーネン男爵（de van Weetreenen）とファン・ティーランド？（van Tielandt）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月24日（3・10）S. J.シモンディがアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月25日（3・11）ジージャー博士？（Dr. Zieger）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月26日（3・12）元出島オランダ商館長ヤン・コック・ブロムホフがユトレヒトからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月10日（3・26）ラーペンブルフ（Rapenburg）の家をライデン大学教授（Prof. C.G.C）ラインワルトに売却。このためシーボルト・コレクションはパルデンステグ（Paardensteeg）に移行。
- 5月12日（3・28）ハーグにて、モウリン？宛の手紙を書く。

△ 5月14日（3・30）ミュンヘン大学植物学教授 J. G. ツッカーニーがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 6月2日（4・19）H. ファン・リッケヴォレールがロッテルダムからシーボルト宛に書簡と領収書（金額30フローリン）を送る。

○ 6月4日（4・21）ハーグからオランダ国フレデリック王子に対する拝謁の招待状を受け取る。

* 6月9日（4・26）G. ヴォーゲル博士がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 6月14日（5・2）オランダ植民大臣（J. C. パウト）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 6月24日（5・12）G. ヴォーゲル博士がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 6月25日（5・13）シュミット（L. G. Schmidt）がブランケンハイン（Blankenhain）からシーボルト宛に書簡を送る。

* 7月10日（5・28）G. ヴォーゲル博士がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。元出島オランダ商館長ヤン・コック・ブロムホフがユトレヒトからシーボルト宛に書簡を送る。

* 7月14日（6・3）アルベルティーネ・ノルテがパラマリボからシーボルト宛に書簡を送る。

* 7月16日（6・5）オランダ王子侍従ラゲートがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 7月18日（6・7）ウィーン言語学者オーガスト・プヒツマイアー（August Pfizmaire）がウィーンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 7月19日（6・8）G. フォーゲル博士がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。ラレムバ（Laremba）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

○ 7月24日（6・13）ライデンにて、G. フォーゲル博士宛の手紙を書く。

* 7月25日（6・14）ファン・チンデルステン？（van Zindersten）がスネルレンブルグ（Snellenbrug）からシーボルト宛に書簡を送る。

* 7月28日（6・17）ヘフナー（C. Heffner）がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。フィリップ・フランツ・リーブラー（Philipp Franz Liebler）がロイツェンドルフ（Leuzendorf）からシーボルト宛に書簡を送る。

* 7月30日（6・19）ガルフ・デムト？（Garf Demt）がハーグからシーボルト宛に

書簡を送る。

△ 8月2日（6・22）ミュンヘン大学植物学教授 J. G. ツッカーニーがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 8月11日（7・1）アウアー（Auer）がウィーンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 8月17日（7・7）王立レオポルディーナ自然科学アカデミー総裁ネース・フォン・エーゼンベック博士がブレスロウ（Breslau）からシーボルト宛に書簡を送る。

△ 8月22日（7・12）ミュンヘン大学植物学教授 J. G. ツッカーニーがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。

○ 8月30日（7・20）デンマーク国王陛下宛に『日本動物誌』魚類篇，第8から第15分冊，1部（120フローリン）。同書鳥類篇，第3分冊，1部（15フローリン）を送付。

* 同日，オランダ陸海軍医総監がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

○ 9月初旬までに、『日本動物誌』鳥類篇，第3分冊（本文45～60頁，図版23.24.26.27.29.30.31.42.43. Suppl.A.）を出版。（注：L. B. Holthuis／酒井恒『シーボルトと日本動物誌』〔265頁〕によれば，出版の日付は1847年7月20日とある。本稿年表で紹介のシーボルト自筆の販売帳では，下記の9月30日配本が初出となっている）。

* 9月13日（8・4）ライデン大学植物学教授デ・フリーゼ（Prof. W. H. de Vriese）がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。

○ 9月18日（8・9）ライデンにて，プロイセン王国侍従武官のフォン・ブラウヒッツシュ（von Brauchitsch）夫人宛の手紙を書く。

△ 9月27日（8・18）Fr.フライシャー書店がライプツイッヒからシーボルト宛に書簡と請求書を送る。

○ 9月30日（8・21）サンクト・ペテルブルグのステイーグリッツ商会を通して，ロシア宰相ネッセルローデ伯爵宛に『日本動物誌』魚類篇，第8及び第15分冊，10部（2,400ルーブル）。同書鳥類篇，第3分冊，10部（300ルーブル）などを送付。

○ 同日，ユトレヒトのファン・デル・カペレン男爵閣下宛に『日本動物誌』魚類篇，第14及び第15分冊，1部（30フローリン）。同書鳥類篇（第何分冊かは未記入），1部（15フローリン）を送付。

○ 10月2日（8・23）プロイセン王国内務省がコブレンツからアレクサンダー・フォン・シーボルトに対する家臣団入団証明書を交付。コブレンツにて，プロイセン王

国侍従武官のフォン・ブラウヒッシュ夫人宛の手紙を書く。

- 10月上旬から中旬頃までに、『日本動物誌』鳥類篇，第4分冊を出版。(注：J. B. Holthuis／酒井恒『シーボルトと日本動物誌』によれば，出版の日付は1847年10月6日とあり，本稿年表で紹介のシーボルト自筆の販売帳では，下記の10月23日配本が初出となっている)。
- *10月5日(8・26) イダ・ガーゲルン (Ida Gagern) がベルリンからシーボルト宛に借用書(金額1000. エキュウス ecus) を送る。
- 10月13日(9・5) 北極星賞勲記(ストックホルム)・スウェーデンの北極星勲章勲爵士を受ける。
- *10月14日(8・25) ロートムント博士? (Dr. Rothmund) がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 10月18日(9・10) ライデンにて，ライデンの王立植物標本館館長 C. L. ブルーメ宛の手紙を書く。
- *同日，オランダ領東インド政庁衛生将校がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月21日(9・13) ライデンの王立植物標本館館長 C. L. ブルーメがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 10月23日(9・15) サンクト・ペテルブルグのステイーグリッツ商会を通して，ロシア宰相ネッセルローデ伯爵宛に『日本動物誌』魚類篇，第4分冊，10部(300ルーブル)。『NIPPON』2つ折本，第16分冊，10部(500ルーブル)などを送付。
- 10月25日(9・17) ライデンにて，ライデンの王立植物標本館館長 C. L. ブルーメ宛に10月21日付書簡の受け取りなどの返書を書く。
- △同日，ライデンから Fr. フライシャー書店がシーボルト宛に書簡と請求書を送る。
- △10月27日(9・19) ライプツィヒのレオポルド・フォス書店がライプツィヒからシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月30日(9・22) ファン・ストラレン (J. J. van Stralen) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る
- △同日，Fr. フライシャー書店がライプツィヒからシーボルト宛に書簡を送る。
- 同日，アムステルダム の A. エギディウスを通して，スウェーデン国王陛下宛に『日本動物誌』魚類篇，第13から第15分冊，1部(90ルーブル)。同書鳥類篇，第3分冊，1部(30ルーブル)などを送付。

- 10月日付不詳、『NIPPON』第16分冊（第Ⅱ章・第Ⅲ章・第Ⅵ章農業・工芸・貿易）を出版。
- 10月日付不詳，リスト『NIPPON』16分冊發送一覧を作成。
- 11月1日（9・24）ハーグにて，ライデンの王立植物標本館館長C. L.ブルーメ宛の手紙を書く。
- *同日，元ジャワの検疫官エップ博士（Dr. Fr. Epp）がシーボルト宛に書簡を送る。
- *同日，オランダ国王当直武官がハーグからシーボルト宛に書簡（オランダ国王謁見のための出頭命令）を送る。
- 11月2日（9・25）ライデンにて，前出島オランダ商館長ビク（Piter Albert Bik）宛の手紙を書く・
- 11月3日（9・26）ライデンにて，ライデンの王立植物標本館館長C. L.ブルーメ宛の手紙を書く。
- *11月4日（9・27）デンマーク王室文庫長ティーレがコペンハーゲンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月6日（9・29）デ・ヴァーレンドルフ（de Wahrendorff）男爵がハーグからシーボルト宛書簡を送る。
- *11月11日（10・4）デ・ヴァーレンドルフ男爵がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月12日（10・5）デンマーク王室文庫長ティーレがコペンハーゲンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月30日（10・23）前出島オランダ商館長P. A.ビクがアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月2日（10・25）ライデンの王立植物標本館館長C. L.ブルーメがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 12月13日（11・6）アーヘンにて，「北十字騎士賞叙勲記」（手稿）
- *12月23日（11・16）マールブルグ大学およびゲッチンゲン大学医学部教授エドアード・フォン・シーボルトがゲッチンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月27日（11・20）デ・ヴァーレンドルフ男爵がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月29日（11・22）ベルマン（Bermann）がコブレンツからシーボルト宛に書簡を

送る。

- * 12月30日 (11・23) 前出島オランダ商館長の P. A. ビクがアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- 士官在勤25年功勞勲章 (オランダ) を受ける。
- 月日不詳, ライン河畔ポッパルトの南端のフランシスコ派旧ザンクト・マルティーン修道院 (St. Martin) を2万ターラーで購入して転居。プロイセンの国籍を取得。



〔図58〕 旧ザンクト・マルティーン修道院購入後の別荘 (左側) および中庭の中央建物2階 (右側) で著書『NIPPON』などを執筆したといわれている (現在ポッパルト市の福祉施設)。写真: ハインリッヒ・シーボルト子孫の関口忠志氏提供。

1848年 (嘉永元年) 52歳

- * 1月4日 (11・28) F. レムレインがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月7日 (12・2) ユスティーネ・フォルスター (シーボルトの姪) がレーゲンスブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 1月12日 (12・7) ライデンにて, オランダ植民大臣 (J. C. バウト) 宛の手紙を書く。
- * 1月17日 (12・12) カーレルセン商会 (Caarelsen & Co) がアムステルダムからシーボルト宛に書簡と請求書を送る。
- 1月24日 (12・19) オランダ陸軍名誉大佐に任ぜられる。
- 1月29日 (12・24) ザンクト・マルティーンにて, プロイセン王国国務省宛の手紙とアレクサンダー・フォン・シーボルト (Alexander von Siebold) 宛の手紙およびオランダ内務大臣 (ファン・デ・ケンペナーエル van de Kempenaar) 宛の手紙を

書く。

- * 1月30日 (12・25) ルドルフ・ロッツ (Rudolf Rotz) がウーフェンハイム (Uffenheim) からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月2日 (12・28) ゲオルグ・フォン・シーボルト博士 (大叔父ダミアン・フォン・シーボルトの次男) がマインツからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月5日 (1・1) オランダ植民大臣 (J. C.バウト) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月9日 (1・5) ユステイーネ・フォルスター (シーボルトの姪) がレーゲンスブルグ (Regensburg) からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月15日 (1・11) シュレーダー (E. H. Schroeder) がシーボルト宛に請求書を送る。
- * 同日, アルフェレス? (Alfers) がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
- ◇ 2月18日 (1・14) ミュンヘン大学植物学教授 J. G.ツッカーニー博士が没する (享年50歳)。
- 2月24日 (1・20) ボッパルトにて, ミュンヘンの図版製作者 (植物描写) S.ミンシンゲル宛に, ミュンヘン大学植物学教授 J. G.ツッカーニー博士の死去に関する手紙を書く (注: 『新・シーボルト研究』I.241-242頁参照)。
- * 2月28日 (1・24) E. H.シュレーダーがベルリンからシーボルト宛に書簡と請求書を送る。
- △ 3月7日 (2・3) ミュンヘンの図版製作者 (植物描写石版師) S.ミンシンゲルがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月28日 (2・24) ユステイーネ・フォルスター (シーボルトの姪) がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月3日 (2・30) ライデンにて, シーボルトの配達申告書 (一覧表) を書く。
- * 4月5日 (3・2) ライデン大学植物学教授 W. H.デ・フリーゼがライデンからシーボルト宛書簡を送る。
- * 4月6日 (3・3) プロイセン王国教育医学省がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月11日 (3・8) ファン・ストラレン (J. J. van Stralen) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

- * 4月16日 (3・13) オランダ王子ヘンドリックが^ハハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月24日 (3・21) オルタルリ博士 (Dr. F. Ortalli) がコブレンツからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月28日 (3・25) ウィレム・フレデリック国王家会計係が^ハハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月1日 (3・28) ルヒトマンス (S. u. J. Luchtmans) が^ラライデンからシーボルト宛に書簡と請求書を送る。
- * 5月3日 (4・1) フリーダハ・ツイーネン? (F. D. Vrydag Zijnen) が^ハハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月27日 (4・25) オランダ海軍大臣兼植民大臣ライク (H. Ryk) が^ハハーグからシーボルト宛書簡を送る。
- * 5月31日 (4・29) ユステイーネ・フォルスター (シーボルトの姪) が^{ミュ}ミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月2日 (5・2) 元出島オランダ商館長 P. A. ビクが^{アム}アムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月19日 (5・19) パリの王立図書館事務局長ヴェンデル? (Wendel) が^パパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月21日 (5・21) オランダ海軍大臣兼植民大臣 H. ライクが^ハハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月24日 (5・24) 元出島オランダ商館長 ヤン・コック・プロムホフが^{アメルス}アメルスフォールド (Amersfoort) からシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 6月25日 (5・5) ミュンヘンの図版製作者 (植物描写石版師) S. ミンシングルが^{ミュ}ミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 7月15日 (6・15) フランクフルトにて、アレクサンダー・フォン・フンボルト (Alexander von Humboldt) 宛の手紙を書く。
- △ 7月17日 (6・17) Fr. フライシャー書店が^{ライプツ}ライプツイッヒからシーボルト宛に書簡と請求書を送る。
- * 7月18日 (6・18) エメレンツ・シーボルト (Emerenz Siebold シーボルト家の一族?) が^{シー}シーボルト宛てに書簡を送る。

- * 7月22日（6・22）プロイセン王国教育医学省がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月26日（6・26）オランダ海軍大臣兼植民大臣 H.ライクがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月27日（6・27）プロイセン王国教育医学省がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 8月5日（7・7）ザンクト・マルティーンにて、オランダ植民大臣（H.ライク）宛の手紙を書く。
- * 8月6日（7・8）ゲオルグ・フォン・シーボルト（大叔父ダミアン・フォン・シーボルトの次男）がマインツからシーボルト宛に書簡（マリエンベルク城塞のスケッチを含む）を送る。
- * 8月19日（7・21）ロシア帝立自然科学者学会書記レナード博士（Dr. Renard）がモスクワからシーボルト宛に協会紀要の送り状と書簡を送る。
- 8月28日（7・30）プラハ大学名誉哲学博士の学位を授与する。
- 9月5日（8・8）ライデンにて、ライデンの王立自然史博物館管理官・動物学者 H.シュレーゲル宛の手紙を書く（注：『新・シーボルト研究』I.241頁参照）。
- * 9月19日（8・22）ユステイーネ・フォルスター（シーボルトの姪）がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 9月27日（8・18）長女ヘレーネがポツバルトで生まれる。
- * 10月2日（9・6）長崎出島オランダ商館医オットー・モーニッケ博士（Dr. Otto Monicke）が出島からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 10月5日（9・9）ルドルフ・ロッツ（Rudolf Rotz）がウーフェンハイム（Uffenheim）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日、元出島オランダ商館長ヤン・コック・ブロムホフがアメルスフォールド（Amersfoort）からシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 10月26日（9・30）G.ヒュルスト・ファン・ケウレン書店社長 J.スワルトがアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 11月22日（10・27）プロイセン王国教育医学省がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 11月25日（10・30）書籍商エドワード・フライシネ（シーボルト『NIPPON』の仏

文訳者) がパリからシーボルト宛に書簡を送る。

* 12月1日 (11・6) オランダ内務大臣ファン・デ・ケンペナーエル (van de Kempenaer) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

△ 12月2日 (11・7) E. J. ブリル書店がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 12月20日 (11・25) オランダ植民大臣 (H. ライク) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

△ 12月28日 (12・3) ミュンヘンの図版製作者 (植物描写石版師) S. ミンシゲルがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。

○ 月日不詳、『日本動物誌』鳥類篇，第5及び第8分冊を出版。(注：L. B. Holthuis／酒井恒『シーボルトと日本動物誌』[265頁]によれば，出版日付は第5分冊(本文?～?頁) 1848年2月8日，第6分冊(本文?～?頁) 1848年4月29日，第7分冊(本文?～?頁) 1848年11月8日，第8分冊(本文100頁) 1848年11月27日と記述している。本稿年表で紹介のシーボルト自筆の販売帳には記載されていない)。

○ 月日不詳、『1848年春。ライデン市にあるフォン・シーボルト商会の施設で栽培されたオランダ領東インドと日本植物の目録の要約と市価』5頁，四つ折り本を発行。

△ 月日不詳，元オランダ領東インド総督・ユトレヒト大学主席管理人ファン・デル・カベレン男爵が没する(享年70歳)。

○ オーストリアのヨハン大公の海軍関係顧問。

○ 『日本海域における発見史の研究』に没頭。

◇ フランス二月革命，ドイツ・オーストリアで三月革命。

◇ 長崎オランダ商館医モーニッケ (Otto Gottlieb Jahann Mohnike) が牛痘接種に成功。

◇ 緒方洪庵が大坂に除痘館を開く。

1849年(嘉永2年) 53歳

* 1月14日 (12・20) モルジン? (Morzin) がフランクフルトからシーボルト宛に書簡を送る。

* 2月4日 (1・12) フランスの閣僚がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 2月24日 (2・2) ゲオルグ・フォン・シーボルト(大叔父ダミアン・フォン・シーボルトの次男) がマインツからシーボルト宛に書簡を送る。

△ 2月27日 (2・5) L. ロレ書店がパリからシーボルト宛に書簡を送る。

- 3月17日(2・23)パリにて、ライデンの気候馴化園の庭師 A.ハクビイル宛ての手紙を書く。
- *4月9日(3・17)オランダ植民大臣(H.ライク)がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *4月10日(3・18)元ジャワ検疫官 Fr.エップ博士がハイデルベルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *4月27日(4・5)ベルリン大学国家学教授アドルフ・ワグナー博士(Dr. Adolf Wagner)がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *5月2日(4・10)フリーダハ・ツィーネン?(F. D. Vrydag Zijnen)がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月19日(4・27)ライデンにて、ライデンの王立植物標本館館長 C. L.ブルーメ宛の手紙を書く。
- 5月日付不詳、オランダ領インド陸軍参謀部付きに転任。
- 6月3日(閏4・13)ライデンにて、オランダ植民大臣(H.ライク)宛の手紙を書く。
- *6月7日(閏4・17)カンブマン(Kampmann)がマリエンベルグ(Marienberg)からシーボルト宛に書簡を送る。
- *6月8日(閏4・18)ガンネロ?(Gannero)がシーボルト宛に書簡を送る。
- △6月12日(閏4・22)Fr.フライシャー書店がライプツィヒからシーボルト宛に書簡と請求書を送る。
- *6月16日(閏4・26)ウイリアム・ブライルソン?(William Brailson)がロンドンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *6月30日(5・11)パリの王立図書館地理学部門管理部長エドム・フランソワ・ジョマールがパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- *6月日付不詳、ビオー?(Bio)がシーボルト宛に書簡を送る。
- △7月1日(5・12)Fr.フライシャー書店がライプツィヒからシーボルト宛に書簡と請求書を送る。
- *7月4日(5・15)ファン・スウィーテン(van Swieten)がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 7月5日(5・16)ライデンにて、オランダ植民地省事務次官宛の手紙を書く。

- 7月7日（5・18）ライデンにて、オランダ植民大臣（H.ライク）宛の手紙を書く。
- △同日、Fr.フライシャー書店がライプツィヒからシーボルト宛に書簡を送る。
- *同日、F. D.フリーダハ・ツィーネン？がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *7月13日（5・24）スリナムの博物学者 A.カップラー（A. Kappler）がパラマリボ（Paramaribo）からシーボルト宛に書簡を送る。
- △7月24日（6・5）Fr.フライシャー書店がライプツィヒからシーボルト宛に書簡と請求書を送る。
- 7月25日（6・6）ザンクト・マルティーンにて、フリードリッヒ・シャウムブルグ書店（Friedrich Schaumburg & Co）宛ての手紙を書く。
- △8月1日（6・13）レオポルド・フォス書店がライプツィヒからシーボルト宛に書簡を送る。
- △8月2日（6・14）Fr.フライシャー書店がライプツィヒからシーボルト宛に書簡を送る。
- △8月13日（6・28）ミュンヘンの図版製作者（植物描写石版師）S.ミンシンゲルがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *8月14日（6・26）スタニスラウス・ジュリアンがパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- 8月22日（7・5）ザンクト・マルティーンにて、図版製作者（植物描写石版師）S.ミンシンゲル宛の手紙を書く。
- △8月24日（7・7）Fr.シャウムブルグ書店がウィーンからシーボルト宛に書簡と請求書を送る。
- △9月26日（8・10）Fr.フライシャー書店がライプツィヒからシーボルト宛に書簡と請求書を送る。
- *10月2日（8・16）長崎・出島オランダ商館医オットー・モーニッケ（Otto Gottlieb Mohnike）が出島からシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月1日（8・15）ワップ博士？（Wap）がコブレンツからシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月16日（9・1）フランスの国务大臣がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月17日（9・2）ハインケン？（Fr. Heinken）がライプツィヒからシーボルト宛に書簡を送る。

- *10月20日（9・5）スタニスラウス・ジュリアンがパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月24日（9・9）ワップ博士？がコブレンツからシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月29日（9・14）スタニスラウス・ジュリアンがパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月14日（9・30）オットー・フォン・ツアルノウスキー（Otto von Czarnowski）がバッカラッハ（Bacharach）からシーボルト宛に書簡を送る。
- 11月日付不詳，ライデンにて，ウィレム・フレデリック国王宛「配達分一覧表」（シーボルト署名）を書く。
- *12月1日（10・17）バンスワース（A.Bansworth）がロンドンからシーボルト宛に書簡を送る。
- △12月6日（10・22）Fr.フライシャー書店がライプツィヒからシーボルト宛に書簡を送る。
- △12月9日（10・25）微細画家・図版製作者 H. Ph.ハイデマン（Henri Philipp Heide-mann シーボルト『NIPPON』図版担当）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月14日（10・30）元ジャワの検疫官 Fr.エップ博士がアルフェン（Alphen）からシーボルト宛に書簡を送る。
- △12月27日（11・13）G.ヒュルスト・ファン・ケウレン書店社長 J.スワルトがアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月31日（11・17）カンプマンがマリエンベルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- △同日，G.ヒュルスト・ファン・ケウレン書店社長 J.スワルトがアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- 12月日付不詳，ライデンにて，オランダ国王ウィレム・フレデリック（Willem Frederik）家の会計係宛の手紙を書く。
- 月日不詳，『日本動物誌』鳥類篇の第9から第11分冊を出版。（注：L. B. Holthuis／酒井恒著『シーボルトと日本動物誌』〔265頁〕によれば，出版の日付は第9分冊（本文101～？頁）1849年7月12日，第10分冊（本文？～？頁）1849年10月13日，第11分冊（本文？～124頁）と記述している。本稿年表で紹介のシーボルト自筆の販売帳には記載されていない）。
- 月日不詳，『日本動物誌』甲殻類篇の第6及び第7分冊を出版。（注：L. B. Holthuis／

酒井恒『シーボルトと日本動物誌』〔265頁〕によれば、出版の日付は第6分冊（本文165～196頁）と第7分冊（本文197～243頁）Praefatio p.I-XXXIの発行年は、1849年と記述している。本稿年表で紹介のシーボルト自筆の販売帳には、記載されていない。

◇幕府が蘭書翻訳取締令を発する。

1850年（嘉永3年） 54歳

- * 1月5日（11・22）アルバー・アベルスドルフ（Alber Abelsdorff）がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月23日（1・12）ランド県産業銀行（Landes-Industrie-Comptoir）がワイマール（Weimar）からシーボルト宛に書簡と請求書を送る。
- * 3月4日（1・21）パリの王立図書館地理学部門管理部長エドム・フランソワ・ジョマール（Edme François Jomard）がパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月5日（1・22）ライデン大学植物学教授デ・フリーゼ（W. H. de Vriese）がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月8日（1・25）モロウ（Moreau）がパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月17日（2・4）キャンプマン（Kampmann）がヴュルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月5日（2・23）パリのL.ロレ書店宛に『海図・陸図の地図』4枚（44フラン、35パーセント割引で、1枚（15.46フラン、差し引き28.60フラン）を送付。
- △ 4月23日（閏3・3）Fr.フライシャー書店がライプツイッヒからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月28日（3・17）ヘフナー（C. Heffner）がヴュルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 5月8日（3・27）L.ロレ社がパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月22日（4・11）パリの王立図書館地理学部門管理部長エドム・フランソワ・ジョマールがパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 5月日付不詳、書籍商ヴィルマン（F. Wilmann）がフランクフルトからシーボルト宛に請求書を送る。
- △ 6月3日（4・23）微細画家・図版製作者 H. Ph.ハイデマン（シーボルト『NIP-

- PON』図版担当) がシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日, モーリッツ・バルツヒ (Moritz Baruch) がフローレンス (Florenz) からシーボルト宛に書簡を送る。
 - * 6月7日 (4・27) Fr.フライシャー社がライプツイッヒからシーボルト宛に書簡と請求書を送る。
 - * 6月22日 (5・12) ドゥコムトゥール? (Decomture) がシーボルト宛に書簡を送る。
 - △ 7月1日 (5・22) Fr.フライシャー書店がライプツイッヒからシーボルト宛に書簡と請求書を送る。
 - * 7月3日 (5・24) レフォース (Leforth) がブリュッセルからシーボルト宛に書簡を送る。
 - * 7月4日 (5・26) グランド=グリフィス (Grand & Griffith) 商会在ロンドンからシーボルト宛に宣伝広告を送る。
 - * 7月8日 (6・1) サムエル・ノック (Samuel Nock) がロンドンからシーボルト宛に書簡を送る。
 - * 7月10日 (6・2) レフォースがブリュッセルからシーボルト宛に書簡を送る。
 - △ 7月11日 (6・3) L. ロレ書店がパリからシーボルト宛に書簡を送る。
 - 7月12日 (6・4) ベルギーから旅券を受け取る。
 - * 7月23日 (6・15) レフォースがブリュッセルからシーボルト宛に書簡を送る。
 - * 8月1日 (6・24) ヨハネス・ギステル博士 (Dr. Johannes Gistel gen. Tilesius) がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
 - 8月7日 (6・30) ボツバルトにて, パリのL.ロレ書店宛の手紙を書く。
 - 同日, パリのベンジャミン・デュブラ社宛に, シーボルト自らの著作の内, 以下の出版物販売を委託: 『日本叢書』の内, 第2冊『和漢音釈書言字考』の「表意文字の複写付録」2部 (72ターラー)。『和漢音釈書言字考』2部 (114ターラー)。同書第3冊『千字文』2部 (20ターラー)。『NIPPON』2つ折本, 第1から第6分冊, 1部 (84ターラー)。同書2つ折本, 第6分冊, 2部 (28ターラー)。同書2つ折本, 第5分冊, 1部 (14ターラー)。同書2つ折本, 第5及び第6分冊, 1部 (28ターラー)。『海図・陸図の地図』第1から第4図, 1部 (11ターラー)。「原地図と日本人の天文学的観察による日本国の地図」10部 (50ターラー)。『日本図書及び写本日

録、附録にハーグの王立博物館所蔵物の目録』4部(24ターラー)。包装の「石版画」2包み(価格未記入)。『植民地を有するか、もしくは世界の他の部分と貿易関係を有するヨーロッパ諸国において民族学博物館の効用とその設立の重要性に関する王立学士院会員・フランス王立図書館地理局管理官エドム・フランソワ・ジョマール宛の書簡』1部(価格未記入)を送付。

△8月11日(7・4) L.ロレ書店がパリからシーボルト宛に書簡を送る。

*9月6日(8・1) デ・ウィルソン(J. W. de Wilson)がハーレム(Harlem)からシーボルト宛に書簡を送る。パニツイ(A. Panizzi)が大英博物館からシーボルト宛に書簡を送る。

△9月9日(8・4) 書籍商アレクサンダー・ブラック(Alexander Black)がロンドンからシーボルト宛に書簡を送る。

*9月17日(8・12) フォン・グリースハイム(von Griesheim)がコブレンツ(Koblenz)からシーボルト宛に書簡を送る。

*9月25日(8・20) オッテンバッシャー(C. F. Ottenbacher)がハイルブロン(Heilbronn)からシーボルト宛に書簡を送る。

○9月27日(8・22) 次女マティルダ(Mathilde)がボツパルドで生まれる。

○9月30日(8・25) ベルギー国王陛下王室文庫(文庫長シエグム博士)宛に『日本植物誌』彩色版, 第2巻, 第4分冊, 1部(14.40フローリン)。『日本動物誌』甲殻類篇, 第1から第7分冊, 1部(84フローリン)。同書爬虫類篇, 第1から第3分冊, 1部(36フローリン)などを送付。

○10月1日(8・26) パリのL.ロレ書店宛に『日本動物誌』甲殻類篇, 第6及び第7分冊, 14部(700フラン)。『日本植物誌』黒色版, 第2巻, 第4及び第5分冊, 6部(180フラン)。同書彩色版, 第1から第25分冊(第1巻: 第1から第20分冊, 第2巻: 第1から第5分冊), 1部(375フラン)などを送付。

△10月7日(9・2) 微細画家・図版製作者H. Ph.ハイデマン(シーボルト『NIPPON』図版担当)がリーゼ近郊のシャトウ・ドゥ・マルシェー(de Marchais pres de Liesse)からシーボルト宛に書簡を送る。

*10月14日(9・9) ヴィツレーベン(Witzleben)がコブレンツからシーボルト宛に書簡を送る。

*10月16日(9・11) オランダ王子侍従R.ラゲートがハーグからシーボルト宛に書

簡を送る。

△10月19日（9・14）微細画家・図版製作者 H. Ph.ハイデマンがシャトウ・ドゥ・ベノンからシーボルト宛に書簡を送る。

○10月23日（9・18）叙勲書記局がシュトゥットガルトからシーボルト宛に叙勲通達（公文書）。

*10月16日（9・11）オランダ王子侍従 J.ラグートがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

*11月25日（10・22）ボン大学医学部解剖学教授メイヤー（Prof. F. J. G. Mayer）がウインザー城からシーボルト宛に書簡を送る。

*12月1日（10・17）バンスワース（A. Bansworth）がロンドンからシーボルト宛に書簡を送る。

◇12月3日（10・30）高野長英自殺する（享年46歳）。

*同日、スタンレー（H. E. Stanley）がロンドンからシーボルト宛に書簡を送る。

△12月27日（11・24）微細画家・図版製作者 H. Ph.ハイデマンがパリからシーボルト宛に書簡を送る。

○月日不詳、『日本動物誌』鳥類篇の第12分冊（本文125～141頁）魚類篇の第15分冊（本文269～323頁）、甲殻類篇の第8分冊（デ・ハーンの諸言、シーボルトの解説 Commentatio など。p.VII-XVII）出版。この年をもって『日本動物誌』の出版終わる。（注：L. Holthuis／酒井恒『シーボルトと日本動物誌』〔266頁〕によれば、出版日付は鳥類篇の第12分冊が1850年4月10日、魚類篇の第15分冊が1850年7月19日、甲殻類篇の第8分冊は1850年とある）。

○月日不詳、『1850年夏および秋。ライデン市にあるフォン・シーボルト商会の施設に導入され、栽培された日本植物の目録と市価』4頁を発行。

○ミュンヘン所在、博物学協会名誉会員。

◇オランダ、風説書でアメリカ艦隊の来航を幕府に予告する。

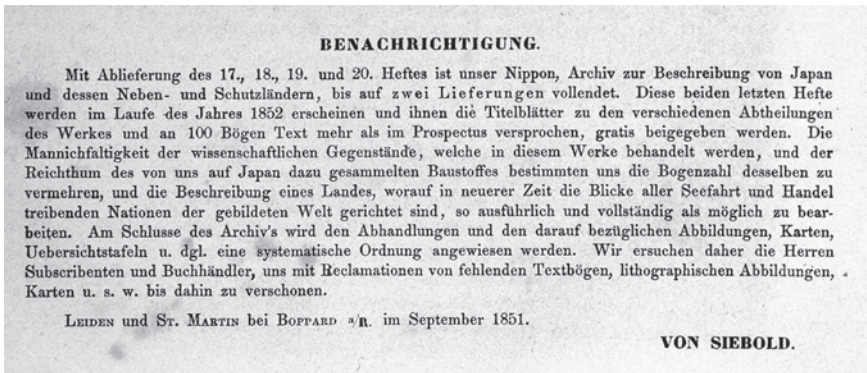
◇佐賀藩、反射炉築造。

1851年（嘉永4年） 55歳

*3月3日（2・1）フォン・デ・マルティツ（Baron von de Maltitz）男爵がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

- * 3月16日 (2・14) F.レムレインがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月17日 (2・15) フォン・デ・マルティツ男爵がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月20日 (2・18) オランダ枢密院顧問官 A.G.A.ファン・ラッパルド (A. G. A. van Rapard) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月25日 (2・23) オランダ王子ヘンドリックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月28日 (2・26) オランダ王子ヘンドリックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。シュルツェ博士 (Dr. J. Schulze) がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月18日 (3・17) オランダ王子ヘンドリックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月3日 (4・3) スタンレー (H. E. Stanley) がコンスタンチノーブル (Constantinople) からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月6日 (4・6) モスクワ帝立自然科学者学会書記レナード博士 (Dr. Renard) がモスクワからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月18日 (4・18) モスクワ帝立自然科学者学会書記レナード博士がモスクワからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月17日 (5・18) H. E.スタンレーがロンドンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月15日 (6・17) ボッパルト射撃協会会長, ボッパルトからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月21日 (7・25) ヘルマン・ナロップ (Herman Nalop) がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月8日 (8・13) シュルツェ博士 (Dr. J. Schulze) がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 9月22日 (8・27) ザンクト・マルティーンにて, ダルムシュタット (Darmstadt) の保健委員会委員クリスティアン・ヘッセ (Christian Hesse) 男爵宛の手紙を書く。
- * 9月26日 (9・2) オランダ王子ヘンドリックがルクセンブルグ (Luxemburg) からシーボルト宛に書簡を送る。
- 9月27日 (9・3) ザンクト・マルティーンにて, ロッテルダムの運送業者デ・コック (J. P. de Cock) 宛の手紙を書く。

- 9月29日（9・5）ザンクト・マルティーンにて、オランダ王子ヘンドリック宛の手紙を書く。
- 9月日付不詳、『NIPPON』17～20分冊の配本。
- 10月2日（9・26）ライデンにて、ロシア帝国外務省宛の手紙を書く。
- 10月4日（9・10）ライデンにて、コペンハーゲンのデンマーク王室文庫長ティエーレ卿宛に『日本動物誌』についての手紙を書く（注：『参考書誌研究』第11号、13頁及び『上野図書館紀要』Vol. I. No2. ii - iii頁参照）。
- *同日、オランダ内務大臣トールベッケ（J. R. Thorbecke）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。



【図59】『NIPPON』13回配本の目録（INHALT）にあるシーボルトの「報告」（九州大学付属図書館医学分館所蔵 宮崎克則「復元：シーボルト『NIPPON』の配本」『九州大学総合研究博物館研究報告』3号、2005年参照）

【翻訳】

第17.18.19.20分冊の発行で『日本、日本及びその近隣・保護国に関する資料集』はあと2回の配本で完成です。この最後の2回の配本は1852年中に出版されますが、これには本書の諸編の前に付ける標題紙と、発刊案内で約束したのものよりも100枚多い本文が無料で添付されます。本書で取り扱われる学問的対象が多岐にわたることと、その目的のために我々が日本で募集した資料の豊富さが、我々に紙数自体を増やす気にならせましたし、近年文明世界のうち、航海と貿易に従事する国々の注視的となっている国についての記述はどうしてもできる限り詳細かつ完全に論述せざるを得ません。この資料集が終わります際、論述とそれに関する図版・地図・一覧表などの間に、系統的な秩序が与えられるでしょう。予約購読者及び書店各位には、欠落している本文や石版刷図版、地図などについてのご苦情は、それまで何卒ご容赦下さい。

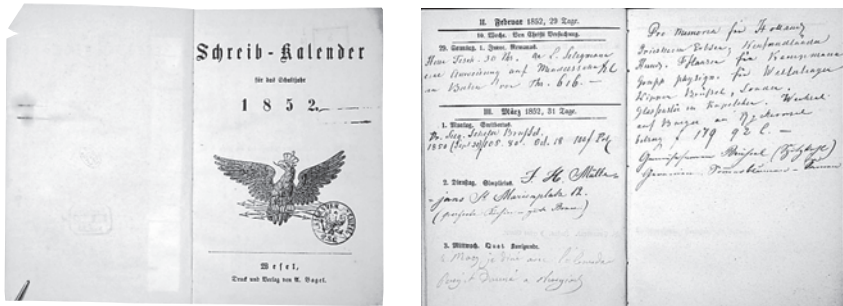
1851年9月 ライデンとボッパード郊外セント・マルチンにて

シーボルト

- *10月12日 (9・18) メジャー・フォン・ガイル (Major von Gayl) がルクセンブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月20日 (9・26) ライデンにて、ロシア外務省宛の手紙を書く。
- ◇11月、フレデリック・コルネリス・ローゼ (Frederik Cornelis Rose) 出島商館長に
着任 (1851年11月1日～1852年10月31日)。
- *11月4日 (10・11) コグスウェク (G. Cogswek) がパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月26日 (11・4) オランダ駐在アメリカ領事フォルソム (Folsom) がハーグから
シーボルト宛に書簡を送る。
- 11月日付不詳、草稿『条約の主要な点。日蘭通商条約案文解説』(蘭文) 執筆。
- *12月2日 (11・10) オランダ王子ヘンドリックがブウルフェルディンゲン (Wulferdingen) からシーボルト宛に書簡を送る。
- 12月20日 (11・28) ザンクト・マルティーンにて、プロシア王国教育医学省宛の手紙を書く。
- 月日不詳、アメリカと折衝をもち、アメリカ船についての港の開港に関して助言。
- 月日不詳、『旧時代と近代の発見を参照し、原地図と日本人の天文学的観察による大日本国とその隣国および保護国、南千島を含む蝦夷・朝鮮・琉球諸島の地図海図の地図書。17世紀の末発表のオランダの地図による中国の海岸と台湾島の海図付』(独文) をベルリンのS.シュロプ、ライデン、著者のもとで、アムステルダムのヒュルスト・ファン・ケウレン、ライプツィヒのF.フライシャー、ニューヨークのJ.ディスターネル、1851年 16枚、2つ折本(日本の花の地図付25部) 発行。
- ルクセンブルグ大公国自然協会名誉会員。
- ◇太平天国の乱 (～64年)。
- ◇島津^{なりあき}齊彬が鹿児島精錬所を開き、翌年反射炉を築く。

1852年(嘉永5年) 56歳 *シーボルト自筆：1852年『日記』参照

- 1月1日 (12・10) 妻ヘレーネ、子どもたちと一緒にコブレンツへ。
- 1月2日 (12・11) ライデンの気候馴化園の庭師ハクビル (A. Hakbyl) を介してヤコブ・マールマン (Jacob Mallmann) 宛に300フローリン、ロッテルダムの船主・貿易商 A.ファン・ホボーケン宛に為替で500フローリンを支払う。



【図60】シーボルトの1852年『日記』（ボフム大学図書館所蔵 No：1.543.000）

- 1月3日（12・12）フォン・グリースハイム（von Griesheim）がコブレンツへ。
- 1月4日（12・13）夕方，コブレンツで，プロシア皇太子フォン・ヒュルステンベルク伯爵（Graf von Fürstenberg）と知己を得る。
- 1月5日（12・14）ポツバルトへ。コブレンツのレオポルド・セリグマン（Leopold Seligmann）から金額400ターラーを受領する。
- 1月6日（12・15）ポツバルトにて，購読者ノタル・スレヴェンス（Notar Slevens）宛とトゥルン＝タクシス（Thurn & Taxis）公爵領のヘンゼル（Hansel）図書館館長宛，パリのベンジャミン・デュプラ社宛の手紙を書く。
- 1月7日（12・16）ポツバルトにて，マイニンゲンの図書館館長・童話収集家ルートヴィヒ・ベヒシュタイン宛とパリの大砲隊陸軍中佐アルフレッド・ドウ・ルージュモン（Arfred de Reugemont）宛の手紙を書く。
- 1月8日（12・17）不快（体調不良）。
- 1月9日（12・18）不快（体調不良）。
- *同日，オランダ植民大臣パユウ・デ・モルタンゲス（Charles Ferdinand Pahud de Mortanges）がハーグからシーボルト宛に，またフォン・デ・マルティツ男爵がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 1月10日（12・19）コブレンツへ。
- *同日，フォン・デ・マルティツ男爵がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 1月14日（12・23）コブレンツ在住の陸軍将軍フォン・ヒルシュフェルド（von Hirschfeld）宛の手紙を書く。
- 1月16日（12・25）パリのL.ロレ書店宛とライデンの気候馴化園庭師A.ハクビイ

ル宛の手紙を書く。

- 1月18日 (12・27) トゥルン=タクシス公爵領のヘンゼル図書館館長宛に『NIPPON』2つ折本, 第15から第20分冊, 1部送付の手紙を書く。
- 1月19日 (12・28) パリの大砲隊陸軍中佐アルフレッド・ドゥ・ルージュモン宛の手紙で, シーボルトがライデンから『NIPPON』2つ折り本, 第15から第20分冊と『日本植物誌』彩色版, 第2巻, 第4及び第5分冊(330フローリン)を送付すると書く。
- 同日, パリのアルフレッド・ドゥ・ルージュモン宛に『NIPPON』2つ折本, 第15から第20分冊, 1部(300フラン)。『日本植物誌』彩色版, 第2巻, 第4及び第5分冊, 1部(30フラン)を送付。
- * 1月20日 (12・29) オランダ植民大臣(C. F.パユウ)がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月21日 (1・1) フォン・デ・マルティツ男爵がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月22日 (1・2) オランダ植民大臣(C. F.パユウ)がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日, ヘルマン・ナロップ(Hermann Nalop)／ツァイツ(C. Zeitz)がアムステルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月28日 (1・8) デ・マルティツ男爵がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 2月1日 (1・12) ロッテルダムの船主・貿易商A.ファン・ホボーケン宛に手紙で, オランダ植民大臣宛の『NIPPON』2つ折本 第17から第20分冊, 3部(300フローリン)と書いて送る。
- * 2月4日 (1・15) ヴェンデル(Wendel)がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 2月12日 (1・23) 草稿『日本問題1852年2月12日付植民地省事務次官宛の書簡抜粋』を執筆。
- * 2月16日 (1・27) フォン・デ・マルティツ男爵がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 2月20日 (2・1) ウィーンのFr.シャウムブルグ社宛の手紙を書く。
- * 2月27日 (2・8) オランダ王子ヘンドリックがハーグからシーボルト宛に書簡を

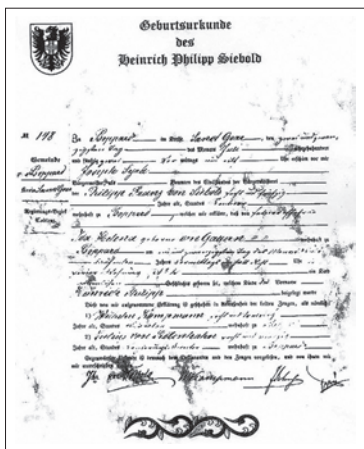
送る。

- * 2月28日（2・9）フォン・デ・マルティツ男爵がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月日付不詳，医学博士ハインリッヒ・ウォルフ（Dr. med. Heinrich Wolff）がシーボルト宛に自らの草稿『1830年世界旅行』と書簡を送る。
- * 3月3日（2・13）スペイエル大学化学・自然史教授フランツ・ケラー博士（Prof. Dr. Franz Keller）がスペイエル（Speyer）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月10日（2・20）園芸家フィリップ・ファン・デル・マーレン（Philipp van der Maalen オランダ王立園芸奨励協会会員）がブリュッセルからシーボルト宛に書簡を送る。
- 3月12日（2・22）ブリュッセルの園芸家・オランダ王立園芸奨励協会会員フィリップ・ファン・デル・マーレン宛に『NIPPON』2つ折本，第17から第20分冊，1部（60フローリン）と書いて送付。
- * 3月13日（2・23）スペイエル大学の化学・自然史教授フランツ・ケラー博士がスペイエルからシーボルト宛に書簡を送る。
- 3月22日（閏2・2）ハーグにて，フランスの国務大臣（注：氏名不詳）宛の手紙を書く。
- 3月27日（閏2・7）コンスタンティン大公（S.A.Imperiale Msgr le Grand-Duc Constantin）拜謁に関する招待状を受け取る。
- 3月28日（閏2・8）かしま王冠勲章準勲爵士（Orde de la Couronne de Chene 叙勲記 ルクセンブルグ／オランダ）。
- * 4月3日（閏2・14）オランダ国務大臣フォルトナー・ファン・ダンベナイ男爵（Fortner van Dambenay）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月6日（閏2・17）オランダ内務大臣 J. R. トールバッケがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月8日（閏2・19）日蘭通商条約草案を植民大臣（C. F.パヒュ）に提出し，ウィレム三世に日本開国交渉を進言する（注：前掲書のマククリーン著の訳文「シーボルトと日本の開国」1843-1866年，57頁参照）。
- * 同日，ル・マール（Ch. Lemaire）がゲントからシーボルト宛に書簡を送る。ハーグからデ・マルティツ男爵宛の手紙を書く。

- 4月10日（閏2・21）ウィーンのFr.シャウムブルグ社宛の手紙を書く。
- 4月12日（閏2・23）内務大臣ジュレス・ファン・プラート（Jules van Praet）宛の手紙を書く。
- * 4月14日（閏2・25）オランダ王子ヘンドリックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月15日（閏2・26）リッター・ファン・ラッパルド（H. W. A. Ridder van Rap-pard）宛に手紙を書く。
- 4月18日（閏3・29）ハーグ滞在のワシントンDC議会図書館所属アレクサンダー・バットマース（Alexander Vattermars）宛に自らの「日本研究」に関する著作についての手紙を書く（注：箭内健次・宮崎道生編『シーボルトと日本の開国・近代化』続群書類従完成会 平成9年，150-155頁参照）。
- * 4月19日（3・1）オランダ王子ヘンドリックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月22日（3・4）ブリュッセルの園芸家Ph.ファン・デル・マーレン宛に『NIP-PON』2つ折本，第15から第20分冊，1部（90フローリン）を送付。
- * 4月26日（3・8）ツェドリッツ（Zedlitz）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月30日（3・12）園芸家フィリップ・ファン・デル・マーレン（オランダ王立園芸奨励協会会員）がブリュッセルからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月5日（3・17）フォン・デ・マルティツ男爵がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月6日（3・18）ヴェルツブルグ宮廷会計士ヤコブ・フォン・ヒルシュ（J. J. von Hirsch）がシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月17日（3・29）フォン・デ・マルティツ男爵がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月18日（3・30）ウィーンのFr.シャウムブルグ社宛の手紙を書く。
- * 6月9日（4・22）フォン・デ・マルティツ男爵がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月14日（4・27）Ch.ル・メールがアントワープからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 6月18日（5・1）Fr.フライシャー社がライプツィヒからシーボルト宛に書簡

を送る。

- * 同日、侍従官プックラー（G. Pückler）がコブレンツからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月19日（5・2）フォン・デ・マルティツ男爵がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月21日（5・4）フォン・デ・マルティツ男爵がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 6月29日（5・12）プロイセン国王フリードリッヒ・ヴィルヘルム四世（Friedrich Wilhelm IV），シーボルトの建立した新教の教会落成式に臨むためポツバルトを訪れ、随員と一緒にシーボルトの所で朝食をとる。
- * 7月1日（5・14）フォン・デ・マルティツ男爵がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月3日（5・16）イヴァン（M. Yvan）がブリュッセルからシーボルト宛に書簡を送る。
- 7月14日（5・27）ザンクト・マルティーンにて、オランダ王子ヘンドリック宛に手紙を書く。
- 7月15日（5・28）ウィーンのFr.シャウムブルグ書店宛に、為替手形で190ターレル Thr.を送付。
- ◇ 7月21日（6・5）オランダ船コルネリア（Cornelia）号とヘンリエット（Henriette）号の両船が長崎に入港。出島オランダ商館の新任商館長ドンケル・クルティウス（Mr. Jan Hendrik Donker Curtius）来日。ついで当時の商館長フレデリック・コルネリス・ローゼ（Frederik Cornelis Rose）と共に「風説書」,「別段風説書」を幕府に提出し、ペリー艦隊の渡来を告げ開国を進言する。
- 7月21日（6・5）次男ハインリッヒがポツバルトで午前11時に生まれる。名付け親はオランダ王子ヘンドリックにあやかり「ハインリッヒ・フィリップ」（Heinrich Philipp）と命名する。
- 7月22日（6・6）次男の誕生で、ポツバルトのカソリック司祭ヴィルヘルム・カウフマン（Wilhelm Kampmann）および同地居住の商人ローテンハクセイ（von Rotenhakse）の介添人を同行して、ポツバルト市長ヨーゼフ・リネー（Joseph Lynée）の前で、出生届けを提出。同日の午後7時半ごろ、『日記』（備忘録）に簡潔に“出生届”と記載する。



〔図61〕ハインリッヒ・シーボルトの「出生届」（ボツパルト市役所文書所蔵）とボツパルトのシーボルト別荘（現在ボツパルト市の福祉施設）内、中庭にある「シーボルトの銘版」（上記2枚の写真：ハインリッヒ・シーボルト子孫の関口忠志氏提供）。

- * 7月25日（6・9）リークス？（J. Riexs）がゲッチングェンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月27日（6・11）ウィーンのFr.シャウムブルグ社がウィーンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月5日（6・17）オランダ駐在アメリカ領事フォルソムがニューウィード（Neuwied）からシーボルト宛に書簡を送る。
- 8月16日（7・2）ウィーンのFr.シャウムブルグ書店宛に、コブレンツの購読者レオポルド・セリグマンから為替手形191ターラーを送付。
- * 8月21日（7・7）ヘルマン・ナロプ（Hermann Nalop）がアムステルダムからシーボルト宛に書簡と収支表を送る。
- 8月25日（7・11）ザンクト・マルティーンにて、リュューベック（Lübeck）駐在ロシア領事デ・シュロツァー（de Schlözer）宛とザンクト・ペテルブルグのE.ゲーツ書店（E. Goetz & Co）宛の手紙を書く。
- 9月20日（8・7）ザンクト・マルティーンにて、リュューベック駐在ロシア領事デ・シュロツァー宛の手紙を書く。
- 9月24日（8・11）ライデンにて、オランダ国防大臣宛の手紙を書く。

- * 9月25日（8・12）アルタリア・フォンティーン（Artaria Fontaine）がマンハイム（Mannheim）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月28日（8・15）画家ヴィルヘルム・ハイネ（Wilhelm Heine）がニューヨークからシーボルト宛にアメリカ艦隊が日本への遠征を行うことを報告する内容の書簡を送る。
- 10月4日（8・21）ライデンにて、コペンハーゲンの王室文庫長ティーレ宛に『日本動物誌』（Fauna Japonica）刊行・送付の手紙を書く（注：『参考書誌研究』第11号 13頁及び『上野図書館紀要』Vol. 1. No. 2 ii頁参照）。
- * 同日、シュウネマン（Schunemann）書店がブレーメン（Bremen）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 10月10日（8・27）フォン・エストルフ（G. von Estorff）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 10月13日（9・1）ヘルマン・ナロプがニーダーバイシウム（Niederbeisheim）からシーボルト宛に書簡を送る。
- 10月17日（9・5）ザンクト・マルティーンにて、オランダ植民大臣（C. F. パユウ）宛の手紙を書く。
- △10月19日（9・7）シモン・シュロップ社（Simon Schropp & Comp 書籍・出版業）がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 10月20日（9・8）ボツバルトのザンクト・マルティーンにて、オランダ国務大臣フォルトナー・ファン・ダンベナイ男爵宛の手紙を書く。
- * 10月21日（9・9）ニューヨーク・トリビューンの特派員ベイヤード・テーラー（Bayard Taylor）がロンドンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 10月22日（9・10）ザンクト・マルティーンにて、ヴィルヘルム・ハイネ宛とオランダ駐在アメリカ領事フォルソム宛の手紙を書く。
- * 同日、オランダ海軍省水路測量局がシーボルト宛に督促状を送る。
- 10月24日（9・12）ザンクト・マルティーンにて、ニューヨーク・トリビューンの特派員ベイヤード・テーラー宛に10月1日付書簡に対する返書を書く。
- * 10月29日（9・17）ニューヨーク・トリビューンの特派員ベイヤード・テーラーがサウスハンプトン（Southampton）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 10月30日（9・18）オランダ駐在アメリカ領事フォルソムがニューウィードから

シーボルト宛に書簡を送る。

- ◇11月日付不詳，メーステル・ヤン・ヘンドリック・ドンクル・クルシウス (Mr. Jan Hendrik Donker Curtius) 出島商館長に着任 (在任：1852年11月1日～〔1858年5月〕)。
- 11月8日 (9・27) ポッパルトのザンクト・マルティーンにて，ロシア帝国ドイツ大使ドゥ・メイエンドルフ男爵 (Du Meyendorff) 宛に対日開国方策についての手紙を書く (注：『鳴滝紀要』1994年 第4号 118-129頁参照)。
- 同日，ロシア宰相ネッセルローデ伯爵 (Karl Graf von Nesselrode) 宛に東亜問題についての建白書に「日本海域における発見史」と「日本国の地図と海図の地図書」を添えた説明書を加えて送る (注：ハンス・ケルナー著／竹内精一訳『シーボルト父子伝』，114頁及び前掲書のマクリン著の訳文「シーボルトと日本の開国」1843-1866年，58頁参照)。
- △11月17日 (10・6) 植林宗建設する (享年50歳)。
- 楠本イネと石井宗謙との間に娘たか生まれる (シーボルトの孫)。
- *11月20日 (10・9) 画家ヴィルムヘルム・ハイネがアメリカ合衆国蒸気船ノーフォーク (Norfolk) 号からシーボルトの書簡に対する返書を送る。
- *11月30日 (10・19) 侍従官 G.プックラーがコブレンツからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月1日 (10・20) G.フォン・エストルフがゲッチングェンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月2日 (10・21) オランダ植民大臣 (C. F.パユウ) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月3日 (10・22) デンマークの弁理公使がブリュッセルからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月7日 (10・26) オランダ海軍大臣 J.エンスリング (J. Ensling) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月9日 (10・28) ボイマン (Beumann) がコブレンツからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月11日 (10・30) フォン・デ・マルティツ男爵がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月13日 (11・3) ロシア帝国ドイツ大使ドゥ・メイエンドルフ男爵がサンクトペ

テルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

- 12月17日（11・7）ザンクト・マルティーンにて、オランダ海軍大臣J.エンスリング宛の手紙とベルリンの自然研究者アレクサンダー・フォン・フンボルト男爵宛の手紙を書く。
- 同日、『日本の海域の発見史，日本国とその隣国及び保護国の地図海図の地図書の説明付き』（蘭文）をライデン，著者のもとで，ベルリンのシモン・シュロプ（Simon Schrop），アムステルダムのG・ヒュルスト・ファン・ケーレン（G. Hulst van Keulen），ライプツィヒのFr・フライシャー（F. Fleischer），ニューヨークのJ・ディスターネル（J. Disturnell），1852年，204頁，表1，2つ折本発行。
- 12月18日（11・8）ザンクト・マルティーンにて，フランスの國務大臣閣下（注：氏名不詳）宛の手紙を書く。
- 12月21日（11・11）ロンドンのブラック＝アームストロング書店宛に領収書を送る。
- *12月23日（11・13）フォン・デ・マルティツ男爵がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- △12月24日（11・14）パリのベンジャミン・デュプラ書店がパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月25日（11・15）ロシア帝国ドイツ大使ドゥ・メイエンドルフ男爵がザンクト・ペテルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月27日（11・17）ファン・デル・マック（van der Mack）がバートン・クレスセント（Burton Crescent）からシーボルト宛に書簡を送る。メジャー（R. H. Major）が大英博物館からシーボルト宛に書簡を送る。
- 12月28日（11・18）オランダ王子ヘンドリック宛の手紙を書く。
- *同日，園芸家フィリップ・ファン・デル・マーレン（オランダ王立園芸奨励協会会員）がブリュッセルからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月30日（11・20）パリの王立図書館事務局長ヴェンデルがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。スパイエル大学化学・自然史教授フランツ・ケラー博士がスパイエルからシーボルト宛に書簡を送る。
- *月日不詳，ナゲル博士（Dr. Nagel）がセント・メダルドゥス？（St. Medardus）からシーボルト宛に書簡を送る。
- 月日不詳，デルフトのオーヴェルフォールデ商会（Overvoorde & Co）の植物価格

表（印刷物）を入手。

- 月日不詳、『1852年 Wertschinko からの種子リスト』（手稿）作成。
- 月日不詳、『(1852年) ライデン市にあるフォン・シーボルト商会の施設に導入され、栽培された日本の新しい植物目録』4頁発行。
- 月日不詳、稜錐形ダイヤモンド付セント・アンナ勲章二等（ロシア）を受ける。
- ◇出島オランダ商館長ドンケル・クルティウス着任。ペリー艦隊の渡来を告げ開国を進言する。

1853年（嘉永6年） 57歳

- * 1月4日（11・25）ヴィルヘルミーネ・フォン・ガーゲルン（シーボルトの義弟）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 1月9日（11・30）ザンクト・マルティーンにて、オランダ植民大臣（C. F. パユウ）宛の手紙で、ロシアの訪問は、主に日本沿海におけるヨーロッパ人の探検の地図と歴史の研究のためであると書く（注：前掲書のマクリン著の訳文「シーボルトと日本の開国」1843-1866年 58頁 参照）。
- 1月13日（12・4）コンスタンティン大公家臣（Conseiller d'etat de S. A. Imperiale Msgr Le Grand-Duc Constantin）ドゥ・ゴロバン（de Golovine）がシーボルト宛に招待状（2月14日月曜日午後2時からの拝謁の確認）を送る。
- * 同日、ベッカー（E. Becker）がウインザー城からシーボルト宛に書簡を送る。
- 1月16日（12・7）オランダ内務大臣シンメルペンニク・ファン・デル・オイ・ファン・デ・ポル男爵（W. H. Baron Simmelpenninck van der Oye van de Poll）がシーボルト宛に招待状を送る。
- * 1月21日（12・12）シモン・シュロプ（Simon Schrop）書店がベルリンからシーボルト宛請求書を送る。
- 1月22日（12・13）ベルリンからシーボルト宛にプロイセン国王拝謁の招待状と書簡を送る。
- * 1月24日（12・15）書籍商エドワード・フライシネ（シーボルト『NIPPON』の仏文訳者）がパリからシーボルト宛に書簡を送る。
- 1月27日（12・18）デ・ローゼン・シャンブラン（de Rosen Chambellan）男爵がザンクト・ペテルブルグからシーボルト宛に短信で、1月28日午後2時からのヘレ-

ネ大公妃殿下 (S. A Imperial Madame Grande duchesse Helene) 拝謁の招待状を送る。

- 1月日付不詳, ロシア宰相 K. G.フォン・ネッセルローデ伯爵の招きでサンクト・ペテルブルク再訪し, ロシア東方問題について献策する。草稿『ロシア宰相發日本国老中宛書簡草案』(独文)をサンクト・ペテルブルクで執筆(注:『鳴滝紀要』1995年, 第5号, 123-125頁参照)。
- 2月1日 (12・23) ライデンの気候馴化園庭師 A.ハクビイルを介して, コブレンツのレオポルド・セリグマン宛に為替手形で800フローリンを送付する。
- * 2月3日 (12・25) フォン・デ・マルティツ男爵がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 2月15日 (1・8) サンクトペテルブルグから短信で, シーボルト宛にロシア皇帝謁見に関する招待状が送られる。
- * 同日, フォン・デ・マルティツ男爵がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 2月17日 (1・10) ヘレーネ大公妃殿下がシーボルト宛に招待状を送る。
- △ 2月22日 (1・15) サンクト・ペテルブルグのデ・ステグリッツ商会在がシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 3月4日 (1・25) サンクト・ペテルブルグのE.ゲーツ書店がシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日, マックス・ライヒトリン (Max Reichtrin) がシーボルト宛に書簡を送る。
- 3月6日 (1・27) ヨーゼフ・ベアー (J. Beer) が短信でシーボルト宛に招待状を送る。
- * 同日, モスクワの帝立自然科学者学会書記レナード博士がシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月7日 (1・28) デンマーク国王陛下のダーネブローク勲章準爵士 (Dänemark Danebrog-Ordens) 贈呈について, ビオベンハーヴェン (Biobenhaven) からシーボルト宛に通知される。
- 3月8日 (1・29) サンクト・ペテルブルグにて, オランダ植民大臣 (C. F.パユウ) 宛の手紙を書く。
- 3月9日 (1・30) サンクト・ペテルブルグにて, オランダ王子ヘンドリック宛にロシア旅行の目的についての手紙を書く。
- * 3月10日 (2・1) ロシア政府国務卿デ・ストロガノフ大公伯爵殿下 (S. E. M.

- Comte de Stroganoff) がサンクト・ペテルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月11日 (2・2) デ・ケンテルゲーエン? (P. de Ketergehen) がブリュッセルからシーボルト宛に書簡を送る。
 - * 3月12日 (2・3) 陸軍少将フォン・デ・ベルグ (Fr. von de Berg) がサンクト・ペテルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
 - * 3月13日 (2・4) クッケチウスキー (F. Th. Kuckezyski) がサンクト・ペテルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
 - * 3月21日 (2・12) シェル・デ・コープマンズ? (Cher. de. Coopmanns) がブリュッセルからシーボルト宛に書簡を送る。
 - * 3月22日 (2・13) ロシア政府国務卿デ・ストログノフ大公伯爵殿下がサンクト・ペテルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
 - 3月23日 (2・14) コンスタンティン大公家臣 (Conseiller d' etat de S. A. Imperiale Msgr. Le Grand-Duc Constantin) ドウ・ゴロバン (de Golovine) 宛に招待状を送る。
 - * 同日, モスクワの帝立自然科学者学会書記レナード博士がシーボルト宛に書簡を送る。
 - * 3月24日 (2・15) 陸軍少将 Fr.フォン・デ・ベルグがサンクト・ペテルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
 - * 同日, モスクワの帝立自然科学者学会書記レナード博士がモスクワからシーボルト宛に書簡を送る。
 - * 同日, コンスタンチン・ブルハコウ (Constantin Bulhakow) がモスクワからシーボルト宛に書簡を送る。
 - * 3月25日 (2・16) アオアーバッハ博士 (Dr. J. Auerbach) がモスクワからシーボルト宛に書簡を送る。
 - * 3月26日 (2・17) フィッシャー (Fr. E. L. Fischer) がシーボルト宛に書簡を送る。
 - * 3月28日 (2・19) チャールス・レーランド (Charles G. Leland) がニューヨークからシーボルト宛に書簡を送る。
 - * 3月29日 (2・20) ハートマン (Hartmann) がシーボルト宛に書簡を送る。
 - 3月30日 (2・21) ロシア政府がサンクト・ペテルブルグからシーボルト用旅券を交付。

- * 3月31日（2・22）ファン・バイランド（C. van Byland）がサンクト・ペテルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 3月日付不詳，モスクワ滞在中，1834年以来帝立自然科学者学会会員であったことから，オランダ人学者でユトレヒト大学化学教授 G. J. ムルダー（Gerrit Jan Mulder 1802-80），ライデンの王立植物学標本館館長ブルーメ（Carl Ludwig Blume 1796-1862），オランダ領東インド自然調査委員会委員ユングフーン（Franz Wilhelm Junghuhn 1809-64），元出島オランダ商館医モーニッケ（Otto Gottlieb Johan Moh-nike 1819-87）の4名を，この学会の会員として総会で提案し受諾させる。
- △ 3月日付不詳，サンクト・ペテルブルグにて，草稿『ロシア宰相発日本国老中宛書簡草案』を執筆。
- * 4月3日（2・25）モスクワの建築家リッヒター（F. Richter）がモスクワからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月5日（2・27）モスクワの帝立自然科学者学会書記レナード博士がモスクワからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月6日（2・28）J. アオアバツハがモスクワからシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月7日（2・29）オランダ植民大臣（C. F. パユウ）宛に手紙を書く。（注：前掲書のマクリーン著の訳文「シーボルトと日本の開国」1843-1866年 58頁参照）。
- * 同日，Fr. E. L. フィッシャーがシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月12日（3・5）C. ファン・バイランドがサンクト・ペテルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 4月14日（3・7）サンクト・ペテルブルグのデ・ストロガノフ大公伯爵閣下（S. E. M. lecomte Gre deStroganoff）宛に『日本動物誌』哺乳類篇，魚類篇，鳥類篇の完本（248ターラー）。『日本植物誌』彩色版，第1巻，1部（80ターラー）を送付。
- * 4月17日（3・10）ザイツィンガー？（Seizinger）がレーウワーデン（Leeuwarden）からシーボルト宛にメモを送る。
- 4月24日（3・17）ウィーンにて，ヴィルムヘルム・ハイネ（Wilhelm Heine）宛返書を書く（前年11月20日付のハイネの書簡に対する返書）。
- * 同日，コンスタンチン・ブルハコウがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 4月27日（3・20）シャウエンシュタイン伯爵（Graf Schauenstein）がヴィルナウ？（Wirnau）からシーボルト宛に書簡を送る。

- * 4月28日 (3・21) ロシア帝立自然科学者学会書記レナード博士がモスクワからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月3日 (3・26) フランスの国務大臣 (注：氏名不詳) 宛の手紙を書く。
- * 5月4日 (3・27) ロシア帝国陸軍少将 Fr.フォン・デ・ベルグがサント・ペテルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月5日 (3・28) シュヴァルツ博士 (Dr. J. G. Schwartz) がウィーンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月8日 (4・1) レオン・ドゥ・ロトウイ? (Leon de Rotuy) がシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月10日 (4・3) ロシア帝立自然研究協会書記レナード博士がモスクワからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月13日 (4・6) ドゥ・イエーツェ (Baron de Jeetze) 男爵がミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月16日 (4・9) ロシア帝国陸軍少将 Fr.フォン・デ・ベルグがサント・ペテルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月19日 (4・12) ツェペリン伯爵 (Graf. Zeppelin) がシーボルト宛にプロシア皇太子への拝謁のための召喚状と書簡を送る。
- 5月26日 (4・19) ライデンにて、オランダ国王 (ヴィレム3世) 宛の手紙を書く。
- △ 5月30日 (4・23) Fr.フライシャー書店がライプツイッヒからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月2日 (4・26) オランダ国防大臣 (注：氏名不詳) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 6月9日 (5・3) ロシア皇帝の勅令により、聖ウラジミール (Wladimir-Ordens) 三等勲章騎士およびサント・アンナ第二ダイヤモンド勲章騎士に任命される。
- △ 6月11日 (5・5) フリードリッヒ・シャウムブルグ書店がウィーンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 6月12日 (5・6) ハーグにて、庭師 A.ハクビイル (Atrahem Hakbyl) 宛の手紙を書く。
- △ 6月13日 (5・7) 書籍商ベリンファンテ (Belinfante) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

- * 6月14日（5・8）ボードウィン？（Bauduin）がヤニツァ（Janiza）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月15日（5・9）ファン・デルフェルディ男爵（Baron van Derfeldey）がユトレヒトからシーボルト宛に書簡を送る。
- 6月20日（5・14）ハーグにて、オランダ植民大臣（C. F.パユウ）宛の手紙でを書く（注：前掲書のマクリーン著の訳文「シーボルトと日本の開国」1843-1866年、59頁参照）。
- 6月21日（5・15）ウィーンの王国使者がウィーンからシーボルト宛フランツ・ヨーゼフ騎士団賞勲記。
- * 同日、ファン・デル・ドゥイン？（Comte van der Duyn）伯爵がハーグからオランダ王子フレデリック拝謁のための出頭命令と書簡を送る。
- * 6月23日（5・17）ヒンデンスタイン（Hindenstein）がユトレヒトからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月30日（5・24）オランダ国務大臣ファン・ダンベナイ（van Dambenay）男爵がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- ◇ 7月8日（6・3）アメリカ使節ペリー浦賀に来航し、開国を迫る。
- 7月12日（6・7）ザンクト・マルティーンにて、ロシア帝立種苗園所長フランツ・クーン（Franz Kuhn）とシーボルト間の契約書・証書を交わす。
- * 7月13日（6・8）オランダ植民地省事務次官がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 7月20日（6・15）ミュンヘンの図版製作者（植物描写石版師）S. ミンシゲルがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月22日（6・17）ロシア帝立自然科学者学会書記レナード博士がモスクワからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月26日（6・21）オランダ植民地省がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月29日（6・24）オランダ国王ウィレム三世がシーボルト宛の書簡を筆写する。
- * 8月3日（6・29）ロシア帝立自然科学者学会書記レナード博士がモスクワからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月4日（6・30）レオポルド・セリグマン（Leopold Seligmann）がコブレンツからシーボルト宛に書簡を送る。

* 同日、園芸家ディルク・ブイサー (Dirk Buiser) がアルクメールからシーボルト宛に書簡を送る。

△ 8月5日 (7・1) ミュンヘンの図版製作者 (植物描写石版師) S. ミンシゲルがミュンヘンからシーボルト宛に書簡を送る。

○ 8月6日 (7・2) オランダ植民大臣 (C. F. パユウ) がハーグからシーボルト宛にフランツ・ヨーゼフ騎士賞授与通達 (公文書)。

○ 8月17日 (7・13) 園芸家ヘンドリック・シュリイバー (Hendrik Schryver) 宛「納品リスト」を作成。

* 8月18日 (7・14) アルベルティーネ・ノルテがゲッチングェンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 8月19日 (7・15) 東部シベリア提督ニコラウス・ムラヴィエフ伯爵 (Graf Nicolaus Murawieff) がパリからシーボルト宛に書簡を送る。

* 8月21日 (7・17) H. ナロップがアムステルダムからシーボルト宛に収支書を送る。

○ 8月22日 (7・18) ザンクト・マルティーンにて、陸軍少将 Fr. フォン・デ・ベルク宛とロシア政府国務卿デ・ストロガノフ大公伯爵閣下宛の手紙を書く。

◇ 同日、ロシア使節プチャーチン (Putyatin) 長崎に来航する。

* 同日、デ・グラーフ (de Graaff) がライデンから書簡と請求書を送る。オランダ植民大臣 (C. F. パユウ) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 8月23日 (7・19) ハーレムの園芸家 E. H. クラーゲ (E. H. Krelage) がハーレムからシーボルト宛に書簡を送る。

* 8月27日 (7・23) デ・グラーフがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。

○ 8月日付不詳、サンクト・ペテルブルグのロシア・アメリカ商会 (Compagnie Russe Americaine à St. Petersburg) 宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第20分冊、1部 (308ターラー)。『日本動物誌』哺乳類篇、1部 (24ターラー)。同書鳥類篇、1部 (94ターラー)。同書爬虫虫類篇、1部 (20ターラー)。同書魚類篇、1部 (128ターラー)。同書甲殻類編、1部 (46ターラー)。『日本植物誌』彩色版、第1巻、1部 (80ターラー)。同書第2巻、彩色版、第1から第5分冊、1部。『日本叢書』の内、第1冊『新增字林玉篇』1部 (36ターラー)。同書第2冊『和漢音積書言字考』1部 (70ターラー)。同書第3冊『千字文』1部 (10ターラー)。同書第4冊『類合』1部 (価格未記入)。同書第5冊「日本輿地路程全図」1部 (価格未記入)。同

書第6冊『倭年契』1部（10ターラー）、及び『日本図書及び写本目録、附録にハーグの王立博物館所蔵物の目録』1部（6ターラー）。『日本国及び付属図の地図・海図』1部（130ターラー）などを送付。

Liste der Versendung meiner Werke im J. 1853		
fourni à la Compagnie Russe Américaine à St. Pétersbourg		Thaler
1	Nippon in fol. Color 1 à 20	308
1	Fauna Japonica mammalia	24
1	- - Aves	96
1	- - Reptilia	20
1	- - Pisces	128
1	- - Constrica	26
1	Flora Japonica Vol. I. color.	80
-	- - Vol. II 1 à 5 / feu.	20
1	Bibliotheca Japonica Liber I	26

〔図62〕1853年『ロシア発送のシーボルト著作販売帳』〈部分：サンクト・ペテルブルグの書籍商ロシア・アメリカ商会宛発送の書籍リスト〉（ボフム大学図書館所蔵 No：1.558.000）

- 8月日付不詳，サンクト・ペテルブルグのロシア帝国参謀本部（Etat-major Impérial à St. Peterbourg）宛に、『NIPPON』4つ折本，第1から第20分冊，1部（187ターラー）。『日本国及び付属図の地図・海図』，1部（26ターラー）などを送付。
- 8月日付不詳，ロシア政府アジア局長ニコラス・ルヴィモフ閣下（S. E. M. de Nicolas Livimoff）宛に『NIPPON』2つ折本，第1から第20分冊，1部（308ターラー）。『日本国及び付属図の地図・海図』，1部（26ターラー）を送付。
- 8月日付不詳，サンクト・ペテルブルグのロシア政府國務卿デ・ストロガノフ大公伯爵閣下宛に『日本動物誌』爬虫類篇，1部（20ターラー）。同書甲殻類編，1部

(46ターラー)。『日本植物誌』彩色版、第1巻、1部(80ターラー)。『日本叢書』第1から第3冊、1部(116ターラー)。『日本図書及び写本目録、附録にハーグの王立博物館所蔵物の目録』1部(6ターラー)。『日本植物誌』彩色版、第2巻、第1から第5分冊、1部(20ターラー)。『日本国及び付属図の地図・海図』、1部：26ターラー)を送付。

- 8月日付不詳、サンクト・ペテルブルグのロシア帝国上院議員レオン・セニアヴィン (Senateur Leon Seniavin à St. Peterbourg) 宛に『日本国及び付属図の地図・海図』1部(26ターラー)を送付。
- 8月日付不詳、サンクト・ペテルブルグのバジール・ドルゴロウスキー皇太子殿下 (Monseigneur le Prince Bazil Dogoroussky) 宛に『NIPPON』4つ折本、第1から第20分冊、1部(187ターラー)。『日本植物誌』彩色版、第1巻、第1から第20分冊、1部(80ターラー)。同書彩色版、第2巻、第1から第5分冊、1部(20ターラー)を送付。
- 8月日付不詳、サンクト・ペテルブルグのロシア帝国海軍准将デ・グランツェナブ閣下 (à Mons. le Comte-amiral de Glanzenap) 宛に『NIPPON』4つ折本、第1から第20分冊、1部(187ターラー)。『日本国及び付属図の地図・海図』1部(26ターラー)を送付。
- 8月日付不詳、サンクト・ペテルブルグのロシア帝国海軍水路測量部門図書館 (Bibliotheque du Department hydrographique du Ministere 図書司書 F. Th.クケチウスキー Biblioth. F. Th. Kuck-ezyski) 宛に『日本国及び付属図の地図・海図』1部(26ターラー)を送付。
- 8月日付不詳、ロシア帝国ヘレーネ大公妃殿下 (S. A. Impl. Madame la Grande duchesse Helene) 宛に『NIPPON』2つ折本、第1から第20分冊、1部(308ターラー)。『日本国及び付属図の海図・地図』1部(26ターラー)などを送付。
- 8月日付不詳、サンクト・ペテルブルグのゲーツ書店宛に『日本動物誌』甲殻類篇、第6から第7分冊1部(15.10ターラー)。『日本国及び付属図の海図・地図』1部(20ターラー)。『日本国地図』2部(10ターラー)。『日本図書及び写本目録、附録にハーグの王立博物館所蔵物の目録』1部(6ターラー)を送付。
- 9月5日(8・3) ボツパルトの旧ザンクト・マルティーン修道院を2万ターレでプロイセン政府に売却する。

- * 9月11日（8・9）ヘルマン・ナロップがニーダーバイシェム（Niederbeisheim）からシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 9月29日（8・27）Fr.フライシャー書店がライプツィヒからシーボルト宛に書簡を送る。
- 10月6日（9・4）草稿『連合軍の名におけるウルップ島の占領について』（仏文）執筆。12月11日付「ケルン新聞」に掲載。
- △ 10月7日（9・5）M. E.ゲーツ書店がサンクト・ペテルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日、アイゼンマン博士（Dr. Eisenmann）がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 10月10日（9・8）パリのサン・フロレンタン通り（N.15. rue St. Florentin N.15 a Paris）にて、パリ滞在のロシア帝国東シベリア総督ムラビエフ（Muravieff）宛に『露日通航・通商条約草案』作成（注：シーボルト記念館『鳴滝紀要』1997年，第7号，56-66頁参照）。
- ◇ 10月13日（9・11）元出島オランダ商館長ヤン・コック・ブロムホフが没する（享年74歳）。
- △ 10月15日（9・13）M. E.ゲーツ書店がサンクト・ペテルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日、オランダ王立園芸協会がハーグとライデンから予約購読案内広告（印刷物）を刊行。
- 10月19日（9・17）ロシア帝立種苗園所長フランツ・クーンがサンクトペテルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 10月20日（9・18）元出島オランダ商館長ヤン・コック・ブロムホフ（Jan Cock Blomhoff）がアメルスフォールド（Amersfoort）からシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 10月25日（9・23）マイニンゲン図書館館長・童話収集家ルートヴィヒ・ベヒシュタインがマイニンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 11月2日（10・2）ロシア帝国陸軍少将 Fr.フォン・デ・ベルグがサンクト・ペテルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 11月11日（10・11）園芸家ヤコブ・エルベン（Jacob Erben）がコブレンツからシーボルト宛に請求書を送る。

- *11月12日 (10・12) ライデン大学植物学教授ア・フリーゼ (Prof. W. H. de Vriese) がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
 - *11月21日 (10・21) 園芸家アオホ・デル・モイルン? (M. B. auf der Meurn) がボンからシーボルト宛に短信を送る。
 - *11月27日 (10・27) 園芸家メルスバッハ (Fr. Melsbach) がソバーハイム (Soberheim) からシーボルト宛に書簡を送る。
 - *12月3日 (11・3) プラッツ親子 (Platz & Sohn) 園芸店がエルフルト (Erfurt) からシーボルト宛に書簡を送る。
 - *12月4日 (11・4) フェルラー (Huerler) がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
 - *12月6日 (11・6) アイゼンマン博士がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。プロシア陸軍将軍フォン・ヒルシュフェルト (von Hirschfeld) がコブレンツからシーボルト宛に書簡を送る。
 - *12月13日 (11・13) ロシア帝立種苗園所長フランツ・クーンがサンクト・ペテルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
 - *12月16日 (11・16) プラッツ親子園芸店がエルフルトからシーボルト宛に書簡を送る。
 - *12月19日 (11・19) ロシア帝立種苗園所長フランツ・クーンがサンクト・ペテルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
 - *12月21日 (11・21) エイゼンマン博士がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- ◇同日、日露和親条約調印。
- *12月22日 (11・22) ロウレンティウス親子 (P. Laurentius & Sohne) 園芸店がクレフェルト (Crefeld) からシーボルト宛に書簡を送る。
 - *12月23日 (11・23) プロシア王国侍従官 G.ブッカーがコブレンツからシーボルト宛に書簡を送る。
- 12月29日 (11・29) ボツバルト町からシーボルトの市民権証明書が交付される。
- 月日不詳, 小冊子『1853年ロシア向けの種子, 球根リスト』(手稿) を作成。
- △月日不詳, サンクト・ペテルブルグの M. E.ゲーツ書店がシーボルト宛に受領証を送る。

- ペリー来日に顧問として同行を求めたが拒絶される。
- 年末に研究のため、大学図書館利用のため、あるいは学会との連絡を密にするため、ボンの972番地屋敷に転居。『NIPPON』の執筆を続ける。のち、現在のボン大学構内にある公園一角に植物園を設けてサツマイモを栽培、食用としてプロシア王国政府に推薦。
- バタヴィア所在、オランダ領インド博物学協会正会員。
- サンクト・ペテルブルグ所在、帝立自由経済学会会員。
- ◇クリミア戦争（～56）
- ◇ロシア使節プチャーチン（Evfimii Vasilevich Putyatın）が長崎に来航。

1854年（安政元年） 58歳

- * 1月9日（12・11）ロッテルダムの船主・貿易商 A.ホボーケンがロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月14日（12・16）ポツバルト市長（ヨーゼフ・リネー）がポツバルトからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 1月28日（12・30）園芸家 F. C.ハイネマン（Heinemann）がエルフルト（Erfurt）からシーボルト宛に書簡を送る。
- ◇ 2月10日（1・13）パリ所在、帝立動物馴化園協会設立。
- * 2月11日（1・14）園芸家 F. C.ハイネマンがエルフルトからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月21日（1・24）園芸家マティアス・モァー（Mathias Mohr）がボンからシーボルト宛に請求書を送る。
- * 2月22日（1・25）ルメール（Ch. Lemaire）がゲントからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月2日（2・4）キナウ博士？（Dr. Kinau）がボンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 3月3日（2・5）P.ロウレンティウス親子園芸店がクレフェルトからシーボルト宛に請求書を送る。
- 3月8日（2・10）三男マクシミリアン（Maximilian）がボンで生まれる。
- * 3月13日（2・15）ボイマン（Beumann）がコブレンツからシーボルト宛に書簡を送る。

送る。

* 3月14日 (2・16) P.ロウレンティウス親子園芸店がフレフェルドからシーボルト宛に書簡を送る。

* 3月17日 (2・19) 園芸家レオナルド・サデー (Leonard Sadee) がケルンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 3月21日 (2・23) H.ナロップがニーダーバイシェイムからシーボルト宛に書簡を送る。

* 3月22日 (2・24) ゲオルゲ・シュヴァルツ (George Schwarz) がウィーンからシーボルト宛書簡を送る。

◇ 3月31日 (3・3) ペリー再度浦賀に来航して日米和親条約を締結。

* 4月12日 (3・15) H.ナロップがニーダーバイシェイムからシーボルト宛に書簡を送る。

* 4月28日 (4・2) ブルウーメ (Bluhme) がボンからシーボルト宛に短信を送る。

* 5月5日 (4・9) 園芸家レオナルド・サデーがケルンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 6月1日 (5・6) オランダ植民大臣 (C. F.パユウ) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 6月3日 (5・8) ブロックハウス (F. A. Brockhaus) がライプツィヒからシーボルト宛に書簡を送る。

○ 6月6日 (5・11) ライデンにて、ロシア帝立種苗園所長フランツ・クーン宛に手形を送る。

* 6月7日 (5・12) アルフレッド・S・モンゼン (Arfred S. Monsen) がコブレンツからシーボルト宛に書簡を送る。

△ 6月14日 (5・19) F.フライシャー書店がライプツィヒからシーボルト宛に書簡とリストを送る。

* 6月21日 (5・26) ピエネマー? (N. Pienemar) がマリエンベルグ (Marienberg) からシーボルト宛に書簡を送る。

△ 6月23日 (5・28) L.ロレ書店がパリからシーボルト宛に書簡を送る。

* 同日、アルベルティーネ・ノルテがゲッチンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。

○ 6月28日 (6・4) 草稿『日本研究概要』(独文)執筆。

- * 7月3日（6・9）Ch.ルメールがゲントからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月4日（6・10）ロート（J. Roth）がアンナベルク（Annaberg）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月5日（6・11）フォン・アーケン（G. von Aken）がケルンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月6日（6・12）デ・プロウ？（de Preau）がシーボルト宛に書簡を送る。
- △ 7月10日（6・16）ライデン気候馴化園庭師 A.ハクビルがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 同日、デッケン？（Decken）がボンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月16日（6・22）アルベルティーネ・ノルテがゲッチンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月17日（6・23）デ・スティグリッツ商会（de Stieglitz & Co）がサンクト・ペテルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月18日（6・24）モァーがヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月5日（7・12）アルベルティーネ・ノルテがゲッチンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月7日（7・14）F.フライシャー書店がライプツィヒからシーボルト宛に書簡を送る。
- 8月13日（7・20）ボンにて、アルベルティーネ・ノルテ宛の手紙を書く。
- * 同日、アルベルトティーネ・ノルテがゲッチンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。
H. ナロップがニーダーバイシェイムからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 8月30日（閏7・7）P.ロウレンティウス親子園芸店がクレフェルドからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月3日（閏7・11）アルベルティーネ・ノルテがゲッチンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月5日（閏7・13）ライデン大学植物学教授 W. H.デ・フリースがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月7日（閏7.15）園芸家ハインリッヒ・メッテ（Heinrich Mette）がクエドリングブルグ（Quedlingburg）からシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月8日（閏7・16）園芸家ルイーゼ・ストリイボッシュ（Luise Strybosch）がボツ

シュ (Bosh) からシーボルト宛に書簡を送る。

* 9月18日 (閏7・26) アルベルティーネ・ノルテがゲッチェンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 9月19日 (閏7・27) オランダ植民大臣 (C. F.パユウ) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

◇ 9月20日 (閏7・28) オランダ海軍中佐ファビウス (Gerhardus Fabius), オランダ軍艦スンビン号 (Stoomschip Soembin) で長崎に入港。

* 9月27日 (8・6) プロシア王国侍従武官エドアード・フォン・ブラチウッシュ (Eduard von Brauchitsch) がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 10月2日 (8・11) アルベルティーネ・ノルテがゲッチェンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 10月3日 (8・12) ナウマン博士 (Dr. N. Naumann) がボンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 10月7日 (8・16) ゲル? (Gell) がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 10月13日 (8・22) アルベルティーネ・ノルテがゲッチェンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。

△ 10月16日 (8・25) レオポルド・フォス社がライプツィヒからシーボルト宛に書簡を送る。

* 同日, ゲル? がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 10月22日 (9・1) ユスティーネ・フォルスター (Justine Forster シーボルトの姪) がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

* 10月23日 (9・2) アルベルティーネ・ノルテがゲッチェンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。

○ 10月25日 (9・4) 農業協会総会のボン地方部門で「日本の有用植物」と題して講演。

◇ 10月26日 (9・5) オランダ軍艦スンビン号長崎を出港。

○ 10月27日 (9・6) ボンにて, ベルリン図書館館長・言語学者ブッシュマン博士 (Dr. Buschmann) 宛の手紙を書く (注:『参考書誌研究』第11号, 14頁及び『上野図書館紀要』Vol.1 No.2 ii-iii頁 参照)。

△ 10月29日 (9・8) ロシア帝国上院議員レオン・セニアヴィン (Leon Seniavine)

がサントペテルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

△同日、ロシア政府アジア局長ニコラス・ルヴィモフ（Nicolas Luvimoff）がサントペテルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

○10月31日（9・10）「ケルン新聞」に『日本植物誌概観』（Synopsis Florae Japonicae）の企画を掲載（注：ハンス・ケルナー著／竹内精一訳『シーボルト父子伝』 118頁参照）。

*11月1日（9・11）ボウマン（Beumann）がコブレンツからシーボルト宛に書簡を送る。

*11月8日（9・18）エドアルド・フォン・ブラウチツシュ（Eduard von Brauchitsch）がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。

*11月21日（10・2）マールブルグ大学およびゲッチンゲン大学医学部教授エドアルド・フォン・シーボルト（Prof. Eduard von Siebold）がゲッチンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。

*11月22日（10・3）ナロップ（Hermann Nalop）がニーダーバイシェイム（Niederbaisheim）からシーボルト宛に書簡を送る。

*11月23日（10・4）ブルウーメ（Bluhme）がボンからシーボルト宛に書簡を送る。

○11月24日（10・5）「日本への薬学の導入と発展の史的概観」を講演報告（翌年、プロイセンのラインラントのヴェストファーレンの「博物学協会会報」ボン、第12年度、1855年、XVII-XXIII頁に掲載）。

*11月28日（10・9）ブランド（F. Brandt）がサントペテルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

*12月10日（10・21）A.ブランドがサントペテルブルグからシーボルト宛に書簡を送る。

*12月13日（10・24）アルベルティーネ・ノルテがゲッチンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。

*12月18日（10・29）デッケン（Decken）がボンからシーボルト宛に書簡を送る。

○12月23日（11・4）ボンにて、プロイセン国王宛の手紙を書く。

○12月24日（11・5）ボンにて、オランダ国王（ウィレム三世）宛の手紙を書く。

*12月26日（11・7）フェルラー（Huerler）がコブレンツからシーボルト宛に書簡を送る。

△同日、ミュンヘンにて、書籍商 E.フライシネ（シーボルト『NIPPON』の仏文訳者）がカール・テオドル・フォン・シーボルト（Karl Theodor von Siebold）の死亡広告を印刷。

*12月30日（11・11）H.ナロップがニーダーバイシェイムからシーボルト宛に書簡を送る。ロッテルダムの船主・貿易商 A.ホボーケンがロッテルダムからシーボルト宛に書簡を送る。

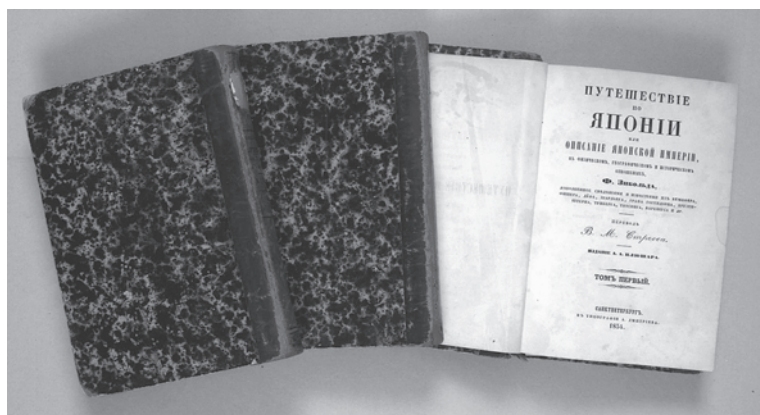
*12月31日（11・12）キナウ博士？がボンからシーボルト宛に書簡を送る。

*同日、ベルモンテ（J.C.Belmonte）がニューウェン（Nieuwen）からシーボルト宛に書簡を送る。

○月日不詳、『ПУТЕШЕСТВИЕ ПО ЯПОНИИ』（日本をめぐる旅）の出版、ヴラジミール・ミハイロビッチ・ストローエフ訳、アドルフ・アレクサンドル・プルチャート出版、サンクト・ペテルブルグの A.ドミトリー印刷所。

○月日不詳、ボン大学はシーボルトを日本研究講座の教授として招聘したが、自らの研究活動に専念したいという理由で、その申し出を断る。

○月日不詳、『あらゆる国家の航海と海上貿易のために日本開国へのオランダとロシアの努力の文献による叙述』（蘭文）ボン、著者のもとで、1854年 34頁、地図1、



〔図63〕シーボルト『NIPPON』の他にケンベル、フィッセルらの著作をもとにまとめた『日本をめぐる旅』。（参照：宮崎克則「シーボルト『NIPPON』のロシア語版『九州大学総合研究博物館研究報告』8号，2010年）神奈川大学図書館所蔵。

4つ折り本出版。同年オランダ語訳37頁がツァルト・ボメル (Zalt-Bommel), J・ノーマン (J. Noman) 8つ折り本発行。翌年, ロシア語訳がサント・ペテルブルグの『航海全集』15, 第3号, 第4部に掲載。

○ボン所在下ライン博物学及び医学協会会員。サント・ペテルブルグ所在ロシア地理学協会正会員。

◇幕府が日章旗を日本総国船印とする。

◇幕府, 箱館付近を直轄し, 箱館奉行を置く。

1855年 (安政2年) 59歳

○1月5日 (11・17) ボンにて, ロシア帝立種苗園所長フランツ・クーン宛の手紙を書く。

* 1月7日 (11・19) ヘルマン・ナロップがニーダーバイシェムからシーボルト宛に書簡を送る。

○1月15日 (11・27) ボンにて, オランダ植民大臣 (C. F.バユウ) 宛の手紙を書く。

* 1月16日 (11・28) ヘルマン・ナロップがニーダーバイシェムからシーボルト宛に書簡を送る。

○1月18日 (11・30) ボンにて, 元オランダ領東インド総督デ・コーク? (de Kork) 宛の手紙を書く。

* 1月20日 (12・3) 元出島オランダ商館員でジャワの栽培園所有者 H. ビュルゲル (Heinrich Bürger) がバタヴィアからシーボルト宛に書簡を送る。

* 1月23日 (12・6) ライデン大学教授 W. H. デ・フリーゼがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 1月29日 (12・12) 元オランダ領東インド総督デ・コーク? がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

○2月3日 (12・17) ボンにて, オランダ植民大臣 (C. F.バユウ) 宛の手紙を書く。

* 2月10日 (12・24) ヘルマン・マツェル (Hermann Matzer) がボンからシーボルト宛に書簡を送る。

* 2月13日 (12・27) オランダ王子ヘンドリックがシーボルト宛に書簡を送る。

* 2月14日 (12・28) オランダ王子侍従 J. ラグートがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。ロシア帝立種苗園所長フランク・クーンとチドロウスキー (S. Schidlow-

- sky) がシーボルト宛に書簡を送る。
- * 2月15日 (12・29) 元出島オランダ商館員でジャワの栽培園所有者 H.ビュルゲルがバタヴィアからシーボルト宛に書簡を送る。
 - 2月18日 (1・2) ボンにて、オランダ王子ヘンドリック宛の手紙を書く。
 - * 同日、元出島オランダ商館員でジャワの栽培園所有者 H.ビュルゲルがバタヴィアからシーボルト宛に書簡を送る。
 - * 2月14日 (12・28) ロシア帝立種苗園所長フランツ・クーン, S.チドロウスキーがシーボルト宛に書簡を送る。
 - * 2月20日 (1・4) ヴェイエ (J. Weyhe) がポゲルスドルト (Poggelsdorf) からシーボルト宛に書簡を送る。
 - * 2月22日 (1・6) ユステイーネ・フォルスター (シーボルトの姪) がパリからシーボルト宛に書簡を送る。
 - 3月5日 (1・17) 草稿『フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト准男爵によって紹介された政治上および貿易上の目的達成についてのプログラム』(蘭文) 執筆。
 - * 同日、図版製作者 (石版画家)・画材商テシュ (P. E. Tesch) がコブレンツからシーボルト宛 (?) に請求書を送る
 - 3月21日 (2・4) 草稿『カンバン貿易について』(蘭文) 執筆。いわゆる脇荷貿易, 日本との私貿易について論じたもの (注: 前掲書のマクリーン著の訳文「シーボルトと日本の開国」1843-1866年 61頁参照)。
 - 4月2日 (2・16) 草稿『報告書の写し』(蘭文) 執筆。
 - 4月4日 (2・18) ライデンにて、長崎奉行宛の手紙を書く。
 - * 4月6日 (2・20) オランダ植民大臣 (C. F.パユウ) がハーグからシーボルト宛に通達 (公文書)。
 - * 4月8日 (2・22) オランダ王子ヘンドリックがハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
 - 4月15日 (2・29) ライデンにて、オランダ植民大臣 (C. F.パユウ) 宛の手紙を書く。
 - 4月19日 (3・3) 草稿『日本における国家と貿易』(蘭文) ライデンにて執筆。
 - 5月13日 (4・10) と5月14日 (4・12) にシーボルトとウエスターマン (G. F.

Westerman) 間の契約書（証書）が交わされる。

- * 5月14日（3・28）カウフマン博士（Prof. Dr. Kaufmann）がボンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 5月21日（4・6）オランダ植民大臣（C. F.パユウ）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。ヤンッセン（L. J. F. Janssen）がライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 5月24日（4・9）ライデンにて、ライデンの王立植物標本館館長（C. L.ブルーム）宛に同館より借り出した「乾腊標本などの物品目録作成」についての手紙を書く。
- * 6月4日（4・20）ライデン大学東洋語教授・東洋文献学者ヨーゼフ・ホフマンがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 6月9日（4・25）Fr.フライシャー書店がライプニツヒからシーボルト宛に請求書を送る。
- * 6月21日（5・8）Fr.フライシャー書店がライプニツヒからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月14日（6・1）ヘルマン・シャフハウゼン博士（Dr. Hermann Schaffhausen）がボンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 7月15日（6・2）ヴァッハター博士（Dr. W. Wachter）がヴュルツブルグからシーボルト宛に同窓会の招待状（短信）を送る。
- ◇ 7月22日（6・9）ヘデー号（Stoomschip Gedeh 艦長ファビウス）とスンビン号（艦長ペルス・レイケン大尉 G. C. C. Pels Rijken）長崎に入港。オランダ海軍伝習隊（第1次）来日。
- ◇ 7月30日（6・17）以降、ドンケル・クルティウスの肩書が従来のおランダ商館長（Nederlandsch Opperhoofd）のほかに駐日オランダ代表として、オランダ弁務官、いわゆる「領事官」（Nederlandsch Kommissaris）が加わる。両者を併用する場合続く（1860年2月28日まで）。
- * 8月5日（6・23）シェイン男爵？（Frhr Schein）がボンからシーボルト宛に書簡を送る。
- * 9月3日（7・22）アルベルティーネ・ノルテがゲッチェンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。

- 9月6日(7・25) ヘルマン・ナロップ宛に、フランクフルト銀行券で500フロリン送付する。
- *9月7日(7・26) 園芸家ハインリッヒ・メッテ (Heinrich Mette) がクエドリントブルフ (Quedlinburg) からシーボルト宛に書簡を送る。
- *9月11日(8・1) ヘルマン・ナロップがニーダーバイシエムからシーボルト宛に書簡を送る。ロッセールス (E. Rosseels) がローラン (Laurain) からシーボルト宛に書簡を送る。
- *9月22日(8・12) エシュリット (D. H. Eschrit) がコペンハーゲンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月1日(8・21) アルベルティーネ・ノルテがゲッチェンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。
- ◇10月5日(8・25) オランダ国王ウィレム三世、オランダ軍艦スンピン号を献上(翌年5月、観光丸と改称)。
- *10月10日(8・30) アルベルティーネ・ノルテがゲッチェンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。
- 10月11日(9・11) 在日オランダ全権特使・出島オランダ商館長ヤン・ヘンドリック・ドンケル・クルチウス (Jan Hendrik Donker Curtius) がシーボルトの再渡来禁止令解除を長崎奉行に交渉。2ヵ月後、願書提出。
- *10月16日(9・6) ロッテルダムの運送業者 J. P. デ・コックがゲントからシーボルト宛に自らの結婚通知の書簡を送る。
- *10月23日(9・13) プロシア王室枢密院顧問長官がシュトゥットガルトからシーボルト宛に書簡を送る。
- 同日、アルゲマイネツァイトゥング新聞に「アメリカの日本遠征」第296号掲載の原稿成る。
- *10月24日(9・14) スピッツェンベルグ (Spizenberg) がシュトゥットガルトからシーボルト宛に書簡を送る。アルゲルティーネ・ノルテがゲッチェンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月28日(9・18) マールブルグ大学およびゲッチェンゲン大学医学部教授エドワード・フォン・シーボルトがゲッチェンゲンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *10月29日(9・19) クラマー? (H. Kramer) がライデンからシーボルト宛に書簡

を送る。

- *11月4日（9・25）キナウ博士？がボンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月5日（9・26）アーンツ書店（Arnz & Comp）がデュッセルドルフからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月7日（9・28）アーンツ書店と石版印刷所（Lith. Institut）がデュッセルドルフからシーボルト宛に請求書を送る。
- *11月12日（10・3）出島オランダ商館員のファン・テン・ブリンク（van ten Brink）が出島からシーボルト宛に書簡を送る。
- 11月14日（10・5）ボンにて、オランダ植民大臣（C. F.パユウ）宛に手紙を書く。
- *同日、ブラジル国公使ダ・シルバ（J. C. da Silva）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月15日（10・6）ライデン大学植物学教授 W. H. デ・フリーゼがライデンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月17日（10・8）ボードウィンがシーボルト宛に書簡を送る。
- *11月18日（10・9）草稿『覚え書き』（蘭文）を執筆。
- *11月27日（10・18）オランダ植民大臣（C. F.パユウ）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- ◇11月日付不詳、蕃書調所開設（天文方蕃書和解御用の拡充）。
- ◇12月3日（10・24）長崎海軍伝習所開設（オランダ人教官団長ペルス・レイケンの下で、第一次海軍練習始まる）。
- *12月7日（10・28）ヨハン・ミカエル・モァー医学博士（Dr. Med. Johann Michael Mohr）がヴェルツブルグからシーボルト宛に書簡を送る。
- 12月12日（11・4）ボンにて、オランダ植民大臣（C. F.パユウ）宛の手紙を書く。
- *同日、デ・モポフ？（W. de Mopoff）がシーボルト宛に書簡を送る。
- 12月15日（11・7）ボンにて、オランダ植民大臣（C. F.パユウ）宛の手紙を書く。
- *同日、ヴェルツブルグ大学同窓会がボンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月21日（11・13）アルベルティーネ・ノルテがゲッティングェンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月26日（11・18）デ・インディアー（de Indier）編集者リオン（H. I. Lion）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。

- *12月27日（11・19）オランダ植民大臣（C. F.バユウ）がハーグからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月29日（11・21）フリードランダー親子商会（Friedlander & Sohn）がベルリンからシーボルト宛に書簡を送る。
- *12月日付不詳，在日オランダ全権特使・出島オランダ商館長ドンケル・クルチウス（Donker Curtius）が出島からシーボルト宛に書簡を送る。
- *月日不詳，在日オランダ全権特使・出島オランダ商館長ドンケル・クルチウスが出島からシーボルト宛に書簡を送る。
- *月日不詳，オランダ内務省がシーボルト宛に書簡を送る。
- 手稿・小冊子『国王陛下に対する上奉書』（蘭文）成る。
- 『日本への薬学の導入と発展の史的概観』1854年11月24日の講演報告（独文）をプロイセンのラインラントとヴェストファーレンの「博物学協会会報」ボン，第12年度に掲載。
- ヴェルテンベルク所在，ヴェルテンベルク王冠勲章勳爵士を賜る。
- ライデンの園芸学奨励協会名誉会員。
- ◇幕府，洋学所開設に着手する。
- ◇桂川甫周補訂『和蘭字彙』刊行始まる。